

第二回全國都市問題會議

[昭和五年・東京]

4

議事要錄

財團法人

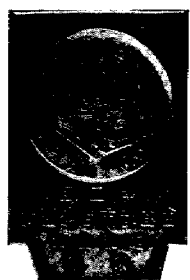
東京市政調查會

第二回全國都市問題會議



參攷資料甲編 • 第二冊

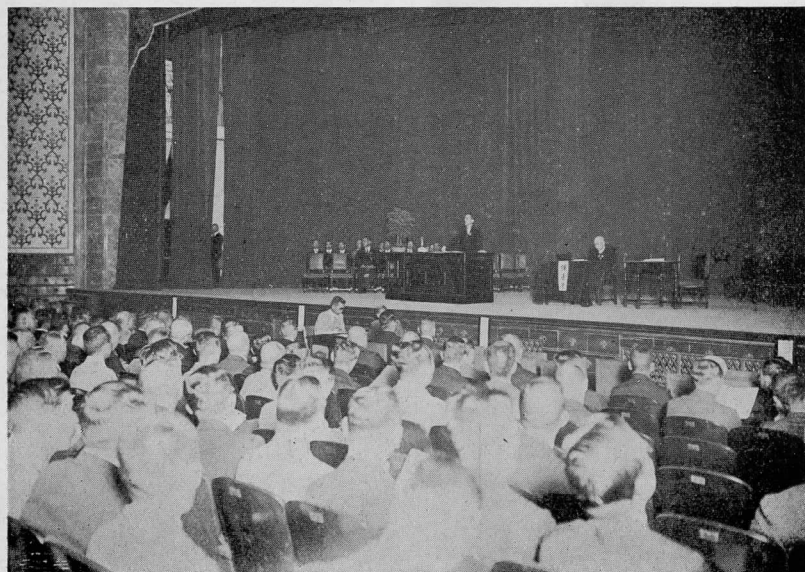
參攷資料乙編 • 第三冊



財政部
東京市政調查會



堂會公谷比日市京東及館會政市るた場會議會



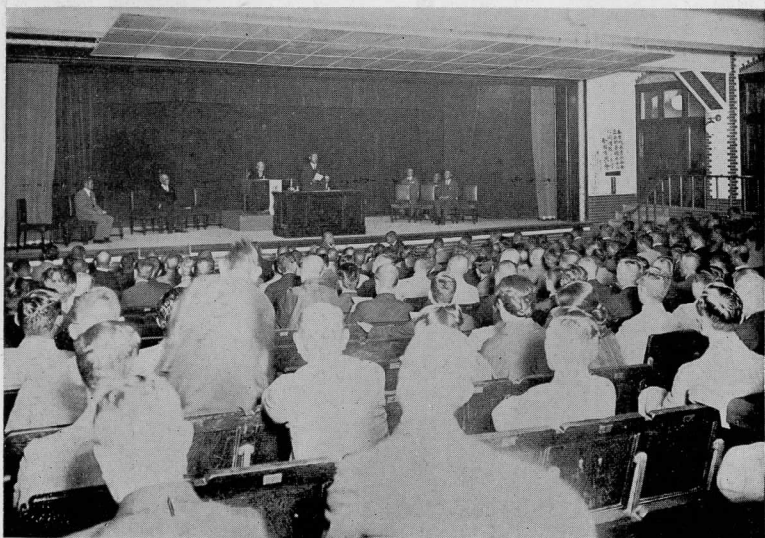
告報の者告報主るけ於に日一第議會



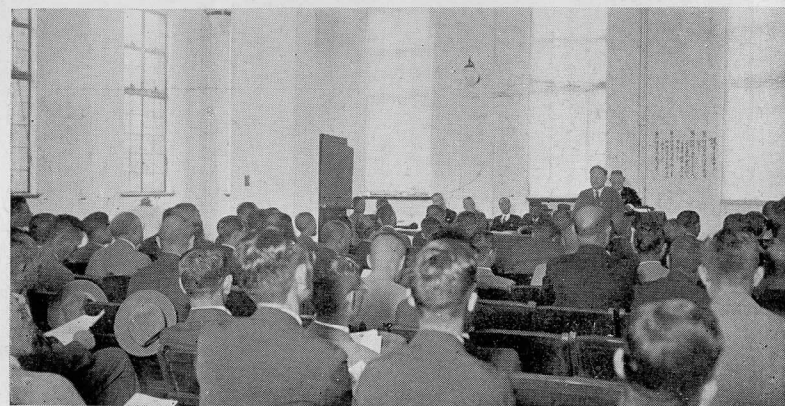
議討の會部三第るけに日二第議會



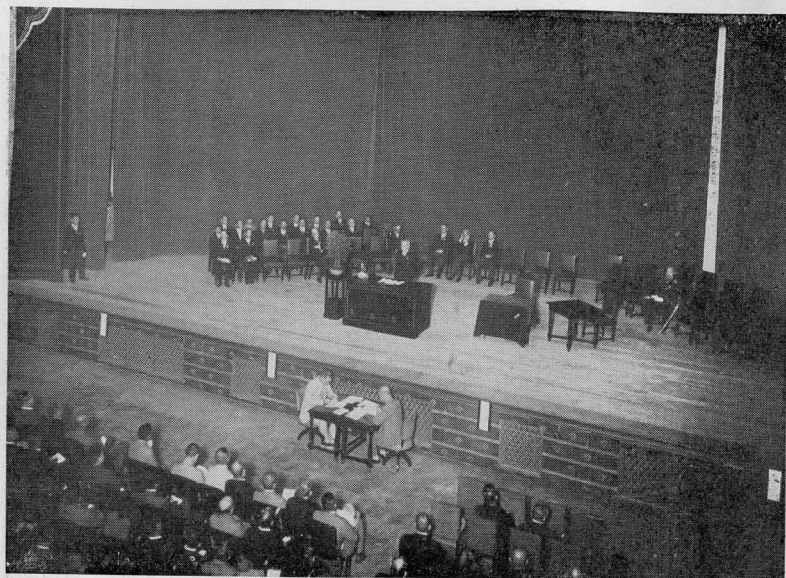
議討の會部一第るけに日二第議會



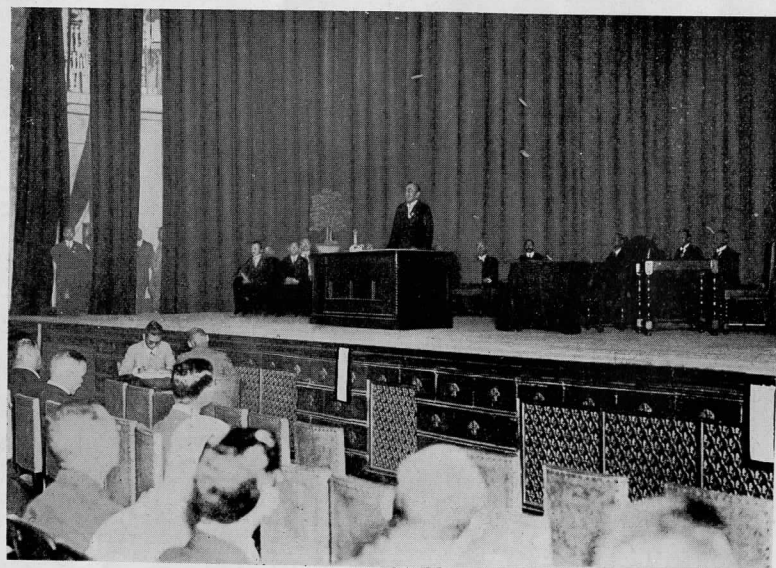
告報過經議討會部るけに會總上同



議 討 の 會 部 二 第 上 同



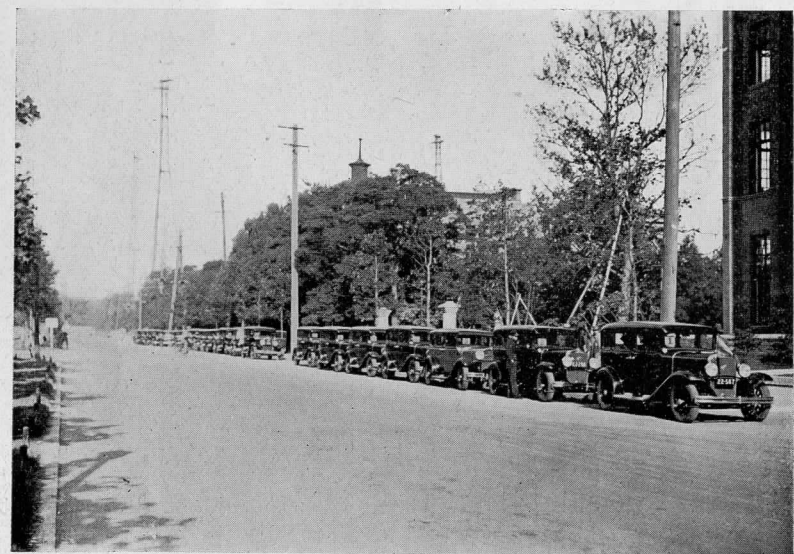
開會式に於ける安達内相の祝辭



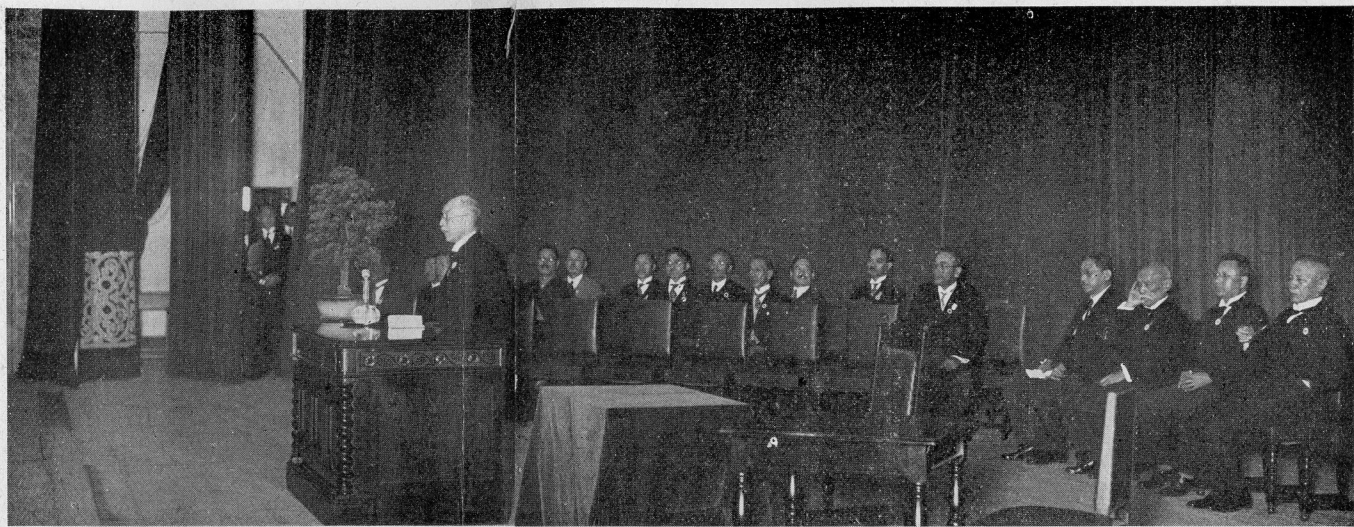
同上永田東京市長の歡迎辭



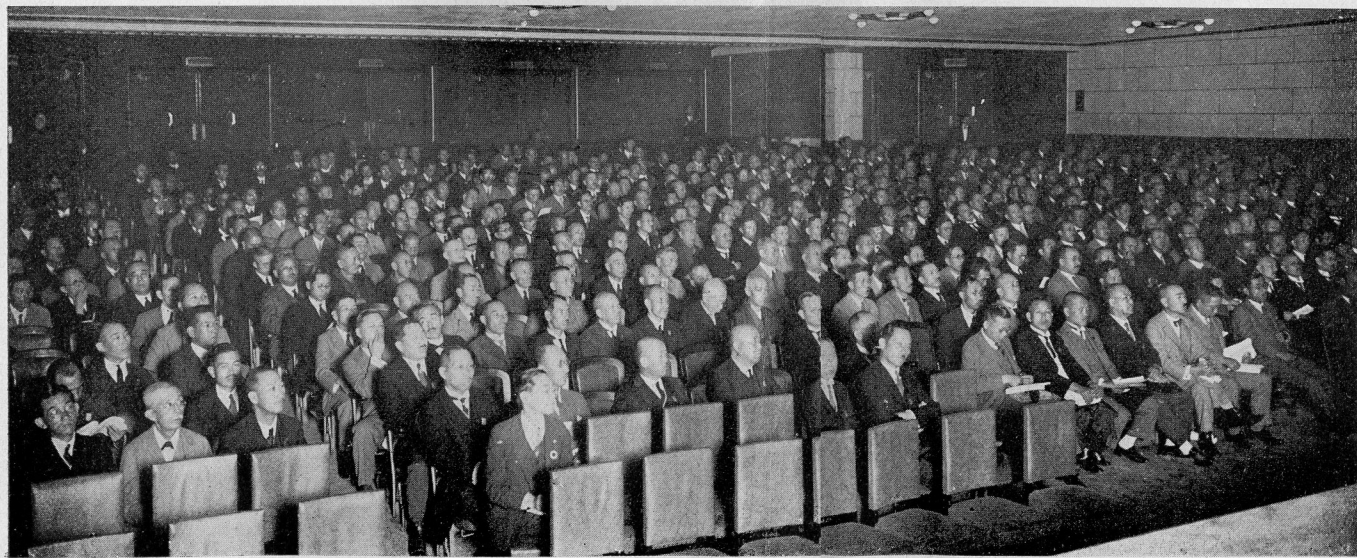
議會第三日—to 於ける視察—東京班の出發



同上—橫濱班の出發



第二回全國都市問題會議開會式
——東京市政調查會長阪谷男爵の式辭



第二回全國都市問題會議會場
(東京市日比谷公會堂) と會議參加者

凡 例

一 本書は、昭和五年十月^{財團法人}東京市政調査會主催の第二回全國都市問題會議に關する記錄にして、既刊會議豫備資料「第二回全國都市問題會議研究報告」及「第二回全國都市問題會議參考資料」甲乙兩編と併せて、會議關係文書を組成するものである。

二 本書には、會議開催の顛末を叙して、議題及議事の經過を詳悉したるのみならず、會議に對する世論及會議の收穫等に互りて細大となく網羅し、極めて忠實に、會議の真相を描寫せんことを期したるに依り、幾多の意見能く卷を壓して、自ら得易からざる都市問題文獻と爲つてゐる。

三 本書の分類篇別は便宜上(一)會議の準備行為に屬する事項と、(二)會議經過の叙述及その參加者氏名錄と、(三)會議に現はれたる報告討議等の意見の三篇に大別し、更に(四)會議の本體には屬せざるも、會議に深甚の關係を有してこれを補充するものとも見るべき重要議事、その他この會議に關する主要なる參考事實を附録せしめ、各篇を更に適宜小分類した。

四 本書所載事項中速記に依りたるものは、大體速記の儘に收録してゐるが、會議の寫實に影響なしと認めたる事項については、多小速記を收縮して、單にその概略を示すに止めたるものも

ある。これ唯編纂上の都合に依ることゝ御諒承を請ふ。

五、本書の刊行は即ち第二回全國都市問題會議事務の終結である。この機會に、會議參加者各位に敬意を表し、また會議の爲め直接間接に寄與せられたる官公私各方面の當局、殊に終始格別の盡力を煩はしたる東京府市及横濱市等の關係當局に厚き感謝を捧ぐ。

昭和五年十二月

財團 東京市政調査會

第二回全國都市問題會議議事要録

目次

第一篇 會議準備	一
第一 第二回會議開催確定の顛末	三
一 序 説	三
二 第二回全國都市問題會議及その第二回との關係	三
三 第二回會議準備委員の第一次會合	四
四 第二回會議準備委員の第二次會合	四
五 第二回會議開催計畫の確定	五
第二 會議計畫確立の發表及關係方面への參加招請	六
一 會議議題の作成	六
第一議題都市の郊外地統制(六)——第二議題街路交通の統制(九)——第三議題受益者負擔金(三)	六
二 會議計畫の發表及各方面招請	一六
招請狀(一六)——會議要項(一七)	一六

三 研究報告、意見の蒐集並に主報告者の決定	一八
第三 會議參加申込者及參會者に對する處遇	二〇

一 會議參加申込の狀況	二〇
二 會議參加申込者に對する豫備資料等の配付	二〇
三 參會者に對する會議用及參考文書等の配付	二〇

第二篇 會議總說	二三
----------	----

第一會議 第一日	二五
----------	----

一 序 說	二五
二 開 會 式	二五

主催者東京市政調査會長男爵阪谷芳郎氏式辭(三〇)——内閣總理大臣濱口雄幸閣下祝辭(元)——内務大臣
安達謙藏閣下祝辭(三〇)——日本工學會理事長男爵古市公威閣下祝辭(三二)——東京市長永田秀次郎閣下歡
迎辭(三三)——參會者代表大阪市長關一閣下挨拶(三七)

三 總 會	四〇
事務報告(四〇)——會議役員(四〇)	
四 研究報告	五〇

第二會議 第二日	五〇
----------	----

一 討 議	五〇
-------	----

二 部會經過報告	五一
----------	----

三 議 事	五一
-------	----

四 閉 會	五二
-------	----

第三會議 第三日	五二
----------	----

一 序 說	五二
-------	----

二 東京視察班	五三
---------	----

三 橫濱視察班	五三
---------	----

第四會議 參加者	五三
----------	----

參加者(五五)——準參加者(七四)

第三篇 報告 討議	七
-----------	---

第一 主報告者の研究報告	七
--------------	---

一 序 說	七
-------	---

二 研究報告	七
--------	---

(一)	東京都市計畫區域内の居住密度に就て	笠原敏郎君	一五
(二)	地方計畫に就て	飯沼一省君	一六
(三)	都市郊外地の統制に關する基本的政策	池田宏君	一七
(四)	街路の整備問題	内山新之助君	一八
(五)	最近警視廳に於ける街路交通統制の實際	古川靜夫君	一九
(六)	受益者負擔金賦課標準の技術的考察	河北一郎君	二〇
(七)	受益者負擔制と其問題	堀切善次郎君	二一
第二部會討議			二五
一序	説		二五
二討議			二五
(イ)	特殊都市に對する「特別都市計畫法案」の施行要望	竹内正臧君	二五
(ロ)	郊外に於ける都市計畫街路の計畫擴充	近新三郎君	二六
(ハ)	郊外の統制と工場	石橋愛太郎君	二六
(ニ)	東京市隣接町村地名地番整理統制の方策如何	富井建造君	二七
(ホ)	都市計畫と人口の分布に就て	石原憲治君	二七
(ヘ)	區劃整理による郊外地統制	石川榮耀君	二八

(ト) 都市計畫路線に關する私權の制限緩和と都市計畫事業の國庫補助の確立に就て

(チ)	都市計畫法の改正に就て	中村陸平君	二八
(リ)	都市郊外地統制上の一問題	松尾國松君	二九
(ヌ)	市町村の聯合に就て	川勝保君	二九
(ル)	都市林の主張	古川高次君	三〇
(ヲ)	郊外地の公園地設定の提唱	本多靜六君	三一
(ワ)	教育都市建設の提唱	井下清君	三二
(カ)	都市研究學校の設立に就て	五十嵐豐吉君	三二
(ヨ)	郊外地統制方法に就て	小田内通敏君	三三
(タ)	大都市の問題及都市計畫法改正に就て	藤井寛一君	三三
第二部會討議		任都栗司君	三三
一序	説		三六
二討議			三六
(イ)	横斷歩道の位置に就て	木村喬君	三七
(ロ)	簡易鋪裝の實況	神谷秀吉君	三八

(ハ)	横斷地下歩道及地下駐車場	： 今井哲君	二〇
(ニ)	運轉手素質の改善と「流し」自動車の取締	： 土倉木二君	二一
(ホ)	鐵道踏切の改善を望む	： 杉傳三郎君	二四
(ヘ)	一都市内に於ける交通機關の統一經營に就て	： 廣瀬秀吉君	二五
(チ)	自動車營業取締に就て	： 新倉文郎君	二七
(リ)	優先通行規則の制定を望む	： 岸本熊太郎君	二〇
(ヲ)	街路駐車場設置の主張	： 小川兼四郎君	二二
(ヌ)	自動車車庫統制の主張	： 小西文次郎君	二三
(ル)	民衆の訓練と踏切の全國的統一標識の設定を望む	： 柴谷善次郎君	二四
(ワ)	交通整理と青年團の立場	： 奈須千万彦君	二六
(カ)	交通事故審判所設置に就て	： 笠木嘉一君	二七
(タ)	街路交通統制と制度改革希望	： 古畑銀次郎君	二八
(ヨ)	地下埋設物工事の統制並に瓦斯漏洩調査の實績	： 根岸耕司君	三三
(レ)	道路に面する官公有地を開放せよ	： 渡邊長重君	三五
(ソ)	道路の構築方法に就て	： 關口新太郎君	三六
	街路網の結成に就て	： 榎木寛之君	三七

(ツ)	婦人交通整理員を設けたし	： 河口愛子君	二〇
(ネ)	逓信事務の上から	： 河瀬勇君	二三
第四	第三部 會 討 議	： 二四	

一 序	説	： 二四	
二 討 議	： 二四		
(イ)	受益者負擔金課徴方法及その擴充問題	： 八木常太郎君	二四
(ロ)	都市經營と受益者負擔金問題	： 淺川保平君	二五
(ハ)	受益者負擔區組合設置の提唱	： 澁谷徳三郎君	二六
(ニ)	現行法に依る受益者負擔金徵收事業概目擴張の一考察	： 島重治君	二九
(ホ)	受益者負擔金賦課に於ける「行政廳」の疑義	： 大野養吉君	三三
(ヘ)	土地評價主義に就て	： 畠山千代治君	三三
(ト)	受益者負擔金賦課方法に就て	： 武井健作君	三六
(チ)	無租地に對する負擔金課徴に就て	： 白鳥徳之助君	三七
(リ)	受益者負擔金の輕減その他	： 油納平三郎君	三八
(ヌ)	受益者負擔金制手續の簡易化に就て	： 岡崎早太郎君	四〇
(ル)	受益者負擔金と他の公課との關係	： 汐見三郎君	四二

(ヲ)	物的負擔に對する疑義	須藤林七君	四一
(ワ)	受益者負擔金賦課上の若干問題	西村輝一君	四四

第五	各部討議の經過報告		五一
----	-----------	--	----

一序	説		五一
二	第一部會討議の經過報告	飯沼一省君	五二
三	第二部會討議の經過報告	中川吉造君	五七
四	第三部會討議の經過報告	堀切善次郎君	五八

第四篇	會議追録		五五
-----	------	--	----

第一	第二回全國都市問題會議参加有志懇談會		五七
----	--------------------	--	----

一序	説		五七
----	---	--	----

二	自由討議		五七
---	------	--	----

第二	全國都市問題會議の恒久的組織に關する委員會協定案		五八
----	--------------------------	--	----

一序	説		五八
----	---	--	----

二	協定事項		五八
---	------	--	----

第三	第二回全國都市問題會議に於ける諸提議要旨を關係當局に進言		五九
----	------------------------------	--	----

一序	説		三六
二	進言書		三六

第一議題關係(三八)——第二議題關係(三九)——第三議題關係(四〇)

附記	第二回全國都市問題會議に關する文獻		三六
----	-------------------	--	----

挿繪目次

第二回全國都市問題會議開會式——東京市政調查會長阪谷男爵の式辭……………	口繪一
第二回全國都市問題會議會場（東京市日比谷公會堂）と會議參加者……………	同上
開會式に於ける安達内相の祝辭……………	口繪二
同上 永田東京市長の歡迎辭……………	同上
會議會場たる市政會館及東京市日比谷公會堂……………	口繪三
會議第一日に於ける主報告者の報告……………	同上
會議第二日に於ける第一部會の討議……………	口繪四
同上 第二部會の討議……………	同上
同上 第三部會の討議……………	口繪五
同上總會に於ける部會討議經過報告……………	同上
會議第三日に於ける視察——東京班の出發……………	口繪六
同上——橫濱班の出發……………	同上
會議參加者徽章……………	扉中

第一篇 會議準備

第一 第二回會議開催確定の顛末

一 序 説

財団法人東京市政調査會の主催を以て、昭和五年十月六日以降三日間東京に於て開きたる第二回全國都市問題會議の會議狀況を叙説するに當り、先づその開催の由來に關して概記を試みる。

二 第一回全國都市問題會議及その第二回との關係

全國都市問題會議の第一回は、大阪都市協會主催の下に、昭和二年五月十九日以降三日間、大阪に於て開かれたが、その開催の趣意とするところは左の通りであつた。

輒近我國都市膨脹發展の勢著しく社會的文化的施設の急を要するもの愈多きを加ふ。今にして此の大勢に順應して必要の施設經營を進め、秩序的且合理的に民衆生活を指導するに非ざれば都市の機能を發揮して其の健全なる發展を望むべからず。世間漸く都市問題の研究に注目し之が改善に努力するものあるに至れるは洵に喜ぶべき現象なりと雖も、都市の施設すべき範圍は複雑多岐に涉り至難なる問題を包藏するもの多し。茲に於てか大阪都市協會は來る五月十九日 今上天皇陛下の勅に皇太子殿下として大阪市に行啓在らせられし日を卜し第一回全國都市問題會議を左記要項に依り當市に開催し、全國に涉る府縣、市、學會、協會、學識經驗ある各位の賛同を求めて都市施設の緊切なる問題に關する報告及討議を遂げ、施設經營の方法を批判し、時運の要求に應じ都市の爲めに實施上必須なる參考材料を供給し、以て都市永遠の大計の樹立に寄與せんとす。

右第一回全國都市問題會議は各方面よりの参加者四百數十名に依つて、(一)「防火と建築」(二)「不良住宅改善」(三)「土地區劃整理」(四)「自由空地並公園」の四議題を中心に、報告及討議が行はれたが、その會議第一日に於て、「本會議は將來之を繼續し開會することとするや如何」との動議が成立し、全會一致これを議定すると共に、次の開會地を定め、その他これが準備の爲め會長指名を以て七名の委員を設けることに議決した。而してこの議決に基き、第二日の會議に於て會長は左の七氏を準備委員に指名報告した。

東京市土木局長(牧 彦七) 京都市土木局長(安田靖一) 横濱市土木局長(藤宮惟一)

神戸市都市計畫部長(森垣龜一郎) 名古屋市土木部長(鵜飼賢一) 大阪市都市計畫部長(坂出鳴海)

東京市政調査會理事(渡邊鐵藏)

即ちかくの如くして全國都市問題會議は將來繼續せらるべき關係に置かれたのである。

三 第二回會議準備委員の第一次會合

昭和二年十二月十三日第二回會議準備委員たる前掲七氏(京都市は安田靖一氏代理)並に大阪都市協會有光金兵衛氏、東京市政調査會に參集して第二回會議の開催計畫に關し種々協議の結果、(一)次回開催地は東京とし(二)時期は大體昭和三年五六月または九月頃と假定し、その他會期並に議題等についても意見を交換するところがあったが、實行上の諸點は東京市と東京市政調査會との委員に於て然るべく協定することにして、この會合を了つた。

四 第二回會議準備委員の第二次會合

前掲第一次の準備委員會合に於て申合せたる諸點は、その後各種の事情に因つて豫期の實現を見なかつたが、

機運漸く熟して準備委員の第二次會合を開き得るに至つた。即ち昭和五年二月十六日東京市政調査會に左の諸氏參集、(一)開催地は既定方針の通り東京とし(二)主催者は東京市と東京市政調査會と申合せの上然るべく協定すべく(三)開會期は昭和五年九月下旬または十月上旬の中にて主催者に一任(四)議題は(イ)都市と郊外との諸關係並に中小都市の都市計畫について(ロ)街路交通の統制について(ハ)受益者負擔金及不動産課税についての三個の題意に依り、主催者に於て然るべく整理決定のこと(五)會費は前回同様十圓とすること、その他報告討議並に會議の形式等について各般の申合せを爲し、實施細目は舉げて主催者に一任することに決した。

東京市文書課長代理主事谷川昇、同市土木局庶務課長鈴木榮一郎、同市復興事業局庶務課長黒川一治、京都市土木局長代理區劃整理課長尾正之、大阪市土木部長島重治、同市主事大柴喬次郎、名古屋市庶務部長肥田竹次郎、神戸市都市計畫部長森垣龜一郎、横濱市土木局長伊藤清、東京市政調査會理事池田宏

五 第二回會議開催計畫の確定

叙上準備委員會の申合せありたる後、主催者をいづれに定むべきかに關して東京市と東京市政調査會との間に交渉を重ねたる結果、東京市政調査會その任に當り、東京市は後援的協力者たることに決し、開會期その他については概ね準備委員會の申合せたるところに従ふこととした。かくて東京市政調査會は主催上萬般の手配を運び、次項叙述の通り四月下旬を以て會議計畫を發表するに至つたのである。

第二 會議計畫確立の發表及關係方面への參加招請

一 會議議題の作成

會議の基本を爲すべき議題の作成については、會議準備委員會申合せの題意に依りて研究稽査の結果、第一議題都市の郊外地統制、第二議題街路交通の統制、第三議題受益者負擔金の三議題に決した。蓋しこれらの問題は、いづれも概して各都市に共通する當面の重要問題であるに拘らず、研究上未開の野が相當に廣く、且つ各方面の經驗または實狀等の相互報告に依つて、一般への寄與極めて大なる關係にある問題と認めて特に選んだ次第である。而してこれら三議題は各その觀點を偏せしむることなく、法制的、行政的、經濟的、財政的、社會的、技術的その他各種の方面より實相を観察すると共に、その現狀を明かにして將來を按ずるの形式に依つて報告及討議の行はれんことを期し、その關聯範圍の假定を比較的詳密なる彙類體に成案した。その全文は會議豫備資料第一冊「研究報告」三頁以下に收めてゐるが、參照便宜の爲め左に再録する。

第一議題 都市ノ郊外地統制

一 都市郊外ノ現狀

イ 既往ニ於ケル都市發達ノ過程

(一) 市域擴張ノ沿革

(二) 人口増加ノ趨勢(明治二十二年市町村制實施以來ノ事實ヲ調査スルコト)

ロ 郊外地都市化ノ概況

(一) 都市化ノ要因タル地理的條件並産業ノ分布狀況

(二) 市、區、町村別人口並其密度

(三) 信仰中心、教育諸機關、都市計畫及交通機關其他公共諸企業等市民生活ノ共同施設ニ依ル城内市町村ノ相關關係

(四) 公共組合、公共團體其他市町村以外ノ公私諸團體ノ統轄關係及各種法令ノ特別實施區域又ハ行政官廳ノ管轄區域等種々ノ關係ヨリ觀タル地域の相關關係

(五) 市町村民ノ公共生活、各種營造物ノ利用及市町村ノ財政並住民ノ負擔等市町村ノ交渉關係ヨリ觀タル城内市町村ノ有機的依立關係

ハ 社會的、經濟的又ハ政治的規律關係等ヨリ觀タル郊外地都市化ノ限界
ニ 都市ト其外郊トノ關係

二 都市ノ郊外地ニ關スル行政ノ實情

イ 行政機關ノ分立ニ依ル統制狀態

(一) 國又ハ府縣ノ事務又ハ營造物中市町村又ハ市町村長ニ委譲スルヲ相當ト認ムルモノノ種類及範圍

(二) 特別行政官廳ノ權限管轄區域等變更ノ要否

(三) 市町村事務若ハ市町村長委任事務又ハ市町村ノ營造物ニシテ國又ハ府縣ニ移管スルヲ相當トスルモノノ有無

(四) 國府縣及市町村ノ施設スル事業分配ノ統制及之ニ要スル經費分擔方法ノ適否

ロ 自治體ノ對立其他公共組合又ハ公共團體等ノ併存ニ基因スル統制狀態

- (一) 市町村ノ對立其他各種ノ組合團體等併存ノ利害得失、市町村組合又ハ市町村長會等ノ活動ニ依リ統制ノ實效ヲ舉ケツツアルモノアラハ其實例
- (二) 市町村ノ區域外ニ於ケル營造物其他ノ施設及其所在市町村民ノ利用ニ關スル實例並之カ設置及管理ニ關スル條件ノ適否
- (三) 都市計畫、都市計畫事業等ノ公共施設ニ關シ府縣及關係市町村間ニ於ケル稅源ノ公正ナル分配方法並之ニ關シ市町村民ノ自治參與ニ特例ヲ認ムルノ可否
- ハ 各種公營事業其他一般的都市施設ノ實況

三 都市ノ郊外地統制ノ方法

イ 都市計畫法ノ運用ニ依ル場合

- (一) 都市計畫區域ノ適否ト其地域制ノ本旨ヲ完フスルノ方策
- (二) 建築線ノ指定及土地區劃整理ヲ都市計畫ノ施設トシテ最有効ナラシムルノ方策
- (三) 交通、衛生、保安及經濟等ニ關スル諸施設ニ付都市計畫法ニ依リ強制規律スルノ要アルモノノ施設要綱
- (四) 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用負擔方法ノ適否
- (五) 將來ノ需要ヲ按シ都市公共施設用地ヲ經濟的ニ獲得スルノ方策

ロ 市町村ノ合併ニ依ル場合

- (一) 前掲第二項ニ關スル市域擴張後ノ實績
- (二) 市町村ノ合併ヲ強制スルノ可否及市域ノ擴張ヲ豫想シ得ラルヘキ市町村ニ對スル豫備的統制方法
- (三) 市町村ヲ合併シタル市ノ行政ニ關シ其組織其他前掲第二項ノ指針ヲ適正ナラシムルノ方法

ハ 各種一部事務ノ組合制等ノ運用其他ニ依ル統制方策

四 都市ノ適度並之カ決定標準

- イ 都市ノ大小ニハ適度アリヤ、若シ有リトセハ其標準並之カ適度ヲ維持スルノ方策
- ロ 地方計畫樹立ノ要否並其實行策
 - (一) 地方計畫ノ施設要綱及其財政策
 - (二) 地方計畫實施ニ關スル法制案
- ハ 中小都市ノ郊外地統制ニ關シ特ニ考慮ヲ用ニヘキ要綱
 - (一) 中小都市ニ於ケル當該都市計畫ノ梗概ヲ知ルニ足ルヘキ圖書
 - (二) 同上ノ實施案
- ニ 特ニ町村ニ對シ都市計畫法又ハ市街地建築物法ノ全部又ハ一部ヲ適用スルノ必要ナキヤ、若シ有リトセハ其具體的理由並之カ立法要旨

五 都市ノ郊外地統制ニ關スル根本方策

第二議題 街路交通ノ統制

一 街路交通ノ現狀

- イ 交通形態(最近交通調査ヲ實施シタルコトアラハ其實績ニ依ル)
- ロ 交通事故ニ關スル統計

二 街路交通ノ形態ヲ支配スル各種ノ條件

イ 地域的關係ノ存否

- (一) 地域地區ノ特性、街路ノ系統並其様式ノ相異ニ基因スル事相ノ詳細ナル觀察
- (二) 鐵道驛、公會堂、公園、大百貨店、劇場等公衆ノ特ニ著シク利用スル諸施設又ハ信仰中心タル社寺其他學校、工場、屠場等街路交通ニ著シキ影響ヲ與フルモノノ存否

ロ 時間的影響ノ有無

- (一) 地域地區ノ特性又ハ著大ナル公私建築物ノ用途ニ基因スル一定時ニ於ケル貨客交通ニ著シキ影響ヲ與フル要因ノ有無

- (二) 土曜ノ午後、日曜日及祝祭日等ニ於ケル特殊狀況

- (三) 夜間ニ於ケル街路ノ利用狀態

ハ 街路構造關係ノ適否

- (一) 歩車道ノ區別ノ有無及其適否

- (二) 幅員、勾配、屈曲其他街路規格ノ適否

- (三) 路面ノ狀態特ニ鋪裝ノ適否

- (四) 交通安全施設ノ存否及其適否

- (五) 横斷施設(踏切)ノ適否

ニ 交通取締ノ適否

- (一) 避讓、追越ニ關スル統制

- (二) 諸車用燈火及音響器等ノ使用ニ關スル統制

- (三) 速度、構造若ハ運轉狀態ヲ異ニスル諸車交通ノ統制
- (四) 故意又ハ偶然ニ交通ヲ妨害スル歩行車及車馬ノ統制
- (五) 營業用自動車ノ「流シ」「彷徨」並一般車馬ノ駐停方法統制ノ適否
- (六) 諸車乗降方法及貨物積卸方法統制ノ適否
- (七) 街路橫斷交通ノ統制

ホ 街路占用許可ノ適否

- (一) 電柱、郵便箱其他路上工作物類ノ施設位置
- (二) 看板、日除及沿道商店用陳列臺等ノ類ノ突出
- (三) 諸車其他物件ノ放置
- (四) 街路ニ關スル他ノ工事ノ執行方法ノ統制
- (五) 地下埋設物類ノ點檢改修等ノ處置方法ノ統制
- ヘ 街路ノ工事及其維持施設ニ關スル措置ノ適否

- (一) 街路工事ノ執行方法

- (二) 清掃方法

- (三) 撒水方法

- (四) 除雪方法

三 交通ノ障害ト爲ルヘキ原因ノ除去救済ノ方策

イ 地域的ニ存スル原因ノ除去方法

第二 會議計畫確立の發表及關係方面への參加招請

- 時間的ニ存スル原因ノ除去方法
- ハ 街路構造令ノ改善
 - (一) 適切ナル街路規格ノ設定
 - (二) 歩車道ノ區別ニ關スル準則
 - (三) 路面狀態ノ改善特ニ鋪裝實施ノ要綱
 - (四) 軌道施設ノ位置
- ニ 交通取締方法ノ改善
 - (一) 車馬操縱方法ノ規整
 - (二) 走行速度等ノ關係ニ依リ車馬ノ使用路線ヲ指定スルノ可否及其實施方法
 - (三) 交通輻輳地域ニ於ケル車馬交通ノ處理要綱
 - (四) 街路交通ノ保安及誘導ニ關スル諸施設要綱(信號、照明ノ類)
 - (五) 停車及駐車ニ關スル處置要綱
 - (六) 諸車乗降及貨物積卸方法ノ規定要綱
- ホ 街路占用許可方針ノ決定要綱
- ヘ 街路ニ關スル工事及維持方法ノ改善要綱
- 四 交通取締規則
 - イ 街路交通取締規則ノ全國的統一案
 - ロ 街路交通取締ニ關スル諸規則ノ實施計畫
 - (一) 交通取締機關ノ構成

(三) 交通道德ノ涵養及公衆訓練

五 街路交通統制ノ根本方策

第三議題 受益者負擔金

一 受益者負擔金ノ現狀

- イ 土地ニ對スル公課其他公費負擔ノ現況ト其負擔餘力ニ關スル考察
 - 受益者負擔金制ノ實施狀況
 - (一) 現行負擔金ノ種別
 - (二) 各種負擔金總額ノ各事業費ニ對スル割合
 - (三) 各種負擔金徵收ノ實績
 - (四) 各種負擔金賦課徵收機關ノ構成及其費用
 - ハ 受益者負擔金制運用ニ依ル土地負擔ノ實情
 - (一) 同一土地ニ對シ種々ノ負擔金ヲ重疊シテ課徵セル場合ナキヤ、若シ有ラハ其實例
 - (二) 事業又ハ施設ノ開設ニ對シ負擔金ヲ課徵シタル土地ニ對シ其維持修繕ニ付テモ受益者負擔金ヲ課徵シツツアル實例ナキヤ
- (三) 前二號ノ事實力重複スル場合ナキヤ

ニ 受益者負擔金賦課標準決定ノ實況

- (一) 受益ノ有無及其厚薄ノ算定上規準ト爲シツツアル方法及其適否

- (一) 負擔區域ノ決定ニ關スル現行準則及其適否
- (二) 現行負擔金總額ノ決定方法及其適否
- (三) 現行賦課標準ノ決定方法及其適否
- (四) 現行賦課標準ノ決定方法及其適否

ホ 受益者負擔金課徵方法ニ關スル實狀

- (一) 橋梁、トンネル、廣場等ノ施設費ニ關スル受益者負擔金ヲ課徵スル場合ニ於ケル受益區域ノ認定及受益限度ノ算定方法ニ對スル現行特例及其適否
- (二) 負擔金ノ徵收ニ關スル前納主義及分納主義ノ實際ト其理非得失
- (三) 分納主義ニ依ル場合ニ於ケル權利移動ニ應スル措置
- (四) 受益者負擔金ノ減免ニ關スル現行制度及其適否

ヘ 受益者負擔金制運用ノ結果

- (一) 負擔區域ノ内外ニ於ケル土地發展狀況ノ異同狀態、負擔金ノ課徵ニ依リ負擔區域内土地ノ發展ヲ阻止シ若ハ之ニ損害ヲ蒙ラシメタルコトアラハ其實例
- (二) 負擔金ヲ課徵シテ施行シタル事業ニ因リ受損シタル者アリヤ、有リトセハ其處置
- (三) 負擔金ヲ課徵セル土地並之ヲ目的トスル權利移動ノ實況殊ニ負擔金制ノ運用ハ土地投機ヲ抑制スルノ傾向ナキヤ
- (四) 負擔金カ土地ノ賃貸價格又ハ賣買價格ニ及ホシタル影響

二 受益者負擔金制度ノ運用ヲ公正ナラシムルノ方策

イ 負擔金及其賦課徵收ノ原則ニ關スルモノ

- (一) 受益ノ有無及其厚薄ノ合理的算定方法
- (二) 負擔區、負擔金總額及賦課標準ノ決定並徵收方法等ニ關スル具體案

(三) 負擔金重疊ノ場合ニ於ケル土地負擔最高限度ノ決定及之ヲ保障ニ關スル具體案

(四) 負擔金ノ賦課徵收機關ノ構成ニ關スル提案

ロ 受益者負擔金負擔義務者ノ範圍ニ關スルモノ

- (一) 各種事業別課徵客體ノ決定標準
- (二) 負擔區域外ニ在ル受益者ニ對スル受益者負擔金課徵案
- (三) 無租地ニ對シテモ負擔金ヲ課徵スルノ必要アル場合ナキヤ、若シアラハ其措置
- (四) 官有地官公營事業用地ニハ負擔金ヲ課シ得サルヤ、若シ課シ得ヘシトセハ之ニ關スル具體案
- (五) 行政廳ノ公共團體ニ對スル負擔金課徵ニ關スル具體案
- (六) 公用制限アル土地ニ對シテハ課徵減免ノ要ナキヤ、若シ有リトセハ其具體案

ハ 受益者負擔金ノ課徵方法ニ關スルモノ

- (一) 前掲第一項ホ(一)ノ場合又ハ之ニ準スヘキ場合ニ於ケル受益區域及受益限度算定ノ特例ニ關スル適切ノ措置
- (二) 負擔金ノ徵收ニ付前納主義ヲ認メ得ヘキ場合ハ立法ニ依リ制限スル必要ナキヤ
- (三) 前掲第一項ホ(三)ノ場合ニ於ケル適切ナル措置

三 受益者負擔金制ノ擴充

イ 現行法ニ依ル受益者負擔金徵收事業概目擴張ノ要否

ロ 軌道又ハ鐵道等公益的私企業ニ負擔金課徵ヲ認ムルノ可否

ハ 負擔金制ノ統一ヲ圖リ且之ヲ標準法ヲ一般的ニ規定スルノ要否

ニ 負擔金制上ニ於ケル自由裁量處分中特ニ法規事項トスルノ要アルモノナキヤ

四 受益者負擔金制ノ適度

イ 受益者負擔金制ト税制トノ關係

ロ 負擔金ト受益限度トノ關係

五 受益者負擔金制ニ關スル根本方策

二會議計畫の發表及各方面招請

昭和五年四月三十日附阪谷東京市政調查會長の名を以て左の如き招請狀並に會議要項を内地、朝鮮、臺灣、滿洲の關係各官廳、道府縣州、市區、都市計畫區域内及市街地建築物法施行區域内町村、人口約二萬五千以上の町村その他各地方團體、大學、商工會議所、新聞社、各種學會及協會等、土地區劃整理組合、會社、銀行、都市研究家等に對して發送したが、各都市及大都市周邊町村等に向つてはその市町村會議員各個にまで及び、招請總件數凡そ七千に上つた。尙ほこの招請と同時に計畫綱要を新聞通信社方面その他に公表した。

第二回全國都市問題會議開催ニ付招請

拜啓

都市經營ノ適否ガ國運ノ消長ニ直接絶大ナル影響ヲ及ボスコトニ付テハ今更喋々チ要セズ候處元來都市ノ問題ハ其ノ關聯ノ範圍頗ル廣汎多岐ニ亘ルノミナラズ各地ノ實情ニ應ジ特殊ノ考慮ヲ必要トスルコト亦尠カラズ從ツテ此ノ問題ニ關シ興味ト經驗トヲ有スル多クノ研究者並ニ實際家等ガ相會合シテ各自ノ研究又ハ經驗ヲ發表シ或ハ意見ヲ交換シ或ハ疑問ヲ解決シ並ニ相互ノ疏通親睦ヲ圖ルコトハ都市ニ關スル研究ヲ助ケ都市ノ經營ヲ合理的ニ導ク上ニ甚大ノ效果ヲ齎ラス所以ト存候
昭和二年五月大阪都市協會主催ノ下ニ大阪府ニ開催セラレタル第一回全國都市問題會議ハ實ニ此ノ要求ヲ充タサントシテ企

テラレ幸ニ各方面ノ傑厚ナル贊助ヲ得テ所期ノ效果ヲ收メタルモノニ御座候而シテ其ノ議決ニ基キ第二回ノ會議ハ今秋東京ニ於テ別掲要項ノ通り開催スルコトニ定メラレ東京市ノ御後援並ニ關係各當局ノ十分ナル御諒解ノ下ニ本會其ノ主催ノ任ニ當ルコトト相成候就テハ齊テ御參加被下候コトハ固ヨリ御關係各方面御勸誘ノ上精々多數ノ參會ヲ得テ此ノ會議ヲシテ我邦ノ都市行政並ニ都市研究進展ノ一轉機タラシムル様格別ノ御協力ヲ賜リ度此段得貴意申候 敬具

第二回全國都市問題會議要項

一 開催期 昭和五年十月六日(月) 七日(火) 八日(水)

二 開催場所 東京市日比谷公園内市政講堂(財団法人東京市政調查會議堂)

三 議題

第一 都市ノ郊外地統制

第二 街路交通ノ統制

第三 受益者負擔金

各議題ノ報告及討議ノ範圍並ニ其ノ要旨ノ假定別紙ノ如シ(別紙ハ前掲ノ如シ)

四 會議日程

十月六日

開會ノ挨拶並ニ諸般ノ報告等

第一議題ノ報告及討議

(時間ニ餘裕アラバ第二議題ノ報告及討議ニ入ル)

十月七日

第二 會議計畫確立の發表及關係方面への參加招請

第一篇 會議準備

一八

第二議題ノ報告及討議

第三議題ノ報告及討議

次回ノ開會其ノ他必要事項ノ協議

十月八日 東京及横濱ノ復興狀況其ノ他諸施設視察

五議題ニ關スル報告及討議

イ、議題ニ關スル諸般ノ研究報告又ハ御意見ハ別掲議題ノ全部又ハ一部若クハ任意ノ事項ヲ選ビテ提出セラルコト等總テ各位ノ隨意ト致スベキモ中小都市並ニ大都市ヲ通ジテ洩レナク其ノ實情若クハ御經驗等ヲ基礎トシタル御報告又ハ御意見ニ接シ度キ希望ニ付キ此ノ點特ニ御含ミテ請フ

ロ、前項ノ御報告又ハ御意見ノ要領ハ來ル五月三十日迄ニ必ズ當方ニ到達スル様御回示ヲ請フ

ハ、會議當日ノ主報告者ノ報告要領ト前項各位ヨリノ御回示要領トハ適宜整理印刷ノ上凡ソ會議一個月前ニ各参加者ニ配付スルノ豫定ナリ

六参加申込期限 五月三十日

七會費 一名ニ付金十圓

會議錄其ノ他諸印刷物費、速記料、其ノ他會議諸費

八其ノ他ノ事項

會議當日ノ主報告者其ノ他本要項以外ノ會議ニ關スル諸般ノ事項ハ追テ御通知ス

三研究報告、意見の蒐集並に主報告者の決定

議題に關する諸般の研究報告または意見は前掲會議要項五所載の通り、五月三十日までに回示に:

としたが、その後更に六月二十日までこれを延長することとし、その結果研究報告または意見の提示と認むべきもの總數五十四件を得るに至つた。而してそれら回示中に就き、會議當日の主報告者を左の通り決定し、八月一日これを發表した。

第一議題 都市の郊外地統制

前復興局建築部長工學博士 笠原敏郎氏

内務書記官 飯沼一省氏

東京市政調査會理事 池田 宏氏

第二議題 街路交通の統制

警視廳交通課長

藤岡長敏氏 (後に警視廳保安部長古川靜夫氏)
(を以て代へしこと後掲の如し)

大阪市土木部計畫課長

内山新之助氏

第三議題 受益者負擔金

前東京市長

堀切善次郎氏

前復興局整地部施業課長

河北一郎氏

尙ほ議題に關する研究報告または意見の外、單に議題に關聯を有つ事實の通告は、その接受數が比較的少なかつたので、更めて各府縣及市に對し新規條項を掲げて回示を求むることとした。

第三 會議參加申込者及參會者に對する處遇

一 會議參加申込の狀況

會議參加についての勧誘は前掲の如く、殆ど關係公私各方面を網羅したが、尙ほその後にも議題に關係の深い方面は特に再應の勧誘を試みた結果、申込の受理は遞次増加して、十月初頭に於ける概數は八百に垂んとするの狀況であつた。

二 會議參加申込者に對する豫備資料等の配付

會議要項に於て豫告した通り、會議參加申込者には、會議豫備資料を前以て配付することにした。即ちその第一冊として主報告並に各方面よりの研究報告を要約せる「研究報告」並に參加上各種の注意事項書（會議開始時間會當日の諸手續等）を九月十二日に發送し、次で豫備資料の第二冊「參考資料」甲編及第三冊「參考資料」乙編を配付することにしたが、この兩冊は刊行期日の關係上、京濱地方を除くの外は會議當日交付するの已むなきに至つた。

尙ほ會議參加申込者中、府縣、市町村その他地方團體の職員、議員、自治事務を管理する官吏、土地區劃整理組合公務員等に對しては、鐵道二三等運賃の三割引證を交付することにした。

三 參會者に對する會議用及參考文書等の配付

前掲の如く會議參加申込總數は約八百名を算したが、開議間際に取消の通告を寄せられたもの及各種の故障に因り當日參加できなかつた向が相當の數に上り、結局參會者實數六百七十名となつた。

前記參會者に對しては、前掲豫備資料三冊の外、左の文書及徽章を交付した。

- 一、參加者名簿（會議彙報 第一號）「十月二日正午現在、參加申込者全部の職氏名」
- 二、會議日程及參會者注意事項（會議彙報 第二號）「確定日程及參會者の留意を要する諸般の事項」
- 三、實地視察希望班通告に就て（會議彙報 第三號）「東京班及横濱班の選擇並に時間、個所等に關する通告」
- 四、參加者追補及改訂（會議彙報 第四號）「會議彙報第一號に對する十月五日午後十一時現在の異動表」
- 五、諸雜報（會議彙報 第五號）「復興關係映画供覧その他數種の通告」
- 六、東京遞信局より會議へ提出の第二議題關係希望事項
- 七、東京市政調查會機關雜誌「都市問題」記念特輯號
- 八、東京市政調查會の組織と事業
- 九、參會者徽章（金屬製）

第二篇 會議總說

第一會議 第一日

一 序 説

前來叙述したるが如き準備と參會狀況との下に、愈十月六日（月曜）を以て第二回全國都市問題會議第一日の開議を見ることになった。會場は參會者多數の爲め、當初の發表を變更して東京市日比谷公會堂を充てることにした。

二 開 會 式

午前九時二十五分參會者一同及來賓として内閣總理大臣代理祕書官戸田由美、内務大臣安達謙藏、内務省都市計畫課長鈴木敬一、警視總監丸山鶴吉、行政裁判所長官窪田靜太郎、東京市長永田秀次郎、同市助役菊池慎三、同十時尊、同名譽職市參事會員、大阪市長關一、日本工學會理事長男爵古市公威、土木學會長中川吉造、貴族院議員水野鍊太郎その他の諸氏並に主報告者及主催者東京市政調查會役員等約七百名着席の上、九時三十分を以て東京市政調查會理事池田宏氏開會を宣し、先づ主催者の式辭ありたる後、來賓三氏の祝辭、永田東京市長の歡迎の辭、次で參會者代表として關大阪市長の挨拶があつた。即ち次の通りである。

主催者東京市政調查會長男爵阪谷芳郎氏式辭

閣下並に諸君

本日は、昭和二年大阪に於きまして大阪都市協會主催の下に開會に相成りました第一回全國都市問題會議の

決議に基きまして、茲に第二回の大會を開催することに相成り、東京市政調査會がお世話を致しまする名譽を擔ふ次第であります。

都市の近來の發展は實に非常なるものでございます。是は單り日本ばかりではございませぬが、世界を通じての趨勢のやうでありますけれども、殊に我國に於ては非常なる人口の集中發展を致す譯でございまして、之に付きましては、豫め能く、其集まつて来る所の人口を、如何に狭い面積の中に、最も衛生的に最も經濟的に、個人の方から見ても、又市の方から見ても、極めて利益の多い方法を執らなければならぬ。即ち郊外地の問題といふ事が非常に重大な問題であります。其次には市内に於ける整備、非常に多數の人が極めて安全に、極めて迅速に其時間を経済的に利用せしむるには、どうしたら宜いか。是は又非常に重要な専門的な問題になります。續きましては、其設備を完全にするには、どうしても尠なからぬ費用を要する。其費用は受益者が負擔するといふ事は當然であるが、それはどういふ方法にしたら宜いか。其他色々な問題もありますけれども、此度の問題となつて居ります三つの議題は非常に重要なものでございます。

之に就きましては、既に此度の報告の任にお當り下さる方々が、専門的に極めて詳細にお調べになつて居るのであります。是より討議に移り、或は部に分れ、この兩日間を最も有意義に利用する、それが即ち本會の目的であり、又世話をする方の側として最も力を致さなければならぬ點であります。我が國に於きましては斯る大會といふことの慣例が未だ十分に成立致して居りませぬが爲に、殊に我が東京市政調査會に於きましては、甚だ未熟でもございますから、皆様に十分なる御満足をお與へすることは出来ぬかも知れませぬ。此の

點豫めお斷りを申して置きます。併しながら只今迄に色々準備致した事柄は、略々此類の大會の歐米に行はるゝ典例に基き、尙ほ我國の長所をも採つて、此度の此大會議が皆様に御満足をお與へ、さうして極めて緻密なる研究が、短時間に行はれ得るやうな方法を選びましたのでございます。幸に其豫定の通りに行はれ得ますれば非常に満足に存する次第であります。

此都市の發展と申します事は、之を歴史的に考察致しますと、昔——昔と申しまして先づギリシヤ時代、ローマ時代、又支那に於ては春秋の時代になりませうが——兎に角此昔の時代又中世紀の時代に於きましては、都市と云ふものは非常に勢力を持つたもので、都市其ものが殆ど國家の權力を行つた。歴史に於て名高きローマ、ギリシヤに於てはアゼンス、スパルタ、又中世に於てはアドリアチック・タウン、ハンザ・リーグ是等のものが殆ど獨立國の力を持ちましたのでありますが、それが段々變遷致しまして、近來の國家組織と云ふものが漸次發展するに至りまして、一時都市の力が平均せられたとも申します。都市と地方とに段々力が分配されたやうな形になつて來た。今日と雖も、其政治的の勢力、又國家の意思を實行する制度、即ち言葉を短く申せば兵備とでも申しますか、斯う云ふものに於ては中央地方の區別は今日に於てはありませぬが、併しながら經濟的發展に於ては恰も古へのローマ、アゼンスの如くに、都市と云ふものが地方に比べて非常に力を持つて來た。此都市の力と云ふものが、人口の殖える點から非常に力を持つて來たのであります。是から段々國際聯盟も出來、色々ものが出來て來ますに付ては將來の都市と云ふものがどうなるか。是は今日未だ豫言の出來ぬ事ではありますが、恐らくは只今都市に集中した力と云ふものが、是が又地方に分散してしまふと云ふ

傾向は取らないであらうと思はれる。詰り此都市と云ふものゝ集中して行く力が強くはないか。それならば何處が其極點であるかと云ふ事は甚だ難かしいのでありますが、併しそれは、國々の人口に於ても、大體其國が養ふ人口に限りがあるが如くに、都市も亦其集中し得べき地盤と云ふものも、國の總體の人口から割出して行つたならば、或制限を持つものであらう。斯う思はれるのであります。

然らば現代の都市は、將來經濟的に段々と力を強めて行くものである。其發展する力と云ふものは、先づ當分國家の人口が増して行くと共に進んで行くものと見なければならぬ。併しながら其力はやはり地方々々に依つて皆違ふのでありますから其地方々々の都市と、又國際關係をもつ都市、例へば横濱とか神戸とかいふやうな、亞米利加と關係をもつとか、或は支那方面と關係をもつとかいふやうな、國際的關係を主にもつ都市と、其國際的關係の強くない都市とは、又違つて行くといふやうな譯にならうと思ひます。

それ故に此都市問題の研究といふものは、今後益々非常に大切な事になつて行く譯であります。此たび第二回會議を茲に開き、斯く多數の方々がお集りになつたといふことが、亦以て此會議の如何に有意義であり如何に大切であるかといふことを一面に於ては立證するものである、斯う考へる次第であります。どうか此會議が第三回、第四回と倍々有意義に且つ力ある發展を遂げまして、ひとり我國の都市に對してのみならず東洋諸國は勿論、歐米の先進國の都市に對しても、好き先例、好き研究の結果を示し得るやうにありたいと、切に希望致す次第であります。

今日は此會議の開會に方りまして、内務大臣閣下を首めとして有力なる方々の御列席を得まして、賑々しく

此會議を開き得ますことは私は一堂の皆様に代りまして、來賓の諸閣下に對して厚く御禮を申す次第であります。が、一面に於きましては、どうか諸閣下に於かれても、吾々が斯の如くに努力しつゝあるといふことを十分に御認め下されて、吾々が其職に在るに就ては、其職務に就て十分に研究し、盡すべき事を十分に努力して、以て國家社會の發展に資したいといふ志であるといふことを、御諒承下さらんことを偏に祈る次第であります。茲に一言御挨拶を申上げまして式辭と致します。

内閣總理大臣濱口雄幸閣下祝辭

惟ふに都市は一國文化の中心にして、都市の盛衰興亡は直に一國の盛衰興亡を意味すと言ふも過言に非ず。是れ都市經營の重要な事業たる所以なり。

然るに都市經營には幾多の困難なる問題あり。殊に我國の都市は極めて最近に於て急激なる膨脹を遂げたるものにして、之が發展を適當に導く爲の充分なる準備を缺きたるが爲に茲に都市生活上混亂を惹起せり。而して之を放置するに於ては都市生活上幾多の害惡を醸成すべきも、是等害惡の大部分は都市生活の整備に依りて除去し得る事容易なりと思惟す。是れ即ち都市經營の理想にして、此の理想の實現は實に市民の熱烈なる愛市心に俟つべき事勿論なると共に、又都市改良運動の第一線に立てる専門研究家並市政當局者各位の奮勵努力に俟つ所深大なるものあり。凡そ都市は文化の最先端に立てり。之が經營を完うするが爲には、或は都市建設或は都市行政に於ける各般の問題に對する斬新にして多方面に涉れる専門的智識経験を必要とす。即ち是等問題の適當なる處理解決、換言せば、都市の合理的經營を爲すが爲には、常に最新科學の進歩に遅れざるに努むる

と共に、他都市の施設を模範とし又は參考として其の智識と經驗とを豊富ならしむるを要す。之が爲、歐米に於ては科學的調査機關の設立又は都市問題會議の開催に依り其の經營を完うするを怠らず。

我國に於ては夙に東京市政調査會の如き有力なる研究機關ありて常に都市問題の科學的解決に努めつゝあるは世人の熟知する所なり。

今回更に第二回全國都市問題會議の開催を見、都市問題に關する朝野の専門家多數參加せられ斯の如き盛大なる會合を見るに至れるは、都市の爲、將又國家の爲、予の衷心より歡喜に堪へざる次第なり。

茲に聊か一言を陳べ以て祝辭と爲す。

内務大臣安達謙藏閣下祝辭

此たび東京市政調査會主催の下に、第二回全國都市問題會議を東京に開催せられるに方りまして、茲に聊か所懷を述べることが出来るのは、私の最も欣幸とするところであります。

惟ふに都市は國家の中樞或は地方の中樞を成すものであります。隨つて地方に於ても、すべての國家社會の神經が集まつて居る所は都市であり、延いて其中樞都市が一府縣の信用を代表するものであると言ふことが出来るのであります。此國家社會の神經中樞部に對する施設、殊に交通、衛生、保安の如きは、最も都市に重きを置いて考へねばならぬことは申すまでもないことであります。

いま我國都市發展の狀況を見ますと、大正九年國勢調査の結果に依る都市人口は約千十萬人、郡部人口は約四千五百萬人でありましたが、昭和四年十月の推計人口に依りますと、都市人口約千五百萬人、郡部人口

は約四千七百萬となるのであります。即ち此九個年間に於ける人口の増加率は、都市に於ては約三十三パーセントの多きに上るに對し、郡部に於ては僅に約四パーセントに過ぎないのであります。此人口増加率の對比から見ましても、人口の都市集中の趨勢が明かに看取せられるのであります。

そのみならず都市の數からこれを見ますときは、大正九年に八十三都市でありましたが、昭和五年の今日は二十六を増加して百九都市になつて居るのであります。更に同一期間に於きまして、都市境域がどれほど膨脹して居るかと見ますれば、其市域を擴張しました都市の數は實に七十五の多きを算して居るのであります。而してそれは市域を擴張したものであります。其ほかに市の實勢力が近郊に及ぼし、近郊町村が甚しく都市同様に變化の趨勢を呈しつゝあるものは、到底算へることが出来ぬほどであります。例へば、帝都の近郊はもとよりであります。阪神沿線其他の大都市および温泉、遊覽地等は、それを中心として發展して居るのであります。

併しこれ等の都市が果して合理的に、圓滿な發達を遂げ得られるや否やを考へますときは、洵に寒心に堪へぬのであります。然らば其秩序ある發達をさせる爲めには、豫め計畫を樹立してこれに統制を與へ、冗費を省くことが、國家經濟上最も緊急を要するものであると考へるのであります。今回の會議に於きましても、郊外地の統制問題が其議題の中心になつて居るやうであります。洵に時宜を得たもので、私の欣快とするところであります。

都市の發展が頗る顯著でありますことは、前申述べた通りであります。發展と共に之に要する經費も亦實

に甚大となりつゝあるのであります。試に昭和四年度の地方歳出總額を見ますときは、約十七億七千八百萬圓であります。それに對しまして市の歳出は約七億四千六百萬圓に達して居りまして、實に總額の約四十二パーセントを占めて居るやうな次第であります。仍つて當面の問題としては、財政を巧みに按配し、其の刷新を企てると共に、行政方面に於きましても繁文の弊を避けねばなりません。即ち今後都市の發展を期するには最も合理的、且つ最も經濟的といふことを目的とせねばならぬのであります。政府に於きましても曩に大都市制度調査會を設けたるが如き、其一つの現はれに他ならぬのであります。

又都市の交通、衛生問題の如きは、都市計畫法の運用に依りまして、最も經濟的に目的を達することが出来るのでありませうが、施行十年の實績に鑑みるときは、未だ不備の點あるを認めらるゝ所もあります。

此際に方りまして、自治行政の學識經驗者の諸君が一堂に會せられて互に胸襟をひらいて、特に都市問題の核心を成す交通、或は受益者負擔の如き問題に關して研究討議せられることは、國家のため洵に欣喜に堪へぬ所であります。折角十分の検討を行はれて、豫期以上の成果を收められんことを望む次第であります。

日本工學會理事長男爵古市公威閣下祝辭

本會の趣旨目的等に就きましては、先刻會長から縷々御説明になりました、今更私共何も申す事も無いのでありますが、聊か經歷を申しますれば、由來此都市問題は御承知の通り新しい事ではない。ナポレオン三世が當時のセーヌ縣知事のオスマンに命じて巴里の改正を計畫し、之に着手したと云ふのが最早八十年前の事になります。東京の市區改正の計畫も彼此れ五十年前の事であります。然るに近年に至つて此問題が頻りに論

議せられる。是は獨り日本ばかりでなしに、全世界での問題であります。是は勿論、先刻會長も申されたやうに、經濟上一般文化の進歩に依ると申して宜いですが、問題が非常に複雑になつて來たからであります。

今日に於きましては、もう都市問題と云ふものは一つの立派な科學で、其科學が各方面の研究に依つて段々發達してゐるので昔は、事に依つたら先づ吾々の専門が主であつたかと思はれる。交通とか美觀と云ふやうな事が主である。所が今日はなか／＼そんな事で済まない。併し私共關係の方面でも、まだ／＼研究しなければならぬ事があるに相違ないので、其例として此處に一寸申上げて宜しからうと思ふのは、今月の一日に、亞米利加の土木學會と云ひまするか工學會と云ひまするか、アメリカン・ソサエティー・オブ・シビル・エンジニアーズの秋季大會をセントルイズで開きました。其第一日、即ち今月一日の問題が午前午後を通じて都市問題、プロポジション・オブ・ゼ・ラージ・シティーと云ふ題で、色々それには問題が分れて居りますが、私にも此通知が來ましたけれども、其通知の來たのが先月の二十四五日頃で、太平洋橫斷が未だ成功して居らぬ今日、出席するのは難いので見合せたやうな次第であります。斯う云ふ状態でありますので、此問題はどうしても衆力を集めて解決しなければならぬのであります。

此度の第二回會議の問題では、直接に吾々の専門に關係する事は現れて居りませぬけれども、其内部には随分含まれて居るのであります。其中の一つをお話すると、郊外の建築線の事がありますが、それに付て想出したのは、先年私がコペンハーゲンに參りました時に、其郊外を見ますと、家も何も無い所へ、立派な市街道路が出來て居る。人車道が分れて居り舗裝も出來て居り、而も街燈まで備へられて居る。是はどうも手廻しの

宜いことだと思ひまして、或人に話しました所が、歐羅巴を方々廻つた人がありますが、それは方々でやつて居ると云つて、一向普通の事のやうに申して居りましたが、私の寡聞、日本でさう云ふ手廻しの宜い事が出来て居る所があるかどうか知りませぬが、是は種々の事情があつてさうなるのでありませうけれど、是等は大きいに参考になる事であらうと思つて、序ながらお話する次第であります。

只今申したやうに、技術と云はず法律經濟、即ち形而上の學問、形而下の學問を合せるやうな一つの科學に都市問題はなつて居る今日でありますから、どうしても各種の權威者が寄つて、さうして十分研究した上でなければ此問題の解決は難かしい。此意味に於て今回の如き會議の開かれました事は、實に時宜を得たものと確信するのであります。必ずや斯の如き會合が今後も續々行はれて、而して多大なる効果を齎すことゝ確信するものであります。此意味に於て本會に對し謹んで祝辭を呈します。

東京市長永田秀次郎閣下歡迎辭

今回第二回全國都市問題會議が當地に開かれますに付きまして、各位は、多方面より御參會に相成りまして極めて緊切なる問題に付て御討議下さることは、私に取つて洵に仕合せに感ずる所でございます。

前回の第一回の會議は大阪に於て開かれ今回第二回が我が東京に於て開かれ、而も今回は主催者が東京市政調査會になつて居ります。此會議の主催者と致しまして、東京市政調査會は、極めて其當を得たる主催者であると深く自分は考へて居ります。又之に會合される諸君は、學識經驗等に於て都市問題に關して極めて造詣の深い方々であり、殊に都市問題の實際に當面した諸君が多數御集まりになり、又或は現在其局に當られないで

自由に討議の出来る方でありまして、さうして經驗を豊富に持つて居られると言つたやうな、極めて此問題を協議するのに其當を得た、此上もない適當の地位に居られる方々が多數御參會になつて、此會議が開かれると云ふ事は洵に是は有意義なものが生れて來ると云ふことを信賴するに足ると考へます。

又此研究され討議される問題の内容に付て承りますと、今回は主として都會の近郊に對する處理の問題、並に都會の交通の問題及び受益者負擔金の問題、此三つの問題は現在我が東京市に於きまして、直面して居る極めて重要な問題であります、斯く云ふ問題の内容に付て、之を眞面目に討議されると云ふことは、吾々の最も好む所である。

由來種々の全國を表明して居る所の會合は、時として或は其事柄が政治的に流れ、或は極く當面の、何か他の事に利用されると言つたやうな事柄が往々にしてあるのでありますが、今回の此會合は、極めて眞面目な會合であつて、而も之に依つて討議されたる事柄が吾々都市行政の局に當つて居る者をして襟を正して、之を傾聴せしめると云ふ權威のあるものであると云ふ事を考へる時に、斯る全國的の會合が我が東京市に於て催されると云ふ事は、私の深く之を歡迎する次第であります。

我が東京市の大震災當時に於きまして、内外各方面より種々の援助を賜りましたことは、今日に於ても深く吾々の感謝致す所であります、特に内地の各方面の都市の關係の諸君より、直接に種々の援助を賜つた事は今日に於ても吾々の心中に洵に新に考へて居る所であります。お蔭を以ちまして七年後の今日、先づ外觀的には御覽の通りに復興致した次第であります。是より尙ほ其内容に付きまして、十分の努力を重ねまして、諸君

の御厚意に背かないやうに致したいと思ふ次第であります。就きまして第三日目に、諸君の御多用の御寸暇を割いてお貰ひして、我が東京市の復興の状況を御視察下さることになつて居りますやうで、此事は私として深く感謝致します。どうか十分に御覽置きを御願ひ致したい次第であります。

尙ほ此機會に申し添へて置きたいと思ひますことは、今回の會議を主催されました東京市政調査會に就てあります。此會は、私より申上ぐべき性質のものではありませんが、前の東京市長であつた後藤伯爵とそれから安田善次郎兩氏の間に於てお話合があつて、巨額の御寄附の下に此市政調査會なるものが出来たのであります。此兩氏が此會を設立するに至りました経過に就ては、私は相當に深き關係を有つて居つたのであります。兩氏が其間に話合はれたことは更に偉大なる種々の問題に關係して居つたのであります。併しながら此市政調査會が出来ましてこれが唯一の記念として遺つて居るものであります。これが十分に其効果を發揮するといふことは、私は既に歿くなされた兩氏の靈を慰むる意味に於て、個人としても非常に期待して居る所であります。今回斯の如き有意義なる會合が此東京市政調査會の名に於て催されるといふことは、私は自分の現在の地位を離れて、更に別段の何とも言へぬ心持の好い感じがする次第であります。此會議が願くは東京市政調査會の御骨折に依つて十分の効果を發揮されることは、私の衷心より其當路者諸氏にもお願ひ致したい次第であります。

今回諸君が各方面より御會合になつて、此有力なる會議を開かれますことを深く悦びまして、茲に一言歡

迎の御挨拶を申上げる次第であります。

參會者代表大阪市長關一閣下挨拶

私は甚だ僭越でございますが、第一回の都市問題會議を主催致しました大阪都市協會の代表と致しまして茲に御來會の皆様のお許しを経まして、今回の會議の主催者たる東京市政調査會に對して御禮の御挨拶を申し上げます。

今回東京市政調査會が、第二回全國都市問題會議を御催しになりました、本日茲に盛大なる開會式に列することは、私共洵に欣幸とする次第であります。

今回の會議に就きましては、東京市政調査會に於きまして、昨年の末頃からい／＼御準備になりました、其結果と致しまして、本日參會致しました會員は、名簿に載つて居ります者が實に八百を算するといふやうな状況であります。又全國各地方、各方面を代表した方々が茲に御集りになつたといふことは、有力なる東京市政調査會の御骨折に因ることであると存じます。

且つ又私前回の會議に關係致しました點から申しますと、今回は特に本會に於て討議さるべき議題を早く御選定になつて、それに就きましては主なる報告者をそれ／＼其道の權威者に御委嘱にありまして、其御報告が私共の手許に既に配布されて居るのであります。又これの外に參考資料として尤大たる二冊の資料が配布されて居るのであります。此點に就きましては、如何に關係の市政調査會の方々が御骨折であつたかといふ事を、如實に物語つて居るものと存するのであります。今日および明日にかけて行はれますところの討議に就きまし

ては無論その記録が出ることに存じますが、既に私共の手許にございますところの報告書並に参考資料が恐らくは今後に於ていろ／＼なる問題に就きましての吾々の最も有力なる参考材料になつて行くといふことを見まして、此點に於きまして私は特に感謝の意を表するものであります。

本會が前回に比しまして多數の参加者を得、又既に只今申上げましたやうな立派な準備が整つて居るのでありますから、此會議が今後の都市の問題に貢獻せらるゝ所は頗る多い事は申すまでもないことでございますが、一言私がそれに附加へて申上げて見たいと存じますのは、先程阪谷會長の御挨拶中、また内務大臣閣下の御祝辭の中にもございました如くに、近來の我國に於ける都市の發達といふものは、洵に著しいものがあるのであります。此著しい發達が、私は大體に於きまして明治の時代の終り頃から一躍の進歩をして居ると考へるのであります。明治四十四年に市制の大なる改正がございましたが、是等の改正が都市の發達の狀況に迫られて出たものであるばかりでなく、其後に起りましたところの大正時代に於ける各種の立法、都市計畫法であるとか或は市街地建築物法であるとか、道路法、是等のものが當時に於ける都市の要求に依りまして、都市の實際の狀況に依りまして、非常に慎重審議の結果として出來て參つたものであります。是等の法律が出來ますといふことは、一面に於きまして日本の都市の其直前に於ける發達が、是等の法典の發布を促したものと存じます。それと同時に、是等の法典が出來てから最早や十年の日子を経て居るのであります。その間に都市の發達は倍々著しいものがあります。今回御選びになつたやうな問題が、吾々の直面して居る最も大きな問題であると思ふのであります。都市の郊外の統制であるとか、或は交通の統制であるとか、或は受益者の負擔金の問題で

あるとか、是等の問題は、只今申上げましたやうな各種の法律が完成すると同時に實際に行はれた事であります。時代の發達と共に是等の法制を運用して行くといふことに於きまして、吾々都市に關係した者は多少の既に經驗を有つたのであります。是等の法律がそれ／＼十分な研究の下には成つたのであります。私共が是等の法律を實際に運用して見ますと、此運用に關係した者並に是等の事柄に就て特に研究をされて居る學識のある方々が、更に此問題を根本的に検討して見る必要のある時代になつて居ると私は考へるのであります。

左様な意味に於きまして今日吾々の直面して居るところの、今回議題になつて居ります問題の討論研究といふことは、非常な重要な意味を有つて居るのであります。現在出來上つて居ります法制をどういふ風に運用して行くか、又或る點に於きましては根本的に考へ直して見なければならぬといふやうな御議論もあるやうであります。是等の問題を十分に討議するといふことが今回の會議に於て出來得ることであり、これが又十分に其目的を達すべきところの各般の準備が出來上つて居ると考へるのであります。

元來此都市問題會議は、他に多數の都市に關係した會議がありまして、全國の都市の協議會でありますとか或は又全國に亘りました上水道の協議會であるとか、それ／＼澤山の會議がございます。其外に此都市問題會議といふものを起しました私共の根本の考といふものは、先程一寸お話のございました如く、是等の會合がそれ／＼特殊な目的を有つて居るのであります。或は事務的に差當りの問題を協議するとか、或は現在の法制の或る箇條を改めて貰ふとか、或は政府に意見を建議するとかいふやうな、それ／＼の目的を有つて居ります。其以外に斯様な各方面から學識經驗のある權威者が寄られまして、自由に獨立したところの意見を發表すると

いふ機關が、今日の都市の發達の狀況に對しては最も必要な事であると考へまして、幸に第一回の會議は此目的を以て發起致しましたところ、多數の御賛同を得て昭和二年に開會することが出來たのでありますが、此の考へ方は今日更に多數の參會者を得て茲に第二回會議が行はれるといふことを見ますと、多數の諸君に於ても御共鳴下さつて居ることと存じます。これは我國の都市のために洵に慶賀に堪へないと存するのであります。茲に重ねて主催者であります東京市政調査會に對して深甚の謝意を表しまして、本會の成功を祈る次第であります。

右を以て開會の式を了り、次で十時三十分總會に入つた。

三 總會

先づ關一氏より、(一)議事の進行上議長その他必要な機關を設け(二)簡短なる議事規則の類を定めたしとの發議があり、尙ほこの提案に賛同あるに於ては、(一)阪谷東京市政調査會長を議長に推し(二)その他の役員は議長の名に一任し(三)議事規則等も同じく議長に於て制定することに議決したしと諮りたるに、滿場これを容れたので、阪谷男爵これを讀めて議長席に就き、池田東京市政調査會理事より會議事務の報告ある旨を宣す。乃ち同氏は左の通り諸般の報告を行つた。

事務報告

第二回全國都市問題會議は、今日全國各地から多數の御參會を此堂に御迎へして、御一緒に會合することを得たるに依つて成立致しました。只今は開會の式を擧ぐるに當り、貴賓の御臨場を辱うし、且又普通に新様な種類の會議等に見るが如き

御座なりの祝辭と違つた、洵に實のある、如何にも私共をして共鳴せしむる御親切のメッセージなる御演述を賜はつたるのみならず、永田東京市長の歡迎の辭、並關大阪市長のこの前の會議を御催しになつた時の御經驗から、色々と私共の心を衝つやうな御話を承りまして、實に感佩に堪へない次第であります。茲に是等の御忠告を體しまして、御一緒に其様な心持になつて、これから豫定の順序を逐ひ、豫定の議題を中心として開會せられんとしてゐる次第であります。

此會議には、始めて御出席になつた方も多數あるやうに承知致しますし、又此會の効果を完うする爲には、思ひを第一回の時に馳せなければならぬ事と存じます。抑々此全國都市問題會議は、大阪市長關法學博士の御首唱に依つて成立したもので、全く我國創始の事業であり、且同博士の主宰する大阪都市協會に依つて誕生したものであります。當時主催者側に於ては、無論計畫の當初より成算のあつたことであらうが、私共が其御招請を受けた時は、既に會議期日に切迫して居りまして果して此種の新しき創始の事業として、新様な短日月の間に、うまく行くであらうかと、疑はれて非常に其會議の成否を危んだ次第であります。現に私は、當時關博士の御來訪を受けまして、關博士に對して秋季若くは、來春にでも延ばされてはと御注意致した程でありました。それにも拘らず關博士の提唱された時が最も好かつたことと、御開きになつた場所柄が場所柄であつたことと相俟ちて、關博士の人格は、遂に能く人を動かしまして、會議は段々に都市問題關係者の間に、深き興味を以て迎へられるやうになり、加之大朝、大毎兩大新聞の非常な援助も加はつて参り、且又主催團體の斡旋も宜しきな制ししまして、此第一回の會議は、實に豫期以上の成績を収め得た次第であります。さうして其時の參會者の方々の間に、期せずして只今關博士より御話になりましたやうな考が、皆の頭に響き渡りまして、遂に此會を繼續して設けるやうにして一面都市政策の研究に資すると共に、都市問題關係者の間に協調するの機會と致すやうにしたいと云ふ議が自ら熟しまして、此會議即ち今回の第二回都市問題會議が生れるやうになつた次第であります。

此會議の愈々催されるに至るまでには、色々經過もあつた事でありますが是は略しますが、唯一言申上げて御詫びを致さなければならぬ事は、新様な多數の期待の厚かりし此會議を今日まで開き得なかつたと云ふ事であります。實は當時の御申

合せに依ると、昨年はどうしても開かなければならぬ順序になつて居つたのであります。然るに丁度昨年は、此會堂を含む市政會館が、建築の工を進めてある真最中で、會場として適當なる場所を物色することの出来なかつたやうな關係から、遂に昨年の機會を失したやうな次第でありまして、全く事情餘儀なかりしこととは申せ、私共市政調査會の關係者の一人としては洵に相濟まぬ次第と存じて居ります。此點を此機會に御詫び致します。

斯くて此會議は、丁度第一回の會議から三年の歲月を経た事故、著しく會議に對する一般の興味を殺いだことでもあらうと思はれまして、此會議の開催に付ては一方ならず憂慮した次第であります。然るに、此種の會としましては、先程から段々に御話のありました如くに、非常な多數の御參會を得るやうになりましたことは、洵に欣快に堪へない事でありまして、實に數に於て誇り得るばかりでなく、參加された方々は、何れも中央官廳を始め、或は地方の官公廳、大學、學會其他都市に關係して居る色々の實業方面に於ける有力なる方々を網羅し、其參加者の屬する地域は、全國限なく及んで居りまして、遂に朝鮮、臺灣、滿洲方面からお迎へなして居るのみならず、各都市に隣接する郊外地の方々をも多數お迎へする事を以て名實共に全國的大會となり得ました事と、遠く友邦から戴經摩君のやうな、市政府の樞要な局務を擔當して居らるゝ有力なる御方の特別參加も得まして、將に國際會議たらんとするの素地が、現實此會に於て出來た事は、如何にも斯界の爲に慶祝措く能はざる次第であります。

無論前回の會議も、都市問題の實證的研究を以て唯一の目的としたとは申せ、時の關係は自ら此企畫を通じて大阪市民に懇へると云ふやうな意味もあつたやうに承知致して居ります。展覽會の如き催が其當時附帶されて居つたことで此等の消息を傳へる事が出來ます。併し今回の會議は、唯偏に第一回の會議の結果に基くもので、別に市民の關心に懇へなければならぬ何事もありませぬ。都市の問題に關係して居る人々が、一堂に會して實證的研究のテストをして、正しく科學の導く所に従つてお互に討議を盡さうと云ふより外に、何等の目的使命が無いのであります。偶然にも丁度本年は、帝都復興の仕事の終つた年柄であります。さうして其爲めに記念すべき大きな祝典を舉げて、陛下の御親臨を仰ぎ、親しく市中を御巡幸遊

ばされた年柄に當つて居ります。又本年は丁度都市計畫法並市街地建築物法施行以來滿十年に當ります。併し夫れは偶然に其年柄に當つたといふだけで、此會議は素よりそれ等を記念するために企てられたものではありませぬ、即其目的とする所は飽くまで御招請申上げた趣旨中に盡きてゐるのであつて、都市問題に深き興味を有する研究家と、尊き經驗を有する實際家が一堂に會して、其研究の結果と經驗とを發表し合ひ、さうして必要に應じて平素抱懷して居るところの疑問の解決を圖り、お互に切磋琢磨する所能く眞摯なる研究を助け、都市經營を合理的に導かうとするに在ることは申すまでもない事です。

隨て此會議は全國的であり、且つ技術、經濟、法制の三方面に於ての經驗と知識が全網羅的にならなければならぬことは申すまでもないことと存じます。幸ひ此會議は此點に於て第一回會議に數歩を進め得ましたが、未だ以て之を完全とは申し得ませぬ。併し此調子で行けば必ずや第三回以後に於て十分に期待され得る事と存じます。

繼つて今回の會議は前回と異り、開催地に於ける一般市民の感興を喚ぶ何物もなく、又何等の企てもなく、議題其ものゝ價值に對する判斷は別として、一見倦怠を覺えしむるやうな煩瑣極まる重苦しい解題まで附けた上に、豫め之に對する研究報告を求め、又議題毎に極めて面倒な統計書表の提出を促された等、如何にも億劫さうに思はしめたにも拘らず、今日の如き成績を收め得たのは、畢竟するに第一回の會議が如何に能く世間の期待に副へるかを語るものであると存じます。即ち今回の會議が、成功の第一歩に入り得たことは、偏に第一回會議の効果に負ふ所であると考へまして、關博士をはじめ第一回の會議關係者諸君の協力善處せられた跡を顧みて、衷心より深甚の敬意を表せざるを得ない次第であります。同時に、滿堂の各位と共に關博士始め先覺者が、此第二回の會議を産んだが如くに、お互の協力能く此第二回會議が第三回、第四回の會議を産むやうに致したいと考へて、其協力の實が此會議に發露するに至らんことを切願する次第であります、且つは又此會議が遂に能く全國都市問題會議をして永久的の組織たらしむるに至らしむやう導かれ度いと、切に希望する次第であります。

斯様な希望を虚しからしむることなく、會議の効果を發揚し得て、此會議をして所期の目的を達せしめるためには、どうしても參會者の方々の理解ある御協力に俟たなければならぬことと存じます。

主催者側としては、本會議が全國都市問題會議であるといふ點から先づ、議題の選定からして非常に意を用ひた次第であります。即、大、中、小いづれの都市にも偏することなく成べく總ての都市生活に普遍的である問題を選び、且それが技術、經濟、法制の三方面から討議することの出来るものたるを期しまして、併かも各議題毎に、何等か特別の研究に俟たなければならぬ新しい重要な問題が含まれて居る様に仕組んだ次第であります。議題其者が、量に於ても質に於ても全國的大會議となり得しめた事であるといふ風にも見へますから、どうぞ此三方面各々の御専門に於て、自由に十分の御意見の御發表が願はしいと存じます。

議事進行の都合等から、或は繼續會議を必要とするやうな場合があるかも知れません。時には宿題として次の會議に持越すやうなことも已むを得ない場合もあらうと存じますが、出來得る限り議題となつた事項は、之を今回の會議に於てエキゾスチークのものにしたいと考へて居ります。即ち横からも縦からもあらゆる方面からの御審議が、極く短い時間の間に十分自由に發表せられるやうにしたいと期待致しますので、之に就て此會議は豫めいろ／＼の用意を致した次第であります。先づ此議事を進めて行きますと、自から其問題に關する限りはそれが有權的の資料となつて、實際に之を用ひて過ちの無いやうな文獻が茲に出來上る様にと希望致しました故に詳細な解題を附けて見たり、御研究の御報告を徴したり、或は之を地方官公廳の報告と一緒に印刷して豫めお配りした譯であり、又東京市政調査會の機關雜誌たる「都市問題」を特に八月號以下主要の紙數を此三議題の紙上檢討及參考文獻のために割きました次第であります。又「都市問題」の十月號は御覽下された通り全國都市問題會議の記念特輯と致しまして、議題關係の論策等を載せ得る限り載せましたのも、畢竟如上の目的に備ふるがために外ならないのであります。されば今回の會議は、左様な準備書類に惹出されまして其紙上討議の始末をするがために生れた様なものとなつた次第であります。就ては之に照應し得る様有益なる御意見が續々三方面とも其拍子を揃へて各

議題に就て御提出下されて、眞に此會議をしてエキゾスチークにして戴きたいと切望します。

以上の目的のために關係官公廳側をはじめとして、皆様の容易ならざる事前の御協力が、遂に研究報告並に資料を作つた譯で、之に對しては只今關博士よりお讃めの辭を戴きましたが、これは東京市政調査會が頂戴すべき筋ではなくして全く關係各官公廳及其當局の方々が、眞に能く此都市問題會議の精神、使命の在る所を理解して共鳴して下されて、夫々貴重なる參考資料、又立派なる研究御意見を、此會議のために御贈り下された賜で、全く皆様の御協力の結果に外なりませぬから、只今の關博士の市政調査會に對する御言葉は、之を讀みて此席に於て其儘御參會になりました皆様に差上げて、御禮に代へたいと存じます。

斯様な仕組は何分にも最初の企てでありましたがために、主催者としてはかなり苦心も致し、且つ又方々に御迷惑をかけた次第であります。遂に思ふ存分に一切を全網羅的にし得なかつたことは、私關係致しました者の一人として、今に遺憾やるせない次第であります。併し此様な計畫は自然今後もあることでありますが、斯様な資料が出來上つて見ると、斯うもしたかつた、あゝもしたかつた、斯ういふことなら我が市からも斯ういふ材料を出したかつた、我が警察部からも斯ういふ調査資料を出せばよかつた、我にはまだ斯ういふいゝ意見があるといふやうな氣附きが誰れしもあることと考へます。そして其様な感想は、官公廳以外の御參會者中にもそれ／＼の御立場に於て、斯ういふ意見が出て居らぬことは遺憾である、此方面の事が缺けて居るといふやうな御感じが、おありだらうと思ひます。それ等のお感じが第三回以後の會議の成功を進める基となり得ますならば、私は甚だ祝福すべき事であると存する次第であります。

尙ほ、資料は成べく、一つでも多くしたいと考へましたので、締切の期限を印刷に間に合ふ限り延長致したので、遂に研究報告と一緒に一と月前に差上げるお約束をして居た參考資料の完成が遅れまして、御參會の日迄に漸く御手許に差上げるやうなことになるに對して御詫びを申し上げます。又意外に會員の方々が多數となりましたやうな關係で、研究報告の如きも第二版まで出さなければならぬやうな事になり、色々そこに手遣ひがありましたので、御討議上の御不便を御忍び

せ申上げなければならぬやうになりました事に就ても深く御詫びを申上げます。

次に有限の時間内に能く會議の能率を發揮して、此會議をエキゾスチウのものにしなければならぬ關係上一々總會の議を経て取運ぶのが順序である事が澤山あつたのでありますが、便宜上差上げて居ります議事日程の如くに、御諒解が願へる様に思はれる限りは便宜市政調査會側で以て取極めまして、御承知を願つたやうなことがあります。是は畢竟斯様な多數の會合となりましては全く餘儀なき次第と存じますから御宥恕を願ひ度いのであります。然るに會議の期間は三日間でありますが、其有効時間は十二時間以上に出ることは事實出来ませぬ。そこで主報告者の御報告も、全部一括して、第一日の午後には御願ひすることに致しました。次で二日目の午前は、各議題毎に部會を開いて、午後になると、其部會で以て表はれしました自由の御意見を取纏めて總會で報告すると云ふ順序に致しました。第二日午前の自由討議も非常な多數の御參會であります故、曩に御諒解を得て居る通り、一人一議題一回主義を執りまして、其時間も十分以上にと多數御發言願への方を出すといふ風になりますから、甚だ心許なく思つて居る次第ではありますが、其御積りで成べく多數の方々の實證的の御意見が承れることが出来ます様に先以て御議會が願ひ度いのであります。又若し討議と云ふ名前に囚はれて、此部會を、初めから或問題のみに捉へ甲論乙駁して居りましたならば、其問題の中の或一事項だけに就て時間が盡きてしまつて、他にどんな有力な良い御議論がありましてそれが承り得ないことになる虞れがありますから、自然に或は御意見の陳述發表會と云ふやうな實質にならざるを得ないのではないかと存じます。そして或はそれが大勢の方々が遙々遠くから御出で下され、又色々の方面の方が折角御集まり下さつて、折角此會に寄與されんとして御出で下さつた方々の共同の目的とする所でもあるまいかと存じます。

議事の進行に付ては、各議題毎に、豫め御提出になりました研究報告なり又其資料等を十分に御覽下さつて居る主報告者がそれ／＼御附き申して、適當なる機會に適當なる御發言があらうと存じますから、結局討議に参加して、各位の御發言を承つてゐるわけで、一つのシステムの下に、研究を盡し得る様に、主報告者がうまく御仕組み下さることゝ主報告者に信頼

申上げて居る次第でありますから、縱令時間が短くともうまく取運ぶことゝは考へられます。併し何分にも多數のことでありますから、二日の午前だけでは御意見の御發表にも時間が不足することありとせば、特に市政調査會と致しましては、折角の機會でありますから、各議題に付て自由に縱横に御討議が出来得るやうに、實地視察の翌日即四日(九日)に午前九時より九一日を自由御討議の時間に充てたいと考へて居ります。御多用の折とは存じますが、折角御集まりになりました機會でありますから、出来得べき限り此自由討議に御參加下さいまして、此會議の効果を徹底的に擧げることの出来るやうに豫め御協力を御願する次第であります。

よく會議の時に、説述の間に、失禮の申しやうであります。不規則の御發言があり勝ちであります。それが兎角議事の圓滿なる進行を妨げるやうなことになると思ひます。此會には左様な事は無いと考へます。又左様な事があつてはならぬと考へます。併し何分にも多數の方々の御意見を僅かの時間に承らなければならぬことでありますから、餘程議事は圓滿に進行されなければならぬ。そこで御發言に對しては絶対に通告主義に依ると云ふことを御承知を願ひたい。豫て御配布致してあります通告表の雛形に準じまして、御論題と其要旨だけを一寸御書き記して下さい。必ず其部々に於ける議事機關の方に御提出下さつて、さうして本會議であるならば議長、部會であるならば部長の指圖に従つて適當の機會に御發言を願ひたいと存じます。通告表に依らずには發言しないと云ふ事だけは、恐入りますけれど間違ひの無いやうにして戴きたいと考へます。

尙全國的の都市問題會議は、先程關博士より御話のありました通り、又總理大臣の祝辭の中にもありました通り、外國に於きましては、色々の會議もありまして、全國的に斯う云ふやうな會議を開き、それが又國際的に進んで檢討されて、さうして都市政策を導く燈明臺になつて居りますことは、丁度今同差上げました「都市問題」の特輯號の終りの方にある市政調査會の參事鬼頭君の書きものを御讀み下さつて能く御承知下さつたらうと思ひますが、先程も御話のありました通り、今迄ありました各種の、協議會であるとか、市長會であるとか、町村長會であるとか、色々の會議があるやうであります。

さう云ふ會議とは全く別個の存在を有つて居るのでありまして、其會議を有効有能ならしむるためにどうしても機關の組織があつて、平素からそれが各地方各會員とインホーム・ションを取合つて、さうして此會議の爲に準備をすると云ふ働をする常置機關が出来て居りませぬと云ふと、此會議を僅の日の間に十分の効果を擧げしむると云ふ事は容易に出来ないことではないかと考へます。此點に付きましては、此會議に御討議を爲さる方は、共に御考へ置きを願ひたいと思ひます。

それから第二議題の主報告者として藤岡君が御出席下さることに豫定がしてありましたが、地方に御轉任のため御臨席が願へなくなつた事を茲に御報告を申し上げます。但し警視廳の保安部長古川君が十分に此問題に對しましては御報告が願へることに相成りましたから、之も此機會に御報告申上げて置きます。

最後に東京横濱の兩市が此會議に厚く寄與せられまして、第三日の實地視察に對しましては、容易ならざる御配慮を下さることになつて居ります。此事に對しましては、茲に御報告を申上げて、此會議に出てお在になる兩市の關係者を通じて、諸君と共に感謝の意を表することにしなうと思ひます。

右報告了つて同氏は議長の旨を承け、曩に議長一任と決定せる役員及議事規則を左の通り報告した。

○本會議役員指名

副議長	次田大三郎君	牛塚虎太郎君	永田秀次郎君	岡	實君
理事長	關	一君			
理事	菊池	慎三君	杉山	義雄君	大山斐瑳磨君
	大岩	勇夫君	今堀辰三郎君	春藤	嘉平君
	渡邊	鐵藏君		岡野	昇君
					佐野
					利器君

○第一部會役員指名

部長	白川	朋吉君			
理事	蠟山	政道君	本多	靜六君	大西
	小川市太郎君		久米田新太郎君	松岡修太郎君	藤田進一郎君
	北島	多一君			小里
					賴永君

○第二部會役員指名

部長	中川	吉造君			
理事	早川	徳次君	大岡	大三君	高田
	澁江	武君	物部	長穗君	森
	大河戸宗治君				松次郎君
					三輪
					周藏君
					近
					新三郎君

○第三部會役員指名

部長	福地	由廉君			
理事	生野	團六君	道家齊一郎君	横山	晃太君
	添田敬一郎君		紅野	太郎君	城所國三郎君
	鈴木	敬一君			汐見
					三郎君
					島
					重治君

○議事規則

- 第一 討議事項の演述は（各部に於て）分間以内とす。
- 第二 討議を爲さむとするときは豫め所定の用紙に要點を記したる通告書を提出し議長の指圖を俟たれたし。
- 第三 討議者は演述を爲したる事項の要領又は其の原稿を書記に報告せられたし。
- 第四 討議事項は採決せず。

右を以て總會を閉ぢ休憩に入つた。時に十一時二十分。次で一同別室の食卓に就いて午餐を共にした。

四 研究 報告

午後零時三十分會議再開、池田東京市政調査會理事より主報告者の報告を求むる旨を宣し、第一議題について笠原敏郎、飯沼一省、池田宏の三氏、第二議題について内山新之助、古川靜夫の兩氏、第三議題について河北一郎、堀切善次郎の兩氏の順を以てそれ／＼研究報告が行はれた。報告の内容は便宜上別項として第三篇中に收める。

以上主報告者七氏の報告を了り、池田東京市政調査會理事より、翌日の部會について、會場、選擇通告、時間等に關する諸般の通告等をなし、この日の會議を閉ぢた。時に午後四時十五分。

尙ほこの日特別の方面よりの希望者には會議傍聽を差支なきものとした。

第二會議 第二日

一 討 議

前日の事務報告中にも述べられた通り、豫期以上に達した參會者の數は、この日の討議をして結局部會の形式

東京市政調査會

を採るの已むなきに至らしめた。即ち十月七日（火曜）午前九時を以て第一部會（第一議題の討議）は市政會館内市政講堂、第二部會（第二議題の討議）は市政會館右側一階、第三部會（第三議題の討議）は同左側一階に於て、いづれも同刻に開會した。而して前日の決定に基づき各指名せられたる部長司宰の下に、第一部會は百九十四名、第二部會は約百六十名、第三部會は約二百名の參會者を以て各關係議題の討議が交はされたが、その内容は便宜上別項として第三篇中に收めるに收める。

二 部會經過報告

各部會は十一時四十分までにいづれも閉會し、一同阪谷東京市政調査會長の午餐會に招待されたる後、午後一時三十五分市政講堂に於て總會を開くことになつた。即ち阪谷議長司宰の下に、各部會の經過報告が行はるゝことになり、先づ第一部會の經過について飯沼一省氏より、次に第二部會の經過について中川吉造氏より、最後に第三部會の經過について堀切善次郎氏より、それ／＼各部會の經過報告があつた。これらの報告内容は便宜上別項として第三篇中に收める。

三 議 事

次で阪谷議長より次回の會議開催に關する協議に入る旨を宣し、關一氏は理事長の資格に於て理事會に於て研究したる結果の提案なりと前提して、左の通り述べ。

「只今議長より御話のありました第三回の會議を開催することに付きまして、色々研究を致しまして一つの案を得ました。之を提案致したいと存じます。

此第三回以後の本會議の繼續に付きましては、單に第三回のみならず、今後に於て此都市問題會議を繼續的の會議と致したいといふ考をもちまして、それに付てのそれ／＼の組織を拵へまして、其出來ました組織の下に第三回を何れに開會致しますか、又どう云ふ方法に依つて、どう云ふ議題に付て討議を致すかと云ふ事を決定することは、自然其中に含まれると云ふことに考へるのであります。

それで第一回を大阪に開き第二回は東京に於て、東京市政調査會が主催して御開きになつたのでありますが、之を繼續的な常設的のものに致したい。それに付きましては、之に對する所の會則なり、又之を實行して行くに付きまして、大體に於ては其常設機關として、實際の仕事を経営する東京市政調査會に御願ひすると云ふ事はどうか。而して會議のあります際に於きましては、色々な會議に對する準備一切の事を御願ひし、又平素に於きまして、此東京市政調査會に常設の事務を御願ひ致す。さう致しますれば、平素から此東京市政調査會に總ての通信も行はれますし、又必要があれば東京市政調査會に於て事務を執られる、材料の蒐集も出來ると云ふことに致したかどうか。要するに全國都市問題會議と云ふものは一の獨立した組織を有して居つて、唯經常的の仕事を経営する東京市政調査會に御願ひを致し御引受を願ひたい。それから又それ等に要する實際の經費の如きものを如何に致すか。是等の細かい點に付きましては、色々決定致さなければならぬ問題があると存じますが、それ等の事一切を擧げて、會則の決定なり、又それを實際に執行致して参ります方法なり、是等の事一切を御決定を願ひまする爲に、議長にも御加はりをお願いしまして、二十名以内の適當數の全權を擔つた委員を、議長より御指名を願つたらどうかといふ事を考へまして、理事會に於ては全會一致を以て此申合せを致して、茲に提案

致す次第であります。どうか満場の諸君の御賛成を得まして本會議に於きまして御決議あらんことを望みます。右の提案は満場の賛同するところとなつたので、池田東京市政調査會理事は議長の旨を承けて、左の通り委員を指名報告した。

東京市政調査會長	男爵	阪	谷	芳	郎	君
内務省地方局長	次	田	大	三	郎	君
東京市長	永	田	秀	次	郎	君
京都市長	土	岐	嘉	平	君	
大阪市長	關			一	君	
名古屋市長	大	岩	勇	夫	君	
神戸市長	黒	瀬	弘	志	君	
横濱市長	有	吉	忠	一	君	
廣島市長	伊	藤	貞	次	君	
宇治山田市長	福	地	由	廉	君	
長岡市長	木	村	清	三	郎	君
川崎市市長	春	藤	嘉	平	君	
土木學會長	中	川	吉	造	君	

九州帝國大學工學部長	君	島	八	郎	君
東京帝國大學教授	蠟	山	政	道	君
日本商工會議所理事	渡	邊	鐵	藏	君
大日本私立衛生會理事	北	島	多	一	君

四 閉 會

以上を以て議事を了り、阪谷議長より閉會の辭ありたる後、池田東京市政調査會理事は前日の事務報告中に述べたところを繼いで、十月九日午前九時より市政會館に於て今回の議題に關する自由討議會を開く旨を演述しその参加上の注意を通告して茲に會議第二日を閉じた。時に午後二時三十分。

尙ほこの日閉會と同時に會場に於て復興局作製の映畫「帝都復興」八巻を有志の觀覽に供した。

第三 會議 第三 日

一 序 說

會議第三日の十月八日(水曜)は東京及横濱兩市の復興事業その他の諸施設を視察するの日程である。乃ち東京班及横濱班の二部に分ち左の如く巡視を行つた。

二 東京視察班

約三百五十名、市政會館前に集合の上、東京市の好意提供による三十一臺の大型自動車に分乗し、これを紅組

と白組とに二分編成して左の順序を紅組は順に、白組は逆にとり、白組を先きに午前九時二十分を以て出發した。兩組とも警視廳交通課員を先頭に、また各自動車には東京市職員及東京市政調査會職員同乗して、東京市がこの行のため特に作製せられたる案内記及圖面によりて隨時車中に説明を試みつゝ各行程箇所下車し、赤坂見附に於ては警視廳所管掛員より、その他の箇所には東京市所管掛員より、いづれも詳細なる説明を聴取した。

芝浦下水假處分場——愛宕山隧道經由、赤坂見附交通整理狀況——行幸道路永代橋經由、震災記念堂——藏前橋經由、千代田小學校——金座、清洲橋經由、清澄庭園(茲ニテ午餐)——向島區劃整理地區内外比較——隅田公園及言問橋——地下鐵道淺草停留場——地下鐵道ニテ萬世橋停留場——聖橋經由、九段坂埋設物共同溝——大正通昭和通尾張町經由市政會館着。

紅白兩組は正午前殆ど時刻を同ふして清澄庭園に會合し、園内の大正記念館に準備せられたる永田東京市長の鄭重なる午餐會に臨み、同市長より懇篤な挨拶を受けて再び兩組各々の順路についた。かくて參會者一同非常なる満足裡に午後四時兩組相前後して市政會館に歸着、一同少憩の後解散した。

尙ほこの日東京市より會議第一日の會議の光景及この日の視察箇所等を撮影した寫眞はがき一組を、各參會者に配付せられた。

三 横 濱 視 察 班

九十九名市政會館前に集合の上、東京府の好意提供による二十四臺の自動車に分乗し、金子東京府土木部道路課長を先頭に同府掛員及東京市政調査會職員同乗して午後八時四十五分出發、品川より京濱國道を横濱市に向つ

て走つた。途中八ツ山品川神社前に於て下車の上、東京府道路課長より京濱國道築造に關する説明を聴取し、横濱市内に入り、鶴見區役所前に到りて同市職員の迎接を受け、乗車の儘鶴見海岸水上警察署棧橋に走行、横濱市より差廻しの二隻のランチに分乗して横濱港の内外を視察することとした。ランチには伊藤横濱市土木局長、小泉同局庶務課長、原同市港灣部長及添田同部庶務課長等分乗の上、諸種の港灣施設並に埋立工事等について約二時間に亘り詳細なる説明を試みられ、正午近く西棧橋附近に上陸して徒歩横濱記念會館に達した。こゝに於て一同有吉横濱市長の鄭重なる午餐會に臨み、同市長より懇篤な挨拶を受けて午後一時同市の準備にかゝる十數臺の大型自動車に分乗出發、所管掛員の説明を聴取しつゝ山下公園、横濱公園及同野球場、震災記念會館、野毛山公園、保土ヶ谷兒童遊園、中央卸賣市場を巡廻視察し、一同非常なる満足裡に午後四時横濱驛に至つて解散した。

この日參會者一同に對し東京府は京濱國道工事概要、横濱市は視察個所に關する説明書及圖面を、それ／＼配付せられた。

第四 會議參加者

會議當日參會上の諸手續を了せられた各位(六百七十名)、並に參會せられざりしも會費を納入して會議用文書等の全部を受入れ、その他全國都市問題會議との諸交渉に於て、實際參會者と同じの關係を結ばれた準參加者(九十七名)は左の通りである。

參加者

(府縣等の順位は普通の用例に依るも、その各區分内に於ける順序は全く任意にして不同なり)

北海 道	奥澤耕造	鐵道省運輸局長	久保田敬一
都市計畫北海道地方委員會技師	岡村森彦	東京遞信局事務官	河瀬勇
函館市囑託		警視廳保安部長	古川靜夫
東京 府	次田大三郎	同 部交通課長	杭迫軍二
内務省地方局長	鈴木敬一	同 部建築課長	北澤五郎
同 省都市計畫課長	兒玉九一	同 部交通課交通係長	荒井退造
同 省事務官	榎木寛之	同 部交通課技師	鈴木正一
同 省技師	同	同	平山泰治
同 同	菱田厚介	同 部交通課	笠木嘉一
同 省事務官	増田甲子七	同 部交通課	石森勳夫
同 省屬	原仙吉	同 部交通課	宮協倫
同 省神社局總務課長	飯沼一省	同 部交通課	西村輝一
同 省土木試驗所長	物部長穂	同 部交通課	田中清彦
復興事務局文書課長	武部六藏	同 部交通課	小林隆徳
同 計畫課長	土岐銀次郎	同 部交通課	近藤謙三
同 土木課長	牧野雅樂之丞	同 部交通課	芝田孚
同局及東京市囑託	河北一郎	東京府道路書記兼技師	鈴木堅次郎
鐵道省工務局長	大河戸宗治	同 府會議員	爲藤五郎

北	安	馬	小	岩	仲	武	原	井	安	畠	平	置	馬	上	岡	根	堀	石	高	立
林	倍	渡	野	崎	田	藤		下	井	山	野	場	場	原	崎	岸		原	橋	川
賢					聰	麟	全		誠	千		順	密	六	榮	耕	信	憲	甚	大
治	邦	俊	基	富	治	馳			一	代	龜	治	藏	郎	松	司	一	治	也	市
郎	衛	雄	樹	久	郎	郎	路	清	郎	治	吉	治								

岡	松	奥	鹽	伊	宮	小	大	中	榛	宮	城	坂	荒	間	佐	宇	三	吉	安	金
永	和		川	藤	川	川	堀	野	葉	村	所	本	木	崎	藤	田	好	田	藤	子
一			正	勝	宗	兼	佐	勇	金	龜	國	龜	五	則	唯	鏡	與	輝	良	日
蕃	郎	藏	藏	藏	德	郎	內	郎	吾	一	郎	郎	郎	孟	質	吉	郎	一	溫	聰

植	柴	林	田	瀨	古	横	片	木	小	藤	竹	中	磯	岡	北	八	油	古	白	溝
谷		島		尻	字					田	中			崎	邨	木	納	畑	川	江
村	善	千	房	捨	田	濱	岡	村	市	進	龍	目	村	忠	正	常	平	銀	朋	五
屯	次		太	治					太	一				三		太	三	次	吉	月
巳	郎	秋	郎	郎	實	勉	安	浩	郎	郎	雄	覺	遠	郎	三	郎	郎	郎	郎	郎

小櫻鳥善由紅奧武富廣八武高岡城宮阿三	山隈出
川井塔利野中井田瀬木笠林	口川川
英羽又喜兵太健四秀太太一	堅
次忠治兵衛郎一作郎吉治郎郎曉	吉基健
郎剛巽郎衛郎一作郎吉治郎郎曉	

明石市長	磯野鶴太郎	千葉縣	東森藏
小田村長	太田三郎	千葉縣土木課長	神谷良平
神戸商工會議所常議員	三木三郎	千葉市長	稻田實三
長崎縣技師	中川幸太郎	同市書記	志方惠太郎
都市計畫長崎地方委員會技師	谷口成之	同市會議員	國部薰義
新潟縣	增田即定	茨城縣	國部薰義
都市計畫新潟地方委員會技師	今成留之助	栃木縣	峰村國吉
新潟市會議員	川合直次	都市計畫栃木地方委員會技師	大沼壽
高岡市長	木村清三郎	同書記	石田仁太郎
同市技師	坂本昇	宇都宮市長	青柳正雄
新潟市山下西部土地區劃整理組合技師主任	金山嘉八郎	同土木課長	佐瀨昌二
同組合事務主任	若松重太郎	同市技師	黑崎英昌
埼玉縣	中村孫一	同市會議員	中田新八郎
埼玉縣土木課長	井上太三郎	同市助役	上田幸平
都市計畫群馬地方委員會書記	橫澤榮太郎	同市主事	久保種一
群馬縣	石橋榮太郎	三重縣	佐々木徳太郎
高崎市書記	荻野欽司	都市計畫三重地方委員會技師	石田昌平
同市會議員		津市長	堀川美哉
桐生市助役			

津市會議長	竹中吉之介	潮戶市會議長	水野憲吾
同市會副議長	松田正一	岡崎市技師	近藤喜次郎
四日市市長	戶野周二郎	豐橋市水道部長兼土木課長	長崎敏香
同市土木課長	小寺松次郎	名古屋市北押切土地區劃整理組合長	佐藤清太郎
同市會議長	森松次郎	同組合副議長	富田忠利
宇治山田市長	福地山廉	同組合評議員	長谷川眞之助
同市會議員	竹內正藏	同同	長谷川彦三郎
愛知縣	中澤誠一郎	同同	田中仁良
愛知縣建築監督官	加藤和夫	同同	田中長三郎
同縣建築技師	福永英三	同同	山田藏三郎
都市計畫愛知地方委員會事務官	石川榮耀	同同	酒井鐵太郎
同技師	狩野力	同組合相談役	淺井佐六
名古屋市長	大岩勇夫	名古屋市西郊土地區劃整理組合副議長	大矢梅太郎
同市土木部長	大岡大三	名古屋市香岡土地區劃整理組合副議長	山田貞祐
同市庶務課長	須藤林七	名古屋市石川土地區劃整理組合副議長	藤義次
同市書記	森田五六	同組合書記	川崎儀兵衛
同市技師兼書記	大塚正利	名古屋市港東土地區劃整理組合長	水野源之助
同市會議長	今堀辰三郎	同組合副議長	立松太左衛門
同市技師	小出三郎	同組合評議員	下鄉繁三郎
同市技師	鈴木愛三郎	同組合事務長	見田重次郎
			小泉周一郎

名古屋市中川西土地區劃整理施行者	中村 與右衛門	名古屋市中川西土地區劃整理組合主任	水野 彌重郎
事務所主任	野田 三男	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	尾崎 知次郎
中村殖産合名會社支配人	鈴木 伊三郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	山田 與會次郎
名古屋市新屋敷土地區劃整理組合評議員	高木 靜波	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	土橋 慶三郎
同 組合第一工區組合評議員	成田 萬太郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	山本 正美
同 組合第二工區組合副長	伴野 虎之助	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	宮田 勘三
名古屋市豊田土地區劃整理組合評議員	伊藤 銳太郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	正田 義助
同 同	佐野 德太郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	高柳 光重
名古屋市下土地區劃整理組合長	渡邊 鎌次郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	木村 文翁
名古屋市港東幹線土地區劃整理組合評議員	潮尾 義守	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	野村 仲太郎
同 同	石川 利兵衛	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	大曾 根仙造
名古屋市廣路耕地整理組合主事	加藤 龜松	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	岡崎 幸作
名古屋市千種耕地整理組合副長	加藤 欽治	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	本部 金次郎
同 組合評議員	渡部 善兵衛	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	石田 銀次郎
同 同	犬飼 八郎左衛門	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	山森 鉦一郎
同 同	加藤 山造	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	水野 利三郎
同 同	石原 紀理	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	原田 鑛三
同 同	横井 政次郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	二村 源之助
同 同	吉田 信一郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	稻熊 佐右衛門
同 同	大鹿 山太郎	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	犬飼 信重
同 同	近藤 清吉	名古屋市中川西土地區劃整理組合評議員	

靜岡縣

都市計畫靜岡地方委員會事務官	市 山義次	大垣市技師	竹原 正寅
同 技師	黑岩 隆一	加納 町長	村澤 源市
同 書記兼靜岡縣屬	伊東 正一	長野 縣	矢島 武
靜岡市助役	西尾 榮吉	都市計畫長野地方委員會委員	奧村 誠司
同 市土木課長	永見 房重	同 同	赤穂 富治
同 市會議長	中村 嘉平	同 同	小本 會鐵
濱松市市長	中村 陸平	同 同	丸山 辨三郎
同 市書記	森 兼松	同 同	大塚 貞磨
清水市都市計畫課長	川南 憲男	同 同	宮澤 源十郎
同 市書記	阿南 憲男	同 同	竹內 兼昌
山梨縣技師	岸田 正一	同 同	町田 耕之助
都市計畫山梨地方委員會技師	富田 鑒助	同 同	宮本 操
甲府市技師	神田 政市	同 同	池田 宇右衛門
滋賀縣	奧野 英太郎	同 同	山崎 喜三郎
同 市技師	本田 長次	同 同	豐田 源
岐阜市市長	松尾 國松	同 同	小里 賴永
同 市技師	緒方 虎之助	同 同	吉村 富之助
同 市技師	緒方 虎之助	同 同	中島 兵庫
同 市技師	緒方 虎之助	同 同	岩附 修一郎

松本市會議員	上田市市長	宮城縣	宮城縣土木課長	仙臺市市長	同市會議員	石卷町長	福島縣	都市計畫福島地方委員會委員	同	同	福島市長	同市助役	郡山市市長	同市會議員	同	同	同	同	同	若松市土木課長	福島商工會議所會頭
水野嘉一郎	成澤伍一郎	川越篤	澁谷德三郎	五十嵐豐吉	石母田正輔	須賀兼嗣	石田貢	渡邊惣吉	佐藤足吉	岡野潤吉	和田吉	原孝吉	國分藤三郎	菅家喜六	阪口幸藏	柳沼剛藏	白井仙三郎	大島要三			
岩手縣	都市計畫岩手地方委員會技師	盛岡市助役	青森縣	青森市長	八戶市長	同市主事	山形縣	米澤市庶務課長	秋田縣	秋田縣屬	都市計畫秋田地方委員會技師	同委員	秋田市技師	福井縣	福井縣屬	都市計畫福井地方委員會技師	福井市土木課長	同市技手	石川縣技師		
岡田英實	中村榮	北山一郎	神田重雄	齋藤梧郎	加藤忠太郎	大野養吉	千葉隆秀	片屋永之助	櫻庭謙三	横井眞	猿谷新太郎	丹羽幸雄	澤田幸雄	大石巖							

都市計畫石川地方委員會技師	金澤市長	同市主事	富山縣	都市計畫富山地方委員會技師	高岡市助役	鳥取縣	都市計畫鳥取地方委員會幹事	米子市長	同市技師	岡山縣	都市計畫岡山地方委員會技師	同書記	岡山市會議員	津山市市長	倉敷市長	廣島縣	廣島市長	同市書記	同	同市會議員	同市副議長
加藤彌太郎	吉川一太郎	吉倉昌光	赤司貫一	清水久孝	內田三之助	西尾常彦	小林鴻策	神尾守次	島村敬一	藤原保次郎	小沼敬三郎	平松俊太郎	伊藤貞次	弘中正熊	沖田敏夫	松坂義正					
廣島市會議員	同	吳市會議員	山口縣	都市計畫山口地方委員會技師	下關市助役	和歌山縣	都市計畫和歌山地方委員會技師	同幹事	和歌山市市長	同市土木課長	德島縣	都市計畫德島地方委員會技師	德島市助役	同市會議員	同	同	同	同	同	同	同
任都栗司	澤本辰藏	中本禎造	渡邊英隆	坂野要四郎	川口楠雄	岩瀬勇八郎	紀俊秀	人見信之助	濱垣明	藤岡直兵衛	和田利久	三浦尙友	堤伊八郎	土岐伊八郎	新居源太郎	中村國太郎					

七二

杉	清	吉	東	原	馬	扇	高	中	兒	石	大	久	白	林	山	岩	香	川	松
本	水	岡	後	頭	玉	崎	村	島	橋	神	田	石	繁	敬	光	次	五	崎	延
鶴	眞	吾	琢	伸	啓	明	勝	喜	四	太	次	宗	次	助	雄	郎	郎	一	久
吉	澄	一	郎	郎	藏	治	文	夫	郎	郎	郎	作	郎	郎	郎	郎	郎	郎	久

[illegible]

臺灣總督府技師

滿洲

關東廳技師

滿洲技術協會大連市都市計畫研究委員會委員長

南滿洲電氣株式會社電鐵課長

南滿洲鐵道株式會社工務部土木課長

特別參加

中華民國漢口特別市政府社會局長

準參加者

(順序は全く任意にして不同なり)

札幌市市長

同 市技師

小樽市市長

旭川市市長

東京市會議員

同 市小石川區長

同 市淺草區長

同 區會議長

東京府目黒町長代理助役

同 府大井町長

同 府浦田町長

小野 榮作

清水 本之助

根橋 禎二

田中 新一

郡 一郎

戴 經 塵

橋 本 正治

瀨田 一雄

木田 川奎彦

奥田 千春

山口 久吉

守屋 正二

田村 瑞穂

鮎貝 昌藏

小杉 久吉

名和 長憲

佐藤 眞助

東京府長崎町長

同 府澁谷町會議員

同 府野方町會議員

日本銀行

生命保險會社協會專務理事

王子電氣軌道株式會社常務取締役

照明學會副會長

同 會信號燈委員會委員長

東京府江戸川上水町村組合管理署

日本造園學會理事

京都市電氣局庶務課長

大阪府警察部交通課長

堺市向陽土地區劃整理組合顧問

泉北自動車營業組合

大阪府南部バス聯盟

神戸市六甲篠原土地區劃整理組合長

同 組合事務員

鴨下 六郎

朝倉 虎治郎

小池 長太郎

本間 好茂

玉木 爲三郎

小平 保藏

伊藤 奎二

井上 昱太郎

大島 亨藏

上原 敬二

西田 利八

重成 格

岸和 田市

同 藤原 龍吉

關 眞一郎

栗林 耕平

佐々木 哲平

富永 規三

御厨 規三

新潟市市長

同 市會議員

川越市市長

高崎市助役

山梨縣知事

中村 淑人

大森 新太郎

寺尾 規矩郎

岸 紀一

平田 紀一

都市計畫岐阜地方委員會技師

安 藤 坦

都市計畫岐阜地方委員會

都市計畫奈良地方委員會

森田 宇三郎

伊達 貫一郎

鈴木 善作

三澤 寛一

丸茂 藤平

一宮 市

小田切 磐太郎

坂本 丹治

都市計畫宮城地方委員會

根本 祐太郎

都市計畫青森地方委員會

弘前市市長

山形市市長

秋田商工會議所會頭

都市計畫福井地方委員會技師

大杉 度男

富山市市長

鳥取市市長

松江市市長

岡山市市長

吳市市長

福山市市長

宇部市市長

德島市會議員

高松市市長

今治市市長

福岡市市長

同 市土木課長

同 市會議員

久留米市市長

宮館 貞一

高橋 勝兵衛

辻 兵吉

上埜 安太郎

楠城 嘉一

都市計畫島根地方委員會

石倉 俊寛

守屋 松之助

都市計畫廣島地方委員會

勝田 登一

中野 有光

國吉 信義

多田 實

松原 權四郎

片野 淑人

久世 庸夫

久野 末五郎

入澤 京太郎

石野 斐夫

九州帝國大學工學部長

鹿兒島市長

首里市長

木浦府尹

大邱府尹

新義州府尹

元山府尹

臺北市尹

基隆市尹

新竹市尹

臺中市尹

臺南市尹

嘉義市尹

高雄市尹

旅順市長

大連市長

戶島八郎 市

君山可也 市

樺田朝敷 市

大田朝敷 市

飛田朝敷 市

桑原一郎 市

伊藤正 市

後藤正 市

仁川商業會議所

增田秀吉 市

加藤守道 市

山本正一 市

名和仁一 市

堀內林平 市

政所重三 市

今井昌治 市

關東廳內務局土木課

同

永山嘉一 市

田中千吉 市

威興府

兵庫縣知事

高橋守雄

都市計畫兵庫地方委員會委員

川西清兵衛

第三篇 報告討議

第一 主報告者の研究報告

一 序 説

前篇第一に記述せる如く、會議第一日午後零時三十分より會場東京市日比谷公會堂に於て主報告者の研究報告に入つたが、その順序、内容左の通りである。尙ほ主報告者の研究要領は會議豫備資料第一冊「研究報告」中に收め(古川靜夫氏を除く)、前以て參加申込者に配付せる次第は既述の如くである。

二 研 究 報 告

(一) 東京都市計畫區域内の居住密度に就て

笠 原 敏 郎 君

私の申上げる事は、所謂大東京なるものに都市計畫が組織的に働き掛けた、其第一步として東京都市計畫區域なるものが設定せられた。其當時諸般の計畫の規模の用途として豫想せられたる所の、計畫區域内の人口及人口の密度が現在の事實に於てどう云ふ状態にあるかと云ふ事を、出来るだけ簡単に述べたいと思ひます。

東京の都市計畫區域は、大正十一年四月決定せられたものでありますが、其翌年の大震災の結果、都市の中樞部分は一時潰滅に歸して、新に復興計畫が立てられ又それが實施せられたのでありますが、併し此計畫區域に

付ては何等の變更は行はれなかつたのであります。即ち東京都市全體としての計畫の規模の豫定は、依然承認されて居るものと見て宜からうと思ふ。

其豫定規模の具體的の説明は、區域設置當時に内務大臣が發表せられた、委員會に付議せられた議案の理由書に掲げられて居るから、諸君の能く御存じの事で、改めて申上げる必要も無いのであります。唯其輪廓を申しますると、圖面（東京都市計畫區域圖省略）に在る様に、東京市を圍繞する八十四箇町村、面積約五萬七千ヘクタールでありまして、東京驛を中心として半径約一六軒の圓を描きますと、大體之に包含せらるゝのであります。

此區域内に居住する人口の分布状態に關しましては、全區域を市部、近郊、外郊の三つに分けまして、其面積の割合は、全區域の面積に對して市部は一四・六%、近郊は二三・一%、外郊は六二・三%でありまして、其土地の總面積に對する居住人口の許容密度は、百萬坪に付て市部は十萬人、近郊は五萬人、外郊は二萬五千人で、之をヘクタール當に換算すれば市部は三〇三人、近郊は一五二人、外郊は七六人になるのであります。斯う云ふ風な豫定を以てしますと、全區域に大體七百萬の人口を包含し、平均人密は一二七パー・ヘクタールになります。

將來の人口増加に付きましては、其推定は頗る困難でありますけれども、一九二〇年の國勢調査を基本として其以前の十箇年間の平均増加率を以て約直線的に延ばして見ますと、大體三十年餘に於て此豫定の飽和人口に達するであらうといふ事が當時の理由書に掲げられた數字であります。之を圖に表はしますと第一表の如きものであります。
（研究報告参照） 但し此表は、計數を簡單にする爲めに、便宜上豫想人密は大體市部三〇〇人、

近郊一五〇人、外郊七五人、郡部の平均九五五、總體の平均が一二五と改訂して居るのであります。そうする

と豫想飽和人口は約六百八十六萬となつて居りますが、大體七百萬に近い數であります。

それから後八箇年、即ち推定せられたる人口飽和年數の三十箇年の約四分の一強を經過して居る今日、又其間に大震災火災の異常なる衝動を受けましたが、大體に於て、當時の豫想人口が實績に對してどう云ふ風な状況にあるかと云ふ事を、達觀的に數字に表はしたものが第二表であります（研究報告参照）。即ち全區域の人口に付て申

上げますと、一九二〇年國勢調査以後も、震災直ぐ前述の二箇年間は、従前から引續いて急速なる増加をなし居りまして、殆ど三百九十萬に達せんとして居つた所に、大震災の衝動を受けまして、一時は約七十萬人の甚しい減少を見たのでありますけれども、一九二四年になりますと、既に回復しまして、四百萬に垂んとして、更に一九二八年には四百八十六萬と云ふ數になつて居るのであります。此人口は、目下行はれつゝある所の本年の國勢調査の結果を待つことが出来ませぬので、昨年七八月頃區域内の各町村役場に就て問合せたのであります、多少正確を缺いて居るかも知れませぬが、大體の數字を御覽を願ひます。

此一九二四年から一九二八年迄の四箇年間の平均増加率を以て直線的に進みますと云ふと、一九四〇年以前に於て既に豫定飽和人口七百萬に達しまして、平均人密は一二五パー・ヘクタールを突破するに至るべき勢を示して居るのであります。

之を市部だけに付て考へて見ると、震災の結果一時人口は激減しましたが、現在に於ては既に一九二〇年のそれを超過して、ヘクタール當の人密二八〇に達して居りまして、而も一九二五年以後に於ては、略々毎年七十萬人宛の人口増加を示して居て、此率を以て進めば、兩三年で三〇〇〇人の密度に達する勢であり、數日前東京市統

計課の發表によれば二九八に達して居ると言つても宜い程であります。

近郊に於ては、震災の爲に市内人口が郡部に流れ出た爲に、益々急激なる増加を致し、人密は一九二〇年の七四より一九二五年の一二四に躍進して、其後多少増加率は緩みましたが、現在一四八で、殆ど許容人密の一五〇パー・ヘクトールに達して居るのであります。

外郊も亦震災後人口の増加率は昇騰して、それに又交通機關の發達、區劃整理の普及に依り、一九二〇年の七人から一九二五年の一五人となり、一九二八年には二二人と云ふ數に達して居るのであります。

東京の人口が、震災後從來に比して大なる増加率を示した事に付ては、國、公共團體及び民間の復興復舊事業の従業者及び其家族が地方から吸集されたと云ふ事も當然有力なる一つの原因と考へます。

今や復興事業は一と先づ落著しましてまだ此後も當分續くであらうと謂はれて居る所の此産業不況時代に於きまして、果して今迄のやうな増加率を繼續するか否かと云ふ事は疑問でありますが、それにしましても、計畫區域設定當時の豫定人口の七百萬に達することは、豫想年數よりも大分早いのではないかと思はれるのであります。人口七百萬に達すると云ふ事が、豫想年數より十年乃至十五年位早いかどうかと云ふ事は東京都市計畫としては、或は餘り大なる問題でないと云ふことが出来るかも知れませぬが、それから先の人口の増加が果して何處迄進むかと云ふ事は、大いに警戒を要する事柄であると思ふのであります。何となれば、近き將來に於て途方もない人口の激増を見ることは、即ち計畫の基件たる規模の豫定が覆へされ、従つて總ての施設の計畫目標が變更すべく餘儀なくされることとなるのであります。其結果は再びレキス氏の所謂誤謬の訂正を餘儀なくされることに

なるからであります。

そこで吾々は、都市計畫區域なるものは、果して如何なる人密を持つべきものであるか、又如何なる收容能力があるかと云ふ事を吟味して見る必要が起るのであります。私は其爲に、現在近郊並に外郊の居住状態、即ち居住人密を調べて見る必要から、計畫區域内に於ける居住の用に供し得べき土地、換言すれば、將來建築敷地として利用し得べき土地の面積の推定を試みたものが即ち次の諸表であります。(研究報告参照)

全面積は、市部約八、一〇〇ヘクトール、近郊約一三、三〇〇ヘクトール、外郊約三五、七〇〇ヘクトール、郡部の計が約四九、〇〇〇ヘクトールであります。それから所謂建築敷地として使用し得べき豫定の土地―假りに利用面積と呼びます―以外の各種の施設の敷地の面積を控除面積として拾ひ上げたのであります。それが第四表であります(研究報告参照)。

是は上下水道用地、鐵道軌道用地、幹線道路、墓地、公園、官有地であります。これは去年七月頃各種の材料から大體の調べを致したのであります。正確のものとは申されませぬ。又中には假定が含まれて居りますが、現在既に存在し又は計畫として決定せられたるものは、大體拾ひ上げた積りであります。又幹線以外の道路は勿論推定を用ひてあります。それから公園用のものは市内、近郊、外郊に對して計畫は確定して居りませぬから、是は獨斷的の推定であります。最小限として近郊は豫定人口三、〇〇〇に付一ヘクトール、外郊は一、五〇〇人に付一ヘクトールと云ふ推定を用ひたのであります。勿論之は都市計畫の見地よりすれば十分な面積ではありませぬが東京の實情より考へて將來も多きを望むことは出来ぬと考へて、さう云ふ推定を用ひてやつたのであります。

さうすると結果は斯う云ふ數字になります。全面積から控除面積を引きました残りの數字は此通りであります(研究報告(一六二頁参照))、さうすると市部に於ては利用面積と控除面積の全面積に對する比例は此處に在る數字の通りで、控除面積は三六・一、利用面積は六三・九、近郊に於ては三七・三と六二・七、外郊に於ては三〇・二と六九・八、郡部計に於ては三三・八と六六・二であります。勿論概略的なものでありまして種々の誤差はありまじやうが、大體に於て斯様な見當のものと考へます。

それから現在建築物の敷地として利用せらるゝ土地について用途別に從つて近郊外郊の棟數建坪、敷地面積を調べたものは是れであります(研究報告(一六二頁参照))、現在建築敷地の面積は近郊三、四一八ヘクタールで、外郊に於て二、五七九ヘクタールであります。近郊に於て將來建築施設の敷地として利用し得べく推定さるゝ面積は八、三八〇ヘクタールでありますが、現在建築物敷地として占有せらるゝものは三、四一八ヘクタールであります。然るに近郊の現在の人口は百八十萬九千人で、殆ど豫想飽和人口に達せんとして居ります。建築敷地に對する人密は五五一・一ヘクタールと云ふ高率を示して居ります。それに拘らず現在の利用面積は、推定の全利用面積の四五%に過ぎませぬから、斯の如き率を以て進行しますれば近郊に於て尙ほ二百萬位の人口を包容する餘裕があると云ふことになります。現在近郊が斯う云ふ状態を呈した原因には、歐洲大戰後の住宅缺乏に應ずる急激なる住宅増加時代から引續き震災後の人口の流出に對する住宅急造迄放縱なる所謂郊外發展の結果でありまして、今後土地の開發に對して都市計畫の統制が行はれるならば、果して人口が從來の如き高い密度で續くかどうか疑問であります。又續かないやうにしなければなりませんけれども、到底豫定の如き一五一・一ヘクタールは望めな

いのであります。外郊に於ては現在約七十六萬五千の人口を持つて居ります。さうして現在建築敷地に對する密度は二九七となつて居ります。現在の建築敷地は將來建築敷地として利用し得べき可能性ある面積の一一%に過ぎないのであります。現在のやうな密度を以て外郊の全區域を充實しますれば、豫想許容人口の約三倍略々計畫區域總豫定飽和人口に匹敵する人口を收容し得る勘定となるのであります。併しながら尙ほ現在農村状態に在る約九〇%の農耕地が、將來どういふやうになるかと云ふことは、都市將來の人口集中の大勢に因るものであります。まして時日の経過を待つより外ないであります。現在に於て約三〇〇パー・ヘクタールの高密を以て進行しつつあるといふことは、豫定の計畫に對して非常に距離を生ずるものであつて、今後充分なる警戒を要するのであります。

以上は我が東京市の郊外の開發状態の大摺みの計算であります。之をもう少し住宅問題或は住居政策の見地から考察を試みたものがあります。

現在郊外に於ける商店は大體先づ住宅の一部を店舗とするものでありますから、實は住宅と言つても宜しいのであります。商店類住宅類といふものを一括して住宅と考へますと、近郊に於ける住宅類商店類の敷地面積即ち所謂住宅敷地は二、四九九ヘクタールでありまして、全敷地面積三、四一八ヘクタールの七二・九%に當つて居ります。將來此比率を維持するとすれば、建築施設の敷地として利用さるべき推定面積八、三八〇ヘクタールに對し、住宅敷地は六、一〇〇ヘクタールとなるのであります。計畫區域設定當時の豫想許容人口は一、九一五、五〇〇人でありますから、一世帯四・六人と致しますと、四一、五〇〇世帯を包含するのでありまして、住宅

敷地に對する世帯密度は六八となるのであります。一般歐米都市に於て世帯密度の話をするときは、建築敷地丈けでなく住宅集團地全面積に對する家族数を標準とするのでありますから、比較の便宜上住宅敷地集團地内道路面積を二〇%と假定すると、住宅地の豫定世帯密度は五七・一・ヘクタールとなるのであります。外郊に對して同様の推定をすると、住宅地の豫定世帯密度は二二・一・ヘクタールとなりまして、郡部を合併すると三一・一・ヘクタールとなるのであります。

一九二八年に巴里に國際都市計畫會議があつたときに、住居密度に關する諸國代表の意見を綜合してジョン・ノーレン氏が報告した所に依りますと、獨立住宅地即ち一棟一戸と云ふやうな住宅地に於ては、標準密度は二五から五〇と報告されて居ります。我が東京の都市計畫區域内に於て區域設定當時に期待したる許容人口を基準とすれば、近郊五七、外郊二二、郡部合計三一の平均密度を保持する包容力を有するのであります。地積としては充分にありますが、現在實際の居住密度の状態は非常に過密状態を呈して居りまして、住居敷地に對する世帯数が近郊一六四、外郊七八、通計一二〇であります。それから敷地に對する建築面積は、近郊が六二%、外郊が四三%、通計五三%といふ過密状態を呈して居ります（研究報告一六六頁参照）。この郊外密度の大なることは周知の事實でありまして、我が都市の附近の地價の高いこと、國民經濟の状態等に鑑みて外國の標準に對しては多少割引して考へなければならぬが、それにしても世界一般の標準密度に對して餘りに不健全であることは實に悲むべき現象であると思ひます。

茲に私は東京の都市計畫區域内の居住密度の状態と、伯林のそれとを比較したいと思ひます。伯林は御承知の通り一九二〇年の市の區域の大擴張に依つて、全面積八七、八五〇ヘクタールの大伯林を形成して、一九二七年現在の人口は、約四百萬あるのであります。伯林の都市計畫局とでも申しますか、アムト・フュア・スタットブラー・メンが一九二八年に發表した大伯林の居住状態豫想録がありますが、それは將來建築敷地として利用し得べき土地であつて、現在空いて居る土地を精細に調査し上げて、それを一九二五年改正の新建築條例に依つて許さるべき最大限度の容量を計算して、それから居住者の勘定をして居るのであります。最後の比較を申しますと伯林の市の區域内には多くの森林地帯がありまして、さう云ふものは到底東京の計畫區域内にはないのでありますから、之は諦めてさう云ふものを除いて了つて、あとの土地だけについて東京のそれとを比較すると、其全面積は斯う云ふことになります。さうして宅地の比率と宅地でないものの比率は六六と三四で、偶然に符合して居ります。此表（研究報告一六八頁一表参照）を見ると大變結構のやうであります。伯林のは建築條例で許さるべき建築容量最大限を取つて居りますので、將來斯う云ふ密度は實現すべき可能性を多分に持つて居るに對して、東京のは計畫區域設定當時の謂はゞ希望密度であつて現在の過密状態は、先刻申し述べた様な風でありますと云ふことを御參考までに申して置きます。

私が前述の如きことを申述べて御清聴を煩はしたのは、一は斯る現象は或は東京のみの現象でなく、六大都市を初め全國の都市に付ても同じやうな状態が、多分に存在するのでなからうかと考へて居りまして、さう云ふ各都市の居住状態の御報告を承りたいと存じましたこと、一つには、大都市の人口の激増が、都市郊外の居住の過密状態を惹起し延いては豫定の計畫の規模を覆し、之に依つて所謂誤謬の訂正を再び連續的に續けて行かなければ

ればならぬ。其犠牲と之に依つて生ずる所の甚大なる損害と云ふものは、吾々は長日間、苦い経験を嘗めて居る。殊に復興計畫に於ては餘りに深刻に體驗して居る次第でありますからして、斯う云ふ問題に付ては色々の見方はあらうと思ひますが、さう云ふ色々の觀察點からの御意見を承つて將來の對策に資したいと考へる次第であります。

一部の論者の申しますやうに、現在の大都市の人口集積は、現代の經濟組織、産業組織の結果であつて、人力を以て如何ともすることの出来ないものである。都市計畫は、さう云ふ都市膨脹に追隨して、後から誤謬の訂正を繰返して行くより仕方がないものであると、さう言つて諦めてしまふには餘り重大なる國家問題であると考へるのであります。

從來大都市が人口を吸收せる最主要なる原因は工業の集中と享樂設備の獨占であつたが、工業が石炭の時代から電氣の時代に移り、其電氣の資源は全國に普遍して居る我國の現状に於て、又大衆の享樂機關はヒルム、アンテナ等の普遍性のものに移りつゝあることを考ふるときに、又既に農業の科學化、農民生活の向上が農村電化問題として取扱はれつゝあることを考ふるときに、過去の産業組織、享樂設備の產物である所の大都市集中の事實に膠着して之に對する將來の對策を抛擲せねばならぬとは限らない様に思ふ。況んや今日の大都市は往昔の小都市であつてみれば、今日地方都市の發達を助長して大都市の無暗なる集積の弊害と誤謬訂正に要する巨大なる浪費を防ぐことは深き研究に價するものであると考へます。

(三) 地方計畫に就て

飯沼一省君

都市に於ける人口と農村に於ける人口の比率が、晩近年を逐うて都市人口の増加を示して居りますことは否定することの出来ない事實であります。即私共は、今「都市の膨脹」と云ふ事實に直面致して居るのであります。

都市に於ける建築物は、日一日と其の高さを増し、都市郊外にある農耕地は、日を経るに従つて建築敷地と化しつゝあるのであります。都市計畫家は、此の都市膨脹の事實を、單なる事實として看過すべきでないと考へます。「都市が如何にあるべきか」と云ふことを進んで批判する必要があると考へるのであります。

元來都市計畫は、都市に於ける過去の「誤謬を訂正」することのみを其の仕事とするものではありません。誤謬の訂正も亦都市計畫の取扱はなければならぬ所の仕事の一部であるには相違ありませんが、然しながら實は、是は都市計畫として甚だ不本意とする所の仕事なのであります。出來得る事ならば御免を蒙りたい仕事であると云はなければならぬのであります。

都市計畫の第一に擔任しなければならぬ仕事は、私は將來に對する「都市の統制」、都市の發展をコントロールすることに外ならないと思ふのであります。都市の膨脹發展を統制し都市をして將來訂正しなければならぬや

うな誤謬を犯さしめざる所に、都市計畫本來の最も重要な職分があるのであると私は信じます。今日各都市に於て、都市構築上の過去の誤謬を訂正するが爲に、土木工事がそれ／＼幾十萬幾百萬の巨費を投じて行はれて居ります。若し都市計畫が二三十年早く其の使命を果して居りさへすれば、市民が今日斯くの如き負擔に苦しむ必要の無かつた事を考へますと、都市計畫行政の持つて居ります意義が如何に重要であるかと云ふ事を常に考へざるを得ないのであります。

都市計畫本來の使命が、都市の統制にある事は前述した所の如くであります。而して都市の膨脹の度合が、極めて微弱でありました時代に於ては、此の都市統制の權限も亦決して左程強力なものであることを必要と致しませぬ。然しながら現代に於けるが如く、都市が異常なる力を以て膨脹して参ります時代には、都市を統制する權限も亦隨つて強力なものでなければなりません。私は現代の趨勢から見まして、益々強い權限が都市計畫行政に對して與へられる必要のある事を確信するものであります。

都市計畫行政に對しては、曾て都市に於ける建築物の高さを制限する權限が與へられました。我國に於ても、市街地建築物法に依り、百尺を超過する建築物を建てることは禁止せられて居ります。蓋し採光、換氣、之に隣接する街路上の交通量等から考へまして、是よりも高い建物の建築を許す事は、都市の福利を増進する所以でないとせられたが爲に外ならないものと考へます。かくの如く都市の縦の膨脹、即立體的の膨脹に就ては今日之を完全にコントロールする途が開かれたのでありますが、然らば其の横の膨脹、平面的の都市の膨脹に對しては、果してどのやうな統制の途が與へられて居るでありませうか。是が即今日問題となつて居ります所の、都市郊外地の

統制の問題であります。私は、無制限の高層建築物が都市の福利を妨げるといふ理由に依つて統制すべきものであるならば、若し無制限に都市の擴がる事が都市の健全なる發達を妨げるに於ては、同様に、此の都市の平面的膨脹に對しても亦統制の途がなければならぬと考へるのであります。

さて私は、都市の郊外地統制に關する問題の一端と致しまして、近頃歐米の都市計畫界に唱道せられて居り、且つ一部に於ては既に其の實行の端緒に就いて居ります所の地方計畫、所謂リージョナル・プランニングに就いて其の概略を申上げたいと思ふのであります。

都市の膨脹發展と云ふ事が、其の行政區劃内に於てのみ行はれて居ります場合には、地方計畫と云ふ問題は生じて参りませぬ。都市膨脹の勢が逆つて其の行政區劃を飛び越して参ります時に、茲に始めて地方計畫と云ふ問題が起ります。それも初めの間は、市域外統制權と云ふやうな姑息の手段を都市に與へることに依つて之を糊塗せんとして参つたのであります。市域外統制權と申しますのは、都市に對しまして其の行政區域外の地域の將來の發展を指導し統制する權限を與へる所の制度を申すのであります。此の市域外統制に關する制度は、各國の都市計畫法の採用致して居る所であります。即或國に於ては、都市の行政區劃の境界線から一定の哩數を限りまして、例へば二哩若くは三哩以内の地域の開發を指導する事を許して居るやうな所もあります。或は獨逸に於けるが如く、都市が其の區域外の土地を買収致しまして、之を市有地として統制して参ると云ふやうな方法を探つて居る例もあるのであります。然しながら、近代都市の目覺ましい躍進は、到底斯様な微溫的な制度を以てしては之を統制することの出来ない場合を生ずるやうになりました。而して茲に始めて地方計畫と云ふものゝ意義

が極めて重要となつて参つたのであります。

元來近代に於ける都市發展の形態には、私は二つの體様があると思ひます。即一は、都市の周縁に直接して人口が附加はつて行く場合であります。此の場合には其の都市の市街地は、連續して擴がつて参ります。もう一つは、其の都市を中心とする地方に於て、各所に都市化の現象が現れる。言葉を換へて申しますれば、中心たる母都市も發展しますと同時に、之を中心とする幾多の小都市も亦發展し膨脹する場合があります。今便宜上、前者を集中的發展、後者を分散的發展と名付けて申上げること致します。

此の中心となるべき都市が未だ小さな都市であります場合には問題は無いのであります。所が此の中心都市が、既に相當の大都市であります場合には、其の發展の形態の上に於て、集中的發展を擇ぶべきか、或は分散的發展の方法を採るべきかの問題が起り得ると思ふのであります。此の問題に付きましては、一方に於て常に「都市の集中的發展」を是認せらるゝ方々があります。勿論是等の方々の間にも、此の集中的發展の形態が、分散的發展に比べまして、より理想的であつて之を妨ぐべきでないとせらるゝ人々と、又分散的發展を擇ぶと云ふが如き事は不可能の事であるとするが爲めに、若くは分散的發展の形態の存在することに想ひ及ばないが爲に、集中的發展を以て避くべからざるものと考へて居らるゝ人々とがあるやうであります。

然るに他の一方に於ては都市の集中的發展を無條件には承認し得ないとする論者を生ずるに至つたのであります。此等の論者に依りますと「都市の大きさ」には元來一定の限度があるものである。此の限度に達したる都市に付きましては、それ以上の集中的發展を許すことは出来ない。斯る都市は宜しく「分散的發展」の形態を採らな

ければならぬと爲すのであります。人間を見よ。一人の人間と云ふものは決して無限に發育しはしない。發育の限度に達したならば、それから後は其の子孫を生み、之を成長せしむることに依つて其の生命は彌榮に榮えて行くのである。都市も亦一つの有機體であるとするならば、之を一定限度以上に膨脹せしめ、肥滿せしむることは極めて危険であると爲すのであります。随つて都市としての大きさの限度に達したる都市に付ては、其の都市の周縁に連續して市街地の造成せらるゝことを防ぎ止め、其の附近に在る小都市及村落の近代的都市化を圖り、若くは附近の農耕地の上に新なる都市の發生を計畫して、以て中心都市に集中せんとする所の人口を此處に導くべしと爲すのであります。此の中心都市の附近に發達致しまする都市は、中心都市に對して之を衛星都市と名付けられて居ります。恰も地球に對して月が衛星として附屬し、聯絡致して居りますやうな形を採るべきであると申すのであります。

「都市に大きさの限度有りや無しや」の問題は、恰も移して以て地方計畫論に於ける二大思潮と爲すことが出来るのであります。都市化の趨勢が既に數箇の市町村に涉つて現はれて居る場合でありますから、地方計畫を以て各市町村の「計畫の間の聯絡」を圖るものであると爲すことに付ては、何人も異議がないのであります。然しながら其の所謂「聯絡」の基調となるべき所の觀念論には、一致することの出来ない二つの思潮の流れがあると申さなければなりません。即都市の大きさの問題に付て有限論を採る者は、地方計畫を以て過大都市の發生を防止する方策であると致して居ります。又都市の大きさに一定の限度なしとする者は、地方計畫「即大都市計畫」と爲すのであります。而して都市郊外地統制方法の見地から之を見ますと、其の都市の大きさに付て有限論を採るか無限論

を採るかに依りまして、自ら相違を生じて参ります。有限論を採る者は都市の郊外地を統制して、而して其の市街地となることを防止し、之を農耕地若くは大公園、飛行場、ゴルフ・リンク、運動場、植物園と云ふやうな緑の地帯として保存すべしと爲すのであります。之に反して無限論を採る者は、都市の郊外地が市街地と成つて連續するも、敢て厭ふ所でなく、交通幹線の適當なる計畫と統制とに依つて、合理的なる膨脹を遂げしめんとするものであります。

小都市と大都市との利害得失を比較致しますことは容易の事でなく、一朝一夕に能く爲し得る所ではありませんが、然しながら茲に都市計畫の立場から明瞭に斷言し得ると考へますことは、都市の無限の連續的膨脹は到底之を容認し得ないと云ふことであります。此の點に付ては笠原博士から御報告になつて居ります所の、一東京都市計畫區域内の居住密度に就て」を拜聴致しましたが、特に其の感を深く致すのであります。若し三十年後の都市の人口を基準として計畫を立て、之を施行したものであるならば、其の都市計畫を永遠に活かして参りますには、それ以上に都市の膨脹することを防止しなければなりません。之を防止することが出来なければ、當然再び都市の改造の必要に迫られるのであります。巨額の費用を投じて現に施行して居ります各種の都市計畫事業は一時遁れの窮策に過ぎないと言はなければならぬと思ひます。斯様な見地より致しまして、私は都市の無限に連續して膨脹することを否認し、過大都市の發生を防止すべしと爲す議論に多大の興味を感ずるのであります。大都市主義が洵に景氣が好く、各都市に於て歡迎せらるゝであらうことは承知しながらも、所謂小都市の持つて居ります意義と特質とに付ても、大に斯界の論議の喚起せられんことを希望して止まないものであります。

過大都市否認論を最も明瞭な旗印と致して居りますものは、英吉利に於ける田園都市論であります。田園都市論は先年物故したエベネザー・ハワード氏に依つて主唱せられたる所でありまして、之に依れば都市の理想的なる状態として四つの條件が擧げられて居ります。第一は工業と衛生的なる生活との爲に計畫せられたる都市でなければならぬことであります。第二は社會生活を充分に享受し得るに足る大さを有し、而も夫より大ならざることを要することでありまして。第三は永久的田園地帯を以て圍繞せられなければならぬことであります。第四は都市の土地全部が公有なるか、若くは公共團體の爲に委託せらるゝことを要することでありまして。此の四つの條件を必要と致して居ります。此の條件に従つて、千九百三年には第一田園都市レツチウオースが創設せられたのであります。其の後千九百十九年に至りまして、更に第二の田園都市ウエルキンが倫敦の北郊に創設せられました。此の第二の田園都市ウエルキンは地方計畫の問題に對しまして、洵に貴重なる材料を提供致すものであります。大都市の周圍に位置する小都市の使命といふことを暗示致しますことの極めて多い都市であります。

此の過大都市否認論に對しまして、一方に於て亞米利加のアーサー・コミー氏の如きは、田園都市論を以て極めて無理な不自然なる方法であるといふ非難を致して居ります。アーサー・コミー氏に依れば地方計畫といふことは大都市に向つて集まらうとする人口並に其の他の資本力等を益々集中せしめて、茲に合理的なる都市を構築すべしとなすのであります。之を以て地方計畫なりとして居ります。

然しながら私は都市計畫界全體の思潮は、寧ろ大きく成り過ぎる都市の發生を防止せんとするに傾きつゝあるものと考へるのであります。無論是は人に依りまして見る所を異にして居るかも知れませぬが、私は輓近斯界の傾向が、過大都市否認論の影響を受けることの極めて大なるものゝあることを認めざるを得ないのであります。

其の一例證といたしまして、私は最後に、千九百二十四年に和蘭のアムステルダムに於て、各國の都市計畫界の權威を集めて開かれました國際都市計畫會議が、將來に於ける都市の膨脹を指導する原則として定めました七箇條の事項を申上げて私の報告を終りたいと思ひます。其の事項は、第一、大都市の無限の膨脹は決して望ましいことではない。過大都市の状態を見て、普通の都市は大に警しむる所がなければならない。第二、過大都市の發生を豫防する一の方法として、衛星都市を造つて人口を此處に分散せしむる事を考慮しなければならない。第三、無限の蘆の海を現出する事を豫防するが爲に、都市の建物ある部分が農耕地、牧場等の緑地帯を以て圍繞せらるゝは望ましい事である。第四、自動車、乗合自動車等、交通の極めて急激なる發達は、將來の交通問題に付て、其の局部的であると將又都市と都市との間であるとを問はず、特別な注意を拂ふ必要を生ぜしむるのである。第五、地方計畫を準備することは、大都市の將來の發展の爲に必要である。數個の大都市が相互に接近して存在する場合、又は數個の小都市が大都市の周圍に隣接して存在する場合に於ては殊に注意を拂はなければならない。此の地方計畫を準備するに當つては、前に述べた第二、第三及び第四の事項に就ては殊に注意を拂はなければならない。随つて此の地方計畫は單純なる都市擴張計畫であつてはならない。否、寧ろ其の境域全體を連續的に何處迄も開發せらるゝことを豫防するやうな設計でなければならない。第六、地方計畫は弾力性を有し事情の變化に應じて變更し得べきものであることを要する。但し斯る變更は公益上の必要ある場合に限つて行はれる。第七、都市計畫又は地方計畫に於ては、其の計畫の效力ある限りは一定の目的を有する地域と定められたる土地は、必ず定められたる用途に使用せらるゝことを確保する法律的の根據を與へられなければならない。以上が國際會議の決議の要項であります。甚だ未熟なる机上の抽象論を御清聴下さいましたことを深く御禮申し上げます。

(四) 都市郊外地の統制に関する基本的政策

池田 宏 君

郊外地統制方策に関する諸家の論策を綜合するに、方法論としては、自治制の作用に俟たんとするものゝ、専ら都市計畫法制の運用に依らんとするものゝあり、其觀念論としては、大都市論と小都市論とに岐かれてゐる。自治の作用に俟たんとする説は、必ずしも都市計畫に依る統制を否定するに非らず、雖も自ら大都市を理想とするものである。便宜の爲、之を第一説とする。都市計畫の運用を高調するもの亦、素より自治權の作用を認めざ

る譯ではないが、其達成せんとする理想に従て大都市論を認諾するものと小都市論を強調するものとに分つ事が出来る。前者を第二説、後者を第三説としたい。

第一説は、都市自治権の及ぶ領域を郊外に擴充し、都市と其郊外を併せて一體の都市を組成するに依り、現在、都市社會に通有するが如き幾多自治體の煩はしき對立關係が悉く融合せられて之が統制の基本ともいふべき權力の源泉が都市の單一意思に綜合せらるべきを郊外地統制の根本政策なりと見るのであつて、其過程に於ける經過的措置としては組合論が主張されてゐる。惟ふに依立依存の關係に在つて、利害休戚を一にするを意識する社會が、政治上に於ても一體を構成し得るに至るは、其施措する所に統制あらしめ得て、動もすれば支吾扞格するを免れずして功過相殺ぐが如き事無きを保せざる現在の行政を適實敏活ならしめ得るには違ひない。又市町村の間に、共同處辨するを要する事務又は事業に就て、臨機組合の組織を採る事亦極めて自然の發達として承認せられ得る。乍併市町村の間に、事務組合成り、若は併合行はれて一體の市と爲るも雖も、之のみでは、郊外地統制の實を擧ぐるに足らない。之を克くする爲めには郊外地の健全なる發展を導くの統制力が保障されなくてはならぬが、自治には、斯かる力が無い。故に多數自治體の併存するも、其單一體に統合せらるゝに拘はらず、苟も經濟上及社會上の關係が恰も一體の有機組織を營むに適すを認識し得べき所には、合理的に都市構築に關する公私一切の活動をして規矩あらしめなくてはならぬ。然るにかゝる方途に備へあらしむるは、都市計畫法制である。故に之が適用に俟ちて須らく都市計畫施設の適正に行はれ得べきを期すべしといふのが第二説の大體の論旨である。

要するに、此説は、都市計畫法制の運用を以て、郊外地統制の基本政策とするもので、第一説とは、其主張に於て外見上相容れざるが如くに見ゆる。しかし、其實、唯議論の道程に於て其行き方に先後の順序を異にするのみで、共に其歸結する所は、明らかに意識するも、否を問はず、共に大都市論と見る事が出来る。尤も前者は、都市社會の政治は、社會上の實體の上に、單一體として統制されなければならぬのが、觀念上の要求であるとするのに反して、後者は、自治政の地域的に分擔せらるべき事實を認めて、關係市町村間の都市計畫傘下に於ける協働作用は恰も單一政治體に依つて統制せらるゝが如くに擬し得るを見るの點に於て、既に立論の根柢を異にしてゐる。又其思想の方向に於ても、一は完全なる自治統制論に赴かんとするに反して、他は國家統制論を以て終始せんとするが如くであつて、本質上、此兩者は區別して取扱ふ事を必要とするが、此事は、今回の都市問題會議の研究報告中には、餘り議論とはなつてゐない。

然るに其方法論としては、大要都市計畫の系統に屬する統制に俟たむとするの點に於ては、第二説と同じといへるが、深く過大都市の弊を慮れ、都市の過大に赴く勢を制して都市生活の將來が常に圓滿にして十全なるべきを保障する爲めには、必ずや郊外地の自治が存重擴充せらるべきを基礎條件としてゐるのが第三説である。そして此説は、都市と郊外の自治體とが各々健全なる發達を遂げ得べからしむるの條件は、之を都市計畫に求めてゐるが、此兩者の依立共存の關係に善處し得るには、都市計畫を以て足れりせずして、更に之を所謂地方計畫の統制に俟たしめ、茲に都市及其郊外を統制する新體系が組織せらるゝに非ざれば、完全とはなり得ないとするもので、其理想其方策共に全く獨立の提言と見得る。

此等諸説も、其背景とする基本思想は、孰れも、現代都市政策の根本に觸れてゐる。そして此問題は、あらゆる都市問題の軌跡であるが、同時に郊外地統制論の淵源を成すもので、之を解決する事なしには、郊外地統制方策の細目には入り得ない。然るに、此問題は廣汎にして、深遠なる研究に俟つ事を要するが、茲には、主として之に關する一應の考察を試みてみたい。

○

今回の研究報告中には、過大都市の功過を論じて都市の適度論に及べる有益なる文献あるは、實に推服措かや處である。一般に觀念論に立ちて「あるべき」都市の研究とするならば、孰れも、堂々の論議である。況んや來我國には、盲目的に、都市又は都市計畫に「大」を冠するを喜ぶの風ありて、恰も都市及其郊外を通じて官民共に、偏へに大都市の實現を理想として進むのであるが如くに思はるゝが故に、此時に當て、小都市論の絶叫せるゝ事は、大に傾聴すべきであつて、其論旨は、隨に頂門の一針として、一世を警しむるに足る事と思ふ。さて實際、大都市及其郊外の本質より其都市生活の實相や、其自治參與の體樣等を檢して自治能力の限度等の事に想到するに如何にも、都市の餘りに大なる事は、望ましくない様に思はれる。抑々都市其者の體樣は、今昔の比較するを得ざる程違つて來てはゐるが、事實は、明らかに、或時代に於ける文化と藝術とは、其時代に於ける至大の都府に於て、克く至高の發達を遂げた事を示してゐる。加之人道を、自由と平等の前に發見するに依つて、近代の幕を切つて落して以來、産業に依りて建設せられた文明は、政治經濟の發達に依り文化の普遍治

及せる前代未聞の盛運に際會せりを見るる現代に於てすら、尙且孰れの國に在りても、文化は、都市の大を加ふるに隨て極限に達するが如くに思惟せられてゐる。夫れにも拘はらず、都市が、經濟生活を遂げ又克く文化生活を享受して政治生活を充たし得るの必要適度を超えて、絶えず急角度に、過大に赴く事は、止むなき害惡だされてゐる。之に關しては、種々の議論を展開せしめ得るが、實際問題としては避け得べくんば、其大さは、市民生活の物心兩界に亘りて幸福利便にして且快適なるを保障し得べくして、又自治するに易きの適度を維持するを以て満足したい。

然るに、此適度に就ては、未だ學者の間に定説あるを見ない。のみならず、國民性の質度、制法及經濟事情の如何も、文化の程度殊に技術の發達も、都市の地理的條件又は其性格等に依りて必ずしも、一樣に論斷する事を許さない。併し現代に在りては、少くも、一都市の人口拾萬を算するに至りては、之を大都市なりといひ、人に依りては、之を以て既に大に過ぐるものとするが如くである。蓋し第一に、自治生活は、市民が、其地方の要求に適する所を知悉し得べくして、互に相諒解し得べく、又其歴史傳説等に於て、誇を共通にするに依りて克く共同して其實に任じ得べく、併かも其之に依りて着々協力の實舉がるに從て愈々自治の精華を發揚すべきである事は、自ら地域的に自治體の大きさに適度あるを惟はしめざるを得ない*。

第二に、現代の産業組織は其能を竭くすが爲めには、商工業の機能が、自ら場所的に、或程度の集中を遂ぐるを要件とするが故に、從て又之に従事すべき多數の戸口が同一の場所又は、其附近に集中するに利ありてゐる。そして其生産の機會多き事は自ら從業者の收入を高からしめて個人生活を有利幸福ならしめ、都市に文化施

* Dr. Prof. Peters, Die Bedeutung der Mittel- und Kleinstadt für Volk und Staat, in Die Gemeinde sept. 1929.

設の見るべきありて、あらゆる欲求を満足せしめ得べき手段の存するに相俟ちて、人を驅つて都市生活に赴かしめずんば止まさらしめてゐる。乍併若し其集中度を過ぐるに於ては、常に都市生活の環境は、其大を加ゆるに隨て、益々自然より遠かるに因り、獨り其生活をして人の健康に適せざらしむるのみならず、一面に於ては、壓迫して底止する處を知らざる場所的需要競合して、著しく地價の昂騰と住宅費の増高を促すは勿論、爲めに家庭生活をも破壊するの動因を爲り、此等有形無形の害惡を濟はんとして進めらるゝ都市施設の爲めにする公私の支拂が相重疊する事を交錯して、著しく集中の利を奪ふに至るものである。第三に、現に都市郊外が、特異の社會體様を構成するに至りし所以のものは、畢竟するに上叙の理由に依り、集中の利が、集中の害に依りて失はれむとするに在りしもので、一般にいへば、都市郊外の發達は正さに分散の利が、都市生活の長所を失ふ事なき限度に於てのみ考へられ得る。凡そ此等の事情は、相俟て都市生活の利を保障せんとするには、自ら、都市にも、郊外にも、業務と戸口の集中に、何程かの適度の存すべきを是認せざらしむるを得ないのである。然らば、其適度如何。之に關しては、夙に Lord Bryce, Ebenezer, Howard 等の提言あるは、英國田園都市の實例と共に、人の熟知する所である。最近 Norman Macfadyen の如きは、凡そ人口五萬を超ゆるに至らば、都市の行政は、其費用急激に増嵩して其長所とする所を償ふに由なく、其下層者の健康は、害せられむとするものなる事は、既に世間周知の事實である。かゝる都市の生活には、其保健狀態並に經濟事態に於て何人も満足し得べき處でないといふておる。此説は、最近に於ける田園都市論の代表と見てよい。

抑々田園都市論は、英國に在りては既に三十年に垂んする實證を経たもので、最近に於ては、全く現實の問

題として、一般に解決せられたものと看做されてゐる。即ち曩きにはユニオニストの内閣に於ても、有力なる閣員に依りて支持せられ、今日の労働黨内閣に於ても、特に交通省大臣の如きは、夙に此政策の最熱心なる首唱者の一人として知られてゐる。自由黨亦最近公にした土地問題中に、此政策を贊襄してゐる。されば、此政策は、今日に在りては、全く英國を風靡せるものと見てよい。加之、此論は、漸く獨逸米國等をも動かしつつある。

然るに、此等の論者も、都市の適度に就いては、證じ詰めて行くに、甚だ「フレキシブル」で、必ずしも一定不動の限度に關する定律あるものとは、見てゐない様であるのは之を注意しなければならぬ。是住宅問題及都市計畫の一權威として知られてゐる Captain Reiss の如きが、此頃「田園都市計畫の基準たるべき精密の規模如何に就ては、一定にして動かすべからざる一般的制限あるものとして規律することは出来ない。 Lechlworth や Welwyn の如き田園都市の場合には、人口約四萬人を以て其窮極に於て達成し得べき最高の人口制限なりとしてはおるが、一般にいへば都市の最小限と最大限は各三萬乃至七萬の間と定め得べきかと思ふ」*といふておるので大體窺はれるであらう。此論旨は、結局都市生活の利と集中の長所とを併せ得しむるが爲めには、小に失する事なきを期すると共に、其都市生活に伴ふの禍害と短所の迫るあるに備ふる爲め、甚大に過ぐる事なからしむべきを警むるに外ならないと思へば大過なしと信ずる。そして夫には、私も賛成する。乍併元來田園都市政策は、現代の都市生活が、遂に工場と住宅を分離せざるを得ざるに至つた事を、還元する爲め、經濟上社會上並文化上に於て自主的に満足し得べき程の規模を有する健全なる合理的新都市を、大都市の背後に建設し、永く其適度を維持せんとするに在る。此論の價值は、ユニオニストの領袖 Neville Chamberlain や Bentford 卿に依りて、

* Reiss, (the Author of the New Housing Handbook and the Town Planning Handbook) "Garden Cities and Satellite Towns" in the Previous Book, p. 62.

* Norman Macfadyen, "The Country Town" in "Decentralisation of Population and Industry," edited by Warren and Davidge 1930 p. 124.

是こそ過大都市の問題を満足に解決し得る唯一の方圖なりと見てゐる程で、實際に於ても、Welwyn の例^{*}を見
るに、人をして首肯せしむるに足るものゝ如くで、此成功は、隨に田園都市政策の將來が多望なる事を語つて
おる。

○

惟ふに現代に於ける大都市の居住過密の中心地より、廣潤にして、自然の恵多き郊外に工業及人口の分散を促
進するの社會上緊急の必要に迫れると同時に經濟上に於ても緊切の問題と爲つておる事は疑ないのであつて、之
に應ずるの策として郊外に新都市の經營を適當の順序に従ひ、且一定の計畫に基いて進むには、心身兩つ乍ら
健全ならしめ得るの條件を具備する個人生活の完成と、之に伴ふ良心ある社會生活の遂げ得られる新社會の實現
を目標とすべきであつて、之に對して羅針盤と爲るものは、田園都市政策なりといふてよい。乍併之を無條件に
是認し得べきは、中小都市の事である。大都市に就ても、同様に、之を無條件に、直に、然りとする事には賛同
するを、躊躇せざるを得ない。

我國には中小都市と目すべきものが、頗る多い。のみならず、此外に、之に準じ得る町村は、全國到處に散
在してゐる。そして此等は百を以て數ふべくして孰れも地方生活の中心を成してゐる。此等が永く其機能を完
して、其適度を維持し得るの方策を講ずるは、實に重要な問題と謂はねばならぬ。

幸にして、此等現在の中小の都市若は之に準すべき町村は、概ね將來の發達に備ふるに足るの地積に富むで

る。集中の度亦尙亦低くして、都市計畫の仕方一つで其の發達を適度に調整する事も出来るであらうし、又之を
進む事必ずしも困難なりとしない。そして之が適切な備を爲す事は、實に焦眉の急になつてゐる。

然るに之に備ふる指導原理としては唯思慮ある都市計畫に依る統制あるのみと思ふ。そして其計畫地域に屬す
る市町村が苟も此統制に従て協調善處し得べき限りは、假令其域内に、複数の自治體を存するも、敢て意に介す
べきではない。即此等關係市町村の間に、都市計畫統制あるに於ては、自治體としての統合を成就せしめて一體
を成すに至らしむる事は必ずしも重要切實の問題ではない。何となれば、中小都市若は之に準すべきものに在り
ては、母市自身既に大都市の如く、膨脹發展の勢急調なるものと異つてゐる。從て其郊外は尙更である。即中小
都市の環境は、大都市の郊外の如くに、都市化の勢激甚にして、忽其固有の性格態様を一變して其實體殆んぞ母
市と區別し能はざるに至り、住民亦日常生活上町村民たるの誇と自覺を失ひて、寧ろ母市の住民たる事を意識す
る様になつて、恰も母市の人たるが如き誇を感じるが如きものは、同日の論でない。中小都市の郊外町村は、
謂ふ迄もなく、都市的發展の影響遲緩にして永く固有の性格を保ち住民亦獨自の社會生活を營みつゝあるの自覺
強く、地方の傳統に興味を感じる事深くして又自治の協力に無限の誇を有するを原則としてゐる。從て母市と協
同して施設するに非ざれば、サーヴィスを完了し難きの事は素より、然かする事が、利ありとする事の如きも、
大都市の郊外に見る如く多種複雜を極むるものと著しく異つてゐるし、又實際都市的施設に逐はるゝ事も少
い。凡そ此等の事情に想到するに、中小都市の郊外地統制に關しては、都市と郊外とは、強めて之を一體の自治
體とすべきに非らず、須らく各別の存在として、夫々の發達を自主的に導かしむべきものと思ふ。

* Reiss, p. 65—67, 詳細 Purdom, Building of Satellite Towns, Published by Deift and Sons 参照。

獨り大都市の郊外に就ては、之と同様に結論すべきではない。大都市の郊外は、概言すれば、大體母市の延長擴張を看做すべきもの、中小都市の郊外は其性格を同じくするものの二種より成つてゐる事は、概論中より歸納し得る*。依て其統制に就ては、此點に留意して、前者に對しては、其行政及財政を母市と共同して營む事を得しむるが、極めて自然であるし、且又斯くすることに依つてのみ、母市と其周邊に在る郊外の存在を完うし得しむる所以と思ふが故に、可及的早期に時機を失する事なく、須らく關係市町村の間に自治を一體ならしむるの合併政策を執るべしといひたい。そして後者に對しては、中小都市の郊外に就て述べたる理由に依り原則としては、固有の自主的自治の作用に俟たしむる事として、かの田園都市政策を進むるを旨とすべしといひたい。乍併、之と同時に、郊外を看做し得べきものゝ存在する餘地なき程市域の廣闊なる都市に在りては格別なるも然らざる一般の都市に在りては、其市と郊外を含む全地域に對しては、必ず地方計畫の綱領の導く所に從て、施策する都市計畫統制に依りて規距する所あらしめねばならぬ。此等三の政策が、同時に行はれて、相俟ち相扶けて三位一體の有機的作用を營むに依り、之が統制完うせらるゝに於て、始めて、今日の儘推移するに於ては發生するを免かれざる體様共に畸形なる都市の跡を斷つ事を得て、永く都市生活の健全性を保障する事が出来るのではないかと思ふ。曩に大都市の郊外地統制に關し、直に無條件に田園都市論に依らしむるを躊躇したるは、此の爲であつて、全地域に對して都市計畫統制に俟たしむる事なしに、無暗に田園都市政策に隨喜し、獨立性を基調とする田園都市政策が、單獨に郊外に行はれて、夫が普遍するに至らば、遂に郊外發達の要因たる大都市を崩壞に導かずんば、止まぬ事と思はれる。然るに斯の如き結果を招來する事は何人も之を容認すまいし、又何處から

見ても、賢明なる政策とはいへまい。

凡そ大都市の周邊に在る隣接町村の如くに、あらゆる點に於て、全然其獨立性を失ひて、其存在盛衰の機、一に母市に依立從屬するに至り、機能上に於て將た又社會上、經濟上並に文化生活上に於て、母市の便宜を利用し、其恩養を享け得る代りに、其弱點にも忍從せざるを得ず又其事弊にも冒されざるを得ざるに依り、都市施設之が財政に關し、共同措辦を爲し得ざるに於ては、克く都市生活の公需に應じて遺憾なきを得ざるものに對しては、其社會體の國家に負ふの使命の重且大なるに顧み、此合併に關する限りは、之を曠日彌久、徒らに、市制の運用に依る自治的解決にのみ依頼して、之を放置すべきにあらず、須らく之を國家の強制力の發動に俟たしむるは、止むなき緊切なる最後の措置であらう。私は斯くいへばきて、此場合にも、行政處分に依る強制を是認する者ではない。必ずや、市町村の構成を組織するものとして、一々特別の立法に依り飽く迄國家意思としてのみ決定せらるべきものと思ふのである。

現に我國の大都市は、郊外地併合の例に富む雖も、尙且つ此極めて當然なる國家の強制力の發動を俟つもの頗る多くして、郊外地の統制は、先づ是より着手しなければならない實情に在る。そして今日は、時既に遲きに失するものすらあり、一時も、躊躇すべき場合でない。

○

過大都市は都市並に郊外共に、「あるべきもの」と大變違つて居る現状になつてゐる。而もそれは、救治するに

* 東京市政調査會編纂並に發行「第二回全國都市問題會議參考資料」甲篇「都市膨張の趨勢」第一「市域の廣張一覽」參照。

* 郊外人口の増加が、我國六大都市の特有現象とする研究に就ては猪俣學士「我國都市郊外人口の増加趨勢」前掲研究報告一九頁以下參照。

途なし云ふやうに思はれて居る。併し此過大都市の存在は嫌でも之を現實の存在にして認めなければならぬ。現在生れて來た此有機體は、さうしても、殺すことは出来ないものである。そして從來之を活さんとして其中に含まれて居た色々の禍害を排除せんとする工夫が、都市に依つて大規模に經營された次第である。併かも、此目的の爲には、當に現代の人の精力を傾むくることを以て足れりせずして、將來の人の負擔までも、釘づけにして居る云ふ次第である。

此一點だけを以てしても、過大都市云ふものは、さうあつても之を護つて行かなければならぬ。いふまでもなく、我等の父祖以來累年の社會的諸勢力が結晶して出來て居るのが現在の過大都市であつて、吾々は嫌でも之を承認せざるを得ない。さうして現代に於ける衆智の許す限り衆力を合せて其禍害の因を除き、觀念論者の考へて居るやうな理想都市の生活に近づき得るやうに公私一切の努力を拂はなければならぬ。彼の徒らに觀念論に囚はれて、單に郊外にのみ小都市が出來て來る様に、之を促せばそれで問題を解決したと考へるやうなことは彌縫も甚しいものである。而も其結果は此過大都市の崩壊を來す云ふことになるのであつて、思はざるも、また甚しき議論ではないかと思ふ。

元來近代に於ける過大都市の禍害は、主として過去に於て無計畫であり、無策であり且つ全く無統制であつたことに因るのである。豫見し得べきことを豫見せざりし罪である。若し過去に於て適切な計畫を按じて將來に備へ、明日の都市を導くに道を以てし、公私一切の都市擴張に關する諸勢力の統制が時機を失することなしに適正に行はれたりするならば、假令都市生活の體様は前時代に於て夢想だもし得なかつたやうな色々な科學の

進歩に依つて影響せらるゝことが多かつたことは申せ、恐らくは現在の如き苦惱は嘗めず済むのではないかと思へられる。熟々考へて見ると、現代都市の悩み云ふものは、全く此無策無統制の間に、無暗に秩序なく、急角度に或所に對して都市が膨脹を遂げたこと云ふことが基である。爾來人間が都市施設して進めた所のものは要するに過去に於て爲すべき筈であつたものを爲さなかつた所のものを追補し、それを補足し、若くは過去に於ける失政の修正を爲す云ふことに汲々として尙且つ及ばない云ふやうな譯で、將來を豫見して備を爲し、明日の計を爲すことが絶えて無かつた爲に、偶々左様なことが重疊累加して遂に今日の狀況になつたものである。達觀することが出来るのではないかと思ふ。隨て斯様なものに對しては社會科學と自然科學の示す所に從つて、健全にして周到なる計畫を、社會正義の要求に合するやうに立て、さうして慎重なる統制を加へて行く云ふことに於て郊外も救はれることであり、又母市も救はれることである。されば、私をして謂はしむれば、郊外地統制の根本は、茲に在るのではないかと思へる。

今は幸ひ斯う云ふやうな目的の爲に都市計畫法と、市街地建築法と云ふものがあつて其妥當なる適用を俟つて居る。是等の法制は都市並に其郊外の現實に即して其將來を一定の計畫に據ることを得しめ、且つ、能く其發展する方向と、其趨く所を豫見し得しめて、苟も思慮なき所爲に依つて紊されるやうなことはない統制を加ふることを得しめて、之に依つて將來の社會的生活を健全に導くことが出来るやうになつてゐる。そして人をして能く明日の公共の需要が何處に在るか云ふことを豫測して有効に其備を爲すことを保障して居ると思へる。若し其計畫と其統制が斯様な法制の正眼に適ひ得るならば、過大都市と雖も母市郊外共に其序に従つて發達を遂ぐる

に、正規の軌道を進むことが出来るやうになるのではないかと考へる。

果して然らば其計畫をどうするか。是は言ふまでもなく各地方の實情に於て斷すべきことであつて、一概に論ずることは出来ない。併し筈原博士飯沼學士^{*}の御報告は、共に此點に關して訓ゆる處多く、頗る權威あるものゝ考へるが、要するに都市の郊外は、其の發展盛衰共に母市に其軌を一にして居るものであつて、若し此間に其各々の都市計畫統制が綜合的に組織せらるゝことが出來て、其に其何れの部分も皆其固有する性格に従ひて各々其將來の發達を擔當して、其適當なる分に應ぜしむることを得るに於ては、此目的を達するが爲に諸般の計畫を進め域内に於ける土地の需要を統制し其用途を適正に導くと同時に、其發展をば普遍的に均整を保たしむるやうに協力一致す事と相俟ちて、郊外は母市と共に眞に久遠の生命に活きるのではないかと考へる。郊外の町村が母市と共に積極的に活動する舞臺は當に斯様な綜合的の統制に基いて、其計畫の示す所に從つて協力する所にあるのではないかと思はれる。然るに斯様な統制の準據となる計畫は無論超自治である。之を解決する基本政策としては、研究報告書にあるが如く、所謂 *Zweckverband* の制に依ることと一案であらうし、又併合策で行くのも一案であらう。無論 *Zweckverband* の制に依ることと特定の事業に付きては確に可能であり有益であるに違ひない。併し之は、併合策と共に何れの場合でも適用が出来るものでない云ふことは、既に研究報告の中に詳しく書いて置いたのみならず、其要旨は前述した事故、茲には之を繰返さないが、結局するに郊外地統制はさうして都市計畫的の統制で行くの外はない様に考へるのである。斯様にして歸着する所が都市計畫なりとするならば、今日の都市計畫法制と云ふものは果して以上の要求に應ずることが出来るであらうか。此點には無論議論の

* 前掲「研究報告」一五三頁及び一七三頁。

あることと思ふが、私は、是はさうしても補充訂正して行かなければならぬものではないかと考へてゐる。さうして其最も捨て置き難い點は何所であるかと言へば、其要領丈けを掲ぐれば、

第一に、都市計畫法の適用を普遍化して町村亦市と同じく是が統制を全うし得べからしめ、特に夫れが大都市の郊外であるならば、其都市計畫の統制に付ては母市の計畫と共に格段の考慮をしなければならぬ。

第二に、都市計畫統制の鋭敏であつて公正なることを期する爲には特に(イ)土地區劃整理に關しては特別都市計畫法の規定を以て補充すること、(ロ)都市計畫制限に服する土地に對しては合理的の補償方法を考ふることを忘れてはならない。

第三に、受益者負擔制の適用は、個人に對する關係のみに止むる事なく、苟も都市計畫の施設に關する費用負擔方法に付ては受益者負擔制の趣旨を國府縣及市町村相互の間に貫徹を期する様に擴充しなければならぬ。私は、以上の三點に於て、深く考慮が用ゐられて、夫れが、將來社會正義の要求に従つて正しく導かれること云ふことで、初めて郊外地の統制のことが完全に行はれるのではないかと思ふのである。

(五) 街路の整備問題

内山新之助君

最近都市と云はず地方と云はず、交通事故が到る處に頻繁に起りまして、幾多の人命を奪ひ、莫大の財産を失ふことは屢々皆様の御承知のことと思ひます。地方の事は姑く措きまして、都市に於いて、若し此交通問題なるものが無かつたならば、都市生活は此上も無い望ましいことであるのであります。茲に云ふ交通とは都市に於ける凡ての交通を意味するのでありますが、今日は唯街路交通に付てのみ申し上げたいと思ひます。

彼の英國のレッチウオース及びウエルウィン等の如き田園都市は何れも此理想の下に建設せられて、今日大した交通問題を惹起して居りませぬ。是は即ち其住宅が、商店或は工場乃至鐵道停車場に對して何れも其交通領域内にあるからであります。然るに住居地域が、商業地域或は工業地域に對して二哩乃至三哩も遠距離になりまして、即ち都市が段々膨脹發展致して参りますと、其都市の産業の發展と郊外地の膨脹に伴ひまして、其中樞地區の交通量と云ふものは日に増し増大致して参りまして、其結果大都市に於ける交通問題は、現代科學或は技術を以てしても、到底完全なる解決を與ふる交通施設が殆ど不可能なりとまで絶叫せらるゝに至りました。

此意味に於て倫敦に於ては、千九百二十四年倫敦交通法が制定されて、交通大臣管理の下に倫敦交通調査

委員會が設置せられて、大倫敦の交通對策が研究せらるゝに至つたのであります。又米國の各都市に於きまして、最近何れも交通調査會が設けられて、各々其市の交通對策を練りつゝあるの現況であります。是は畢竟するに都市が餘りに大きくなり過ぎた、即ち先程からも御報告のある如く、過大都市の通弊の一つであらうと考へるのであります。世界に於ける大都市たる倫敦、紐育、巴里、伯林を首めとして我國に於ても東京及び大阪の如き大都市に於きましては、最早痛切に其救済策を講ぜざるを得ざる状態に立至りまして、日々街頭に展開される交通事故の慘狀を見ましても誰か之を默視することが出来ませうか。

實に交通問題は、大都市に於ける共通の一大悩みであります。是即ち交通問題に對して一大英斷を必要とする時機であります。而して此街路に於ける交通混雜を救済し、交通の流れを緩和するには、交通の整理と街路の整備との二大方面を研究しなければならぬと考へます。

交通を整理すると云ふ事は、元々は交通事故の防止であつたのでありますが、今や交通混雜を緩和すると共に、更に進んで交通能率の増進、即ち經濟上の目的をも有するに至りました。而して交通整理が如何に工合良く行はれ、交通規則の運用が其宜しきを得て、交通混雜を或る程度まで緩和することが出来ましても、限りある街路の幅員を以て、限りなき交通の需要に應ずることは到底出来ないであります。茲に於てか都市計畫事業として街路の新設或は擴張が行はれるに至つた所以であります。

一體都市の街路は、今日から推究致しますれば、其建設に當りまして三つの様式を経て居るやうに思はれるのであります。

第一は、所謂古代都市に見るが如く、是は交通量とか或は交通經濟と云ふやうなものに關しては何等の考慮を拂はずに、唯軍事上の目的を以て建設された街路系統であります。第二は商業或は工業の中心たる都市或は宗教の中心たる所の靈場、是等のものは、其當時の交通にのみ應ずれば足りる、即ち現實主義に出發して立てられた所の街路系統であります。

以上のものは孰れも現在から見れば其街路の幅員は概ね狭小でありますが、第三は、所謂近代の都市計畫の觀念に立脚致しまして、過去の都市の街路の幅員の狭少な事に依つて都市が嘗めた苦い經驗に鑑みまして、將來の交通機關の發達將來の都市の膨脹に順應すべく將來を豫想致しまして、都市の經濟的發展、市民の福利増進、乃至保安上の問題をも考慮して建設した所の現在の都市計畫に依る街路系統が是であります。

併し此現代都市の經濟的發展が、街路系統の整備と街路の構造の適否が、其最も基幹を成して居ると云ふ理解から致しまして、各都市とも古來の因襲を抛ち、財政上の幾多の困難あるにも拘らずそれ／＼街路の擴張を計畫して居るのでありますが、財政其他の關係に於きましてなか／＼是等の事業は時日を要するのでありますが、其半面に於て、交通機關が躍進的の進歩を致しまして、加ふるに人口の都市集中と云ふ事が、年と共に加はり、殊に街路交通の輻輳は益々増大致して参りまして、到る所に交通地獄をさへ現出して街路交通の問題が都市經營上最も考慮すべき重大問題となつたので、今日此會議に於きまして、街路交通の統制問題が、主要問題として掲げらるゝやうな不幸なる都市を吾々は持つことになつた次第であります。

然らば其街路系統の樹立に對する根本方策は如何にするかと申しますれば、都市を新に建設する場合に於きま

しては、其地勢と廣袤と氣象等の地理的狀態と其環境とを考慮致しまして、將來の都市生活に便なるべく將來の都市生活を氣持よくする爲に、豫め住居地域、商業地域或は工業地域等の各地域を制定致しまして、尙且つ都市の行政中心或は經濟中心乃至は教育中心、娛樂の中心等も豫め之を豫想致しまして、さうして都市の郊外に對する所の交通系統の配備を確立致しますれば、茲に交通の中心をも確立致しまして、將來の都市活動の基調たる所の交通系統と街路新設に對して根幹を決定することが出来るのであります。

尙ほ之を具體的に申しますれば、各中心地帯を連絡するには主要幹線を以て致しまして、商業地域に於きましては、之に順應する商業街路とそれに適應する施設を考へ、住居地域に於ては其保健衛生上の問題も考慮して都市を計畫致しましたならば、將來に對して少しの無駄もなく都市の發展に對して備へることが出来るのであります。斯くして出来たものが亞米利加のワシントン、濠洲のカムベラ、又先程申しました英國のレッチウオース、ウエルウイン、ボートサンライト等を此例として擧げることが出来るのであります。

都市計畫上、街路系統の標準型式と致しまして一般に認められるのは、方形型、環狀型、放射型或は六角型と云ふやうなものでありますが、是は都市を新しく建設する場合に於てのみ應用することが出来るのであります。

從來日本の都市の如く漸進的に發達した都市に於ては、其中樞部に於ける既成市街地の改造には在來街路の交通量と、交通潮流の調査を以て基本となし將來の計畫を樹て、行くより仕方がないのである。然かも都市の財政上、地形上其他種々の關係に於て理想的に行かないで以上のやうな標準形式を適用することが出来ませぬが、唯郊外地の將來發展する所に施行する土地區劃整理の街路型式を決定する場合のみ之を應用すると思ひま

す。

次に街路構造と交通輻輳緩和施設に付て申述べたいと思ひます。

街路交通量は年に依り、季節に依り、又月に依り日に依りて異なるは勿論、一日中に於ても時間に依り異なるものであります。大阪の交通量の調査をしたものが、参考資料の甲編に載せてありますから御覽を願ひます。

一般に季節的傾向から申しますれば、春と秋に多くありまして、一日中でも其街路の位置に依つて色々異なるのであります。中樞部に於ては午前十時から十二時までと午後二時から四時までが最も多いのであります。又一般歩行者或は電車の乗客等は、午前七時から九時までと、午後四時から六時までの間に所謂ラッシュが起りて來ます。此等の街路の交通を調べますと、我國の交通器具は由來種々雑多でありますので、此交通車輛の數のみを以て其交通量の輻輳度を比較研究することは困難であります。故に其交通の車輛の種類、構造、大きさを考慮致しまして、之に由つて決定すべきものでありまして、車輛の總數に依つて輻輳度を決定することは出來ないのであります。英國に於ては交通車輛の種類速度及大きさを斟酌して交通支障率を定めまして、之に由つて街路の輻輳状態を比較するのであります。即乗用自動車車を單位と致しまして、他の交通機關を乗用自動車に換算して道路のキャパシティ、道路の許し得る最大交通量の限度に對する比率を以て比較したならば、同じ物指で街路の交通量を比較することが出來るのであります。交通量を此指數に換算し、輻輳度を算出し其街路の許容最大交通量に對する比率を順位に述べますと、大阪に關しては参考資料甲編の百三十八頁に載せてありますから、御覽を願ひたいと思ひます。

次に交通輻輳の緩和施設として街路構造に就いて述べたいと思ひます。

街路の構造は勿論其街路系統に依つて多少異なるのであります。が、總括的に申しますれば構造上の基本要項としては次の如くであります。

- 一 所要交通量を完全に許容し得ること
- 二 建設、維持、修繕の容易にして且つ費用の低廉なること
- 三 保安及保健施設の完備さるべきこと
- 四 美觀的なること

等であります。が、何れも深甚の考究と經驗に依らねばならぬものでありまして、先づ

第一の所要交通量を完全に許容し得ること、云ふことを手ツ取早く申しますと、街路の幅員の充分なることか若くは街路の分布を相當密に配置することであり。街路幅員が廣過ぎたり街路密度が大になし過ぎた場合には、建築敷地が減少して都市經營上不經濟となりますから、是にも一定の割合があるのであります。先づ交通量の方から申しますれば、許容最大交通限量に對する割合が、平時に於て四〇％内外、混雑時でも七五％の程度以内であるだけの廣さならば、交通能率上最も適當なりと考へらるゝのであります。又走行列が片側三列、往復で六列位が最も交通上適當なる所であると考へられます。左様しますれば街路幅員は路面電車の軌道數十八尺、走行列六列の車道が五十四尺、安全地帶十二尺、歩道三十六尺、合計百二十尺即ち二十間位の街路幅員が、交通量から申しまして最も能率の良いものと考へらるゝのであります。

次に歩車道の區別に關することでありますが、從來の交通器具が餘りに速力がなく、又其數に於て餘り大でありませぬから、歩車道の區別を左程重大視しなかつたのですが、最近交通器具の發展と共に産業の發展に伴つて、交通の車輛も増加しましたので、街路の交通として保安上歩車道の區別が絶對に必要になつたのであります。

第二に街路の建設維持修繕の容易にして且つ費用の低廉なること。

此問題は街路構造技術の最も苦心する所でありまして、都市街路の必須條件たる鋪裝費に對し、此問題が大に考慮を拂はるゝのであります。大阪市に於ては過去十年間の鋪裝事業の經驗から致しまして、木塊鋪裝が總ての條件に對して良いといふことは明かでありますが、財政上の關係から寧ろ最近ではシート・アスファルトの方が利用せらるゝやうになりました。

第三保安及保健施設の完備さるべきこと

從來此問題は街路附屬施設であるかの如く考へられて、餘り重大視されて居らなかつたのでありますが、多くの街路の交通事故が発生するのは、勿論交通道德の缺如と、交通訓練の不十分な爲にも因りますが、又一面から見ますれば街路の保安構造の不徹底なることも其原因を成すのであります。之に對する交通事故の數は別表に掲げてありますから御覽を願ひます。それで交通事故防止の方法として街路構造上考へなければならぬことは、次の九つの項目であります。

第一、安全地帯の設置は街路の交通能率から言ひましても交通保安上から申しましても、其必要なるは申すまでもないのであります。普通安全地帯は街路の横斷用と路面電車の乗降場を兼用する場合が多いのであります。

安全地帯の型式といしましては、描線式、標識式、盛揚臺式及支柱式の四種の方法があります。大阪市に於きましては主に盛揚臺式を使つて居ります。普通路面上十五厘の高さにしまして、長さ十六米半、幅一・五米を標準として居りますが、街路の狭い所では特に一・二米位迄縮小して居ります。さうして其兩端に街燈を點けて夜間の交通安全に備へて居ります。此盛揚臺式安全地帯を設くる場合には、それだけ街路幅員の減少を來たしますから、其道路の幅員を擴張する必要があります。故に狭い所は描線式安全地帯か標識式安全地帯を採用する方が適當でないかと思はれます。

第二、歩行者横斷個所設定街路の横斷を到る所でやられたならば、交通能率と交通保安の上から申しまして非常に不都合であります。故に横斷個所は一定の所に極めまして、其以外の所に於ては横斷をさせない。而して其横斷個所の適不適は交通能率上重大の關係を持つて居りますから、此點に付きましては充分に調査しなければならぬと思ひます。又殊に混雜する所の百貨店、劇場、停車場等の附近に於きましては、寧ろ地下道を設けて横斷個所とすることを適當とするのでありますので、大阪驛の擴張に伴つて數條の地下道を設くる計畫になつて居ります。又堺筋に於ても三越百貨店附近に於て幅員二間高八尺の地下横斷道路を築造することになつて居ります。

第三、交通信號標識及標止燈、此種類も色々ありますが、最近大阪に於て多く使つて居りますのは廻轉板支柱式であります。ゴー、ストップ、或はス、メ、トマレの字の書いた圓板を以て、晝間は巡查に依つて整理されて居ります。併しながら夜間交通が頻繁になりましたから、此方法よりも電燈を使つた標識が良いと思ひます。東京市では、澤山使つて居られますが、大阪市では漸く最近數箇所に設置することになりました。此赤橙青の三色の電燈を使つた三色燈式電氣指示燈の標識が、最も適當であらうと思ひます。而して從來各警察署に於て其様式が違つて居ります。或は圓きもの角なものがあると云ふやうな風で、非常に交通標識の展覽會が出来て居るやう

なものであります。此事は、交通者に取つては非常な不便であると思ひます。故に同一市に於きましては勿論、出来れば全國的に斯う云ふものは統一した方が、交通者に取つて最も便利でなからうかと思ふのであります。

第四、交通速度の標識、交通速度は、自動車の許される速度は、市街地は一時間十六哩を限度として居ります。又幅員の狭い所ではそれ以下に制限されて居ります。故に各街路に就て、其交通速度を一時間何哩以下と云ふ風に標識すると云ふ事は、交通整理上、又交通者に取つて必要な事と思ふのであります。

第五、街路照明、と云ふのは、一面都市の街路の美觀と云ふ點から致しましては必要なのであります。が、夜間の交通保安上最も必要なのであります。其街燈の位置、或は光源の高さ及其配置其他に付きましては、從來照明學會が何かに依つて色々標準を拵へて居るやうであります。が、要するに其目的は、夜間の街路を成べく其光度を均一にせしめると云ふ事が必要であると思ひます。

第六、街路標識、是は道路の勾配或は屈曲する箇所、或は學校病院の位置と云ふやうなものを其通行者に知らしむべく、又逡信省の關係で申しますれば、町名の標示と云ふ事が叫ばれて居るやうであります。

第七、電車の乗降場及び乗合自動車の乗降場の配備、是は街路の交通能率に多大の關係を持つて居りますが、大阪市邊りの現況は、其兩者が同じ箇所になつて居ります。是は局部的に街路の幅員を狭小にしまして、他の交通の支障となるのみならず、街路の交通能率を頗る減殺するものであります。が故に、十字街路に於ては已むを得ないとしても、尠くとも其他の部分に於ては、兩者相當の距離少くとも十五米乃至二十米の間隔を置いて配置することが必要であると考へるのであります。

第八、廣い街路に於ける緩速車と高速車との交通の分離、其方法としましては、報告書の添付圖面に掲げました御堂筋の如く、緩速車と高速車との間に植樹帯を設けて之を整理するのも一の方法であります。又幅員の狭い

ものであれば、其兩車道の間にホワイト・ペイントで以て標すのも方法であります。斯の如くして其街路交通を統制することが出来るのであります。

第九、一般自動車の駐車場問題、鐵道軌道の終端驛附近、或は商業中心地に於きましては、適當なる自動車の駐車場の配備と云ふことが絶對的に必要であります。然らずんば朦朧自動車は街頭に流れ出まして、一般の必要なる交通車に對して大なる支障を來すのみならず、又其浪費する所のガソリン、其損する所のボディに付きまして幾多の經費を要するのであります。大阪の自動車に就きまして、どれ位ガソリンを空費して居るかと思ふ事を調べたものが、此報告書の二百四十頁に書いてあります。から御覽を願ひたいと思ひます。簡単に申し上げますれば、一臺のタクシーが一日にどれ位損するかと云ふと、十圓以上になりまして、一年に付て申上げますれば實に五千圓位の損失になる。之を以て若し駐車場を建設するならば、一箇所や二箇所の駐車場は樂々として出来るのであります。

以上述べましたやうな施設が完成しまして、交通者の訓練が行届いたならば、之に依つて交通問題は解決は出来ませうが、要するに此街路交通の施設の完成と、一般交通に對する交通の訓練と、此二つの事が街路交通の統制上絶對的に必要であると思ひます。

最後に交通問題に對する現行制度の一大缺陷を指摘したいと思ひます。即ち此交通取締に關する事は、總て警察權の發動であります。が、一方交通施設に對する總ての義務は、六大都市の如きに於ては總て道路管理者に歸屬して居る事柄であります。此事は、恰も胴體が一つであつて頭が二つあるやうな畸形兒に等しくありまして何日迄も交通統制の完全なる域に到達しないのは、其罪の一半は此邊に在るのでないかと考へます。諸君の御一考を煩したいと思ひます。

(六) 最近警視廳に於ける

街路交通統制の實際

古川 靜 夫 君

街路交通の統制につきまして以下暫らく最近警視廳に於てやつて居ります事——其施設に付きまして大體申上げたいを考へます。即ちこゝでお話し申上げることは(一)交通法規の改正に關する事(二)交通整理の方法に關する事(三)交通整理に關係する各種の設備の統一に關係致す事(四)交通道德の涵養に關します事(五)自動車並目轉車の取締に關します事(六)交通巡査の勤務に關係致す事(七)交通統制の根本の問題に於てあります。第一の

交通法規の改正

であります。警視廳管下に於きましては、夙に法規に於きましては多少外國の事例等も研究致しまして、相當進みました法規を制定致して參つたのでありますが、最近の實狀を考へますと云ふに、此法規の中に非常に不完全な、不備の事項が極めて多いやうに考へたのであります。交通事故の原因に於て調査致しますと、先づ此法規の不備である點に於て非常なる缺陷を發見致したのであります。故に昨年の十一月一日を以ちまして、新交通

取締規則の公布を致しまして、出來得るだけ交通法規の上から交通の安全を期し、交通事故の防止を圖るに云ふことに致したのであります。

此新交通取締規則の要點は大體四つあるのでありますが、先づ其第一點は、交通機關の相互間の衝突を豫防する事項に於ての法規を定めたのであります。即ち電車又は疾行車屬の直前直後を横斷してはならない——と定めた。從來此直前直後の横斷に依つて非常なる交通事故を見て居るのであります。此點に於て新しい法規を認めたのであります。次には鐵道又は軌道の踏切を通過する時分には、先づ一時停止をして、交通上支障なきを確かめた後に通行すべしと云ふ法規を設定致しました。大體に於て警視廳管下に於きましては、此一時停止の立て札を多分に立てまして専ら實行に努めて居る次第であります。次には小さな道路から大道路に出る時分には先づ一時停止をして、さうして交通上の安全を計つて進行すべしと云ふ法規を設けたのであります。即ち交通機關の相互間の衝突を成るべく法規の上に於て豫防する規則を設けたのであります。

第二の要點は、自動車又は其他の車屬の交通の統制を圖つたのであります。即ち普通の自動車は、原則として軌道上を疾行しても宜しい。トラックとか作業車とか其他の重自動車は、軌道を避けて車道上を走る——即ち緩行車屬の通るべき道は、軌道の外間を通るべきことに致したのであります。車の重量、スピードに依つて自動車の通るべき道筋の統制を明に致したのであります。次は停止線の觀念を命令原則として、停止線に於ては諸車は停止すべしと云ふことに致したのであります。次には、交叉點以外に於て引返運轉を致してはいけないと規定致しまして、交通上の統制を保つことに致したのであります。

第三點に付きましては、歩行者の通行に付て相當なる規則を設けたのであります。即ち電車の乗降の爲に、電車が停止を致して居ります場合に於ては、諸車は其後方に一時停止致しまして、さうして電車の發車を待つ。但し安全地帯のありました場合に於ては、安全を見計つて通行して宜しい。此規則を設けたのであります。實際は、交通巡査が出て居ります所は相當うまく勵行されて居りますけれども、兎角眼を盗んで今日に於ては、甚だ残念でありますけれども、此規則は勵行されて居ないのであります。次は横斷歩道の觀念を法規で認めまして、横斷歩道上に於ては車屬をこゝめないこと、又歩行者の安全を確めた上に通行せよと云ふやうな、歩行者の安全に關する規則を設けたのであります。尙ほ此他に學校、圖書館、病院、公園——斯う云ふ地帯に於きましては、通行の場所を定めまして、さうして歩行者の安全に資するやうに致したのであります。

第四の點は歩行者を處罰するといふ法規を設けたのであります。從來歩行者を處罰致しませぬと云ふことは、法規の上からも如何かと思へられたのでありますけれども、歩行者に對しても相當の處罰の規定を設けること云ふことで、此の規定を新しく制定致したのであります。

之等四つの事項が新交通取締の要點であります。爾來此法規の勵行に付きましては努力の結果、相當なる成績を收めて居るやうに考へて居ります。但し先程申しました如く、まだ不完全、不勵行のことが多くありますことは、洵に遺憾に存じて居ります。

次には第二の

交通整理の方法

を改善致しましたことに付て、お話を申し上げたいと考へます。警視廳に於きましては、斷續式交通整理方法を用ひて整理して居ります。循環式整理方法に付きましては、或る場所で試みたことがありますが、其結果は良くありません。將來尙ほ箇々の場所に付きまして循環式整理方法を用ひて攻究することに致して居ります。

交叉點外に於きましては、一方交通式の整理法も或る特殊の場合に於ては之を實施して居ります。

次に分路式整理方法であります。銀座とか二重橋の前とか、特殊の場所に付て此方法を取入れて居ります。警視廳に致しましては大體に於て斷續式整理方法を採つて居りまして、箇々の場所に付て他の方法を實施することに研究を進めて居ります。まだ今日申上げる程度に達して居ないことを遺憾に致します。

整理方法に付きましては今日私共の管下に於きましても、警察署毎に、或は交通巡査毎に従來區々であつたのであります。此方法を統一して一定致しますことは交通の安全に極めて關係が深いと考へまして、昨年十一月に於て之を一定致しました。それに依つて今日實施を致して居ります。其後、不完全の部分を訓令を以て尙ほ之を明かに致しましたし、外部に對しては警視廳の告示を以て此方法を發表して、一般の諒解を求めることに致しました。此内容の主なる點は、信號機の信號の中に注意の信號を入れましたこと、巡査の手信號の方法を一定致しましたこと、電車の停留場に於て諸車の停止線を設けたること、電車の乗降客に便利を圖ることと云ふのが、今回の統一されました方法の眼目であります。今日交通巡査のやつて居りますことを御覽を願ひます。まだ未熟であります。大體に於て以前より統一が附きまして相當成績を擧げて居ることを喜んで居る次第であります。

第三の

交通整理に關する各種の設備の統一

の問題であります。先づ安全地帯でありますが、東京市内に於きましては停留場の数が約千近くありますが、今日に於ては相當安全地帯を設けられたのであります。併し夜間の燈火の設備がありませんので、時に安全地帯に乘上げて大なる交通事故を起しますので、夜間の燈火の設備を尙ほ市にお願ひして居ります。

信號機は從來長く使つて参りました簡単なゴーストツブのものがありますが、復興の市に於て一步進んだものが欲しいと云ふ考を以ちまして、日比谷の角に自動式の信號機を一臺置きました。警視廳としては此自動式の信號機を成るべく多く置きたい考であります。財政の關係上思ふやうに参りませぬことを遺憾に致します。廻轉式の信號機に付ては電燈の設備をして夜間完全に使用し得るやう今日に於ては大分備へたのであります。

次に各種の標識は區々であります。停止線も乗降も、横斷歩道も云ふ、さう云ふ標識を一定致しまして、其形狀なり文字なり色合で大體一定して使つて居ります。市内を御覽下さいませ、さう云ふものが相當お眼に留まるこ考へます。

次に横斷歩道であります。法規に於て横斷歩道を認めたのであります。的確に何處が横斷歩道であるか此標識が不十分であります。僅に棒を以て、或は白煉瓦、赤煉瓦、白いコンクリートを以て横斷場所を標示するに過ぎませぬ。先般トラフィック・ペイントを以て日比谷で試みましたが、日本では泥がありますし水を撒きますから、塗つたペイントが直ちに剝けますので、失敗に了りました。左様なこで大體交通整理の諸標識の完備を圖りたいと考へて居ります。次に

交通道德の涵養

の問題であります。私共が交通道德の涵養に付て採り來つて居ります事柄に付て、御参考迄に申し上げたいと考へます。警視廳に於きましては昨年十一月以來毎月二回づゝ、一回三日間、即ち一日より三日間、十六日より三日間、之を交通安全デーと致しまして、非番巡査を集めて交通安全デーを行つて居ります。大體交通事故の二割以上三割迄を減少して居ります。

次に春秋二回に亘りまして警視廳、東京市、交通安全協會の三つが聯合致しまして、三日間づゝ出来るだけ廣い範圍に於きまして交通安全デーを実施して居ります。其成績は良いときは大體交通事故の四割位迄減少して居ります。交通道德の涵養、注意を喚起するこが事故の減少に深い關係を持ちますこは、安全デーの実施に付ても統計的に分かるのであります。

次には交通機關に従事する方面の一時的豫防の方法として、自動車業者又は自轉車業者に向ひ、交通事故防止會或は交通安全會の設立を勧めまして、今日に於ては各警察署毎に交通事故防止會が出来、七十餘りの多數に上つて居ります。而して聯合會の組織に進んで参りまして、近く活動に移るこに致して居ります。

次には學校生徒に對する交通道德の涵養であります。管下には神樂坂警察署管内に於て中學校の生徒、小學校の生徒を、適當なものを交通主任と致しまして、登校又は放校のときに、其學校の周圍の交通の整理に當り、それに依つて自から訓練を受けるこに致しました、既に實施を致して居ります。斯様な各種の方法を以ちまして、交通道德の涵養に努力致して居るのであります。

自動車並に自轉車の取締

に付てやつて居りますことを次にお話致します。

管下の交通事故の半數は自動車の事故であります。故に自動車取締を嚴重にするこゝは交通事故の防止に極めて重大の關係を持つて居ります。それで毎月一回づゝ各警察署に於て自動車の一齊取締を行つて居ります。又管下一齊の取締を年に一二回づゝ行つて居ります。隨て昨年から今年迄の自動車の交通事故は前年に較べて約一割の減少を來たして居ります。是は大體に於て取締を嚴重に致しましたこゝゝ、自動車營業者の注意を喚起致しましたこゝが其原因であるを考へます。

自動車の速力に付ては、警視廳に於ては大體二十哩又は二十五哩の速力を認めて居ります。交通巡查がオートバイを持つて居りますから、さう云ふ働きに依つて過度のスピードの濫出を取締つて居る次第であります。

運轉手の車體検査に付きましては、嚴重に之を行ひました結果、大體車體の改善は良くなつて居る積りであります。

法規の違反に付きましては嚴重に處罰を致して居ります。轢逃げをするこゝか、重大の過失に依つて事故を起したときは、免狀を取上げて居ります。一旦取消を受けた者は三ヶ年間は再受験の出願を拒否致して居ります。

運轉手の試験に付きましては、一ヶ年間に六萬人の試験をして居ります。隨つて相當嚴重な試験を行ひまして濫りに試験の受かるこゝを防止して居る次第であります。

尙ほ最近出ました自動車泥棒——殺人でありますが、あの爲に私の方では指紋を取りまして、運轉手の免許を

を與へて居ります。

次に圓タクの流しの問題でありますが、私の考へて居りますこゝに付て御參考迄に申し上げます。管下の圓タク業者は約八千臺の數に上つて居ります。此多數のものは車庫賃の安い郡部に籍を卸して、日曜又は夜間に於て銀座淺草方面に流れて、専ら營業に當つて居る次第であります。

東京には駐車場の設備がありません。私共の方に於きましては、道路の交通上差支ない場所に駐車場を置いて流しを禁止して見たらさうか云ふこゝで、市内に大體二十箇所の場所を見付けまして目下東京市に交渉して居りますけれども、到底是では流しを禁止するこゝは出来なからうを考へます。料金の問題でありますが、最近多少なりとも圓タクの料金を合理化して行きたい云ふ考を以ちまして、二哩迄五十錢、其上は三分の一哩毎に十錢を増す。さうして遠近の距離に依つて料金を合理化して行かう云ふ此制度を設けて、大約千臺の五十錢タク云ふものが現れて居ります。尙ほ今日此問題に付きましては、色々の事柄を考へますれば、或は流しの道路を指定したからさうか、或は歸り途だけ流しをやらしてはさうか云ふ、色々研究を續けて居りますけれども今日に於ては未だ名案がありませんから、若し御名案がありましたならば御聞かせを願ひたい云ふ事を切望して置く次第であります。

之に關聯しまして東京市内の乗合自動車のこゝでありますが、警視廳に致しましては、東京市内のバスは大體市營に之を許可致さう云ふ方針であります。偶々市に於きましては、七ヶ年の計畫を以ちまして七百萬圓の豫算で、此東京市内に、又郊外に亘ります大都市の端の交通網を立てたい云ふこゝがありますので、此帝都内の

尙ほ此各警察署管内の、根本的交通整理の方策を立つる爲に、交通事故の原因調査を致すことにして居ります。場所の關係も、時間の關係も、之に依つて交通事故の起る基本的原因調査を進めまして、此數字に依つてそれ／＼各警察署に於ける交通對策を講究することに致して居るのであります。最後に

交通統制の根本の問題

であります。大體御覽の如く路面交通でありまして、或は電車、自動車、荷車、自轉車、人、皆路面の交通に依つて居りますが、私共が交通整理に當ります上に付て、非常に困難を感じて居るのであります。是は希望でありますけれども、都市問題會議の如きに於きまして、此交通の狀態に統制を與へ即ち諸外國の例の如く、或は高架の電車を持ち或は地下鐵道を持ちますならば、今日よりもより能く市民の交通安全を期し得ることを考へまして、斯う云ふ點に付て何ぞか承りたいものであることを云ふやうな希望を申上げて置く次第であります。

東京でも場所的に地下道の申請が参つたことがあります。例へば銀座の尾張町の地下道、上野の松坂屋前の地下道、斯う云ふものの申請が参りましたけれども、東京市の地下鐵道の路線に當つて居りまして、遺憾ながら之を許可することが出来なかつたのであります。將來を考察致します時に、地下道が出来まするし、又今日の地下鐵道が段々發展を致して参りましたならば、一層我が帝都の警視廳管下の交通狀態は極めて改善されることを考へます。

以上要點でありますけれども、警視廳管下に於ける交通整理の狀況を御參考に御話したのであります。

(演述連記)

交通系統を單一にし、經濟の無駄を省き、交通の利便を圖る爲に、出来るだけ此種の案を尊重致しまして、昨年来市内に於ては絶対に個人のバスの營業を許さないといふ事に致して居りますけれども、市に於ては財政の關係がありまして、なか／＼此七百萬圓の案が出来ませぬので、私の考へて居りますやうな大都市の端の交通網が出来上らぬことを甚だ遺憾に考へて居ります。

以上自動車に付てやつて居る事を申上げたのでありますが、次に自轉車であります。管下には約五十萬臺の自轉車があります。自轉車の事故が非常に殖えて参りまして、大體昨年に於きましては、三年から比べますと約倍化して居ります。是が爲に今年に於きましては、自轉車の一齊検査を致しまして、車體を改善するやうに同時に所有者に注意を與へることに致しまして、仕事を致して居りますが、尙ほ十分でありませぬので、今後自轉車に關しまして相當なる取締を致すことに研究を進めます次第であります。

交通巡査の勤務

に付て御話し申上げたいと思ひます。私共の方では六百四十八名の交通巡査を持つて居ります。市内に五百二十三名、郡部に百二十五名の交通巡査を持ちまして、専ら之に依つて交通整理を致して居る次第であります。此配置は、固定的に配置を致したり或は時間に依り、其日の形勢に依りまして移動的に此巡査を配置致して居ります。此他に二十名のオートバイ隊がありまして、自動車の取締を主として居ります。交通に關係致します取締は専ら交通巡査がして居るのであります。それで先づ此交通巡査の訓練と云ふことが大事であります。昨年以來鋭意交通巡査の訓練を致しまして、以前に比べるに交通巡査の勤務に付て改善を試みられて居ります。

(七) 受益者負擔金賦課標準の技術的考察

河北一郎 君

受益者負擔なる制度は、都市計畫法に依つて制定されましたのでありまして、即ち受益者負擔を課しする事業は、都市計畫で認めた事業であるならば、如何なる事業でも受益者負擔を課し得ると云ふ事と、もう一つは都市計畫事業に依つて顯著に利益を受けた者だけに此受益者負擔金を賦課するのであると云ふ事と、而も其賦課する率は受けた利益の全部又は一部に止まるのである。それ以上の工費を受益者負擔として課することは出来ないのであると云ふだけの制限でありまして、受益者負擔金を課し得る範圍と云ふものは非常に廣い、自由裁量を容されて居る程度のものであります。さうして之を取締つて居るのは、各都市が之を執行します時には、内務大臣の認可を受ける、即ち其統制は、全部内務大臣に一任してあるのであります。

此法律が施行せられて以來、既に十年餘り経て居りますので各都市色々な規定を作りまして勅令として發布されて居りまして、既に十餘年間施行されて居るのでありますが、其方法は大同小異であります。兎に角年と共に進歩して來て居るやうであります。一番初めに出了た勅令から見ますと、後から出るものは後から出るもの程進歩して來て居るのであります。是は當然だと思ひますが、併し未だ最近の規定を以て十分であると云

ふことは言ひ兼ねはしないかと思ふのであります。尙ほそれに付ては、今後都市計畫事業が盛んになればなる程此問題に付て深く研究する必要があるのではないかと考へるのであります。それには、法律的にも經濟的にも、受益者負擔金を計算するに付ては、色々研究を要する問題が残つて居るやうであります。私は技術者として、唯此受益者負擔を計算する。技術上の見地から、斯うでもしたら宜からうと考へて居ります一つの私案を此席で御報告を申し上げたいのであります。

第一、受益者負擔金の總額を如何にするかと云ふ問題であります。是は現行の行政實例を見ますと、道路新設の場合には大體工事費の二分の一から三分の一、道路を擴張する場合には其總工事費の三分の一乃至四分の一、道路の場合にはさう云ふ風になつて居ります。下水道事業の場合には、大體改修費の三分の一から四分の一と云ふ位の程度になつて居るのでありますが、此道路の新設の場合には二分の一乃至三分の一擴張の場合には三分の一乃至四分の一と云ふ程度は、どう云ふ點から定めたのであるかと云ふ事は、定めた根本の觀念は、内務當局の方々からも能く承つて居りませぬが、私が考へるには、まあ是位の負擔なら堪へ得るし、又是位なら負擔としても宜からうと云ふ大體の目安から來て居るのでないかと思ふ。又どうも目安からさう云ふ事を定める外、其當時には方法が無かつたのは尤もだと考へるのであります。

斯様にして是が各都市に執行されまして、其實績を今回の此會合に各地方から御報告になつて居ります。それを拜見致しますと、大體是位の負擔は樂に負擔し得るやうな結果になつて居るやうであります。中には負擔金に對して約十數倍の利益があつた、負擔金は輕過ぎる、もつと取つても良いと云ふやうな御報告もあり、又さう

大して何倍何十倍といふ利益はなかつたが、兎に角重くはない、軽い嫌ひがあると云ふ御報告もあります。

それは此問題に付て、實は私は東京市の復興計畫の區劃整理を段々致しました結果として、換地處分所謂清算金の問題を道路の幅、工費といふやうなものから計算致しました。其經驗から致しまして一つの方法を考へたのであります。それは新しい宅地に對して、今迄道路のない新しい宅地に對して、之に沿ふ必要な道路の幅の最小限度はどの位であるかと云ふことを考へますと、今日の「トラツク」なり自動車なりの交通機關の發達から見ますれば、一つの宅地は最小限度八米——四間の道路に沿はなければ、宅地の效用を發揮することは出来ない。故に宅地が新しく道路に沿ふ場合道路幅員八米分は其宅地が絶対に負擔すべきものとする。隨つて道路計畫で二十四米——十二間の道路を作れば、其隣接する土地は尠くともその三分の一即ち八米丈だけは工費を負擔すべきものである。新しき道路が新設されば、新設の道路が二十四米ならば、其工費の三分の一は當然負擔すべきものである。十六米の道路を作れば其二分の一は負擔すべきものである。四間の道路を作れば工事費の總額を負擔して良いと云ふやうに考へたのであります。

それからモウ一つ、最小限度は八米でありますが、都市に於ける土地を上に使ふことは、八米では三階がやつとであります。二十四米になれば五階七階と上に土地を利用することが出来る。立體的に土地を利用すること、道路二十四米とか八間とか云ふ道路の交通量、或る道路は交通量が多いが或る道路は少ないと云ふ所がありますから、其交通量と、それから立體的に利用するものとを二つ合せまして、之れを道路の品位として、其品位に依つて、一割五歩乃至二割を受益者に掛けるのが宜しいのではないか。隨つて二十四米——十二間の道路を新設し

たしますれば、事業費總額の八米に相當する費用即ち三分の一に、道路の品位より来る負擔を假に二割としますれば之を加算したる額即ち $\frac{1}{3} + \frac{2}{10} = \frac{16}{30}$ 三十分の十六約二分の一強位は負擔すれば良いではないか。又十六米の道路でありますれば、幅員に依る負擔割合二分の一と、道路の品位よりの負擔割合を一割とすれば、合計負擔總額を $\frac{1}{2} + \frac{1}{10} = \frac{6}{10}$ 事業費の十分の六として良いのではないかと考へるのであります。

それから道路の擴張の場合には、例へば三米であつたのを今度は十六米に擴張する場合は、其道路の負擔は普通ならば十六分の八でありますが、既に三米の道路を持つて居るのでありますから、其負擔の割合は八米から三米を引いて十六分の五を負擔すれば宜しい。さうしてそれに品位の率を加へたものを此土地に賦課すれば宜しいと考へて居ります。此報告書には分母の十六米から矢張三米を引いて居りますが、それは引かずに分子の八米から三米引いた丈で宜しいのであります。次に下水道工事のこともありますが、時間がありませんから道路だけに止めて置きます。

第二、負擔區劃の問題に付ては、今日迄の内務省令の實例に依りますと、道路の新設擴張に對しましては、其負擔區劃は道路の境界線より道路幅員の三倍とし、必要ある場合は十倍として居りますが、東京市のは大抵五倍、東京府は七倍迄を賦課することになつて居ります。道路幅に依つて負擔區域が廣くなり狭くなると云ふことはどうか知らんと考へるのであります。舊市街に於きましては道路が一本擴つても、其道路から又もう一つの道路を超えて負擔させる利益があるかどうか疑問と思ひます。郊外地に於ては新しい道路が出来れば、かなりの幅まで利益の及ぶことは當然であります。道路系統の澤山ある市内で眞中に道路が開けた爲に、次の道路を超えてま

で其利益があるかどうかと考へるのであります。のみならず負擔區域は常識的に極まるものでないかと考へます。市内には鐵道高架線もあります。下水運河もあります。人工的天然的の障礙物がありますから、又土地の高低起伏もありますから、自から土地の負擔區域は其土地々々に依つて極まるべきもので、是は内務省に色々規定もありませうが、地方廳に任せて極めた方が實地に嵌つて良くはないかと思ふのであります。少し飛ばしますけれども、次に負擔區劃に對して負擔金額をどう配分するかと云ふことに移ります。

今日内務省令の實例に依りますと、道路の開口割と奥行割と二つに別けまして、新しい道路に接した開口には負擔金の三分の一を賦課する。三分の二は奥行割に賦課するとなつて居りまして、之を何れも三地带に別けましてそれ／＼負擔額に等差を設けてはありますが、是も旨く行けば宜しいが、どうも公平でない場合が起りはしないかと思つて居ります。其實例は幾らでもあります。一例を申し上げますと、新しい道路に接して直ぐに裏に道路のある場合と、ない場合とあります。新しい道路が出来ても其間に一本小さい道路のある場合は、小さい道路から向ふの土地は真中に道路のある爲に利用することが出来ない。道路のなかつたときは利用が出来たが、真中に道路があると新しく出来た道路も利用することが出来ない。それにも拘らず負擔金が同一であると云ふことは少し不合理でないかと考へるのであります。到る所に斯う云ふ問題は起ると思ふのであります。それでさう云ふ場合の救済策としてどうすれば良いかと云ふことは、受益者負擔金を負擔する趣旨から言つても、利益のある者に負擔させると云ふのでありますから、道路を作る以前に其土地の評価を附けて、それから道路を作つた後に其土地を實際に評價して、其利益の差額文けに對して按分して賦課するのが公平でないかと思ふのであります。然らばそ

れに關係する多數の土地を評價することはむづかしい事でないかと云ふことが起つて来る問題であります。それは今回東京横濱の復興計畫に於て約八百萬坪の土地に對して區劃整理を行ひまして、其當時約二十萬筆程ありましたが、之を僅かな人に依つて全部評價したのであります。其評價方法を採れば割合に簡単に評價が出来るのでないかと考へて居るのであります。其評價方法は路線價評價方法と稱するものでありまして、世間に報告して居りますし、此報告にも書いてありますが、復興局の印刷物を御覽になれば大抵出て居りますが、片鱗文けでも申上げやうと思ひますけれども時間がありませんから抜きまして、其報告を御覽を願ふことに致します。

さう云ふ風に致しまして負擔區域を定め、負擔金の總額を定め、さうして負擔金を按分すれば、今日の受益者負擔金に就ては可なりの議論があり、東京市などには色々陳情が出て居るのであります。それ等はさう云ふ風にすれば幾らか救済が出来はしないかと思ふ。併しながら之を以て全部救済することは是は無理だと思ひますから、私は最後の問題として、受益者負擔金を取るよりも、受益者負擔金を取る區域を一團として區劃整理をやるのが一番良いのではないかと云ふ風に考へるのであります。

道路の新設とか擴張——擴張の場合には割に樂であります。道路を新設する場合には、新設した道路に沿うた地面と云ふものは、大體に於て不整形の土地になるのであります。一宅地として利用の出来ないものや、色々不整形の宅地が出来るのであります。是は、其利用の困難な土地が残ると云ふ事は免れないのであります。さう云ふ事を救済するには、どうしても區劃整理に依るのが宜いのではないか。所が區劃整理をやれば宜いと云ふ事は分つて居るが、其地域内の家の移轉に非常に金を要するから、是は到底行はれないと云ふ風な議論が可なりあ

るのであります。それに就ては、東京市内の所謂區劃整理の六十五地區の主なる地區に就て、有ゆる費用を拂つたものを一々計算したのでありますが、其結論だけを申し上げますと、一本の道路を新設する場合には、其道路に對して路幅の四倍乃至五倍を取つて區劃整理をやれば、其用地買收費だけで移轉が出来る。それで其道路に潰れる用地だけを其組合に無償で提供させれば、新設する道路の買收費だけで家屋の移轉費用を償つて餘りがある。工事費はどちらになつても要することは同じであります。土地の買收費だけで移轉が出来て、受益者負擔の金位は剩つて来る。さう云ふ計算になるのであります。

其實例と致しまして、今東京で二三設計して居りますが、それは遺憾ながら此處で御報告する程の數字が未だ出て居りませぬが、最近に其數字が的確に出るだらうと思ひます。先づ路幅の四五倍まで御取りになつて區劃整理をやると云ふことは確に利益であると思ふ。東京市内で既にさうでありますから、若し之を郊外に持つて行つてやるならば、郊外は宅地が至つて少ないから、一層其利益は多いだらうと云ふ風に考へるのであります。さうすれば、受益者負擔金を取るとか何とか云ふやうな面倒な手續はすつかり除くことが出来て、甚だ都合が好いかと思ひます。

(八) 受益者負擔制と其問題

堀切善次郎君

一 受益者負擔制の本質

受益者負擔金の制度は、御承知の如く、只今の法制の上に於きましては都市計畫法及び道路法に其根據を有して居るのみであります。此法律の出来ましたのは大正八年でありまして、比較的新しいのであります。歐米各國の例に致しましては大分古くから可なり徹底的に行はれて居るやうであります。我國に於きましては、上述の如く未だ比較的其歴史も新しく、又僅に以上の二つの法律のみに限られて居る次第であります。

御承知の如く、都會の發展が著しくありまして、さうして此都會地に對しまして色々な事業をやる必要が頗る多くなる。現在に於きまして、各都市共に新しい施設、新しい事業が山積して居るやうな状態になつて居るのであります。之に對しまして一方財源は益々逼迫致しまして、何か工夫を凝さなければならぬ時に當りまして、此受益者負擔金の制度は、財源の問題に致しても、洵に重要な地位を占めるのであります。さうして一方に於きましては、都會地其他に於きまして、公の事業を営みます爲に、土地の所有者其他が、それに依つて著しい利益を受ける事は、事實がそれを證明して居るのであります。それ等の人々は、何等自分の方からの犠牲

を拂はずに、所謂不勞の利得を澤山に得ることになりますので、其不勞の利得の全部又は一部を提供せしむる云ふ事は、公平であり妥當であるのであります。さうしてそれが事業費の財源に充當される云ふ事は、最も正しい、最も公平な制度であるを考へるのであります。受益者負擔金の制度は實に、斯う云ふやうな趣意から設けられたのであります。

所謂不勞利得を提供せしむる云ふ事に就きましては、色々な案が考へられるのであります。一方に於きましては、受益者負擔金の制度の外に、所謂土地増價税、或は土地の差増税云ふやうな種類のものも考案され、現に他の國に於きまして之を實行し、又著しく成績を擧げて居る例も非常に多いのであります。是等も矢張、都會地其他に於きまして、公の事業に依つて段々土地の値段が上つて行く、土地の所有者は黙つて居る間に益々其土地の價格が上つて利得を致しますから、其利得に對して課税をしよう云ふ考から出て居るのであります。此土地増價税云ふやうなもの、精神に於きましては受益者負擔金と同じ精神から出て居るのであります。

都市計畫法の中にも、此土地増價税云ふ事は實は豫想されて居りまして、都市計畫の財源に致しまして、地租割、營業收益税附加税、其他家屋税、雜種税の附加税云ふ事を規定されて居ります。其條文の終りに其他勅令を以て定むる獨立の租税、それを都市計畫の財源にすることが出来る云ふ規定があるのであります。此規定の運用に依りまして、土地増價税を勅令を以て設定しても差支ない筈なのであります。少しも法律は必要でないのであります。前に内務省に於きまして、其案を進め、相當程度まで大藏省の諒解も得て進めたことがあつたのであります。各方面の色々な事情に妨げられまして、今日未だ是が實現して居ない事は、甚だ好い財源を失つ

て居る次第でありまして洵に遺憾に堪へないのであります。此制度がない今日に於きましては、受益者負擔金の制度が、此種類のものの中最も効果の多い制度になつて居る譯であります。

此受益者負擔金の制度は、只今の所では、都市計畫法に道路法の規定に基いて、受益ある者に對して賦課されて居るのであります。特に利益を受くる者に對して特別の賦課をしよう云ふやうな觀念は、色々な法規の上に現れが見えるのであります。市制、町村制、府縣制等に於きまして、或は或特別の利益を受くる者に對して一部の賦課が出来るか、或は特別の人に對しては特別賦課が出来るか、云ふやうな規定が設けられて居るのであります。此市制、町村制等に規定されて居ります所謂一部賦課或は特別賦課云ふやうな制度は、是はそれを賦課する場合に於きましては、或は市税或は町村税云ふやうな方法に依らなくてはならぬのであります。即ち今此處で問題になつて居ります此受益者負擔金の制度云ふものは別なものになるのであります。

考へて見ますれば、一方に公の事業の爲に財源が要り、さうして其事業に依つて著しく利益を受くる者がある云ふやうな場合には、其者の受くる利益の全部又は一部を提供させても差支ない、それが妥當である云ふ事は、單り都市計畫の事業及び道路の事業には限らない筈であります。併ながら只今の所に於きましては、此二つの法律に限られて居りまして、さうして是が今日迄に約十年間既に施行されて來て居るやうな次第になつて居るのであります。

二 受益者負擔制の發達と土地負擔餘力

此都市計畫法並に道路法に依る受益者負擔金の制度の現在のやり方、現在の状況云ふことに付しましては、第二回全國都市問題會議を開くに就きまして、東京市政調査會の手で、各都市其他から御調べを願ひました、參考資料の中に網羅されて居るのであります。是は私共が見ましても非常に好い參考書でありまして、此參考資料の二冊目と三冊目の方に——三冊目の方には各種の法律規定、受益者負擔に關する省令、取扱手續等が、都市計畫法に依るもの、道路法に依るもの、悉く網羅されて居りまするし、第二の方には、是は亦一つの表になつて、各都市各地方の現在の狀態が對照が出来るやうになつて居るのであります。是は是非御利用になりますやうに、此機會に於て御薦めして置く次第でありますが、此規程を見ましても、我國に於きまして實施以來約十年の間に、各都市に於きまして色々の事業に付て此規定が發布されて居ります。都市計畫法に基く事に付きましては内務省令を以て之を規定することになつて居りまして、内務省令を發布して貰つて、それに對しての細かな取扱手續を各市長其他で定めることになつて居ります。

此受益者負擔金規程の内容を、各地方の分を比較して見ましても、同じ道路に對する規程でありまして、或は下水道に對する規程でありまして、多少其規程の内容が違ふのであります。固より各地方それ／＼事情が異なるから、各地方々々に依つて規程の内容が違ふのは勿論であります。其他同じやうな事柄に付きましては此規定の方法が、現在の規程に於て既に多少違つて居りまするの、段々之を見ますれば、新しく出來ました規程である程色々の從來の缺陷が補はれて居る云ふ事が明かになるやうであります。詰り同じ内務省令でさう云ふ風になつて居るのでありますから、今後斯う云ふ規程を御作りにならうとする地方の方、或は現在の規程に付て

*「第二回全國都市問題會議參考資料」甲編及乙篇。

色々不便の點を持つて御在でになる地方の方に於かれましては、之を參考にして、此中の最も工合の良いやうな規定を採つた規程の發布を内務省に申請され、或は從來の規程の改正を申請される云ふ事になりますれば、從來の經驗を悉く網羅した規程が出來上ることになるであらうと考へます。此點は恐らくは内務省に於かれても、先例もあり、他の地方に同じやうな規定のあるものに付ては格別御異議のないことと思ひますので、此機會に於きまして此點は皆様方の御注意を願つて置きたいと思ふのであります。

此各地方からお出しになられました色々な實情の調の中に、なか／＼詳しいものが出て居りますが、例へば其一例を茲に採りまして東京市の方から出しました調で、土地負擔の現狀がさうなつて居るか、其負擔力といふ所の例を見まして、東京市内に於ては一坪當りの法定地價は七圓三十六錢になつて居ります。之に對しまして是は明治四十三年も昭和四年も同様でありまして、七圓三十六錢になつて居ります。是が標準になつて地租、地租附加税が賦課されて居りますが、此調に依りますと、一坪に對しての收入が色々なものを差引いて、昭和四年の調に依りますと八圓八十四錢といふ數字が出て居ります。明治四十三年頃よりは十數倍上つて、法定地價に對しまして此一年の利益の割合は百二十％といふやうな調が明瞭になつて居るのであります。是は只今のやうな昭和四年の此調査のときよりは土地の價格、實際の賣買の價格、或は賃借料の收入は、目下の狀態は經濟上の壓迫を受けて幾分下つて居ると思ひますが、大體に就て考へまして此大都會に於きましては、今日課税の基礎になる法定の地價は著しく低い、随つて土地に對して負擔の餘力は著しく餘計に存在するものであるといふ事は明瞭であります。是は大都會になればなる程此現象は明瞭でありまして、都會が大きくなければ法定價格、實際の賃借料其他

収入の割合は左程大きくありません。併し大體から考へまして、法定の地價と實際賣買の價格は、都會地に於ては可なり大きいのであります。そこで大きな負擔の餘力があるといふことは想像して差支ないのであります。各都市の實情は以上の参考表の中に可なり詳細に出て居りますが、此受益者負擔金制度は土地に對する負擔の制度と謂つて差支ないのであります。都市計畫法の上では特に利益を受くる者に對して其受くる利益の全部又は一部を取つて宜しいといふことになつて居るのでありますが、今日迄色々實際に綜合致しました實績を見ましても、土地に對する負擔になつて居るのであります。都市計畫法に於きましては、之を徵收する仕事は都市計畫事業であれば、何でも良いといふ建前になつて居りますが、之を負擔するものは勅令を以て指定をされて居るのであります。其勅令に依りますと都市計畫事業をする色々な土地の有租地の權利者、有租地の所有者、それに地上權、永小作權、賃借權ある場合には云々、無租地であつてそれが公用又は公共用に供せられないものであるならば、地上權者、永小作人及賃借人といふことで、土地の權利者が負擔することになつて居るのであります。つまり此制度は土地に對する負擔になつて居るのであります。尤も受益者負擔金制度の中で、例へば道路法に基くものであります。所謂道路の損傷負擔の如きものは各地方の例に依りましても、或は自動車營業者、トラックの乗用者といふやうな人が負擔することになつて居りまして、そこは工合が違ひますが、都市計畫法と道路法の大部分は物上の土地に對する負擔になつて居るのであります。さうして土地に對する一般的の負擔の狀況、負擔の餘力に付きましては、そこに非常に餘力が存在して居ると申して差支ないのであります。且つ此市街地及それに近い土地の所有者は、黙つて居て自然に一般の土地の發展に伴つて土地の價格が上りまして、不勞利得を得ることが非常に

に多いのでありますから、隨つてそれに依つて此事業の爲に利益を受くるやうなものに對しては、其利益の中の幾部分を事業費に提供する、受益者負擔をさせるといふことは當然のことであり、且つ妥當公正のことであると思ふのであります。

三 受益者負擔金賦課上の諸問題

(一) 此受益者負擔金制度に付きましては色々な問題がある譯であります。賦課技術上の問題としては、河北氏の負擔區域に對しての一つの新しい案、負擔金額の増額に對しては是亦一つの新しい案、負擔金を賦課する標準に付ての一つの新しい案、是はこれ迄各地方で行はれて居りました方法は違つた全く新しい一つの提案であります。同君が今日迄非常に長く苦心をされました豊富な經驗から此新案を提唱されたのであります。此案に對しましては吾々も多大の敬意を表する次第であります。從來のやり方と此新提案とを充分比較研究を盡したものの考へる次第であります。

(二) 法律上の問題と致しましても色々な問題があります中に、第一にお話を致したいと思ひます。これは、受益者負擔金は土地に對する負擔になつて居りまして、此土地に對しましては有租地の義務者が負擔致しますことが原則でありまして、無租地に對しましては負擔を課せられないのであります。是は都市計畫法の受益者負擔規定を承けました内務省令がさう云ふ規定になつて居るのであります。所が吾々實際の仕事に當りましては各地方地方皆同様と思ひますが、殊に大都會に於きまして尙ほ其回收に事故が多いのは、殊に此官有地其他の無租地で

あります。此等の土地が割合に餘計市内に存在致しますが爲に、受益者負擔金の實際の收入が豫定の如くに参りませぬ云ふやうな實情が非常に多いのであります。さう致しますれば此官有地或は無租地に對して受益者負擔金を取らない云ふことが正當であるか、之を取ることに致しては不當なものであるか云ふことを考へます。色々な場合に就て考へて見ます。多少其程度の違ふ所はあるのであります。現に名古屋邊りに於きましても問題になつて居るやうに思ひますし、東京に於ても直ぐに問題になるやうでありますが、一つの例を申しますれば例へば港灣の事業に依つて埋立てた埋立地であります。地租條例の第十六條に依つて新開免租の土地になつて居りまして、土地の所有者に對して受益者負擔を課することが出来ないやうになつて居ります。今日此等に對して受益者負擔を課することが出来ない、無租地である云ふことは、邊鄙な土地に於て廣漠たる原野を新たに開墾するとか、或は不便なる土地に於て乾拓をする云ふやうな事を豫想した規定であつたと思ふのであります。大體の港灣の築造に依つて立派に出來上り、立派に利用され、相當經濟上に活動する土地に向つて受益者負擔が課せられない。そこに道路を造り下水を造るにき受益者負擔が課せられないことは理由がないやうに思はれるのであります。これは一つの例であります。其外或は官有地に致しまして、官有地の中にも直接公用又は公共用に供せられ居るもの、或は供せられて居る雜種財産云ふやうな色々な區別はありますが、雜種財産に就て考へましても、無租地であります。雜種財産は國有地であつて、何等公の用に供せられてない土地であります。それが所有者が唯國であるといふ理由を以て受益者負擔金を課してはならぬ云ふことは、さうも理由がないやうに考へられるのであります。又官有地に付ても役所の敷地とか其他直接公用公共用に供せられて居る土地に

對して、其附近に或は道路下水が出來たから云つて受益者負擔金を課することは無理のやうな感じも致しますが、併し一方から考へまして、さう云ふ土地が近く或は其内に公用公共用に廢止せられて賣拂はれるやうな場合に於きましては、其際に價額の上に多大の利得をして居ることは一個人に違はないのでありますから、斯う云ふやうな所は何か考へても良くはないか。東京でも砲兵工廠は移轉することになつて居ります。其敷地は復興事業で特別の關係になつて居りますが、あの附近に道路を新設されたに假定すれば、其費用を負擔し得られるものならば負擔して貰つても良いやうに考へられるのであります。東京市の近土木局長の御意見として、さう云ふことは後に國有地が處分される場合には、遡つて前の事業費に對する受益者負擔金を課することにしようか云ふ御提案もありますが、一應御尤も思はれるのであります。

斯う云ふ風に、官有其他無租地に對しましては、只今の所で此内務省令の中に先刻の規定がありまして、受益者負擔金を取らないことになつて居りますが、取つて宜い場合が非常に多いと思はれます。

然らば之を取る云ふことにして、さう云ふ方法にして取つて行くか云ふ手續を調べて見ます。さうも是は、先刻の都市計畫法を承けて、受益者負擔金を取るのは斯う云ふ者から取るのだ云ふ、根本の規定になつて居ります内務省令の、有租地の所有者云ふ有租地云ふ所を改正さへして貰へば差支ないやうに解釋が出来るのであります。頗る簡単な問題のやうであります。

尤も官有地等に關係しますれば、事實の問題としては内務省と大藏省と交渉されて、大藏省の同意を得らるゝことが難かしいか知れませぬが、法律の解釋としては、内務省令の改正して此事は實行が出来るものゝやうで

あります。是等の點に付ては内務省に御願ひをしたいと思います。

(三) 尙ほ此機會を利用致しまして、私の「第二回全國都市問題會議研究報告」書の中の此點に關しまして、地租條例第四條に、公有土地は地租を課せない云ふ規定があります、其中に『前項ノ土地ニ租税其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス』と規定してありまして、是は地方税は課せられない、公課も課せられない、受益者負擔金も公課であるから課せられない云ふ解釋に斷定を下して置きましたが、私は其後色々の調を更に進めて見ます、是は府縣市町村其他公共團體の租税其他の公課を課することを得ず云ふ意味でありまして、さう云ふ解釋もありまして、受益者負擔金は、是は普通から考へるに少し變なのでありますが、只今の建前に於ては地方公共團體の課する公課ではなくして、行政廳の課する、即ち國の課する公課云ふ解釋になつて居るのでありますから、此『公課ヲ課スルコトヲ得ス』云ふ公課になるに、地方公共團體の公課でないから、此地租條例の第四條にも該當しない。随つて内務省令の改正のみを以て此點は執行が出来る云ふ解釋が出来るやうであります。此機會を以ちまして之を訂正を致して置くのであります。尤も此解釋も多少疑義があるかとも思ひますが、其事を申上げて置きます。

(四) 受益者負擔金が各個人々々に課せらるゝことは、從來の規定に於て皆同様なのでありますが、團體に對して受益者負擔金を課する云ふ事も一つの方法であります。例へば東京市なら東京市に於きまして郊外の町村に對して何等かの仕事をする。其場合には、各個人々々に對して受益者負擔金を課しても差支ありませんが、其代りに、其町村に對して受益者負擔金を課する云ふ事も亦一つ想像し得る方法なのであります。之もやり得る

のであります。さう云ふやうなやり方に付きましては、既記の參考資料の色々の項目に依りまして一應調べて見たのでありますが、さう云ふやうな實例は實は是迄無いやうでありまして、矢張他の町村に對して仕事をやる場合は、~~なり~~あります、其場合に於ても、受益者に直接受益者負擔金を課すればそれで宜いのでありますから、町村に對して受益者負擔金を課する云ふ實例は是迄に見付からなかつたのであります。唯、町村に對して受益者負擔金を課する云ふやうな此考は、或は砂防法に於て、或は河川法に於て、此特に利益を受くる町村府縣等に對して負擔を命ずることが出来る云ふ規定がありまして、殊に河川法に依る負擔等には、近頃此例は多いやうであります。水害を被つて居つた地方の町村に對して、其河の改修費の幾部分を、特別に餘計に負擔をさせる云ふやうなやり方は、近頃可なり多くなつて居るやうであります。

只今申した、さう云ふ河川法或は砂防法等に依る、町村に對して課する負擔金は、精神は同じやうなものであります、嚴格なる意味の受益者負擔金は違ひまして、是は其賦課せらるゝ町村が、其金を調達する場合に於て、一般町村に對する規定に依つて調達することになるのでありますから、之に該當する例は言へないのであります。唯町村に對して受益者負擔金を課する云ふ事も是から段々實際の問題になつて來ると思はれるのであります。

御承知の如く、東京市の郊外に於きまして下水道の建設の計畫があるのであります。是は各町村が、別々にやつて行く譯には參りませぬので、統一して考へて行かなければならぬのでありますが、さう云ふ場合には假に、其數箇町村を合せて、下水工事を東京府でも之を施行するに致しますれば、下水の負擔金は各個人に負擔させて

も、例へば浄水場云ふやうな共同的の施設に對する費用は町村に分賦する云ふやうな風になるだらうかと思はれます。さう云ふやうな關係で、段々是等の規定も適用は多くなつて來ると思ふのであります。

(五) 尙ほ受益者負擔金を徴収する事は、之を擴張する必要は無いか云ふ問題に付きましては、現在の規定に於ては、都市計畫事業であれば都市計畫法の規定に依つて取れます。随つて都市計畫區域内の土地に付ては其事業を都市計畫事業としてやれば受益者負擔金を取れるのでありますが、區域外に於ては道路法に依る道路費でなければ取ることが出來ないのでありまして、其他の仕事には及ばないのであります。是等に付ては、出來る事であるならば一般的に總ての事業に對して特殊の人に特別の利益を與へる場合に於ては其利益の幾部分を提供させる云ふ共通的の受益者負擔金の規定が欲しいものと思へるのであります。

(六) それから受益者負擔金は、前にも申上げましたやうに、租税は全く違つて居りまして、物的の負擔になつて居るのであります。随つて此受益者負擔金に付ても累進的の負擔をさして宜いぢやないか云ふやうな意見が、同研究報告書の中にも東京市政調査會研究員の小田君の意見として出て居りますが、是は新しい提案であります。併ながら斯う云ふ物的の負擔でありますが故に、是は寧ろ負擔力に比例する云ふ事よりは、受益の程度に比例する云ふ事が當然でありまして、累進率を之に適用すべきものか云ふ事に付ては疑があると思ふのであります。

(七) 終りに、河北氏の受益者負擔金を取るのも一つの方法であるが、同じやうな事は、區劃整理を執行することに依つても出來る云ふ御説がありますが、此説は非常に面白い説でありまして、是は十分、具體的に總て

の場合に應じて此説を研究して見る必要があるだらうと思ふのであります。唯、只今の所では未だ區劃整理を強制的にやつて行く云ふに付ての法規は整つて居りませぬから、それは十分研究することに致しまして、此受益者負擔金の制度云ふものに對しましては、出來るだけ此運用を擴め、從來の缺點のある所は、出來るだけそれを補ふ方法を講じて行くやうに、此制度の活用に努めたいと思ふのであります。

(八) 叙上の如く出來るだけ此制度を活用するに致しまして、最も必要であり、又諸君と共に出來るだけ努めたいと思ひます事は、此制度の趣旨制度の實際必要なる事、止むを得ない事、又此重要なる事等を、出來るだけ之を周密に市町村民、當該の人達に了解させまして、さうして成るべく此案の圓滿なる遂行を期するやうに致し、又一方に於ては、此やり方に付きまして、從來の方法の缺陷等のあります事に付ては、それは適當に矯正に努めて行きたいと思ふのであります。(演述速記)

第二 第一部會討議

一 序 説

前篇第一に記述せる如く、會議第二日午前九時より同十一時三十分まで、市政講堂に於て第一部會、即ち第一議題都市の郊外地統制に關しての討議を行つたが、その經過、内容左の通りである。部長白川朋吉氏故障の爲め理事林學博士本多靜六氏その任に就き、記録その他の會務は東京市政調査會吉山眞棹、龜卦川浩、小倉庫次の三研究員これを擔當した。尙ほ開會劈頭主報告者池田宏氏の追加報告があつたが、便宜上本篇第一に主報告と併せ收録した。

二 討 議

部長代理(本多靜六君)

本日の日程たる討議に移ります。先づ御参考の爲に昨日御申合せになりました議事方法を讀上げます。

第一 討議事項の演述は七分以内とす

第二 討議を爲さんとするときは通告を爲し議長の指圖に俟つ

第三 討議者は演述を爲したる事項の要領又は其

の原稿を成べく書記に通告せられたし

第四 討議事項は採決せず

只今までに申込を受けて居ります通告の順序に従つて進めて参ります。多少前後のあります所は御容赦を願ひます。

(イ) 特殊都市に對する「特別都市計畫法案」の施行要領

宇治山田市會議員 竹内正臧 君

私の申上げたいことは特殊の内容を持つ都市に對して特別な都市計畫の法案を立てられたいと云ふことであります。

茲に特殊の都市と申しますのは、一般都市は商業、工業或は其附近の物産を集散すると云ふことに依つて其都市の經濟の大部分を占めて居るに反しまして、其都市が或は歴史的に又精神的に乃至は日本を代表すべき遊覽都市、斯様な特殊の性質を持つ都市を稱したいのであります。或は今私が申上げたいことは、本日全國的にお集りになつて居ります此會に完全に共通は致しませぬかも知りませぬが、性質を同じくする都市の方に於かれては感を同じくせらるゝことと存じます。

それで非常に大なる六大都市が特別の都市計畫法案を要望する如く、又國家が要塞地帯であるとか又は國寶的の建築物に對して相當の統制を以てして居る如

くに、斯様な全國的の代表都市又は特殊の内容を持つ都市に對しては、國家としても相當特殊の法案を以て其土地の都市に對して出來得る限りの指導援助を與へられたい、斯様に思ふのであります。

宇治山田市の如きは倭姫命の草創に依り神宮御鎮座の地として二千年の古き歴史を有して居ります。年々百數十萬の旅客を迎へて居りまして、全く日本に於て精神的に中樞の都市であると言つても宜いのであります。昨年御遷宮の際に安達内務大臣は神都に見えられた節に、神都の色々な施設に付ては國家としても相當考慮しなければならぬと仰せられたのであります。洵に意義ある言葉と拜します。嘗て神都に於きましては神苑會と云ふものがあつて、是は明治二十年から三十年頃に亘つての事でありましたが、御下賜金を拜受しまして其他全國から淨財を得て其當時として百萬圓に近き事業をやつたのであります。それで神宮の神苑の開發及び擴張、其他神都に適する施設を爲したのであります。最近に於きまして、是が第二次的の計畫を有して居りまして、先づ一面に於ては市民が内面的に心の改善と、又外面的には聖地の計畫、神都の地をして現在の街のみならず附近の二見・

鳥羽、志摩の國方面の景勝の地を併せて大なる國立公園的の一つの聖地を樹立したいと、皆念願して居ります。是等の事柄は決して市民獨力を以て完全には爲し能はないのでありまして、宜しく天下に訴へ又國家の御指導御援助を得て完全にしなければならぬ事柄だらうと考へます。又斯様な性質を持つ都市としましては、外國の觀光團の關係を考へられますので、例へば京都市の如きは勿論のことでありますが、琵琶湖を持つ大津市、或は法隆寺とか吉野山を持つ奈良市、遠くしましては別府又東としては日光等の如く、外國の觀光團が絶えず來る地方に對しましては、相當考慮を要することと考へます。即ち外國の觀光團の來る箇所は謂はゞ日本の表通りである。觀光團が参りまして懐しの日本を見たい、憧れの東洋に來たと言うて、さうして日本の通りすがりの表通りである、其表通りに對しては出來得る限り其地方の計畫を進め、速に又特殊の立場を以て總ての施設をしなければならぬと考へるのであります。即ち斯の如く精神的に、詰り國內的にも亦對外的にも斯うした特殊の性質を持つ都市に對しては特殊の都市計畫の法案を以て、能く政府に於ても善處せられたいと存するのであります。

(口) 郊外に於ける都市計畫街路の計畫擴充

東京市土木局長 近新三郎 君

郊外に於ける道路は獨り幹線及び補助線道路のみならず、それ以下の道路も其計畫を定めて適當なる時期に其事業を實施しなければ都市の發達をして非常なる混亂状態に陥らしむるの憂ひあることは、獨り東京市の郊外のみならず其他の多くの都市に於ても現に嘗めつゝある所の悩みではないかと考へるのであります。

然るに第一に土地區劃整理を致さうと致しましても容易に之に基準し得る所の都市計畫が定つてゐない、第二に必要なるときに於て區劃整理を強制し得るの途は現在に於て備つてゐない、第三には區劃整理をするに必要な財源を融通するの途が缺けて居る。就きましては是等の缺點を補ふが爲に、

第一、主務大臣は都市計畫委員會の議を経て都市計畫區域内に於ける土地區劃整理を目的とする道路計畫法案を定め之を公示することを得るの途を開くこと――

今まで行はれて居りました道路計畫なるものは、委員會の議を経まして、さうして其道路の敷地に當る各權利者の權利を拘束することになつてゐますけれども、

此試案なるものは、別に其權利の拘束を含まずして、唯斯う云ふ風にすれば適當であると云ふ試みの案を公に示した方が宜しいではないか、さうすれば土地區劃整理をしようと思ふ人は、其案を基礎として、土地區劃整理を促進するに非常に有効であらう。斯う云ふ考であります。

第二、主務大臣に於て土地區劃整理を目的とする道路計畫試案を公示したる土地にして公示後一年内に土地區劃整理を申請する者無き場合は主務大臣は土地區劃整理に付き都市計畫委員會の議を経て内閣の認可を受け得るの途を開くこと――此第一の道路計畫の試案を公表致しましても、一箇年内に之を實行しようと思ふ、即ち土地區劃整理をしようと思ふ者が民間に現はれて來ない場合には、其土地發展の状況に應じまして民間の自發的區劃整理を俟つ暇がないと考へますからして、主務大臣は都市計畫委員會に之を諮りまして、其決議を経て内閣の認定を得て、都市計畫と致しまして之を實行する所の途を開き得るの方法を講じた方

が適當である。斯う考へられるのであります。

第三、公共團體をして土地區劃整理を施行せしむる場合は之に要する費用は五年以上十年以下の償還期間を定め國庫より低利資金を貸付するの途を開くこと――都市計畫委員會の議を経ましたる區劃整理が一箇年内に施行せられざる場合に於きましては、公共團體に其區劃整理の施行を命ずることがあると云ふ規定がございます。然るに公共團體と致しましても、何か財源がなければ直ぐ其事業を實行することは困難であると思ひますからして、此區劃整理は大部分に於て社會的な意味を含むものと考へますから、之に要する費用を五年乃至十年の償還期間を附しまして、さうして國庫より低利資金を融通するの途を開いて貰ひたい、さうすれば最も大切な此區劃整理が餘り障礙なくして遂行することが出来るのであると考へます。

以上三箇條に亘つて都市計畫法の改正を行はるゝ様に提議する次第である。

(ハ) 郊外の統制と工場

福岡市會議員 石橋愛太郎君

私は土地區劃整理の實際に現在當つて居る者であります、其結果として整理後の土地の利用問題に考へ到りますときに、或は道路が出来ましたり、或はそれに對する希望は有ると致しましたが、現實に其利用と云ふのが遅れるのであります。昨日も田園都市の設定と云ふやうなことで、貧弱なる頭に新しい知識を加へられたのであります、それと關聯致しまして郊外の田園都市に接近した或部分に都市計畫に依つて定められる所の工場地域の促進の問題であります。成程都市計畫に依つて住宅地域と商業地域と工場地域とは定りました、定つた後に區劃整理を致しますときに、其地域が定りました工場が何時來るか云ふことに付ては、現在では悲觀せざるを得ぬのであります。其土地以外の地方から誘致すると云ふことは中々困難であります。

それで私の意見と致しましては、舊市街に現存して居る所の工場は工場法の適用の現在に於ては出來ませぬ爲に緩和して居るやうな工場或は倉庫、或は准工場とも申すべき私人の少數の人間を使つて居りながら場所是非常に廣く取つて居る所の設備のある所と云ふやうなものを、是非工場地域と指定せられた土地に必ず移さなければならぬと云ふ所の強い力があつたらば、都市計畫の利用と云ふことは非常に早いものであると考へるのであります。

先程池田理事さんの御提唱になりましたのは、都市計畫法の補充を以て土地區劃整理を整理すると云ふ第二の御案と心得て居ります。其具體案の一つとして土地區劃整理の出來ました所に工場の移轉を強制すると云ふやうな補充が出來たらば、非常に完全なものであり、有効に早く利用することが出來ると考へるのであります。而して其工場がさう云ふ力を以て、轉出することになつた曉に於て、其工場の轉出の爲に生ずる所の農耕地の消滅であります。農耕地の消滅に付ては現在私共に於て計畫中であり、今日小作問題を起さうとして居るのであります。是はそれが決しますれば必ず小作問題が起つて來る。或組合に於ては起りませぬ、

或組合は起りつゝあると云ふことに直面して居るやうな次第であります。それで工場の轉出と云ふことも一つであります、道路に依る所の潰地に對する小作問題の解決は矢張今申上げました都市計畫法の補充の一具體案として實現せんことを願望して已まない者であります。

(ニ) 東京市隣接町村町名地番

整理統制の方策如何

水産講習所教授 東京市囑託 富樫建造君

昨日戴きました刷物の中に、東京逓信局御提出の希望事項と致しまして、其第一項に「町名及地番等改正統一に關する件」と云ふのがあります。問題は地方的なことに限られるのであります、現在東京に於きまして、特別都市計畫復興計畫に依る町名地番の整理が行はれまして、それに關聯しまして府下の各町村に於きまして最近色々町名地番の改正が行はれて居るのであります、其地方に於きまして區々になつて居りまして、此儘放置して置きますと、總て従前の東京市

内に於けるやうな煩雜な町名整理が出現するのではなにかと思はれるのであります。之を適當に指導し且つ統制して行くと云ふことが必要ではないかと思ふのであります。それに付きましてどう云ふやうな方法にしたら宜いか、其一つの案として、東京府及び大阪府と云ふやうなものが聯合致しまして、茲に嘗て復興局に於きまして町名整理調査委員會を設けましたやうに、東京府並に東京市其他關係官公署及び府會議員學識經驗者等を網羅する常置の大東京町界町名地番整理委員會を設けまして、先づ整理の根本方針を審議決定し各町村個々の地番町名整理の計畫立案に際しましては、それを指導し又實施許可申請の際に於きましては府知事の諮問機關として監督の任務をする云ふやうな風にしまして、其整理の統制をして行くことが必要ではないかと思ふのであります。

(ホ) 都市計畫と人口の分布に就て

東京市土木局 建築課技師 石原憲治君

都市計畫區域制の決定に於ける豫想人口の決定方法

と云ふものは、都市計畫區域の決定のときに發表されて居る通りであります。其豫想が此最近の統計の結果に依りますと、必ずしもそれに據つて居ないと云ふ事實が明になつて居るのであります。それで私共考へに浮んで來ることは豫想人口の決定方法はどうであるか、人口の増加の豫想と云ふことは、吾々が考へるよりもつと複雑なる色々な原因があると云ふことを先づ私共は考へなければならぬと思ふのであります。それで其人口の豫想方法が第一の問題でありますが、從來の方法が必ずしも完全でない、又同時に此人口の密度の問題に關係して參りますが、人口の増加とさうして其増加する範圍、兩方の關係から出て來ます人口の密度の問題、其問題に付ても私はまだどう云ふやうに之を取扱ふかと云ふことに付て大に問題が起つて來ると思ふのであります。人口の密度といふものは、矢張其の都市計畫區域の範圍に依つて自ら決定するのでありますから、其範圍をどう云ふ範圍に定めるか此範圍の認定は交通機關の發達其他に依つて決定されたものであります。私は此大都市を中心として發達して來る人口の増加の影響する範圍と云ふものに付て、人口がどう云ふ風な状態で其郊外に發達して行くかと云ふこと

を、其發達して行く所の現象の實情を明確にする必要があると思ふのであります。私はさう云ふ風な色々疑問を持ちまして此實際の問題を考へて參りたいと思ふのであります。右のやうな考を以て見て參りますと、我國の都市計畫法に於ける住居密度並に人口の分布に關する統制が缺けて居るのではないかと私は思ふのであります。我國の都市計畫法では都市計畫の區域の決定に付ては、人口の密度並に其人口の増加率と云ふものを考へますが、それが卒に決定したとなると放任してしまつて、それ以後人口の増加に付てどう云ふ風に統制すると云ふことは計畫の上に考へられてゐない、條文の上に現れてゐないのであります。唯條文の上に現れて居るのは地域制度であります。地域制度は一宅地の上に於ける家屋の敷地の面積割合が決定されて居ります。が、其外に我國の都市計畫法に於て住居の密度並に人口の分布に關する統制の方法を何處にも發見することが出來ないのであります。市街地建築物法は其名の示す如くに市街地の建築物を對象として作られて居ると私は考へるのであります。其點に於て未開地の建築物に對するコントロールと云ふことに關しまして、尙ほ吾々はもう少し考察を廻して考へなければ

ならぬことが多々あるのではないかと思ひます。

市街地建築物法が施行せられました経過を見ますと矢張初めは大都會を中心として其隣接町村に施行せられ漸々其區域を擴げて居りますが、まだ東京に於きましては都市計畫區域と市街地建築物との施行區域が一定して居りませぬ。是は市街地建築物法なるものゝ考を能く證明して居るものであります。市街地建築物法が市街地から發達して市街地の建築物に之を適用するのが主として考へられた範圍ではないかと思ふのであります。従つて市街地建築物法には本來郊外地の未開發地の場合については充分に考へられてゐないといふのが至當であります。そこで私は市街地建築物法と云ふものをもう少し擴げて、或はもつと廣い範圍の都市計畫區域全部或はそれ以上に互つて一般的に適應される所の弾力性のある「一般建築法」「單純なる「建築法」と云ふものゝ必要が起りつゝあるのではないかと思ふのであります。

そこで笠原博士の御報告を拜見しますと、將來は現在の密度で利用面積が全部飽和した場合は人口が千四百萬になると云ふ御假定が出て居りますが、此假定は都市計畫區域利用面積が全部家で充滿された時を豫想

した假定であります。

抑々都市計畫區域なるものは田畑耕作地が全部無くなつて來ることを豫想したものであるかどうかであるか、全部市街化して全部家屋が充滿することを豫想したものであらうかどうか、如何なる狀態を豫想して居るのだらうか、假に又笠原博士の御假定のやうに、大東京區域が千四百萬に充滿したとしますならば、詰り大東京區域が現在の家屋が充滿して居る密度を以て家屋が充滿したとするならば、私は其時は大東京區域内に恐らくは五百萬乃至千萬の人口が氾濫して居ること、信するであります。大東京區域の其區域で明確に外と内の人口の密度が零になることはありませぬから、大東京區域が約千四百萬になることを假定するならば、或は其時の大東京の人口なるものは約二千萬乃至二千五百萬の人口を豫想し得ると思ふのであります。然し乍ら是と反對に田畑耕作地と云ふものを吾々が考へるならば、現在の人口密度のやうな密度で都市が發達して居つても、全體の人口密度はもつと少くなると思ふのであります。

そこで我々は都市計畫の最も重要な問題として、人口の分布の問題を取扱はなければならぬのであります。

す。即ち都市計畫は土地の經濟的開發と其聚落の形態に於ける人口の分布と其移動との科學的實現であると云ふやうに考へて見たいのであります。今日我々はより廣き範圍に亘つて人口の分布と増加並にその原因について、より科學的に考察するの急務なるを思考するものであります。

次に私は郊外地の統制方法について簡単に結論を述べさして戴きたいと思ひますが、私が郊外地の統制方法に付て考へますことは(一)東京の郊外の開發狀態の現狀は報告書に引用されて居ます東京市の調査書にある通り鐵道に沿うて人口が發展して居ると云ふことが明であります。此の事實から郊外鐵道計畫を當然都市計畫の中に入れべきであります。郊外地の人口分布は鐵道に依つて變遷發達して居りますから、鐵道計畫を當然都市計畫の中に入れなければならぬと云ふことを考へるのであります。(二)は土地區劃整理の計畫の中に、特に未開發地の場合に於ては、田畑耕作地を住宅地に開發する際などは、空地の制限をもう少し多くする必要があります。又そうしてもよいのではないかと考へるものであります。斯くすることによつて、土地の投機による地價の釣り上げを或る程度迄防ぎ、今

日の著しき弊害を幾分か救済することが出来はしないかと考へるものであります。笠原博士は人家が今日と同一密度に充滿することを豫想せられましたが、東京の郊外の自然的地理的條件は必ずしも左様に考へられないものがあります。寧ろ土地の自然的情勢に従つて、開發する方がより經濟的であり、地價を一層安定せしめ得るものではないかと考へます。尙ほ進んでは、山林耕作地其他の自由空地の保存に就ても、將來考慮する必要があるものと考へるものであります。それから(三)市街地建築物法の改正に付ては先刻述べました通りであります。且つ(四)「建築法」の施行區域と計畫區域とを一致させて家屋の稠密度従つて人口密度の調節を計るべきであります。そうして(五)右の方針に依つて計畫の道路網の方針を決定せらるべきであります。特に所謂リボン・デベロップメントに就て警戒しなければならぬと考へるものであります。將來に於ける東京の人口が千五百萬になるか二千萬になるか其人口の増加に對する割合がもつと科學的研究によつてなされるためにそれに對する廣い範圍の測定と計畫を吾々は必要とするのではありますまいか。そして又地方計畫が吾々に示して居りますやうな方法に於て吾々

がもつと廣い範圍の計畫を要求して居るのではありますまいかと思ふのであります。地方計畫は私の解釋に誤りなくば、その發展の過程に於て明に、大都市主義でもなければ小都市主義でもなく、寧ろそれらの二つの對立の辨證法的綜合であると考へます。そして今我々は、大都市と其附近の中小都市相互の經濟的並に衛生的統制並に更に進んで、全體としてもつと廣い範圍の、「武藏野計畫」乃至「關東地方計畫」と云ふものを必要として居るのではないかと思ふのであります。

(一) 區劃整理による郊外地統制

都市計畫愛知地方
委員會技師 石川榮耀 君

統制と云ふ文字を色々に皆さんがお話のやうでありまして、飯沼さんは是はコントロールである。土地を自分の勝手な形に當嵌めると云ふやうにお話になつたやうに自分勝手に聞いたのであります。池田先生は別なやうにお話になつたが、私は郊外地の統制は郊外地に適當な形を與へる。斯う云ふ風に自分の仕事に極く

都合の好いやうに解釋しまして、如何にしたならば此郊外地に最も都合の好い形を與へるかと思ふ方策を一つ、此在來の法規並に一般仕事の遺方に對して註文を出し文句を言ひたいと思ふのであります。それが私の討議の形式であります。それで郊外地にどう云ふ形を與へるかと思ふのに、小都市主義、大都市主義と云ふやうな一つの主義を持つことは私はいけないと思ふ。是は先程池田先生のお話で能くはつきりしたと思ひますが、宜しくない。在るが儘に伸展せしめようと云ふのが私の方針であります。さうしてそれには唯漠然と都心を中心として行ふよりは、之を澤山な小さな、何と申しますか、都市單位と云ふやうな人口十萬位の獨立した區に分けて、例へば名古屋の人口が百萬でありますならば、人口十萬宛の區に分つてさうして之を綜合して百萬の名古屋市にする。斯う云ふ方法に依つて之を導くものであると、私は先づ最初に考へたいのであります。私は之を稱しまして聯邦都市と勝手な名前を附けて居るのであります。さうして之をやり出すのにはどうしても都市計畫の此道路網的な技術的な方法に依らなければ達成出来ないものである。是が私は是から申上げたいお話の二つの出發の原則であります。

私は之に實行の衝に當つて居る者であります、色々な支障に遭つて居ります。それでさう云ふことを如何にやるか、結局區劃整理を運用すると云ふことであるのでありますが、其際に私は諸先輩の居られる前で強く一つ申上げて置きたいのは、在來都市計畫位前倒れにして弱氣な法規はないと私は思ふのであります。都市計畫と言ふならば都市を計畫するだけの考でやつて欲しい。然るに此法律を——と申しますと池田先生に叱られさうで怖いのであります、此法律を見て参りますと吾々は都市計畫を頼まれたらばやつても宜いと云ふやうな法律の建前のやうに見るのであります。例へば鐵道省が勝手な地方鐵道を認可する、それを私達は見て居らなければならない。是は本當は若し吾々が都市を計畫しなければならぬものならば、鐵道と雖も吾々の手を俟つて吾々が認可して初めて鐵道が鐵道計畫を爲し得る。さう云ふ風に行つてこそ初めて都市計畫が出来ると私は言ひたいのであります。もう一つは都市の郊外地の統制に於きまして逓信省の先程の御註文もありましたが、吾々が都市計畫區域を決定する以上は全部都市的の區域を稱するものと考へなければならない。それに對して逓信省は自分勝手な小さな

區域を作りまして、電話とか電信とか云ふやうなものを作るで吾々の計畫を無視して或區域を定めて、一通話八錢であるとか十錢であるとか、或は架設費を賦課すると云ふやうなことをしまして、吾々が折角此土地を圓滿に自由無碍に發達させようとするのに對して彼等は少しも考へて呉れない、逓信省がさう云ふことに對して恬然としてやり得ると云ふことは、私は法律の缺陷でなければならぬと思ふのであります。私はさう云ふ意味に於て、都市計畫法の根本的の所謂強氣に出ると云ふ改正の必要があると云ふことを、先づ最初に申上げて置きます。言換へて申せば、所謂コンデションの爲に是が必要であると云ふことを申上げたいのであります。

第二と致しまして、今日の都市計畫は、現役兵たる吾々委員會の技師或は書記、事務官——事務官は後で申上げて失禮であります、此人達が如何に委員會制度の不備の爲に仕事やり悪いかと云ふことは、一度委員會に籍を置かれた方は悉く御承知のことであらうと思ふ。先づ第一に名前が悪い、都市計畫地方委員會云々と云ふが如き同窓會と同じやうな名前を採つて居る。私は都市計畫を十年間やつて居りますが、委員會

の此會の字一字の爲に仕事をして行くのにどの位妨げられたか分りませぬ。斯う言ふと、それは田舎だけの話であらうと言はれませうが、問題は機微な所に潜んで居るのであります。私は名前の末にさへも今後改良を要する所があるのではないかと思ふのであります。それから大體此委員會の仕事の權限が洵に漠然として分らない、委員會職員とは何であるか、斯んなことは餘り述べるといけませんから此邊で止めて置きます。要するに此都市計畫地方委員會と云ふものを若し改正するならば、殊に小委員會の規定の如きは昨晚も其爲に會合があつたのであります、どの位會の爲に苦しんで居るか分りませぬ。或縣會では道路網で決めたならば委員會は廢しても宜いぢやないかと云ふ提議が出たさうであります。斯う云ふ風雲の下に——風雲は滑稽であります——何の郊外地統制が出来るとであらうか、斯う云ふ大問題があると云ふことを私は諸君と共に何か知らない天なるものに訴へたいのであります。是が所謂コンデションに對して私の絶叫する所である。其コンデションの次に所謂都市計畫技術として極くちよんびり申上げたいのであります。

都市計畫區域の郊外地一帯に對して今まではびくび

く致しまして所謂地主の協賛がなければならぬ、地主の氣配に依るが故に都市計畫をすることが出来なかつた。それは實に畸形なものでありまして、私は名古屋に居る者であります、名古屋の區劃整理位變形な變態な所謂見世物に出しても差支ないやうな變形の區劃整理はないと言はれるかも知れませぬが、恐らくそれは私は實情に暗いが故に言はれるのではないかと思ふのであります。私は是は所謂びく／＼する弱氣の當然の結果であらうと思ふ。其爲に私は斯う云ふことを提議したのであります。都市計畫區域を決定すると同時に、其全體に亘つて都市計畫法第十三條に依る區劃整理を布くべしと云ふことが私の提言であります。さうして其計畫を理想的に——私の程度の理想であります——私が先刻申上げました所謂人口十萬の區を全體聯合して百萬の都市となすと云ふ風な形式の計畫を中心として其計畫をやつて行きたいと思ひます。さうすれば皆さんの間には其費用をどうするかと云ふ御質問があるに決つて居ることは當然である。私は其費用を一文も掛けたくないものであります。今までの區劃整理の一番悪いことは、費用は投するが併し其後の處分と云ふものに付て全然考がついてゐない、名古屋

の如き二千萬町歩の區劃整理をやつたのでありますが、今殆ど質流れのやうな形になつて、處分をどうするかと云ふことは考へてゐない。斯う云ふ危険な仕事をするから初めから善くないことは分つて居る。今後の區劃整理は換地處分のみによるべし、所謂交換分合のみに依つて終結するやうな區劃整理で行かなければならないと云ふことを私は思ふ。それに付て經費を計算して見ますと、所謂道路一切十分なる設備を致しますと、坪一圓五十錢乃至三圓は掛ります。然るに交換分合のみに依りますと坪八錢位で出来る。恐らくは二百萬圓を以て名古屋十聯邦の區域が全部區劃整理が出来た筈であります。後は土地の區劃に依つて市役所が一本々貫つた方が宜い。今まで道路が出来なかつたのは市役所が横着であつたからであります。市役所が適宜市會の協賛を経て其道路の一本々をやつて行つたならば、總ての無駄も起らない。私の所のやうに道路の中にテニス・コートが出来ると云ふやうな出鱈目なことは起らないと思ひます。是は當然都市計畫技術として考へなければならぬと思ふのであります。

其次に私は在來都市計畫に於ける此地域制が餘り漠

然として餘りに大き過ぎた、所謂在來のは商業中心に中心を置き過ぎた地域制度であると云ふことを残念に思ひます。若し郊外都市を十區域とすると云ふやうな所謂聯邦都市單位を作つて行くならば、地域を細胞化する必要がある、地域をもう少し小さくする必要がある。此計畫に依りまして各方面の地を商業地域、工業地域、住宅地域と云ふやうにもう少し細分して、細かな西陣織の模様のやうに細分して行く必要があると思ふ。

最後には在來の商業地域が商業地域と言つて何も内容がない、ギャレーヂや何か所謂盛り場が出来ない、是が商業地域の内容であります、之を更に進めまして、商業地域以外に於て商業を営むことは出来ないといふ都市計畫法にしたいのであります。住宅地域内に於ては商業は煙草屋と雖も営むことは出来ないといふ所謂強氣の區域が定まらなければ本當の地域制と云ふものは郊外地の都市は絶対に不可能であります。私は参考を持つて参りましたが、名古屋の所謂住宅區域が其發展に依つてどんな工合になつたか、商店に工場に住宅、商店に工場に住宅、下手な碁石を並べたやうな出鱈目であります。此出鱈目な發展を許して何の商業

地域、住宅地域であるかと言ひたいのであります。もう少し地域制の強氣を希望する。

最後に今日の區劃整理が單に整理に止まり、之に當然附随しなければならぬ住宅の經營或はバスの經營と云ふことに付て許して居らないと云ふことを残念に思ふ。區劃整理は一つの交通機關を構成してそれに伴うて行くものでなければならぬ、道路が交通機關ならば電車もバスも何で交通機關でないか、道路を造つて宜いならば、何でバスを造つていかにないかといひたいのである。

(ト) 都市計畫路線に關する私權の制限緩和と都市計畫事業の國庫補助の確立に就て

濱松市長 中村陸平君

私は茲に現實今日困りつゝある問題に付きまして一二の希望を申述べて置きたいと思ふのであります。

第一は此都市計畫線に當つて居ります土地の所有者の非常に困つて居ります此私權の制限、之を何とか緩和したい。斯う云ふ問題であります。都市計畫に

依りまして道路網が成規の手續を経まして決定を見ますと、此圖面の上に書いた所の道路線と云ふものが市街地建築物法の規定に依りまして道路と看做されて其道路筋の土地の利用と云ふものが著しく制限を加へられます。是は市街地に於きましては郊外に於ける計畫線でも同様であります。是等の計畫線を實際の事業線として工事に着手するのは其内の一小部分でありまして、大部分の計畫路線と云ふものは、何十年後に道路になるか分らぬものでありまして、其分らぬものに對して人の所有權を極端に申すと束縛して制限を加へて、さうして國家でも亦公共團體でも之に對して何等の補償を與へない、それが爲に此路線に當つて居る土地は利用の價值なきものとして價格が非常に低落して參る、銀行も亦斯の如き土地を擔保として金を貸すことは斷ると云ふ實際の有様に私の市の場合が達着したのであります。

市街地建築物法の第二十九條のみの規定で、假設建築物を許すことになつて居りますが、是は事業施行の際に無償で以て取除くと云ふことの條件が附けられることになつて居りまして、此假設建築物だけの除外例では此不合理なる私權の上に加へられたる重大なる損失

を緩和するには足らぬことであるのであります。現に我が濱松市に於きましては、地方都市としては最も早く都市計畫線の決定を見まして、既に數年間種々なる經驗に遭遇して居りますが、是等の計畫線中には僅に數百間の一路線に付ても數十戸の假設建築物が點々として連續して来るやうになつて來ました。今後數十年の後は是が事業線となりまして工事を行ひます場合に悉く之を無償で取拂はせるなど云ふことは、是は到底不可能なことであると思ふのであります。

要するに都市計畫法或は此市街地建築物法の之に關する規定と云ふものは、唯公共の利便と云ふことの都合だけを考へて私權の重大なる苦痛を何等顧慮しない點に於て法規に缺陷あるものと思ひますが故に、之を緩和すべき適當なる改正をする必要があると存じまして此希望を述べて置きます。

次に此都市計畫事業に對する國庫補助の問題であります。地方の都市に於きましては其市街が古來國道の沿線に沿うて發達致し、是が今日交通上の重要な幹線の役目を務めて居ります所も少なからずあることと存じます。是等の國道の擴張は、從來普通の土木事業として是が行はれました時には、國庫及び縣に於きま

して其費用の大部分を支辨されて居つたのであります。が、其市街地に於きまして都市計畫を立つるに付きましては國道の部分も亦都市計畫で以てやれと云ふことで、其地元の自治體が之を執行することになつて居りまして、國家が之に對しまして正味の費用の二分の一を補助することになつて、此財政計畫の下に内務省の都市計畫事業の年度割と云ふものが定つてあるのであります。が、偕て愈々其事業を施行するに當つて補助を戴きたいと申します。所が之に對して此地方の中都市に對する國道の部分の國庫補助の豫算と云ふものが定つて居らないやうな風に聞及んで居るのであります。洵に不安に堪へませぬ。仍て願くば府縣又は六大都市に對しまして直接内務省が補助が出來ますやうに、それ以下の都市に對しましても國道の部分の工事を行ひますときには、直に補助を受入れまして事業の遂行上に差支のないやうに御取扱を願ひたい。此都市問題會議の建議として之を要望することが出來ますならば非常な幸福である。

(チ) 都市計畫法の改正に就て

岐阜市長 松尾國松君

私は第一に現在の都市計畫なるものゝ根本に於て意見を異にする者であります。それは昨日來段々のお話がありましたが、過大都市の弊害と云ふやうなことから生じた、或は耕地整理であるとか、若くは郊外地の統制であるとか云ふやうな御研究が、たとありまして承りましたが、私共十萬内外の都市に居ります者では今の所では左程の必要がない。全國百九の市の中で六大都市を除くの外は今差當つてさう云ふことがないやうに思はれますが、兎に角斯う云ふ難儀をしなければならぬと云ふことは現在の都市計畫法の基礎觀念が間違つて居る。斯う云ふことを私は主張する者であります。それはどうかと申しますと、今のやうに無暗矢鱈に無計畫に出來て行きまして、さうして後から既成都市を改正して居ると云ふやうな弊害を法律で根本的に除かぬ限り之はいかないものである、斯う云ふ風なこ

とを考へて居ります。

其次には我國の現在の都市は都市計畫の指定を受けて居るものが、九十六ありまして、大正十二年までは二十六でありましたが、元來都市計畫は私が申し上げるまでもなく皆さんは能く御承知の通り、是は東京市の區劃整理を初めとして起りましたもので、段々それを擴げて行つて近頃は一種の流行物視致しまして、都市計畫の指定を受けないと何か肩身が狭いやうな感じが——御列席の方はそんな淺薄な考を持つてござる人は一人もないことは申すまでもないのであります。が、側面觀をして居りますとさう云ふのがあります。私の市などではさう云ふ風に考へて居つた人が大部分であつたのであります。さう云ふやうな考で今指定を受けて居ります此都市が、第一期の道路網だけを歪みなりにでもやらうと思ひますと、三十六億圓以上掛ります。一體今日の都市計畫と云ふものは、此頃或人が私に言ふのには、都市計畫のやうなことは白紙の上に線を引いて置いて、さうして建築物法に依つて家を成だけ建てさせぬやうにして置くと云ふ法律であつて、あんなものを眞面目にやらうと考へてござるなら大なる間違であるといふ事であつたから、私はもつと先を考へて

居るから心配ないと言つてやつたが、今日の都市計畫は、凡て財政を閑却した一つの繪を描く商賣であります。

其次には現在の都市計畫法は我國の所謂傳統的中央集權と云ふものを其儘法律に拵へたものであります。一言にして簡単に申すと、官廳の力で繪を描いてやらなければ能う描かぬものであると云ふ中央集權の餘弊に囚はれた中央集權の累積の結果ある云ふものを拵へたのだ。それは到底市などでは出来はしない、官廳と云ふものがやると、官廳と云ふ一つの形式、一つの日本の封建的遺物の觀念で支配すれば一番宜いと云ふので斯うやつた。何故と申すと、御承知の通り都市計畫法に依れば内務大臣が手前の地方委員會に懸けて、さうして内閣の承認を得て案を出します。それを誰がやるかと言ふと御承知の通り、其統轄する團體の負擔であります。であるから繪を描く者がちやんと拵へてやつて斯う云ふ風にしてやれよ、さうして貰つてやる者は誰であるかと言ふと御同様がやらなければならぬ、先程どなたかのお説のもつと強くもつと力強く云ふお話でありましたが、地方委員會ばかり力強くやつたら金出す吾々は何とする。一體吾々の根本觀念を言ふ

と費用を負擔する者が絶對權能があるのであつて、さうでない者がそんなに權能があつて堪るもんかな。私は決して毒つくのでも何でもありません。私は池田さんも常に尊敬を致します。殊に都市計畫に於ては日本の先づ第一人者として私は崇敬を拂つて居りますが、遺憾なのが吾々の考へるやうなことには一向に承るこの機會の少いのを極めて残念に思つて居ります。さう云ふ風に思ひます。であるから私は根本觀念に於て違ふ。

其次には都市計畫を致しまするに付て、今日の法制上から申すと内務大臣の責任は全責任であります。是は私が申すまでもなく皆さん能く御承知の通りである、何故内務大臣の全責任であるかと言へば、内務大臣が地方委員會に諮問し、内務大臣が之を是なりと肯定して、而して内閣の承認を得て、さうして企業者たる吾々に交付するのであるが、之を仔細に研究しますと吾々にはそんな負擔能力はありません。私の市で申しますと、私の市は第一期の路線だけが二千萬圓掛ります、只今私の市は人口十萬ありまして、それで租税を七千萬圓負擔して居ります。それは二千萬圓でありますが半分にしましても千萬圓であります。それを十年にやると百萬圓であります。只今七千萬圓の負擔にひよる

くして居るのにそんな百萬圓なんて持てる筈がない、だからさう云ふことではいかぬ。さう云ふ理窟で内務大臣の責任であるのに、現在の都市計畫の機關であります内務省の機關はどうであるかと言ふと、課長さん以下技師の御方若くは屬官の御方などで僅か十一人居られるやうに承つて居ります。たつた二十六の指定の時には局であつたのに今でも尙是だけでやる、どうしてやれるか、是はどうかと言ふと、根本に於てそんなことはこつちの方で型をやつてやるのであつて、市がやるものであるから宜いぢやないかと云ふやうな意味ぢやないかと思ひますが、さうでないかも知れませぬ。私はさう云ふやうな愚見を持つ者でありまして、此事は都市公論に書いて置きましたから何卒一つ御一讀の上で適當なる御是正を御願ひ致したいものであります。

(リ) 都市郊外地統制上の一問題

東京府野方 川 勝 保 君
町會議員

私は此東京近郊の野方町に居住して居る者であります

す。只今言はんとするのは、此近郊地統制上最も見落され易い閑却され易い所の問題なのであります。東京市郊外の唯一の住宅地と目せられる場所に結核療養所の如き危険極まるものゝ建設をすると言ふことは、此都市計畫上最も願慮を要する一事でなからうかと云ふことを皆さんに申上げたいと思ふのであります。それは既に皆さんも御承知であられるだらうと思ひますが、我が野方町には東京市立肺結核療養所があるのであります。御承知の通り此結核は空氣傳染を齎らすものであります。危険此上ないものであります。此危険である所の結核の療養所を、近郊住宅地の最も重要な地點に建設して居ると云ふことは、是は誰しもが考へさせられる重大問題ではなからうかと思ふのであります。此療養所に朝な夕なに通ひます所の、今にも地獄に旅立たんとするやうな哀れなる患者が路傍に痰を遠慮會釋もなくやつて行くのであります。是が體て此附近の住民の呼吸器を胃かすことになりまして、是は非常な重大問題道德上の問題でありますが、其附近の學童が非常に結核患者の多いと云ふ重大なる一事を以てしても、此恐るべき結核療養所を此人口の稠密なる中央に置くと云ふことは此文明社會に矛盾も甚しいも

のではないかと私は考へる者であります。故に私は聲を大にして此權威ある所の専門大家の御集りになりました此席上で絶叫したのであります。此問題は單に我が野方町ばかりの問題ではないのであります。大阪或は京都名古屋其他處々方々に實現する所の問題だらうと思ふのであります。私共は常に東京市當局に向つて是非撤廢して貰ひたいと云ふことを絶叫して居りますが、馬耳東風中々聽いて呉れないのであります。而して私は此席上で賢明なる諸君に訴へたいと思ふのであります。今後都市計畫に際しましては、斯様な恐るべき建築物はもつと遠く、或は湘南地方或はもつと遠い所の結核に最も衛生的である所に下しまして建設せられんことを希望するのであります。

(又) 市町村の聯合に就て

東京府野方町會議員 古川 高次 君

凡そ物は縦と横に織なしまして始めて完全で立派な發達を遂げるのであります。自治體の組織經營も亦然りであります。御承知の通りに此自治體の縦に於ける

所の作用は完全に行はれて居る。市町村の行政事務に關しましては府縣、府縣の行政事務に關しましては國家が之を監督指導し、而して統一せられるのであります。併しながら横に於ける所の組織は、單に市町村に市町村會あり、府縣に府縣會があると云ふに過ぎないのであります。而も單に其箇々獨立の市町村、府縣にあるのみでありまして、之を連貫する所の一つの聯合市町村會と云つたやうなものがない。此點が即ち横に織なす所の缺陷であらうと私は思ふのであります。

それで何故に私は市町村聯合常設機關を組織したいかと云ふことを申し上げますれば、是は申すまでもなく一見市町村は恰も一つの地域に散在せる石塊の如く見えるのでありますけれども、其實情を見ますと云ふと、即ち之を連貫する所の地域は地域を以て連鎖せられ、又市町村を一貫せる所の河川があり、或は紆餘曲折せる所の道路があつて之を連結して居るのであります。一度び是等の施設經營に於て、或る一町村が改良改善を行はんとする場合に於きまして忽ち行詰るのであります。即ち一市町村だけの施設經營を以て致しますと云ふと、他の市町村との聯合が取れない。隨て完全なる改良施設と云ふものは出来なくなるのであります。

す。是に於てか吾々は常に關係ある市町村の聯合會と云ふものを常設して貰ひたいと思ふのであります。

此事が提案に依つて答申せられまして間もなく、皆さんが非常に同感を持たれたものと見えて、現に私設的に町村の聯合會と云つたやうなものを組織されたのであります。併しながら是は甚だ遺憾の點がある。

私は私設的聯合をせずに公設的聯合をして貰ひたいと云ふ意見であります。何となれば、嘗つて私は此會に不幸にして出席の榮を得なかつたのであります。仄に聞く所に依りますと、是は民政派に屬する所の人が多數發起であつてさうして集會せられたる所の者も左様である。故に其精神は立派な聯合會であつたかも知れませぬけれども、他の者は、是は政黨政派の關係より成立したものである。斯う云ふやうな僻みを持ちまして、折角話題に上程せられたる所の問題も清く議論せられないで終つたと云ふことを聞いて居ります。又偶々費用問題を捉へて之を審議すれば、現内閣打倒の聲になるからは止さなければならぬと云ふ遠慮に終つたと云ふことであります。

是は何が故に斯の如き龍頭蛇尾の會議に終つたかと云ふことを考へて見ますれば、取りも直さず是れ即

ち私設的聯合であるが故に斯の如き不幸に終つたのではないかと感ずるのであります。それでありながら苟も町村聯合の會が必要であるとすれば、各市町村に於て適當な代表者を出して、即ち何等の政黨政派其他私黨公黨の關係なく施政の方針を論議する協議機關としたならば、斯かる弊害はなくして立派に行はれることであらうと思ふ。又一面經濟關係が伴ふのでありますから、結局私設の町村聯合會と云ふものは龍頭にして蛇尾になるだらうと思ひます。

それでありまして、是からは若し聯合會を組織するものならば、各市町村より費用を出して、一種の實費辨償を與へてそれに出席せると云ふやうな方法を講じて然るべく町村の發達を協議したいと云ふ提案を致す者であります。

部長代理(本多靜六君)

次は私本多の順序になつて居りますから、暫く此席を神谷良平君に代つて戴きます。

(ル) 都市林の主張

都市美協會副
會長林學博士 本多 靜 六 君

近代の都市は狭い地面の内に多數の人が集中します結果、勢ひビルディング式、アパート式となりまして一切の生活が極端に不自然な、灰色的、人工的、建築的となりまして、家の内でも外でも石やコンクリートで固められてしまつて、日光や空氣や樹木と云ふものは息苦しいまでに制限されまして、ウツカリして居ると忽ち鬱殺されてしまふと云ふ状態であります。住民は不安、不自由、不自然になりまして、市民の大多數は神經過敏の半狂人であるか、或は腺病質の人間は肺病などになりまして、遂に都會は人間の墓場であると稱せられるに至りました。

此悲惨な墓場生活の救済策として從來都市の内外に於ける公園、廣場、並木、公園道路、自由空地等の問題が提唱せられ、進んで田園都市、共同田園、ラウベン・コロニーなどが設けられるやうになりましたが最近に於きましてはそれが山林都市に進みまして、更に

進んで都市林計畫、都市が山林を所有しなければならぬ、即ち都市林の問題にまで進んで來ました。是が所謂極端なる不自然は極端なる大自然に調和し救済せられると云ふ哲學上の原理に一致するものであります。而して森林都市で最も有名なのは伯林の近所のグリユーネ・ワルド、即ち十萬餘の私有林、國有林を解放して其内に住宅を設け、敷地と庭先を伐拓くことが出来るだけで、其外の全部は山林として扱つて居るのが森林都市ワルド・シュタット、或はフォーレスト・シティと申します。所が此山林都市は墓場的都市を救済するのには最も有効でありますが、遺憾ながら少數の金持だけしか出來ない。

そこで更に進んで一般都市住民全體の爲に、都市の附近に於ける大山林を都市が所有し、經營し、それを以て市民の自由なる遊覽、靜養、運動又は林間學校、林間夜營、或は山林都市等、市民の保健に利用し、兼ねて水源の涵養、其他都市將來の財源に供せんとするものであります。斯様な都市林と云ふものは是まで歐洲に發達しまして、彼の瑞西國の如きは其全體の山林の三分の二と云ふものは公共團體、殊に都市の所有する森林であります。又獨逸には一千五百萬エーカーの

都市林がありまして、就中プロイセンの如きは三百九の都市が六十二萬エーカーの都市林を持つて居ります、佛蘭西にも五百萬エーカーの都市林並に共有林があります。亞米利加に於きましては近頃漸く此都市林の必要に目覺めまして、各都市が既に之を盛んに造りつゝあります。既にシカゴの町に於きましてはハツクグンと云ふ所に三萬エーカーの都市林を造りました。又ボストンを中心とするマツサチュセツツ州に於きましては既に八十六箇所の土地に面積二萬エーカーの都市林が出來ました。そうして此州の山林會の働きで二百五十萬の樹木を植付けました。就中面白いのは同州中のラツセルと云ふ町は僅に一千三百人の人口しかないのに既に二千五百エーカーの都市林を造つたことであります。

之を要するに最近に於ける都市問題の統制は、都市内部に於ける改良問題よりは寧ろ市民の自由と健康との爲に都市の外に於ける永遠の設備に頭を絞るに至りまして殊に都市林の必要に目覺めたものと謂ふべきであります。遮莫、我國の都市には尙ほ幾多の改良の必要あることは勿論でありますが、一方斯かる世界の趨勢に鑑みられて未だ我國の都市の郊外近くに廣大にし

て而も容易に手に入れることの出来る森林の存する今日、其未だ甚しく荒廢に陥らざる間に、時機を逸せず速に都市林の設置に盡力せられて、悔を後世に貽すことなからんことを謹んで滿堂諸君にお願いする次第であります。

(ヲ) 郊外地の公園地設定の提唱

東京市保健局
公園課長 井 下 清 君

幸か不幸か、私の序論となるべき問題は、又私の主張する問題の大半は本多博士に依つて只今お述べ戴いたのでありますから、私はそれに續いて自分の主張をするものと御承知願ひたいと思ひます。

從來の公園計畫と云ふものは、都市の中央に大公園を造る、或は都市の内に完備した公園を造ると云ふことを考へたのであります。併しそれは昔の計畫であつて、今日としては道路が非常に廣くなり、又主要な場所に廣場が造られ、又都心に建てられて居る種々の公館と云ふものは老大な前庭なり周圍の空地を持つて居ると云ふことになりまして、都市の中央に大面積の公

園を造ると云ふことは必要がなくなる、又更に公園を造られることに依つて種々な障害を與へることになると考へられるに至つたのであります。それで今日の考へとしましたならば、都市の公園は、實用本位の公園を出来るだけ普遍的に都市全體に散布すること、さうして都市の美觀と云ふ方面に對しては、擴張された立派な街路の上に立派な並木道を造つて、各所の廣場には、街路庭園と云ひますか、路傍庭園と云ひますか、さう云ふものを造つて都市の美觀を維持すると云ふ風な考へ方になつて來たのであります。隨てさう云ふ所では多數の人は十分に自然を味ふことは出来ない。それに對しましては交通機關の充實と共に郊外遠くに自然味に満ち溢れた大面積の公園を造つて、其處でゆつくり自然味を味ふと云ふ公園組織に變更を來したのであります。是は確に近代都市の公園計畫の上に起つた一つの大きな革新であると思ふのであります。

此見地からして都市の公園と云ふものは、市内に幾らの公園を置くとか或は市外にどれだけの公園を置くと云ふ問題に自然なるのであります。それでどうしても郊外に付ては郊外自身の必要とする公園の外に其郊外の包んで居る都市が必要とする公園も郊外の内に

置かれるのであると云ふことも考へて戴きたいと思ふ。所がどうしても此問題は餘り注意を惹いて居らないのであります。今どの位の公園量を都市が必要とするかと云ふ風なことはむづかしい問題であります。假りに極く素人話を致しまして一人一坪と云ふ位に假定致しますと、現在の東京市の公園としましては尙ほ百三十萬坪位の公園を造らなくてはなりません。之を昔風な考で矢張市の區域内に置かなければならないと假定しましたならば、どの位の金を費すかと言ひますと、復興事業の公園費の例を以て計算しますと、更に二億五千六百萬圓の金を投じなければ一人一坪の公園を持つことが出来ないであります。一人一坪の公園と云ふものは非常に小さいもので、専門學者は之に賛成して居ないのであります。二億五千六百萬圓と云ふ金の負擔に東京市が果して堪へ得るかどうかと云ふことは別問題であります。兎に角現在出來て居る市部に於て百三十萬坪の土地を得ると云ふことは非常に困難であります。若し強ひてそれを得ようとするれば必ず其處に種々の犠牲を拂はなければならぬ。それ故に當然それは郊外に求めなければならぬ。併しながら現在の東京の例を以ちましても、尙ほ二十二萬坪の土地、即ち將來

の必要量に對する約六分の一は市内に求めることが出来るのであります。それ以外の約百萬坪のものは當然郊外に求めなければならぬ。之を郊外の方が考へて戴きたいと云ふのが私の主張する第一の點であります。

其次は、郊外にさう云ふ公園を造る場合に於て、郊外自身の人が朝夕利用する實用本位の公園、都市が必要とする大面積の公園、此二つの公園を都市の郊外が背負つて行くのであります。併し都市が造つて呉れる公園は郊外の人も利用するのでありますから、即ち半分は都市の力に依つて造られると云ふことになるのであります。それで場所さへ郊外の方で考へて戴けば宜い。

此大面積の公園を郊外に取ると云ふことに付て、郊外の方々に二つの見方がある。一つの見方からすれば、公園が出来ることに依つて種々の利益がある。公園は大に歓迎したいと云ふ考へ方と、一つは十萬坪二十萬坪と云ふ大きな土地を公園に取られたならば、將來の郊外の經濟的發展に障害を來す、殊に公共用地であるから其處から租税を取ることが出来ないといふやうな種々な障害があると云ふやうに見て反對を稱へる方と二つの見方があります。是は何れが正しいかと云ふや

うなことは土地の事情に依つて異なるかも知れない。併しながら其爲に郊外の人が非常な利益を得又郊外としてどうしても自然味を尊重する爲に、一般の住宅地として利用し得ない雑林、崖地、傾斜地、沼澤地或は悪い事情のある土地、さう云ふやうなものを有効に利用し、又郷土として保存の必要ある名勝地、史蹟地、天然物保存地と云ふやうなものを公園に提供することが出来たならば、郊外地としては一つの土地の利用策である。即ち不毛の土地を巧みに利用する手段である、さう云ふ風に見ましたならば郊外の人が必要しも都市の爲に造る大面積の公園に對して反對する理由はないのではなからうか、兎に角斯う云ふ理由で郊外地は都市の大面積の公園を背負つて行く位置にある。又是は郊外地としても當然必要なことであつて、利益のあることではないかと思ふのであります。

それに付て都市の郊外計畫に際してはどうしても大面積の公園に付て考慮を拂つて戴きたいと云ふことが私の要點であります。

(7) 教育都市建設の提唱

仙臺市會議員 五十嵐豊吉君

一般的に都市の計畫はそれ／＼其地方の産業の特色を基調として樹立せられることは勿論であると思ひますけれども、我國現下の國勢より見まして、思想的にも經濟的にも將亦實際教育の實質の上から見まして今日位教育の行詰りを來して居ることはなからうと思ふのであります。國家經營の上から見まして洵に憂慮に堪へない次第であると思ふのであります。斯の如き教育をして眞に時代の要求に應ずるやうに更生せしむるには、國家は須らく教育都市を建設すると云ふことが必要であると思ふのであります。先程宇治山田市の市長さんよりも特殊なる都市に對しては特殊なる施設をすべきものであると云ふことの御説がありました。が、私も其根本精神に於ては洵に同感であります。須らく國家は教育都市としての制度を設けて——唯、單に國家のみならず、地方に於ても此制度に基きまして諸般の施設を爲して、それが徹底的の指導監督の任に當

つて、圓滿なる統制を圖つて教育の實質を向上發達せしめて今日の國難を匡救すべきものであると深く信ずるのであります。

然らば教育都市計畫の事業はどんなことをしたら宜いかと云ふことを一言申したいと思ひます。只今本多先生からもお話の如く、努めて郊外の廣潤なる、殊に景勝の且又衛生的な地所を選びまして、之を教育地帯として、學校は中等學校一部或は其以上の專門學校以上の學校を意味するのであります。小學校以下、又それに準ずる教育機關は別と考へたいのであります。主として專門學校以上の教育機關、即ち學校或は圖書館、博物館、動植物園、運動競技場等の施設經營をし、特に教育を中心として道路、交通、衛生、保安、風紀、或は宗教等に關する諸般の設備を致し、且又それに準じて都市としての繁榮を期し得るやうな生産的の事業を致すことが必要であると思ふのであります。事業の概要は大體以上のことを申述べたいと思ふのであります。

然らば教育都市としての特色はどう云ふやうなものであるかと云ふことを考へて見ますと、第一に今日の如き思想行詰りの場合に當りましたは、教育都市を設けてそれが教育の中心となりますと、所謂思想の普

導及び思想の統一を徹底的に爲し得る結果、國家教育の中心地帯と云ふものが各所に出來て來る、是は洵に國家政治上、又國民精神の統一の上に於て有效なる特徴があると考へるのであります。第二には教育が經濟的に施設をされる、今日の如く國家に於ても又町村に於ても、或は市に於ても、教育費の爲に如何に困憊して居るかと云ふことは諸君の熟知される所であります。此教育都市と云ふものは色々な點に於て經濟的の施設が出來ると云ふことが特徴の一つであると考へます。次に教育の内容が自然充實することが出來ますから、其實質の改善向上を實現すると云ふことも可能だと信ずるのであります。更に教育が中心となりまして其處に人口が自然に集中することになりますから、都市としての文化施設の完成を期する上に於ても最も有効であると思ひます。尙ほ此教育都市の特色に付ては詳細に述べたいと思ひますけれども時間が許しませぬ。

更に最後に教育都市の地域はどんなやうな所に設けたいと思ひます。我國に於て稍々教育都市とも見るべき地帯は過去に於ては何處にあつたかと云ふことを考へて見たいのであります。私は不幸にして寡聞であり

ますが、唯江田島の如きは確に或る意味に於て特殊な教育都市であると見て宜からうと思ふのであります。此海軍兵學校が教育の上に於ても、又都市としても如何に成功して居るか云ふことは、是は私が申すまでもないことであります。其他現在の狀態から見て特に教育都市に準じて數へることが出來ると云ふ都市は、東京は勿論各種の學校其他の教育機關がありますから教育都市と見るべき點も多々ありますけれども、是は申すまでもなく政治が中心で其他産業がそれに附隨して中心になつて居りますが、決して教育が中心になつて居る都市とは考へることが出來ませぬ。唯、量に於ては確に龐大なものであるといふことは申すまでもないのであります。其他京都、福岡、仙臺、札幌等の如きは、今日の教育の設備から言ひましては確に教育都市に準すべきものではなからうかと思ふのであります。將來我が國家に於ては斯様な見地から特に教育都市を新に建設すると云ふことも考へなければならぬ。更に現在の學校都市にして特に教育都市とすべきものに付ては相當な考慮を拂ひ研究を致して此際國家は教育都市を設定することが最も機宜を得たことと思ふのであります。殊に郊外の都市計畫に關する諸般の問題を

研究致して居る所の本會議の如きに於ては是非教育都市建設のことに付て十分なる研究を致して戴きたいと希望する一人であります。

(カ) 都市研究學校の設立に就て

早稲田大學講師 小田 内通敏君
慶應義塾大學

色々都市に付ての御意見は昨日から伺つて居ります。私は只今皆さんに差上げてあります刷物に書いてありますやうに日本の都市の最近の發達及び都市計畫の問題からしても、又此様な都市問題の會議が開かれることから證明しましても、此際都市研究學校の設立を主張する者であります。

都市に關する吾々日本人の關心は、從來は殆ど都市行政に與つて居る人のみに限られて居つたのであります。然るに此都市問題會議の設けられた所を見ましても、日本の國家及び社會の都市問題に關する關心は段々移つて來たと云ふことを證據立てるものであります。殊に昨日からの色々の御研究の御發表に依りまして、都市に對する人口の増加、或は生活の複雑化、文化の

向上は更に都市問題を慎重に考慮し研究する必要を吾々に暗示して居るのであります。今日お話になりました特殊の都市、例へば宇治山田の問題に致しましても或は教育都市の問題に致しましても、是は一層直面した都市の研究の切實なる問題を吾々に提供して居るものであります。

然るに我國に於きましては、歐米の諸國に較べますと總て應用的の方面が先になつて、學問的研究はそれに後れて居るのであります。有ゆる社會的問題が、犯罪にしましても、或は衛生の問題に致しましても、常に歐米諸國に較べて問題の多いのは、其基礎的研究調査と云ふものが其實際に伴はないことが其大なる病根であります。

此様な見地から致しまして私は此際都市研究學校の設立を提唱するのみならず、皆さんに共に考へて戴きたい。其問題は單に學問と其應用との關係を圓滿ならしむるばかりでなしに、日本の公民政成と云ふものに對して一層切實に要求して居るものと思ふ。今日日本の新聞に現はれる所の大きな犯罪は、農村に多く行はれるか、都市に多く行はれるかと言へば、私が説明するまでもないと思ひます。公の機關、例へば東京

市の最近二三十年の行政に關する犯罪を私共見ますならば、思半ばに過ぎる事柄であります。

然らば都市研究學校の内容を如何にすべきかと云ふと、私は之に付きましては、皆さんのお手許に差上げてあります郊外地統制に關する根本方策の中に、都市の郊外地統制の根本方策は學者経験家其他の方々を網羅した所の常設委員會の必要を述べて置きましたが、此都市研究學校にありまして私はそれを主張するのであります。併し非常に好い機會でありますから、今日のお集まりの中から幾名かの委員を選びまして、臨時に其準備研究をすると云ふことも亦必要でありませう。

私の考へて居ります小さな案を参考に申し上げますと、私は其程度と致しましては専門學校程度と、より低い程度とを併置したい考を持つて居ります。其教科課程は理論と應用を密接なる關係に置きたいと思つて居ります。之を例へて見ますと最近日本に行はれて居ります丁抹式の國民高等農學校の如きは其好い例であります。幸ひに關市長の如き、或は池田理事の如き、最も此方面に付て研究され又經驗ある方々を委員長にしまして、特に臨時の研究をされたらどうかと思つて居り

ます。

其位置でありますが、私は先づ幸ひ東京に市政調査會の如きものがありますから、此研究機關と聯絡を取れる所に置きたい。又日本は地形なり經濟的關係から西と東に二つの重點がありまして、殊に大阪の都市的發達と云ふものは、私が申上げるまでもなく非常に發達して居ります。でありますから東京と並んで大阪にも都市研究學校を設けたい。

更に經費の問題でありますが、私共學究としましては其率を茲に具體的に申上げるだけの經驗を持つて居りませぬけれども、併し農村に關する所の學校は農學校程度から大學まで出來て居ることに鑑みますれば、日本の人口の四割を有つて居ります都市の研究及び其施設に付ての學校に對しては國家が相當の施設をし、更に寄附行為を以て之をやりたいと思ひます。例へば日本青年會館の如きものが東京に出來て居りますが、私はあのやうに名古屋以西は大阪に、名古屋以東は東京にと云ふやうにして置きたいと思ふ。

私共小さな學究的考から、どうかして都市の研究に付て考へたいと思ひまして、昨年小さな「都市地理研究」と云ふ本を出して居ります。此席におゐでの奥井

教授の如きはそれに對して相當權威ある論文を書かれて居りますが、私は都市の問題を考へることも必要であるけれども、其都市の問題の基礎となる所の基礎的研究と云ふことに、もつと國民が關心を持たなければ、日本の都市の完全なる發達は困難であると云ふことを主張したいのであります。

(ヨ) 郊外地統制方法に就て

京城府協議會員 藤井 貫一 君

皆様御承知の通り朝鮮と云ふ所は一種獨特の植民地でありまして、其特殊なる事情に立脚して私は茲に得手勝手なる議論を述べますからどうか宜しくお聴きの程を願つて置きます。

京城府は李朝五百年の歴史を有し、今や人口三十餘萬を包容致しまして、而も歐洲大陸に對する國際都市として、將又帝國の關門都市として可なり重要な地位を占めて居るのであります。併しながら人口の密度に於きましては一人當り約十二坪と云ふ殆ど飽和狀態に達して居るのであります。加之年々歳々無慮一萬人と云ふ、即ち三パーセントの人口が而も幾何級數的に増

加しつゝあるのであります。故に此狀態の儘にて進まんとすることは、保安上から見ましても、將又衛生上から見ましても、轉た憂慮に堪へないのであります。是に於てか京城府と致しましては須らく萬難を排して郊外に發展進出を圖らねばならないのであります。即ち都市計畫や市區改正乃至隣接町村の合併問題を解決しなければならぬのであります。

抑々市町村の合併を斷行して郊外を統制すると云ふことに付ては茲に四つの理由があるのであります。第一の理由と致しては交通問題であります。郊外統制の爲に道路又は軌道を擴張整理致しまして、之が改善若くは新設をすることは、單に大都市としての面目を改むるのみならず、又以て社會民衆の活動舞臺を延長し擴張し、即ち開拓すると云ふ意味に於きまして、所謂適者生存、優勝たる生存競争をして圓滑ならしむる所以であります。

第二の理由と致しましては教育問題であります。由來市内に於ける教育狀態と郊外に於ける教育狀態とを比較致しましたならば、自ら大なる懸隔があるのであります。吾人の常に遺憾とする所であります。須らく郊外部落の教育行政の統制を圖り、完全なる教育の

設備を施して、最も權威ある教育機關に依り、最も現代に適切なる實生活を基調とする教育の普遍的完璧と圓滿なる文化の進取的向上を期せねばならないのであります。

第三の理由と致しましては衛生の問題であります。單り市内のみが如何に衛生に全力を傾注致しましても、如何に傳染病の豫防にベストを盡しましても、郊外の衛生設備が不完全で、而も野蠻的不衛生的生活に甘んじ、或は腸胃扶斯の如き、或は猖狂熱、赤痢の如き代表的傳染病が隨時隨所に發生して、彼の恐るべきバチルスが滔々として市内に侵入するやうでは到底吾等民衆の尊き生命を保障すると云ふことは蓋し不可能であります。是に於てか吾等民衆は宜しく人生觀に目覺めまして、郊外に於ける衛生行政を統制致しまして、内外共通の絶對的衛生の設備と普及を圖り、所謂衛生第一主義を以て邁進し、城内城外數十萬の民衆の衛生を泰山の安きに置き、我が京城府の傳統的特別相たる千分の三十五と云ふ過大なる死亡率をして減退せしめなければならぬのであります。

第四の理由と致しましては産業の開發問題であります。元來市内に於ける地代と郊外に於ける地代とを比

較對照致しましたならば、驚く勿れ十倍乃至千倍の開きがあるのであります。若し夫れ斯の如き豊富にして低廉なる土地を保有する郊外部落を統制し、以て工場、倉庫の如き比較的過大の土地面積を要する建造物を建設致しましたならば、取りも直さず商工業の生産費を減少せしむる所以でありまして、全く理想的であります。要するに郊外部落に於ける助長行政を統一して、最も權威ある産業獎勵機關に依つて各種産業を指導啓發し、所謂産業の合理化を圖り、以て共存共榮の實を擧ぐると云ふことは蓋し焦眉の急務であります。

以上の見地に基きまして吾人は郊外部落の統制を絶叫する者であります。併しながら市町村の合併問題に付きましては各々自治團體獨自の立場から、或は税金の負擔問題、或は基本財産又は營造物の處分等に付きまして有ゆる苦情が百出致しまして容易に相談は纏まらず、頗る難事であります。故に政府に於きましては常に公正なる判斷の下に、強制的、積極的援助あらんことを望むと同時に、其前提と致して都市計畫の一日も早く我が京城府に施行せられんことを切望する所以であります。終りに臨みまして本論の趣旨要點に付き

ましては恐らく朝鮮十三道に於ける各府の共通的問題であることを私は茲に釋明をして置きます。

それからは一寸要らぬことでありますが、昨日本會御主催の方々から、大都市の發展問題に付きまして、縦に伸びると云ふことは兎も角、横に伸びると云ふことに付きまして、而も科學的歸納法を以て巧妙に御否定になつたのであります。就中之を人體に譬へられて縷々御名論のあつたことは私禿けたながらも感心をして居ります。併しながらアインシュタインの相對性原理に依つて考へましても、小さいものが大きいものに吸収せられると云ふことは、是れ宇宙の大勢でありまして全く眞理であります。現に九州の博多は小さかつた爲に福岡市に吸収されました。又大阪とか名古屋邊りは大々的の吸収をやつて居りますではありませぬか。物事は兎角程度問題であります。極端なるドグマチツクには我輩は反對であります。

(タ) 大都市の問題及都市計畫法 改正に就て

廣島市會議員 任都栗 司 君

第一に吾々が斯うして此處に會合して皆共通の考を持つて居るものは、大なり小なり即ち都市に生存致します者、其有機體に居ります者、即ち其都會の一帯に生活する者と又それを裁いて行く爲政者の同じ悩みであります。それは大きな有機體であれば大きなだけの悩みがあり、小さな有機體であれば小さなだけの悩みがある。皆正比例して悩みを持つて居るのであります。時としては小さな有機體に、より大きな悩みを保有して居ることが往々にしてあるのであります。

此點より立脚して考へますと、我が日本に、六都市と稱せられて居る六大都市の方々は、常に六大都市市長會議或は六大都市市會議議長會議と云ふものを開催せられて特別市制の要求を逐年猛烈に運動されて居るやうであります。是は尤もな叫びであつて、斯の如き制度の施行さるべきことを固く信じてやつて居るのであります。併しながら吾々は此六大都市のみに限定せずして、吾々の如き小さい都市に於きましても此制度の適用の必要を痛切に感じて居るのであります。此見地より致しますと六大都市の方々の其主張は當然であります。其主張される場合に於ける行動に於て幾らか當を失した、所謂平たく簡単に申上げますなら

ば、吾々の眼より見て不親切な行動ではないか。都市と云ふ同じ有機體の全國的悩みを包含着て居りますが、其悩みを解決する上に於て、大都市たる六大都市が率先して吾々を導き、而して吾々の此悩みを解決すべき行動を取られると云ふことが親切な行動であり、人類共存共榮の大和民族の大和魂の氣分に合致するものではないか。其意味に於きまして今日まで六大都市の執つて居られる行動は、非なりとは思ひませぬが、不親切な行動であると考へて居るのであります。

此見地より致しまして私が廣島の一市民として、廣島の實情を簡単に申上げますと、現在廣島に於きましても財政的方面に大なる悩みを持つて居ります。又都市計畫法施行上に於ける大きな悩みを持つて居ります。都市計畫法發布以來今日既に十年を経過致しました。我が廣島市に此法律を適用されんとして既に數年を経過しましたけれどもまだ其實現が出来て居りませぬ。辛くも本年我が自治體に於て之を解決すべく、是は起債に依らず、増税の方法に依つて僅に其一部を施行せんとする機運に逢着して居ります。私は之を考へて見た時に轉た感慨無量の感があるのであります。先程來多くの先輩諸氏が此點に付て詳しい議論を申

されましたやうに、此悩みを總括的總體的に結論に到達せしめんと致しますならば、現在の都市計畫法の改正が根本解決の方法であると斯う私は斷定を下す者であります。此都市計畫法の改正は先程來池田先生其他の多くの方々から申されましたから私は茲に重ねては申しませぬが、唯々大まかに總括的に都市計畫法の改正を要望したい。殊に本會の如きものが生まれて、其本會の如きもの、後援に依つて輿論を造り、而して當局の反省を促して之の實現の一日も速かならんことを要望して已まないものであります。

最後に我が廣島市附近の郊外の統制に付て申上げたものであります。我が廣島は、足を一歩お入れになつた方々は御存知の如く、恵まれたる天與の地形を有して居ります。若し今日まであの天與の地形に於きまして爲政者或は市民の自覺がありましたならば、今日の如く通々として發展しない廣島市ではなかつたと從來の状態を憾むのであります。あの恵まれたる都會に於きまして若し生産事業に目覺めて、あの地形に於きまして勇躍して其市民或は爲政者が其施設を適當に講じたとしたならば、天下に範を爲す立派な都市を形成したものと私は憾むのであります。甚だお恥しい次第

であります。それ程恵まれた土地でありながら而も同じ多くの悩みを持つて居ると云ふ以上は、都市計畫の方法に依つて解決するより以外に方法はないのであります。

そこで私は其状態を通覧致しますが、將來都市計畫法を施行する上に最も必要を感じて居りますのは郊外の統制であります。廣島市の郊外は、廣島市の土地が恵まれた地形を有して居るのと同じやうに、郊外も亦幾多恵まれた地形を有して居ります。第一番に都市が色々な生産事業を開始して行く上に於きまして先づ必要な條件として先程本多先生が申されました公園都市の計畫等も見逃すことが出来ぬのであります。併しながら幸ひなる哉我が廣島市は其附近自ら公園の状態を成して居ります。之を天與の地形と私は稱して居りますが、之を皆く利用して行くならば其土地に多くの公園地帯を造らなくても済む、斯う云ふやうな状態にあるのであります。故に此恵まれたる天與の地形を今から都市計畫施行に當つて利用して行かなければ斷じて將來の目的に副ふことが出来ない。此意味に於きまして我が廣島市には廣島市地形の有する特殊な郊外の統制を以て行かなければならない。斯う云ふことを感ず

るのであります。郊外の統制をしようと思つて、都市計畫法の不備、缺陷に依りまして都市以外に於ける所のものに我が廣島市の定められた有機體が手を伸ばして之の統制を強制的に行ふことは斷じて出来ない状態にあるのであります。之を統制して行くにはどうしても其處に法律の改正を行はなければならぬ。さうして此統制を自由ならしむる必要を感じて居るのであります。

而して最後に申上げたいことは、一例に今公園計畫のことを申上げたのであります。具體的のことを考へますと、廣島市と吳市は結ぶに僅に數哩の道を以てして居るのであります。而も廣島市と吳市の人口は、兩方を合しまして、今度の國勢調査の實數に依りますと五十萬を突破して居ります。我が廣島市の如きは今回の國勢調査の實數に依りますと三十萬を突破して居ります。其三十萬人と吳市の二十萬人とを結び付けた郊外が僅に數哩とするならば、之を將來如何に結び付けるか、是は我が廣島市に於ける刻下の重大問題であり、又吳市に於ても刻下の重大問題である。而も此兩市を結び付ける道路は實はないのであります。あなた方試みに地圖を開いて御覧になると、地圖の上には立

派な國道が付いて居るのであります。然るに地圖の上にある國道は現存せずして、僅に三尺幅の里道があるのみとは驚くべき状態ではありませぬか。是に於て郊外の統制を圖り、相當なる施設をやつて此路線を結び付け、而して沿線に於ける町村と廣島市と吳市との母體を結び付ける經濟的の將來を考へる時に愕然として又法規の不備を感じざるを得ないのであります。

要するに此處まで私が申上げ來りますならば、現在の都市郊外の統制は極めて必要でありますけれども、之を統制して行く上に於て現在の法規では絶対に不可能でありますから、吾々此會合の力を以て、之が生聲を發しまして、將來適當なる統制を爲すべく法律の改正を行ふ、之を熱望絶叫致す者であります。

部長代理（本多靜六君）

是にて通告されました方々は全部済みましたのでございますから、討議は是で打ち切りますして本部會を閉鎖致します。

第三 第二部會討議

一 序 説

前篇第二に記述せる如く、會議第二日午前九時より同十一時四十分まで、市政會館第一階に於て第二部會、即ち第二議題街路交通の統制に關しての討議を行つたが、その經過、内容左の通りである。部長は工學博士中川吉造氏、記録その他の會務は東京市政調査會弓家七郎、平野眞三、檜木徹の三研究員これを擔當した。

二 討 議

部長（中川吉造君）

第二部會討議順序及御姓名等を書いたものを差上げて置きましたが、大體其順序に依つて議事を進めて行く積りであります。此順序は大體御承知の通りに議題要項の順序に據つたのであります。尙此中に自動車料金問題、町名地番の改正等に關する件、都市郊外の衛生といふ項目が載つて居りますが、是は此第二議題の内容範圍を決めます時に、若し之等の事項を入れますれば、非常な廣汎な事にまで亘つて、此會議を纏める上に於て頗る困難であるから、是は除くことにしようといふことになりました次第でありますから、此三つの

題目は遺憾ながら本日は御差控願ひ度いと存じます。

尙昨日も池田氏から申された通りに、今日の時間は甚だ僅少でありますから、迎も此時間で以て十分の御討議をお願い申す譯に行きませぬ。又十分の御意見を伺ふ譯に行きませぬから、それ等に就きましては更に明後日お集りを願ふことに致してあります。それで本日は講演或は御報告下さる人に對しましては相濟まない次第でありますけれども、時間の關係上どうぞ是非五分以内といふお考で其要旨をお話し下さることを希望する次第であります。

(イ) 横斷歩道の位置に就て

京都市土木局
都市計畫課長

木村 喬君

從來京都市の方で設けられて居ります横斷歩道の位置は、大體研究報告にお述べになつて居られます内山、藤岡兩氏の御意見の通りであつたのでありますが、最近警察の交通關係の御當局の意見をも伺ひまして、成べく交叉點の中央に居る交通整理の巡查の位置に接近させる爲といふこと、それから停車する車の混雜を成べく防がうといふ爲に、歩道の延長線近くまで持つて來たらどうかといふことになり、最近さういふ方法で二、三の横斷箇所を設けて居ります。ところが此方法は非常に歩道が延びますのと、もう一つは横斷箇所に出ますのに一度車道に出るやうな形になりますので、最近又どうかといふ意見も出て參つたのであります。是等の點に就て若しお考があり、御研究になられた方がありますれば御意見を伺つて見たいと思ひます。

(ロ) 簡易舗裝の實況

京都市土木局
道路課長

神谷 秀吉君

研究報告の第二三七頁に於て、大阪市長の路面舗裝の適否に就き御報告がありますが、アスファルト舗裝、混凝土舗裝が最も廣く採用され、次で木塊其他特殊の舗裝も各々適所に使用される機運であるとのことですが、東京市でも道路面積千四百四十萬平方メートルの内、道路舗裝面積は六百四十萬平方メートルでありまして、其凡そ四割五分はアスファルト混凝土道であります。今、大正十四年度より昭和四年度に至る五箇年の剛質舗裝道路の修繕及び復舊の實績に依りますれば、各種舗裝面積に對する一箇年一面坪當りの修繕費は、鋪石道二十一錢、歩道混凝土平板が三十三錢、瀝青混凝土が七十六錢、鋪木道九十七錢、準歩道煉瓦が一圓四錢、瀝青マカダムが二圓十三錢であります。又各種舗裝面積に對する修繕面積比率は、鋪石道が一・一七％、歩道混凝土平板が四・二七％、準歩道煉瓦が五・九二％、瀝青混凝土が一・六四％、鋪木道三・二％、瀝青マカダ

ム道が三四・九七％であります。又各種舗装面積に對する一箇年一面坪當りの復舊費は、瀝青混凝土五十五錢、歩道混凝土平板が六十三錢、瀝青マカダムが七十錢、鋪木道が九十四錢、鋪石道が一圓三十六錢、準歩道煉瓦が一圓八十一錢でありまして、各種舗装面積に對する復舊面積の比率は、鋪木道が一・四七％、瀝青混凝土が一・六三％、鋪石道が二・七五％、瀝青マカダムが三・三二％、準歩道煉瓦が五・八七％、歩道混凝土平板が六・三八％であります。之に依つて見ましても瀝青混凝土舗装は比較的缺點の少い舗装と思はれます。

大阪市長は「多くの簡易舗装は交通比較的閑散なる街路又は牛馬車等金屬輪帶諸車の交通せざる特殊の街路に使用する場合はその生命も三、四年を保ち能ふも交通頻繁なる街路にてはその效果殆ど無し」と言はれて居りますが、大阪市に於て施工せられて居ります簡易舗装はどういふ工法でありますか分りませぬが、東京市では昭和四年二月二十六日に專賣特許權を得ました瀝青乳劑を使つて、大正十五年以來約三十八萬平方メートルの簡易舗装を施工致し、又本年度に於ては失業救済事業として九十九萬八千八百平方メートル、普通砂利道維持の手で二十五萬平方メートルの面積を此簡易舗装を以て施

工することにして居ります。

此工法はどうするのかと言ひますれば、在來の地盤を掻均機で掻き起しまして、横斷勾配二十分乃至二十五分の一に整正しまして、六・五糎乃至三・八糎の碎石を一平方メートルに〇・〇二三立方メートルの一並びに敷き、さうして衣土を目潰として十噸又は十二噸のマカダムローラーで十分水縮壓を致します。さうして成べくからそれをば十分洗つて、瀝青乳劑を二回に三・五リットルの割合で撒布致します。是も多少分量を多くしてやれば宜いと思ひます。さうして其の上に碎石屑の一・三糎乃至一糎のものを二回に〇・〇一三立方メートルの割合に撒布して、僅に一時間位の後に交通を許すことにして居ります。此工費は一平方メートルに付き七十八錢、坪にして二圓五十七錢であります。

地盤がよく締つて居る所では碎石被覆をせずして、横斷勾配を二十分乃至二十五分の一に整正した後、十噸又は十二噸のマカダム・ローラーを以て十分輾壓を致しまして、瀝青乳劑を三・五リットル二回に撒布して、其の上に碎石屑の一・三糎乃至一糎のものを〇・〇一三立方メートルに二回に撒布します。此工費は一平方メートル

り僅に三十三錢、一坪で一圓十錢であります。

東京市で製造するところの瀝青乳劑は一立噸に付て四十圓位で出來ます。民間にも之に類する乳劑はありますが、是は一立噸に付て八十圓から百圓位であります。東京市では從來此工法で相當交通頻繁な箇所を施工して居ります。昭和三年十月に芝區三田四國町通りのやうな、一日に自動車に四百四十臺、荷馬車が八十臺も通るやうな所に施工しました。又昭和四年十一月には小石川區關口町百八十番地から雜司ヶ谷二番地に至る目白坂通りにも施工しましたが、此處は一日に自動車に六百六十臺、鐵輪の荷車が二百五十臺も通行して居ります。けれども兩箇所共に破損して困るといふ非難を聞いた事はありません。

要するに地盤の強弱、排水の良否、施工時期の適否、施工方法の巧拙、材料の良不良等に依つて其の結果が大に違ひますが、是等の要素が宜しきを得ますれば相當良好なものと考へます。

又此簡易舗装道路の維持費を見ましても、剛質舗装道路に比べますれば勿論、砂利道に比べましても非常に少いのであります。簡易舗装道路では、一等道路三十六錢、二等道路十錢九厘、三等道路では五錢四厘で

あります。砂利道では一等道路が八十七錢三厘、二等道路が二十六錢九厘、三等道路が十五錢二厘であります。即ち簡易舗装道の維持費は砂利道の維持費の二・五分の一位であります。簡易舗装の維持は、磨損したる箇所を瀝青乳劑と碎石屑とを以てパッチする位の事で十分ですから頗る簡單であります。高價な金額を費して剛質舗装をするよりも、一日も早く此簡易舗装を普及せしめるといふことが目下の急務であると信じます。

又歩道の混凝土平板は一平方メートル當り三圓四十錢位掛ります。電線路、瓦斯管、水道管等の地先引込みの爲め時々掘り起される、其都度一度取外した混凝土平板は、再用する時迄に随分破損せられるものであります。それ故に歩道の混凝土平板よりも安く拵へることが出來て、又之を復舊するのに平易であつて而も安くつくものでなければなりません。之には目下東京市では瀝青モルタルなるものを專賣特許出願中であります。之に依れば一平方メートル當り一圓位で出來ます。即ち混凝土平板の三分の一以下で出來ますし、復舊するにも平易でありますから、斯様なものは將來大に普及しなければならぬと思ふのであります。

(ハ) 横断地下歩道及地下駐車場

東京市土木局長 今井 哲君
道路課建設部長

今回大阪市では横断地下歩道をお設けになつたといふことですが、それに付て少しく所見を述べて見たいと思ふのであります。

車道の交通が繁激になるに従つて徒歩者の数が激増し、徒歩者が歩道から歩道に渡る爲に車道に立入ります時、其の統制宜しきを得ませぬ時には、之が屢々交通事故の原因をなすものであります。實際に交通事故の大部分が直接間接に車道内の徒歩者に因ると言つても過言ではありませぬ。此の種の交通事故を絶無にするには地下歩道の施設に依るの外はありませぬ。

東京市に於ても一昨年来切りに之が研究を致して居りますので、大阪市で設けられた地下道に就て論じます前提として、東京の調査の一例を申述べます。銀座四丁目、五丁目の街路の交叉點は、日比谷公園と歌舞伎座前を結ぶ二十間道路と、京橋新橋間即ち銀座通り十五間道路との交叉點でありまして、東京市内に於て

徒歩者の交通量の最も多い場所の一つであります。此交叉點で歩道から歩道に渡る徒歩者の數を知る爲に、昭和四年四月二十四日の午前七時から午後七時迄の間十五分毎に區切つて調査した事があります。當日は晴天であり、特に人の氣も浮かれる春の事でありまして銀座としても特殊の日を除いては先づ交通量の多い日であつたに相違ありませぬ。さうして各時間毎の數は流石に歡樂境の常として夕間迫まる頃が多く、又午前の五時間總計七千二十人に對して、午後の七時は二萬八千二百三十一人を示して居ります。此の時の調査には、電車に乗る爲や降りて歩道に移る爲に車道内に入る者は含めてありませぬ。更に之を所謂銀ブラ黨の歩く方向、即ち銀座通りに沿うて車道を横断する人數を見ますと、午前中の五時間に總計五千二百六十八人午後の七時間に二萬二千六百四十三人を算へて居ります。尙道路の交叉點では、車道を横切る徒歩者の流れは四箇所八方向に分れますが、此銀座の四、五丁目の交叉點では、北から南に、即ち日本橋の方から新橋驛の方向に車道を横切る者が何時も多いのであります。中でも西側の歩道が特に多かつたですが、其最も多いのは午後五時四十五分から六時迄の十五分間に五百十

人を算へました。尙同時間内の八方向車道横断者の總計は千二百九十一人であつたのであります。

大阪堺筋は路幅十二間あつて、大建築物百貨店等が澤山あつて、交通も非常に繁激な所であるさうであります。大阪市中で本年五月二十五日の御調べに依ると、三越前の車道を横切つて歩道から歩道に渡る者が午前九時から午後六時半迄の九時間半に一萬八千人あるといふことであります。さうして三越の入店者の數は(それより三日前の調べださうですが)一萬五千人ださうです。右の内午後四時と五時の間が最も多くて三千人餘といふことです。

之に對して大阪市では横断地下歩道として幅員二間高さ八尺として計畫せられて居るのは相當の計畫と考へられます。但し地下道の路面が道路面から十四尺五寸も下にあるといふことは、三十段も階段を降りなければ地下道に達しないといふことになつて、是は埋設せられた工作物の關係からと思ふのでありますけれども、唯さへ利用の少い地下道をして益々徒歩者から遠ざからせる原因を成すであらうことを遺憾と致します。實際地下道の利用の狀況は外國に於ても特殊の場所、例へば小學校の生徒の爲等の時の外餘り芳しく無

いやうであります。

地下歩道の構造等の事に付ては、私は昨年六月道路改良會の雜誌にも書いた事がありますが、總て路面の直下に之を設けることとして、晝間は燈火無しに、天井即ち路面に嵌め込んだガラスに依つて明るくし、各種の埋設物の方を地下道の下にするやうに致したいものであります。

三越前の地下道に付ては最大一時間三千人といふことであります。普通の場合ならば地下道の幅員は九尺で足りると思ひますが、百貨店の出入者一萬五千人に對して、車道横断者が一萬八千人といふ數から推して、右一時間三千人の大半が三越に出入する人々のやうに考へられますので、通行者の質から考へて稍廣く造ることは至極尤ものことと思ひます。併し之が他の道路交叉點等の場合ならば右位の人數では地下歩道は幅九尺、高さ七尺五寸としてはどうかと思ひます。若し此處の地下道と百貨店地下室が連絡して居るならば歩道の混雜を救ふことが出来るやうに考へます。

現に東京市では地下鐵道會社と協調して、松坂屋、三越、白木屋等と地下道で直結するやうに圖つて居り

ます。尤も此地下道は地下鐵道の入口兼用のものであります。尙其他上野驛前、神田驛前等に於て地下鐵道會社の施設として横斷地下道を竣工し或は工事に着手せんとして居るのであります。

横斷地下道の利用が少いに拘らず私が其必要を力説しますのは、將來高層建築が増し、交通が繁盛を加へるに従つて必ず其の施設を必要とするに至ることを信するからであります。さうして少くとも今日に於て之が計畫を樹てなければ、後に至つて或は地下鐵道が出来、又大鐵管等が埋設せらるゝに於ては事實上地下道の施行が不可能となるのを恐れるからであります。又地下歩道に依らずしては絶対に安全な車道横斷の途は無いと信じます。

以上の外單に徒歩者のみでなく、街路上の車輛、主として自動車、駐車場の問題に就ても相當考慮しなければならぬと考へます。大阪市では大阪驛前の地下歩道を考究せらるゝと同時に、街路及び廣場下を利用して地下ガレージを設置することが街路交通の統制上至極必要のことと思ひます。東京市に於きましては有志相集つて都市美協會といふものを組織して、月一回の會合をなし、都市美の増進と保存に付て研究を重ね、時

に世論に聞くことがあります。所が或る日の會合に於て、東京驛前のあの廣大な廣場を利用して地下ガレージを設備するに付ての一二の私案を持ち出して論議した事があります。すると暫くして同様な計畫の下に道路占用の出願があつたといふ噂を聞きまして、其のスピードの速いのに驚いたのであります。併しそれが縦ひ私人の經營であつても宜しいから、さういふやうな場所の地下は出来るだけ之を利用することにすれば、一面には、唯さへ狭い都心地の土地經濟を計り、他方では日に増加する自動車を整理することが出来るので、交通統制上必須の施設と考へるのであります。

私は大阪市に於て横斷地下歩道が種々研究の結果着々其の實行の域に進んで居られるのに對して滿腔の敬意を表すると共に、尙自動車の地下駐車場に付ても同様の新例を開かれんことを切望する次第であります。

(二) 運轉手素質の改善と

「流し」自動車の取締

東京交通安全 土倉 木二君
聯合會常任理事

街路交通の統制といふことに就きましては、事故防止の施設といふことが最も急務であらうと考へるのであります。東京では各警察署管内に事故防止會、交通安全會といふやうなものが出来て居りまして、其會は主として自動車及び自転車業者を以て組織して、さうして當局と一致して事故防止の施設に随分骨を折つて居るやうでありますけれども、事故は年一年と増加するばかりであつて、少しも事故防止の効果を見ることが出来ないといふことについては、吾々交通業にたづさはる者として實に痛心して居る所であります。

此事故の大部分は何と言つても自動車に依つて起つて居るやうであります。然らば自動車業者及び其従業員、素質の改善といふことが最も急務であつて、當局としても色々運轉手の試験制度などにも改善を計畫して居られるやうに聞きますけれども、現にお互ひの使用して居る運轉手が、日比谷の交叉點に於て整理器に桃色の信號が出た、所がそれを赤色と思つて止まつた、併し是は「注意」の時であるから直ぐ行かなければならない、それを赤いのだと思つて行かなかつた爲に處罰を受けて居る、是等は運轉手試験をやる時に嚴格検査、殊に色盲検査を當局がして居らぬ結果が茲に至つ

て居るのであるといふことを私は痛感したのであります。斯の如く事故の發生といふことが、其運轉手の素質の悪い事に原因して居ることは争ふべからざる事實でありますから、其の身分身許の調査と共に體格検査等に十分注意して、自動車の従業員試験制度に付て當局に於て考慮して戴いたならば、事故發生の原因を少しは減少し得られるのではないかと思ふのであります。

いま一つは朦朧自動車といふものが、ノロノロ歩いて交通の妨害を爲すことで、之は皆様が一たび淺草或は銀座邊を夜の十時、十一時頃に御覽になつたならば直ぐにお分りになることであります。私共は二三日前に淺草で乗用自動車だけの交通量の統計を取りました所が一時間に三千幾百臺が流れて居る。其の内、實車の數は千臺で、二千臺が空車である。其の内の千臺は實車が行つて戻つたのであるとしても、尙一千臺といふものは朦朧車であるといふことが立證し得られるのである。それ等が何れも三重、五重になつてノロノロ歩いて實際の交通を妨害することは實に甚しいものであります。之を取締るに就ては當局としても昨日保安部長殿から、駐車場を幾十箇所か設けたいといふやう

なお話がありました。是は往年人力車の朦朧を取締る時に此策をやられたけれども、それと自動車は大に趣きを異にして居りますから、こんな事では何等効果を奏さないのであります。それより寧ろ朦朧車を取締るに付ては、行政區域に依つて或は日比谷とか、或は本所とかいふことを表はす爲に、車の前にもつて行つて日比谷なら「日」本所なら「本」の字を入れるといふやうにして、其の營業所へ歸る時だけは空車を許す、さうしたならば其の方面へ歸る車を選んで乗らうとする人は非常に便利で安くも行ける。又他の營業所以外の方角へ向つて行き居る車は朦朧であると認めて嚴重に取締つて戴いたならば、朦朧車を取締ることが出来ると同時に、要らない車がノロノロ街路を一時間に一千臺以上も歩いて居るといふやうなことを除くことが出来ると思ひます。

斯様にして、朦朧車を取締り、尙又運轉手の素質を改善せられることに當局がいま一層意を留めて下さつて此改善を期せられたならば、交通事故防止の結果を佳良ならしめるところの原因になるといふことを痛感する次第であります。

(ホ) 鐵道踏切の改善を望む

東京府 野方町會議員 杉 傳三郎君

此都市問題會議に就て、野方町は之を一つの實際運動であると看做して、其爲に特に町會を招集致しまして、各提出する議題を討議し決議したのであります。さういふ譯でありますから他の方の調査の御報告とは或は型を脱して居るかも知れませぬ(研究報告第二六六頁参照)。近來都市が非常に平面的に膨脹致しましたのは、交通機關としての電車、發展に負ふ所が大なるものであります。我が野方町も東西に貫通する一つの私設軌道の出來たことに依つて一農村から人口四萬を包容する郊外都市に急激なる發展を致したのであります。でありますから郊外地に取つては此軌道は唯一の恩人であるのでありますが、此町が發展して市街地を形成した時分に、そこに再び其軌道に向つて改善を爲すべく幾多の施設を要望せざるを得ぬやうな事態に立到つたのであります。即ち軌道の踏切に對して幾多の施設をしなければならぬといふことを要求したので

あります。其問題はすべて交通事故防止の見地から致します。有り觸れた要求でありまして、其照明を増大して貨物列車の場合と雖も明かにしなければならぬ、或は踏切番をモット多く設置しなければならぬ、音響に依る警報器も設置しなければならぬ、又其の鐵道を横斷する歩道の幅員より以上其踏切の敷板を廣くしなければならぬといふやうな、幾多の缺陷を發見して其改善を要望したのであります。其経緯に就て會社對自治體の抗争を申上げることが甚だ穩當でないと思ひますから省略致しますが、會社に對し自治體たる町が要求しまして、そこに其施設を施すに至る迄には相當の日子と面倒を要したのであります。併し今は漸次改善されつゝあります。

斯様な問題は其鐵道、軌道の當局者と監督官廳と自治體といふものが、さう面倒無くして圓滿協調の下にスラ／＼と改善して行くことが、都市交通の統制上望ましい事だと考へるのであります。どうか監督官廳の方々も、又會社を經營する方々も、其の土地の自治體に直接關係する人々も常に留意されて、圓滿なる協調を保つて統制ある都市の發達に寄與せられんことを切望する者であります。甚だ要領を得て居らぬかも知れま

せぬが、斯様な次第で調査の資料を發表するといふよりは、我が町の決議を齎して御報告を致した次第であります。

(ハ) 一都市内に於ける

交通機關の統一經營に就て

神戸市電氣局 運輸部長 廣瀬 秀吉君

街路交通機關と申しても、無論只今の所では主として電車、乗合自動車に就ての問題であります。方々に行はれて居りますやうに、一つの都市の内小さい事業が色々分立並立して居るやうな場合には、兎角競争が行はれて、一面に利點があると同時に他面には非常な弊害があると見られるのであります。申す迄もなく其の利益として挙げ得るのは、競争の結果サービスが一時的に改善せられる、或は料金が低下する傾向になつて來るといふやうな點が主なるものと考へますが、一面道路の利用能率といふ眼から見ますと、そこに非常に弊害が生じて居るやうに思ふのであります。収益のある交通量の多い路線に對しましては、各々の

事業が乗客争奪の爲に、其方面に必要以上に車輛を廻すといふ傾向が兎角起り勝でありまして、其の結果交通量の多い路線に於ては益々必要以上に車が輻輳して参り、さうして車の運び得る容量の利用能率から言つても非常に貧弱なものになつて來ることがあります。結局道路の利用効率是非常に低下して参りまして、其の結果さういふ街路は彌が上にも必要以上に輻輳して参るといふのが、弊害の最も多い點のやうに考へるのであります。その他企業投資が必要以上に重複する結果競争の結果と相俟ちまして事業の収益率が非常に下つて來る、其爲に各々の企業が經濟上業務を改善して行くだけの餘裕が無くなつて來るといふ點も、競争の非常な弊害だと考へるのであります。まだ大きな弊害があります。交通量の多い路線には各企業とも十分に配車を致す譯でありませうが、比較的第二次以下の交通量の路線に對しては、競争の結果經濟的餘力が無い爲に、十分に交通機關が普及しない。若し収益路線で競争が無かつたならば、其路線の収益の餘力を以て、都市のあらゆる部分に交通機關を普及することが出来るやうな場合に於ても、収益路線の競争があるが爲に、經濟上の餘力が無くなつて交通機關の普及が出来ないと

いふことは、世間に澤山其實例があるやうに見受けるのであります。それで私の主張は、一都市内の公衆用の交通機關は、一手で統一しなければいけない、詰り競争に依る利益は、競争に依る弊害を償ふに足らない、どうしても統一するやうな方針ですべての施設、處理を進めて貰ふやうにしたい、斯ういふのであります。承る所に依りますと東京市に於てはバスを市營として發展させたい民間には此の上許さないといふやうな方針と承つて居ります。京都市もさうであるといふ風に承つて居ります。其の他にもあることゝ考へますが、此の方針は全國的に採用になることが極めて適切であり、必要であらうと考へるのであります。バスだけでありませぬ、電車でも、電車とバスの間に競争が必ず生ずるのでありますから、此弊害は同様に起つて來る。であるから電車も、バスも必しも市營とは申しませぬけれども、一つの企業で統一するといふことが最も必要なことであらうと考へます。

それからモウ一言希望でありますが、都市の郊外部、分より都心に對する交通についてであります。只今の監督官廳方面の手加減を拜見致しますと、市の行政區

域以外に亘つて市の經營して居る交通機關——バスなり電車なりが延びるといふことに對しては、非常に慎重に取扱はれて居るやうである。詰り延びさせないやうにとの取扱ひではないかと考へるのであります。私共交通事業に従事して居る者から見ますと、是は非常に誤つたやり方ではないかと考へられる。無論郊外部分の交通は都心との連絡が完全でなければ役に立たない譯でありますから、どうしても都心との交通を密接にする必要がある。それには郊外の交通機關が市内へ乗り入れるのでは満足に行かない。どうしても市の内部の交通機關が郊外部分へ手を擴げるのでなければ、完全なる交通機關の完成は出来ないといふやうに考へるのであります。それと同時に都市連絡の交通機關、或は遠距離から都心に向つて來る交通機關のやうなもの、私の論題の主題とは離れますけれども、詰り地下線、高架線といったやうなものに依つて都心に入つて來るものは遠慮無く許可した方が宜からうと考へます。詰り街路交通は一つの都市の内では一つの經營にする、郊外部分も併せて一手で經營さす、同時に遠距離の高速都市連絡鐵道といったやうなものに對しては、市内に地下、高架で乗り入れることは遠慮無く許

可することが、都市及び郊外の活きる唯一の途ではないかと考へる次第であります。

(ト) 自動車營業取締に就て

日本自動車業組合 聯合會常務理事 新倉文郎君

昨日大阪の内山さんのお話の中に、交通を取締る場所と、道路の管理維持建設といふ方面とは自ら別になつて居る、都市に於ては市が道路方面を管理して、其の取締だけは役所でやつて居るといふことは一身二頭の觀があつて非常に工合が悪い、斯ういふ事では交通の統制は絶対に執れぬといふことを言はれて居りました。私はそれに對して第一に拍手を贈つて共鳴した一人であります。交通の取締の上に於ては此點が最も重大な問題でありまして、警視廳なり警察官といふものは、經濟的事情或は其他の事情を顧慮せずして、たと單に交通事故が無ければ宜いといふので、取締つて罰すれば事が足りるといふやうに考へて居るのであります。之を以て交通の統制は絶対に不可能であります。で假に警視廳管内に於て取締の遺憾な點を申上

けて見ますと、交通巡査が保安部長のお話で六百幾人あり交通上の主義並に方針を樹てる者は保安部並に交通課でありますけれども、一人の交通巡査と雖も自己の掌中、自己の指圖の下に之を指揮命令して使ふといふことは絶対に出来ぬのでありまして、警務部に屬したる署長の権限内に於て交通巡査が働いて居るのでありますから、澤山の署長の考に依つて交通巡査がいふの働きをして、保安部なり交通課なり取締をする人の命令一途に出た指揮の下に動くといふことが無く、勝手にやるといふことになる、或る警察へ行けば署長が送ると、署長の間には非常な墙壁があつて、道路一重、川一重で、俺の管内ではない、俺の管内だといふやうな争ひをする、仕事の責任範圍を分擔して居る、何か許可を受けようとしても許可して呉れない、或は前の署長は空車は入つてはいけないといふ空車止の杭を打つた、署長が送ると斯ういふ事は人権無視であると言つて取つてしまふ、さういふ風にして非常に區々に流れて居るといふことは遺憾の最も大なる事と考へて居ります。

更に交通機關相互の統制並に許可といふやうなことに向つて、現在の組織に於ては取締は官廳がやることに

なつて居りますから、そこに本當に一つの主義、方針を以て臨まれるといふことが必要ではないかと思ふ。假に東京市に就て之を見ますと、省線があり、或は郊外の電氣鐵道があり、軌道があり、それと電車との關係、電車とバスとの關係、それには私營の青バスなども入り込んで居る、更にバスとタクシーとの關係、それと交通量との關係、一體どれだけの人間を輸送してやらなければならぬのか、東京市といふものから見るならば、此人間の動きを如何なる機關で運ぶことが一番經濟的で一番統制が附くかといふやうな事を考へてそれに順應してあらゆる交通機關の許可を當局がすべきである、斯う考へるのでありますが、それが遺憾ながら行はれて居らぬといふことは、假に青バスが通つて居る、其處には電車も通つて居る、それに又東京市のバスを置いて減茶苦茶に競争させて、停留所も同じ所で、色も成べく似たやうなばかし色を使つて、兩方で乗客を奪合ひして居るが如きは、二重投資も甚しい。斯の如き統制無き状態を東京の真ん中に現出して居るといふに就ては、絶対に是は經濟的にも双方が相共に減びる状態なりと信する者であります。東京市は年額五百萬圓から電氣局經濟が缺損であると言つて居る。

一億八千萬圓の市民の負擔は直に食つてしまふと思ふ。之を一體どうしたら取締が附くのか。斯う考へる時に、如何に東京市が管理者であるからと言つて、東京市が勝手に其處にバスを動かし、勝手に電車を敷くといふやうなことを唯無意義に許すといふことも考へ物だと思ふ。たゞ競争せんが爲に、買収價額を安くせんが爲にやつて見ようといふやうな遣方も無きにしもあらず。さういふ點に向つて確乎たる方針の下に交通機關の取締を講じて、相互の連絡を執つて行くといふことが必要ではないか。

そこで私は斯ういふ事を特に考へて居ります。近頃電車と乗合自動車が入がなくなつて困る、さうしてそこに無暗に車を出して混雜して居るのであります。そこへタクシーが入つて来る、タクシーも無意味に走るものが非常に多い。私共の最近に於て調査した所に依りますと、必要に依つて走る車一に對して無意味に走るものが二乃至三ある。それは流して行つて客を拾はうといふのであります。何處の客を拾ふかと言ふと電車や乗合自動車の停留所に行つて客を拾ふ、五錢でも十錢でも宜いからお乗りなさいと言つて引張る、所謂朦朧乗合自動車のやうな事をやるのであります。そ

れ故に乗合自動車も収入が減つて来て引合はなくなる。二重投資は常に乗合の一路線に向つて二營業、三營業を許すばかりが二重投資であり、無駄であるといふばかりでなく、同じ交通機關である以上は、タクシーを乗合自動車或は電車の通つて居る所に無暗に入れて置くといふことも二重投資になつて相食むことになる。で此點は特に考へて取締をして貰ひたい。と共に官廳の仕事には經濟といふものを考へる餘地が果して無いのかどうか、取締の任に當る人達は此點を交通機關の統制といふ上に於て特に考へて戴きたいと思ひます。事業といふものは永續性のものでありまして、お役人の椅子といふものは殆ど轉々として居る。鐵道省の局長年俸五千圓の人が東京市の電氣局長に一萬五千圓でなると、それがどういふものか一年と持たない。又役人の位地も轉々として變る。併しながら其處に敷かれた路面電車にしても、バス路線にしても、吾々のやつて居るところのタクシー或は運輸の事業にしてもそれは永劫的な都會の交通機關として缺くべからざる生命を有つて居るものである。其の人達の椅子の動きに依つて常に取締が轉々として變つて行くといふことは、所謂都會の交通統制の上に於て最も遺憾な問題

であります。だから人を送へることに依つて事業の永續性を傷けないやうな、そこに確乎たる組織が國家的に出来ないものであらうかといふことを考へるのであります。

(チ) 優先通行規則の制定を望む

大阪市電氣局 運輸部長 岸本熊太郎君

街路殊に車道に於て諸車の通行が如何に規則立ち、單純化せられ、又交叉點の交通量が如何に最大量まで増し得るとしても、車道を行進する車輛の進行上の相互の權利義務に關する問題が明瞭に規定せられ且つそれが實行せられない限り、未だ以て現在の街路交通の支障を除去して圓滿なる交通能率を發揮したといふことは言ひ得ないと思ひます。此目的よりして交通權を有つて居るところの歐米の各都市に於きましては、交通の取締の上のライト・オヴ・ウェー・ルール、所謂優先交通に關する條項を設けて、相互車輛間の交通上の優先權を規定して居るのであります。

此の定め方に大體四つあると思ひます。第一と第二

は交通の關係に付てありますが、第一は交通の方向に依る優先權であります。丁度鐵道に於けるが如く、例へば此の町の交通の流れは、主要街路に於て南北から南北に早く疏通する方が全體の交通の圓滿を期する所以であるといふことの明かである時には、交叉點に於て交通巡查の居らない限り、先づ南北の交通を早くして東西の交通はそれに譲る、即ち南北交通を東西交通よりも優先にするといふ所があります。アメリカに於てクリヴランド市の取締規程の如きは其の事を書いて居ります。第二に、交叉點に於ける車輛間の優先權に就て規定して居る所があります。同時に停車線に近づいて居るところの諸車の中には、日本で言ふと最左端の車輛に優先權を與へる、詰り若し進行列が一つであつたならば、交叉點の停車線に到着したるものが歐米の規定に依ると右であります。日本の規定に依ると最左端から順次出て行くやうにする、又二進行列であれば二列に整理して行くといふ風に、最左端に優先をさすといふ規定のある所があります。第三には特殊の車輛に於ける優先權、是は御承知の通り、各國とも我國に於ても共通でありまして、消防車或は傷病者運搬車などが優先權を有つて居るのは我國も同じ事で

あります。

第四は路面電車、の優先權であります。街路交通に付て特に考慮すべきものは、自動車などの如き無軌道交通機關と、路面電車の如く有軌道であつて其の軌道しか行けない所の交通機關の間に優先權を明かにすべきものではあるまいか。將來はいさ知らず現在に於きまして路面電車が我が國の何れの都市に於ても車道の交通の主要機關である以上は、如何にかして此關係を正しくして、車道上の圓滑なる交通の効果を發揮するといふことが當面の緊急問題であると思ひます。安全と同時に交通の速さと量を増して行く上に於て、又混雑と危険とを減する上に於て、無軌道の自由なる自動車の如き交通機關と、有軌道の運輸機關即ち路面電車との間の關係を調節して、何れかに優先權を認むべきものである。之には先づ有軌道、無軌道の交通機關の二つのものの運輸能率、運輸機能を考慮することが必要であると思ひます。抑も街路の交通を許すところのコントラクトといふものは路面の面積であることは御承知の通りであります。路面の面積を最も非能率的に使用するものは旅客に就て申しますと、第一に自家用自動車、第二はタクシー、第三はバスである。此の自家

用自動車、タクシー、バスは、少きは一人、多くも大體に於て十數人を載せて走るに止まつて居るものである。然るに路面電車は一般の多數民衆の交通に奉仕して、路面の使用の能率が前者に數倍して居るといふことは數字を以て示し得るのであります。且つ技術上は前に申した通り動きの取れない軌道上を走つて居る。故に自動車等の無軌道の運輸機關は、軌道の上に於て多數客を擁して一定の軌上を走つて居る路面電車に對して通行を譲り、電車の優先通行權を認むべきものである。我國に於ても立法者は臆氣ながら此の關係を道路取締規則、或は自動車取締規則中に規定して居る府縣もありません。殊に警視廳は最近一步を進めて稍々明瞭に之を規定して居りますが、併し總じて之を見渡すと未だ其の記載事項は間接的で、たゞ電車の運輸を妨げざる範圍内に於てといふやうなことで、至つて間接的であつて、優先權の確立とは見受けられないのであります。況んや此の臆氣なる法規の實行といふことに付ては御承知の通り殆ど出来て居らぬのであります。大都市の現状を見るに、各車輛が交叉點に於ける優先權の了解が無く、又取締も無い。自動車は車道の上の進行列の最左側といふやうな優先の規定及び整理も無

く、任意に軌道上を走行して電車の妨害を爲し、或は停留所又は其の附近に於て自動車と電車の間に挟まつたり、交叉點或は其の附近に於て、電車の停止線より先の軌道に横に縦に停止して居るのが日常の事實であつて、交通業者も之を取締る官憲も何等怪しむことなく毎日之を繰返して居るのであります。

私は此の電車の優先權に關しては一般軌道上に於ける進行上の優先を叫ぶと同時に、交叉點に於てもアメリカの都市バッド・ローに於ける交通規則の第十八條に規定せられたるが如く、交叉點に於ては路面電車は諸車に對して交通優先權を有すといふ意味の規定を作るのが至當と考へます。又桑港の交通規則にあるが如く、軌道上に於ける電車の交通に明かに妨害をするところの自動車は違法として之を處罰するといふやうな意味に於て取締を勵行して、市民大多數の交通上の最大幸福を増進すべきものと考へます。

(リ) 街路駐車場設置の主張

東京市 小川兼四郎君
下谷區會議長

私の申上げたい事は東京市に街路駐車場を設置せよといふ提案であります。此の問題はかなり吾々業界に取りましては舊い問題であります。がまだ實際に行はれて居ない。曾て私共の組合(東京自動車業組合)と警視廳當局が此の問題に就て種々なる考慮と研究をしてさうして東京市内に約五十箇所の路面駐車場を設けるといふことを東京市當局に要望したのであります。當時の東京市の當路者は如何なる見解を有つて居つたか存じませぬが、私共から言はしむれば極めて頑迷に此の問題を拒否して、遂に三年前に行はるべき事が行はれなくして、今日斯ういふやうな状態になつたのであります。今日東京市の交通が如何なる状態に置かれて居るか。メイン・ストリートに於ては殆ど危険を感じずしては通行することが出来ない。子供や女や老人は身命を賭さなければ銀座通りを歩くことが出来ない。斯ういふ状況になつたについては、實に東京市の其の當時の道路方面の當事者が頑迷であり、先見の明を有つて居なかつたといふことを私は大聲疾呼したいのであります。

路面駐車場に付ては、第一に交通の緩和、第二に交通事故の減少、第三に交通の安全、第四にガソリンの

空費を防ぐといふ此の四つの効果があるのであります。東京市が區劃整理後の此の立派な道路が出来てさうして劃然たる都市になつた以上、速に此の街路駐車場を設けられたならば、吾々自動車業者は勿論の事、東京市民の交通が如何に安全になり、如何に圓滿になるかといふことは敢て駄説を用ふるを要せぬと思ふのであります。希くは各位の御同情ある御賛成に依りまして、此の案が速に實現せられんことを切にお願ひする次第であります。

(ヌ) 自動車車庫統制の主張

東京自動車業組合 小西文次郎君
副組長

自動車車庫に就きましては目下過渡時代でありまして、車庫の位置其の他が今日東京市に於ては甚だ其の當を得て居る状態ではないのであります。と斷言することが出来ますのは、或は花柳界の地帯であるとか、若くは交通頻繁な所に向ひましてはドン／＼と出来て居りますが、それに反對の所に於ては極く少ないのであります。是は自然の勢ひではありますが、此の車庫

を今日の如く希望者があれば残らず許すといふことであります。元來車庫の統制が取れない爲に、營業者の非常な不都合を生じて居る譯である。何故不都合を生ずるかと申しますと、目と鼻の間に幾軒も／＼出来、知らず識らずそこに徒な競争が起るのであります。之を尙其の儘にして置きますと、或は是が料金に影響致します。若くは競争上忌はしい觀念を當業者の間に有つといふ結果を、現在既に齎しつゝあるものであります。殊に東京市の如きに於きましては是等の統制は最も必要であるかのやうに私は深く考へて居ります。

之をどうかして相當取締の下に、或は此の方面に於ては是だけの車庫が需給關係上必要であるとか、若くは是だけには必要であるとかいふ風に、自ら官憲の取締に於て大體需給關係の調節宜しきを得なければ、たゞ／＼業界をして困らせるといふに過ぎない結果を齎らすのであります。是は甚だ遺憾である。私車庫を制限して呉れと迄は申しませぬが、適當なる所に適當な數を得て、凡そ此の臺數があれば此の方面は是で澤山であるといふところの、需給關係宜しきを得た所に之をお許しを願ふといふことが非常に必要なことと思ひます。

今日に於ては車庫營業といふものが出来ませぬから流しといふ營業が是から始まつて居るのであります。此の流しの營業は今日非常な混亂状態に陥り、さうして非常な不經濟を及ぼして居るのであります。此の流しの營業の爲にガソリンの空費は一箇年約千八百萬圓を超えと言はれて居る位でありますから、此の流し一つを止める上に於ても、車庫の關係が非常に深いといふことを私は力説致すのであります。

(ル) 民衆の訓練と踏切の

全國的統一標識の設定を望む

堺 市 柴谷善次郎君

詳しい事は「研究報告」の第二百八十四頁をお読み願ひたいと思ひますが、第一に交通事故が起りました場合を考へますに、其の際に輿論の聲に付ても、官憲の取締に付ても先づ叫ばれるのは何であるかといふと加害者即ち經營者の側の設備を完全にしろ、或は自動車の場合でありますれば、其の自動車の運轉手に對して制裁を加へるといふことであります。是は第三者

の地位から眺めますればまことに片手落ちのものであると考へます。其の根據と致します所は、統計の方から見ましても、又現在さういふ事の事務を扱つて居られる法曹家の言葉を聴きましても、事故の約八割といふものは寧ろ被害者の罪であつて、加害者に原因して居るものはたゞ僅に二割といふことになつて居る。然るに是迄の遺方は、此の二割の加害者である經營者並に自動車の營業者に對して強いることが多くて、八割の原因を成して居る民衆に對しては餘り制裁を加へてなかつた、詰り八割の民衆を棄て置くといふことは、一方から言ひますれば時代の要求として大衆を餘り束縛することになつて大變いけないことでありますけれども、八割の原因を成して居る民衆を其の儘にして置いて、たゞ二割の加害者の方のみを制裁して行くといふことになりますれば、到底此の事故の防止は出来ないと私は信ずるのであります。第一其の最も明かな證據は、現在事故が日々に増加して行くといふ事實を見ましても能くお分りであらうと思ひます。それで私はどうしても事故を防止する爲には、此の八割の民衆の訓練が第一である、此の民衆の訓練が交通事故防止の根本方策であるといふことを叫ぶのであります。

次に日本の交通に關係した民衆の訓練なるものは外國と比べまして非常に後れて居ります。外國の文明を其の儘に受け容れまして、日本では二十年或は十年も後れて居るかも知れませぬが、それを此の儘に捨て、置くといふことになりますと、是から益々交通機關は發達し、量に於ても形に於ても増して來て、到底後には收拾すべからざることになるだらうと思ひます。それに就てはどうしても民衆の訓練を今から始めなければならぬと思ふのであります。

それから市街の横斷道路であります。是は只今お話のありました如く、路面電車に對して優先權を與へるといふことは宜いことと存じますが、それと同時に車道を何處でも民衆が横切るといふことになりますれば、事故は益々殖えるばかりで、一方では之を保護せんとしても到底保護することが出来ない、それであるから、どうしても路面電車のある場所に限つては横斷道路なるものを設けて、此の場所だけは民衆が通つて宜いといふことにしなければ、是は後に於て非常な害が出来ると信じます。それと同時にさういふ横斷道路が決まりますれば、之に對する設備も其處に完全しまして、始めて保護政策も十分に出来るだらうと思ひま

す。

之に對しまして私の持論がございますが、兎に角横斷道路が出来ますれば事故が減る、それと同時に此の横斷道路なるものは一般の鐵道或は電鐵の踏切と考へて宜い譯であります。所が事故の大半を考へて見ますと、踏切に於て起る事故が其の過半数を占めて居ります。だから此の踏切なる問題を解決致しますれば事故の大半は解決出来る譯であります。それで吾々は此の踏切に對し、又街路の横斷道路に對しまして、全國統一的な標識を附けて戴きたいといふことを主張するのであります。此の統一したる標識なり或は取締といふものは非常に訓練をし易くする問題でありまして、吾々が假令さういふ所を通つてはいかぬと言ひましてもナカ／＼其の訓練は出来ませぬが、そこに日本全國的に統一したる標識が出来て居れば、此の訓練は比較的に容易に出来る。其の一例として申上げますれば、假に田舎から東京或は大阪にお出でになつたならば、非常に交通の煩雜の爲に右往左往される、其の事が事故の原因になる。若し田舎の踏切の標識に於て訓練されたならば、大阪或は東京にお出でになつて横斷歩道を見た時に、此處は踏切の場所である、此處は通つて宜い

に於ても第一期路面改良計畫の時に私は其の計畫者の一人として、之が急務であるといふことを主張したのでありましたが、色々な事情から遂にそれに至らなかつた。現在では安全施設をする關係から、却つて道路の利用價值を減じて居るやうな結果になつて居ります。斯ういふやうな方面は十分の考究をして、より利用價值を多くし、而して安全なる事を考へるといふことが必要であると思ひます。

又民衆の交通の整理に於きましては、結局施設よりも民衆の訓練であるといふことを考へるのであります。フランスの警官をロンドンに派遣して、さうして訓練をさせた。ロンドンでは非常に好結果を得たので歸つてフランスでそれを實際にやつて見るとうまく行かない。結局國民訓練の程度如何によるといふことを知つたといふことを聞きましたが、やはり此の問題は日本に持つて來ましても同じであると思ひます。而して此の交通整理に就きましては、文書又は講演其の他の事柄で民衆に知らしめるといふことが一つの方法でありますと共に、實際訓練といふ方面が又一つの役目をもつものであると思ふのであります。

東京市聯合青年團主事 奈須千萬彦君

の事例と致しましては、小指に全治二日間の負傷をしたといふやうな極めて小さい事故がございます、又可哀さうな事故の實例を申しますと、昭和四年六月十七日北多摩郡砧村の、小田急電車の踏切であつた事故であります。千歳村祖師ヶ谷、橋村よし（當五歳）が母親と一緒に踏切へ差掛つて参りました。さうすると新宿行電車百五十一號が進行して参りまして、母親が側に居るにも拘らず、子供は轢かれて其の儘死んでしまつたのであります。是はまことに氣の毒な事故であると考えます。又滑稽な事例として、昭和三年十二月三十一

警視廳保安部
交通課
笠木嘉一君

轆き逃げ自動車が非常に多い世の中に、轆かれて其の儘逃げるといふことは一つの滑稽味があるのではないかと考へます。

又私は無産者は永久に無産者かといふやうな感じを深うした交通事故があります。それは昭和四年七月二十九日世田ヶ谷町在家七百三十三番地の齋藤源作とい

ふ五十四歳の人が、細君と一緒に荷車に養鶏用の鉄を積んで差掛つた。其の道は二間道路で大變狭い所でありました。後ろから貨物自動車七千三百一號が合圖をしながら進んで來たが、どうしたはずみか其の老人夫婦の後ろに衝つかつて、其の横の溝へ車も男も女も放り込んで其の儘自動車は行つてしまつた。後で調べましたけれども、示談の方法が餘り思はしくないので其の儘になつてしまつたのであります。是などはやはり働いて居る人は永久にやはり働かなければならぬかといふやうな感を深くしたのであります。

以上は或る一部分ではありますが、極めて稀に見る事故のみであります。私が大正九年から昭和四年迄十箇年の交通事故の總計をして見ますと、件數に於て十五萬八千七十二件、即死一千六百五十八人、負傷九萬四千二百三十五人を算するのであります。是等の交通事故の中には、三日の治療を要する者もあれば、終生不具者となつて生活に困るやうな者も澤山あるのであります。私は、街頭に屍を曝して、尙且つ其の血痕附着の交通機關を利用しなければならぬかと思ふと、都市生活其ものが悉く恐ろしいものではないかと考へるのであります。

其の交通事故の防止に對しましては、市民の交通訓練も必要でありませう、或は又設備の完全といふことも必要でありませう、又交通機關の機能を検査することも必要でありませう、又強制保険といふやうなものも必要であるやうに考へます。強制保険に關しては前交通課長の藤岡先生が法律評論に書いて居られ、又日本自動車協會の理事五味貞吉氏が強制保険を論じて居りますが、是などは私共は双手を擧げて賛成したい事項であると考へます。又交通事故防止團體の活動に關しても色々ありますが、要するに東京の現在の人口増加率を見ますと、市部に於て五萬人、郡部に於て十一萬人を算するのであります。斯の如く多數の増加する市民を、如何にして訓練し、如何にして之を指導するかといふことは容易なことではないのであります。其の意味に於きまして、私は私の提案致しましたところの交通事故審判所を設置することによりまして、最も合理的に交通事故を防止し得るものではないかと考へるのであります。

汽車、電車の如き交通事故に對しましては、裁判所は盛に見學をして其の識見を廣めて居るのでありますが、自動車に對しましてはどうも裁判所邊りでは極め

て冷淡であります。殊に裁判所には自動車が無いといふ關係で或は冷淡であるのかも存じませぬが、非常に自動車の事故が多いにも拘らず、何等其の審査に關して調査をしないといふことに就ては私は大なる不満を有つて居ります。

然らば審判所はどうして拵へるかといふことに就て先づ私は審判所は何故に必要であるかといふことを例を取つて申上げたいのであります。先づ第一に統一するから宜しい。昭和五年四月二十三日午後四時十分東京府下吾嬭町大字大畑七十七番地先、丁度二間道路でありますが、大塚榮次郎といふ當二十一歳の男が自轉車に乗つて進行して參りました、さうして其處に遊んで居りました山本家治といふ六歳の男の子に衝突して全治八週間の負傷を負はしたのであります。併し警察は之に對して何等の處分も致しませぬ。又昭和五年五月八日午前八時四十分西巢鴨町六千五百五十番地先(十二間道路)で石田常造といふ二十六歳の男が自轉車に乗つて參りました、其處へ七歳の谷橋良三といふ男の子が通行して參りまして、それに衝突して右の大腿部を骨折して全治七週間の負傷を負うた、之に對しても何等の處分をしてないのであります。それに反して昭

和三年十二月二十六日午後二時二十五分千住三百四十七番地先に於て自動車五千七百九十四號を小澤忠男といふ者が運轉して參りまして、荷車に衝突して全治五日間の負傷をさせました。此の全治五日間の交通事故に對して警察は免許の取消を申請し、或はそれを不都合だといふことに依つて裁判所へ送つたのであります。前に申しました自轉車の事故は縦ひ七週間の負傷でも八週間の負傷でも、其の儘放置しておいて、自動車の運轉手が軽い事故を起したとすれば、七日間、五日間の負傷で以て直にそれを検事局へ送るといふやうな、極めて不統一の裁判が加へられて居るのではないかと考へます。自動車の運轉手といふものは免許證を與へて一面に於ては保護すべきにも拘らず、單に自動車事故を起したといふことに就て、裁判所は、自動車運轉手は常に警笛を鳴して何時でも停車し得るやうに運轉して行かなければならぬといふことを判決に示して居るのであります。是などは最も無理を強いて居るやうな感じがあります。又最近大審院に於て判決がありました所の踏切の交通事故に對しまして、警笛を鳴した、或は普通の交通機關と異つて運轉が簡易でなく、進退が自由でないといふ四つ五つの事項を加へて、

最近では電車汽車に對しては其の責任を問はないやうになつて來たのでありますが、是などは洵に私共として賛成したい事項であります。

以上の如く統一したる判決が無いといふ結果に於て非常に私は不満であります。交通事故と申しますものは發生の狀況、即ち環境、動機、程度等に依つて千篇一律に制裁するといふことはナカ／＼出來ないのであります。又交通機關はエンジンと人の力に依つてうごくのでありますから、其の結果が同じであるからといふので、必しも同一に處分するといふ譯には相成らぬと考へます。譬へて申しますれば同じ負傷でも、女優が顔に疵を附けたのと、立ん坊が疵を附けたのとは甚だ趣きを異にするやうな感じがするのであります。自動車は快速力を有する交通機關であるから多少の危険性はあります、又取締を勵行する意味に於て多少の政策を加味するといふことは、それは首肯し得るのでありますけれども、裁判といふものはどこ迄も法的原理に立脚して、何人をして此の判決は完全な判決であるといふやうな工合に、裁判をして戴きたいのであります。即ち現在に於ては専門的知識の無い警察官や裁判官が、たゞ外形に現れたところの結果のみを裁斷し

て處分するといふことは、酷に失し、又輕きに失するやうな嫌ひがあるやうに考へます。固より裁判の悉くが至公至平、完全無缺といふことに於ては何人も信ずる所でありませうけれども、其の裁判が規矩標準を統一して居ないといふことに就ては、全く裁判所の任務を果して居ないのではないかと考へます。

以上が統一したる裁判の必要であるといふことでありまして、又此審判所が設置されれば交通事故は極めて敏速に解決し得るものと考へます。

然らば如何にして之を設置するかと言ひますと、私は少年審判所の設置があると同様に、全國に二箇所之を設置致しまして、さうして公平な處分をし、國民が之を信頼するといふことが第一、第二には交通機關の圓滑なる發達をするといふこと、第三には示談を早からしめる、第四には日數が掛らぬ、第五には他の處罰と均衡が取れる、第六には専門的研究をして調べれば事故の發生狀況、其の機關の機能を知ることが出来る、第七には統一ある而も秩序ある判決が出来るやうにしたいと私は叫びたいのであります。之に對して必要なしと論ずる者もあります、何故に必要がないかと聽きますと、經費が非常に掛る、それから交通事故といふ

ものは社會の一部分であり、又而も其の一部分であるから、さうしたものは一般的のものでないから必要がないと言ふのでありますが、私は一般的でないが故に尙更必要であるやうに考へるのであります。

要するに私は事故審判所を設置することが不可能であるとするならば、専門的な檢事を設置して置きまして、審理の敏速と而も統一したる裁判が一日も早くせられんことを希望する次第であります。何卒本會に於きまして此決議を御通過を願ひまして、一日も早く事故審判所の設置せらんことを希望する次第であります。

(カ) 街路交通統制と制度改革希望

大阪市會議員 古畑銀次郎君

大正九年道路法の發布に依りまして、市内の道路は市長の管理の下に移されたのであります。大都市に於ては國府縣道までも市長の管理の下に移されて、爾來都市は莫大なる費用を負担しまして此の道路の維持管理に努めて居ります。然るに街路上の取締權、即ち交

通警察といふものは依然として府縣の手に殘されて居る、私は今日の此の事柄が解決しなければ満足なる交通統制は出來るものではないといふことを痛感して居ります。

大阪市では昭和二年から乗合自動車營業を公營で以て開始して居りますが、昭和二年の四月に府に對して大阪市の主要幹線であるところの堺筋、西横堀の南北線の路線に對して自動車を入れることを府廳の方へ出願を致して居つたのであります。所が是が二年半を経過致しまして、昭和四年の九月に至つて、而も市民の輿論が囂々として到底抑壓することが出來ないといふことを悟つて、始めて府の當局がこれを許可した。

大阪市は堺筋、或は西横堀の南北線には數百萬圓の費用を投じて街路を新設致し、擴築を致して、莫大な維持修繕の費用を負担致して居る、而も管理權は市長が有して居ります。此の市の乗合自動車交通混雜の故を以て許可されない。然るに一方市の乗合自動車以外の會社經營に係るところの乗合自動車に對しては、臺數其の他に何等の制限を加へずして幾らでも入り次第に交通を許可して居る。さうして市の自動車のみ之を交通する場合に、交通混雜を來すといふやうな馬鹿氣

た理由の下に許可を拒否して居るのであります。又はは極く最近の事でありますが、本年の七月、大阪市内の各方面の出来事でありますが、所謂政黨者流の彼此れ屋達が集りまして、失業救済を名として、大阪市の主要幹線のあちらこちらに向つて露店の出願をした、是が府廳の方ではどういふ關係にありましたか、街路の管理者であるところの市長に何等の諮問する所無くして、府限りで露店の認可を與へたのであります。それは堺筋の十二間道路でありますが、今日は大阪市の非常な交通混雑の見本とも言はれて居るところの堺筋其の歩道は一間半しか有して居ない、此の狭い歩道の上に半ば以上の屋臺店を出すところの露店を府が許可したのであります。所が大阪市は其の許可になつた事を知りまして、府廳に向つて、道路管理者であるところの市長の意見を聴かずして御許可になるといふことは如何なる譯であるかといふことを一本突込みました所が、慌てゝ市に向つて、街路の使用願を當業者が出して参つた。已に府で御認可になつた後でありますから、市が是の貸與を拒みました場合には、府の官憲の御威信に關することゝ考へまして、市に於ては非常な交通の困難な場所でありますが、特に期限を附して之

を許可致したといふやうな例であります。斯の如きは即ち昨日も大阪市技師内山氏が主報告の中に申述べられました如く、即ち現在の交通統制上の、兩頭の畸形兒、即ち取締並に管理といふ所の兩頭の畸形兒——私は寧ろ兩頭の蛇と申したいのであります。此の兩頭の蛇に依つて行はれて居りますが故に、曲りくねつて非常な面倒な状態になつて居るのであります。之を眞直ぐなものに直すには、是非共片方の頭を取去つてしまふ、即ち實際に道路管理權を有して居る者の手に交通取締權をも完全に收めるといふことに依つて、斯の如き矛盾撞着を免れ得るといふことを私は確信致すのであります。此の意味に於て私は特別市制の促進に依りまして、大都市に於ては交通警察權を市長の手に附與せられることの必要なることを力説致したいのであります。

(ヨ) 地下埋設物工事の統制

並に瓦斯漏洩調査の實績

東京市土木局 道路課管理掛長 根岸 耕司 君

地下埋設物は、都市の施設として缺くべからざるものであつて、道路の用途は、路上の交通と路下の利用とを有し、何れも劣らざる程度の重要性があります。隨て道路の取締が都市の行政上重要であると同様に、路下の管理が非常に重要な問題であります。殊に都市の發達と市民生活の向上とに依つて、市民生活に密接の關係ある地下埋設物の新設増設、改築修繕等は當然起り得べき事柄でありまして、之が爲に路面の掘鑿は全く避くべからざる事でありまして、寧ろ道路掘鑿は益々増加致しまして、其の掘鑿率の増加は其の都市發展のバロメーターとも見るべきで、之が減少を計ることは埋設様式を改善しない以上期待し得ないだらうと思ひます。

様式の改良に付ては、共同管路の施設がありますが、是は經費の點に於て普及することは目下の所無いものと認められます。様式の改良は別として、都市の發展上必要とする道路の掘鑿工事施行方法に對しては交通障礙を出來得る限り少なからしむるの外に策は無いものと思ひます。

本市が如何なる方法に依つて是等の掘鑿工事を統制して居るかに就て申上げたいと思ひます。先づ道路を

占用する事業者を纏めて道路協議會なるものを設けて本市が會議を招集して、道路に關する工事施行の連絡を圖つて、各事業者の區々の掘鑿工事は致さないことにして居ります。工事の方法も細大となく協定して總て掘鑿工事を統制して居るのであります。

第一は、毎年度、始めに、主要街路の豫定工期表を徴して、工期の按配をして埋設物を統制することに致して居ります。

第二には、交通頻繁であつて重要な街路及び電車軌道の交叉點に於ては、簡單な工事（即ち引込線等の短時間に爲し得る工事）以外は、晝間の作業は避くることに致しまして、夜間交通の稀薄の時間を限り施行せしむることにして居るのであります。

第三には、一般的には掘鑿部分は大範圍に止め、逐次迅速に復舊方法を講じ、掘坑の開放時間の短縮に努めて居りまして、三日以上も開放して置かなければならぬ工事は、毎日終業の際完全に交通し得るやう板張覆工を行ふことになつて居ります。勿論工事用の器具機械、材料、殘土等は極めて少量に止め、路上には停滯せしめない方針でありまして、協定事項としては是が重心になつて居る次第であります。

其他埋設物の占用位置も統制が必要でありまして路上路下に亘つて道路工作物の配置標準を一定して居るのでありまして、占用工作物の新設に對しましては之に準據するは勿論、秩序ある工事を施行して居ります。又是等各事業者の工事施行上の成績は、巡視機關の設置に依りまして、月別に表を作製して、道路協議會の席上に發表し、事業者の工事施行に付て緊張味を與へることになつて居ります。

要するに結論としては、現在は此の程度の勵行に依つて交通障礙の對策と致して居りますが、將來都市に於ける道路掘鑿の晝間作業は無理でありまして、夜間に行ふべきものではないかと思ひます。

次には瓦斯漏洩調査に付て申上げます。本年の三月二十六日の復興祭に當つて、御巡幸道路に付て事業者と打合せの上調査致しました結果、かなり多數の漏洩事實あるを認めたのであります。

地下埋設物の管理は事業者各自が之に任じて居りまして、本市は必要の時に事業者を督勵して、人孔類の瓦斯蓄積検査を行ふことになつて居りますが、人孔類爆發等の慘事を惹起しましては保安上の危険を大ならしめて交通上に重大なる支障を及ぼすものと考へまし

て、全市の道路に就て逐次調査する方針であります。最近行つたのは八月二十六日各事業者と協定し、九月八日より電車通りの舗装街路の人孔消火栓等の漏洩調査を致したのであります、其の結果は次の如くであります。

イ、瓦斯漏洩箇所	
街路延長	一一〇軒
人孔	五、五六二箇(一軒當り五〇箇)
消火栓其他	三九、八〇〇箇
内 石炭瓦斯	
メタン瓦斯	一六〇
石炭瓦斯箇數	
内 人孔	一六〇
其 他	一四
内 街路延長に對する	
瓦斯蓄積箇數	一六〇
人孔總數に對する	一軒當り 二六箇(二・六箇)
瓦斯蓄積箇數	割 合 〇・〇〇七
人孔總數に對する	割 合 〇・〇〇七
消火栓其他總數に對する	割 合 〇・〇〇三
瓦斯蓄積箇數	割 合 〇・三%
ロ、瓦斯漏洩程度	
人孔	三六箇

計器示度	
内 同	一五以上 一箇
同	七以上 六箇
同	七未満 二九箇
消火栓其他	
同	一二四箇

備考、計器示度七以上は焰に依て引火し

計器示度一五以上は炭火に依て引火し

即ち以上の結果に依つて計器示度七%以上のものは爆發の危険性があります。然るに甚しきに至つては二五%以上、極端のものは流出其の儘のものがあつて、早速應急措置を爲し又は手續の上、相當改善方法を講じたのであります。尙瓦斯漏洩に就て吾々の常に考へなければならぬ點は、地下には必ず石炭瓦斯以外の瓦斯が相當發生すべきものと考へて居ります。殊に最近路面改良に伴うて、舗装の爲に完全なエア・ブルーフとなつて、路下には瓦斯が絶えず蓄積せられつゝあるものと考へます。隨つて路下の空洞には當然瓦斯が充滿さるべき傾向にありますから、人孔消火栓等の地下の密閉せられた部分の室には、必ず石炭瓦斯其の

他の瓦斯が長期に亘つて常に蓄積せられるのは事實であります、でありますから瓦斯管よりの著しい漏洩に對しては十分取締るべきは勿論であります、一般的に地下の空洞に對しては時々換氣法を講ずべきものと考へて居ります。

(タ) 道路に面する官公有地を開放せよ

東京府 野方町會議員 渡邊 長重 君

野方町會の決議に基きまして茲に皆様の前に意見を申述べる機會を與へられたといふことは、野方町會並に私の最も光榮とする所であります。道路に面する官公有地の開放、是は單なる野方町の問題でなく、他の町村他の都市にも十分研究を要する問題であると考へるのであります。私の住んで居る野方町の表玄關に電信隊といふ大きな兵營があります。是は其の面積は十數萬坪あります。到る處にある聯隊の周圍は御承知の通り、土堤と共に上に積穀花か何かの生垣を以て圍はれるのが通常になつて居ります。此の垣の大抵の所は掃除が行届いて居らない、雨が少し降れば水が溜り

不嫌なる人は之に放尿するといふやうな關係から、衛生上全く面白くない現象を呈して居ります。他のモウ一つは私の町に豊多摩刑務所といふ大きな刑務所があります。是も面積四萬餘坪を擁しまして、道路に面する所には高さ丈餘の混凝土又は煉瓦の塀を以て圍らして居るのであります。此の塀に沿ひましても聯隊其の他の周圍と同じやうな衛生的に面白くない結果を齎して居るのであります。

斯様な例を挙げますれば、刑務所は池袋邊にも大きなものがあり、聯隊では東京市内にも澤山ありますが、之に沿ひましての周圍は店舗を構へましても片側の店舗であります。衛生的にも、又經濟的にも全く面白くない現象を齎して居るのであります。將來の都市を経営する上に於て、出來得べくんば斯うした廣大な土地を擁する場合には、せめて建築の敷地を一部分取除いた後に、斯うした大きな公營物は建てるやうに願ひたいのであります。出來得るならば即刻、我が野方町にある電信隊なり、刑務所のやうなものは、道路に面する一部分を開放致しまして、之を經濟的に或は衛生的に商業地帯と致しまして、此の道路を美化し繁榮するやうにせられんことを希望する次第であります。一言

野方町會の決議に基きまして、小出清氏の缺席の爲に私が代つて御報告申し上げます。

(レ) 道路の構築方法に就て

東京府 關口新太郎君
中野町會議員

今日東京府なり或は東京市なり、道路改築に當ります技師諸君の頭腦よりして改善して行かなければ、實際郊外の統制といふものは計られないと信じて居ります。何故でありませうか、今日は吾々が最も痛痒を感じて居りますものは道路が少く、或は惡道路である、故に吾々は其の發達に於ても、或は人類の幸福といふことに於ても阻碍されて居る點が多々あるのであります。一面道路改築に當りまして出來上りました道路を見ますと、技術の上に於ては尤も然りと言ふかも知れませぬが、吾々の實生活に甚だ適して居らぬ道路が多いと信じて居ります。故に私は今日は机上の空論でなく、吾々の實生活に適したところの道路の構築をせよと叫びたいのであります。

其の實例を申し上げますれば多々ありますが、假に東京

府下に於きます京濱國道の如き、或は帝都を西走して居るところの青梅街道の如き、小さくはありますが最近に出來ましたところの淀橋町或は之を北走致しますところの戸山原に面して居るところの道路の如きは、實に吾々の實生活に不適當の道路と數ぜざるを得ないのであります。何であるかと申しますと、此の道路は其の實際の土地の状況に當嵌まつたところの道路でなくして、土地の状況、沿道民の意思を無視したる道路である。一體此の青梅街道は、蒲鉾の背に道路を敷いたやうな形態を成して居るのであります。而して此處は元來が高地でありますから、開闢以來未だ曾つて洪水といふものは無かつたのでありますのに、斯ういふやうな所へ持つて來まして一層高く道路を築造したといふことは一體何事でありませうか。寧ろ斯ういふ地形にありましては、其の道路は一尺なり二尺なり下げまして、沿道附近の汚水を道路の下水に依つて排泄して、吾々の衛生問題といふことに就きましても之を解決しなければならぬものと信じて居ります。然るに此の道路は交通上だけには便利かも知れないけれども、此の道路に面したところの下水其ものは附近の汚水を更に呑んで居らない、却つて沿道に出來た下水の爲

に、附近一帯に汚水を氾濫させて、其の附近の住民に對して不衛生極まりなき現狀を呈して居るといふことは一體何事でありませう。詰り今日の技師諸君の頭腦其ものは、技術にはまことに明るいが、實際には盲目であると言つて決して過言でないと信じて居ります。

兎にも角にも今日の道路の狀態から見ますれば、東西南北を通じて沿道民の意嚮を入れて、其の地形の實情に鑑みまして最も適したところの道路を拵へて、さうして都下の吾々住民の統制を圖るのが第一の眼目ではなからうかと思ふのであります。

(ソ) 街路網の結成に就て

内務省技師 榎木寛之君

都會に於ける交通の混雜は人命財産を脅かすのみでなく、著しく交通の能率を低下させる、其の爲に交通統制の問題が近年益々高調されるやうになつたことは御承知の通りであります。此の交通の安全を期する爲には取締規則を嚴重にするとか、或は取締の方法を巧妙にするとか、或は一般民衆に統制訓練を與へるとい

ふやうなことを、或は必要に應じて街路の幅員を擴張するとかいふやうなことは、固より必要なことでありますが、之を根本的に考へるならば、交通量及び其の方向を全市に均等に分散させる、詰り交通量の不均等なる分配を矯正するといふ方法を執るにあらずんば、畢竟交通の安全、交通能率の増進は期待することが出来ぬ。此の點は昨日お話になりました内山さんのお説と非常に感を同じうするのであります。私は如何にして此の交通量を全市に均等に分布せしめるかといふことに就きましては、街路網、所謂街路系統の形態を適當に決定しなければならぬ、其の事に就て私自身の有つて居ります單純な所懐を述べて内山氏の考究を願ひたいと思ふのであります。

街路系統なり或は街路網の結成に付きましては、先づ第一に考慮すべきものは、其の他の交通機關に依つて生ずべき交通量であります。第二は市内の各セクションに於ける建築物の用途或は其の様式に依つて惹起したる交通量、第三は特殊なアストリクシオン若くは時季に依つて惹起したる交通量、是は固よりの事であり、是等の交通量とそれから街路網との關係、是は今日詳論する時間を有ちませぬから、僅に其の一つ

たる街路系統の様式に就て一言したいと思ふのであります。

一體街路其ものゝ目的から言ひますと、交通量を安全に通過せしめる——單純に斯う申しますが、併しそればかりでなくもう一つ重要な要素がある。私の申し上げたいのは其の點であります。即ち或る種の若くは或る量の交通を此の街路が吸収或は誘致致しまして、之を街路上に一時停止させなければならぬ、此の點であります。奇矯な言のやうであります。實は甚だ平凡であります。街路上に於ける交通量を一時一定の場所に停止させなければ、交通車輛は何等使命を果すことが出来ない爲であります。謂ふまでもなく街路の開闢或は擴張といふやうなことは、此の沿線の土地の開闢、若くは繁榮を目的とするのでありますから、其の爲には通過車輛は何等效用を有たない、丁度流しの自動車に徒に交通を攪亂するのであつて、街路の兩側附近に對して何等利用効果を與へないやうなものであります。

此の私の申します一定の交通量を引張り寄せて其處に停止せしめ得る爲には、どういふ形態の街路網が最も適當であるかといふ此の點であります。假に其の中

の一つと致しまして、街路交通量を或る場所に停滯させる其の事に付きましては、それに直角に交はるところのサブスチテューション・ロードを擴張するとか、或は廣場を設けるとか、並行の補助路線を擴張するとかいふ方法がありませうが、此の點は只今は略します。

最後に交通量をどういふ風に引張つて持つて来るか其ための系統様式は如何にあるべきかといふことに歸着するのであります。内山さんのお述べになりました方形型、環状型、放射型、六角型はすべて單純に二種類に歸納されるであらうと思ふ。それは方形と放射環状の二種類であります。是等は地形其他の條件に依つて多少變化はありますけれども、結局此の二種を出でない。一體今まで構築せられたところの都市の形態を検討致しますれば、凡そ人工的に造られたる町、是は方形型であります。自然に發達した市街地、是は放射環状型であります。東洋の築城都市たる北京或は奈良、京都若くは堺、是等は方形であります。歐洲の中世の封建都市若くはローマン・タウン、或はグリーキ・タウン等はすべて方形の性質を有つて居る。それから米國の諸都市が方形に造られた事は著名な事實であります。此の方形といふものは限られた面積に成べく多

くの人家を收容する爲には至極適當な形式である、併しながら或一定の擴がりを有する都市其ものゝ面積が同一に一樣の利用上の重要性を有つ譯に行かないのであります。即ち其の位置に依つて其の利用の程度に厚薄がありますから、交通量は随つてどうしても不均等になる。其の結果方形の街路が或る部分必然 unnecessary 部分が生じて来る。此の點から考へると方形型は幹線街路系統としては不適當ではないかといふ疑ひ無きを得ないのであります。併し放射環状型は成立ちが極めて自然である。茲に數箇の農村の聚落地があり、それを相互に直線で結付ける、其の時は其の一箇の聚落地に就て考へるならば、そこは正に放射型を呈するのであります。此の實例は勿論到處に澤山ありますので、擧げる必要はないであらうと思ひますが、斯くして出来ました放射型の聚落地の連結に付て考へるならば、茲に起るところの交通路は起點と終點だけが重要なのであつて、其の中間の經過地は何等重要性を有つて居ないから、單に通過してしまへば宜いのであります。言ひ換へれば其の起點たり終點たる聚落地に交通量を誘致する其の目的の爲には、放射型が最も適當でなければならぬといふ結果になるのだらうと思

ふのであります。

都市のどん／＼と發展する姿、之を或る論者はプライマリー、セコンダリー、ターシャリーの三つの種類に分けて考へて居りますが、此の點も詳しい事は略します。

第一に成立つものは今申しました聚落地を連結する放射線である。併し此の放射線だけでは餘りに末擴りでありますから、是だけで全般の用途を満足することが出来ない。それで既成都市にあつては此のターシャリーのコンデションに達した以上は、放射線と放射線との連結を必要とする關係上、二次的の環狀線が生れて来る。

さればと言つて一次的の放射線ばかりで宜いかと言ふと、必しもさうでない。そこで詰り必要を感じる時期まで環狀線を省略するとか、或は其の配置を疎にするとかいふやうな程度で一時的を糊塗するといふやうな方法を今迄執つて居つたのであります。さうでなくして、茲に高速鐵道若くは路面軌道、それ等の網を構成する爲に或る種の方法が考案されて居る。それはベターゼン、カウアー、シンプ、ターナー等の網の形式であります。

翻つて考へると軌道なり高速鐵道は、原則として幹

線街路系の下に包含せらるべきものでありますから、之に準據した街路網を結成することは必しも無効のことではない。そこで結論に達するのであります。從來の單純なる放射環狀型、若くは方形型等に囚はれることなく、ベターゼン以下の方法を結付けることに依つて、多少新し味のある街路網の結成が出来るのではない、さうして交通量の適當なる分散、交通混雜の緩和、隨て健全なる都市の發達といふ結果に到達すれば、設計者の目的は之に依つて完全に達成せられるのでありますから、一案と致しまして丁度内山さんのお話に多少の關係を有しますから、御意見を伺ふ爲に申上げる次第であります。

(ツ) 婦人交通整理員を設けたし

婦人市政研究會 表 河 口 愛 子 君

丁度四五日前に起つた事件から考へます。どうしても此の交通統制の中にはやはり婦人が必要だといふことを感じました。それは外ではございませぬが、朝小學校の児童や女學校の小さい生徒が學校へ出ます其

の朝の時間、又學校から歸ります時の時間は大抵一定して居りますので、其の時間の間だけでも、私等の望む所は、婦人を交通整理の所に、交通巡查の方の外に置いて貰つたらどうかと思ひます。それは或は巡察員とか又は保護員とか何でも宜しうござますからマイクを附けて、さうして小學児童、又女學校の小さい生徒の安全を圖つて貰つたら大變宜からうと思ひます。

之に付きましてどれだけさういふ風な交通に依つて子供が傷害を受けたかといふことを、數字を申上げることが出来れば洵に結構と存じますけれども、それ迄の用意は無いのであります。唯其の事故といふのは私の有つて居ります小石川高等女學校の一年生で瀧の川から通つて居る者がありまして、上富士前の交叉點の所で突當つた——電車でもなければ自動車でもなく、自轉車でもない、人間と人間と突き當つた、男の人とぶつかつて仰向けに倒れたさうであります。それから其の男の人が醫者の所へ連れて行かうといふので「ちよ」と來て下さい」と子供に言つた所が子供は怖がつて「嫌やです、私は行きませぬ」と言つて自分の家に引返してしまつた。それで其の父兄の方から私の方へ訴へがございましたので、私は逐一其の話を聴きまし

たが、たゞ頭が痛いと言つて四五日學校を缺席して居りました。是が頭が痛いだけで済めば宜しうございませけれども、若しも是が原因となつて、一命に關するとか、腦に異狀を起したといふことになれば、是は大した問題だらうと思ひまして急に此の問題を出した譯であります。

斯ういふ場合に其の子供に話をする人が女の保護員或は巡察員、兎に角婦人であつたならば、子供は怖がらないのでございます。斯ういふ事はやはり婦人と子供とは離るべからざる密接な關係があると思ひます。であるから斯ういふ風な所に、たゞ一定の時間だけでも宜しうございませぬ、朝の登校時間と歸りの時間の一定の時間だけ、交通整理の場合にお加へ下さつて保護をして戴いたならば危険がまことに少ないと思ひます。斯ういふ事はあまり数が澤山無いではないかと思ひます。斯ういふ事はあつたならば、たゞ一定の時間だけで宜しうございませぬが、其の数は判らないのです。今のやうに怖がつて痛いのを我慢して、痛くない振をして歸つてしまふ、それで頭が痛いと言つて到頭學校へも登校が出来ない、四五日休んで居つたと申しまして、今朝其の子供を母親が私の所に連れて參つての話であります。斯ういふ例は他にも澤山あるのではない

かと思ひますので、此の席で申上げまして皆様のお考へを願ふ次第であります。

(ネ) 遞信事務の上から

東京遞信局事務官 河 瀬 勇 君

街路交通の統制等に付ては色々の方面から考究せねばなりません。要は居住者及街路の交通者に對し便益を與へ不安不便を除去することゝ思はれます。而して通信業務上の便否が此等に關係する處が少くないので此方面から少し許りの御話を申上げて都市問題考究上の御參考に供し併せて何分の御配意を得度と存じます。

一、其の一は町名及番地等の改正統一に關する事でありませう。

都市に於て町名町界を定むる場合には色々の事情がありまして簡単に一樣の方法に依ることは困難とは思ひますが同一の市區で或町が街廓式であり或町が街路式であると云ふやうに様式が區々別々になつて居りましては町名や町界を知る上に不便がありま

す。又町を丁目等に依り數個に區分する場合でも番地を別にせず連續して置きますと地番の所在を知るにも不便があります。又地番の區分方に致しまして其の起點なり順番の定め方が區々でありますと地番の所在を知るに不便があります。尙餘り多數の地番を有する町なども同様の不便を伴ふのであります。其他町名の讀み難いもの誤り易いものは名宛を誤認し間違を起す原因となるのであります。

斯様に色々と町名地番の所在を知る上に不便困難がありますときは郵便電報の送達等通信業務の取扱の上に不便支障を來しまして其の結果は居住者の便益を殺ぐこととなり不便を與ふこととなります。又用事があつて居住者を尋ねる者にも不便を與へ不要の交通横斷、駐車等を爲さしむる様にもなり延いて何程か一般の交通を妨ぐることとなりませう。

通信業務上望ましい事は町名や地番を同一の方式に依り可成簡単に容易にわかり易く知り得る様に統一して貰ふことであります。そして之が結局居住者にも交通者にも便益を與ふることになることと思ひます。之れ故に將來區劃整理等に依つて町名地番の改正統一を圖らるゝ場合には通信業務の上に及ぼす

影響や便否等に付ても充分に考慮を拂はれて可成様式方法等は區々とせず統一を圖られて居住者の所在を知る上等に利便の多い様に計畫工夫せらんことを希望いたします。

次は氏名及地番の標札掲出に關する事でありませう。御承知の如く都市に於ては居住者の異動が多いのと近隣者との交渉が薄いので附近の者に付て居住者を調査しても容易に其の所在を知り難い場合が往々あります。各戸に地名並氏名の標札が掲出してない爲に郵便物、電報、小荷物等の送達者が名宛の捜査に困難を感じ又外來者が其の爲に迷惑を蒙り時間と勞力を空費するの外用件が時機を失して相互の不利益を見ることも稀でない實狀であります。

地番及氏名の標札を掲出せしむることは警察、通信及交通上極めて必要であります。が殊に通信關係としては日々の取扱上は申すに及ばず普選實施後は各種選舉の際に多數の郵便物等を配達する爲に其の必要が一層多くなつて來たのであります。而して之が標札の掲出に付ては府縣會に依り或は訓令に依つて其の様式を定めて居る向もあり又從來内務、鐵道、遞信の各官衙及地方團體等が協同して再三之が宣傳努

力を致したのでありますが思ふ様に充分に掲出せられない所もありますので今後も關係各方面の協力援助を得まして一層充分に此の趣旨を徹底いたし洩れなく氏名並地名の標札が掲出せられ通信業務の上にも居住者に對しても利便を見る様にしたいと存じます。尙町の角、露路の入口等の要所に町名地番等の標示板を掲出してある向もありますが此等も大變結構な事で一般に出來ましたならば利便も多いことと思はれますから併せて御一考を煩はし度と存じます。(文書を以て提出)

部長 (中川吉造君)

本日御通告の御報告なり御講演は是で終ります。が、まだ時間も少しございますので、研究報告にありませう。この問題に付きまして、御意見なり、御討議がありますれば御發言を願ひます。別段御討議も無いやうでありますから是で終ることに致します。本日の會場は御講演なり御報告に甚だ適じない場所であつたにも拘らず極めて都合よく進行致しました事に付きましては皆様に感謝致します。之を以て部會を終了致します。

第四 第三部會討議

一 序 説

前篇第二に記述せる如く、會議第二日午前九時より同十一時二十五分まで、市政會館第一階に於て第三部會即ち第三議題受益者負擔金に關しての討議を行つたが、その經過、内容左の通りである。部長は福地由康氏、記録その他の會務は東京市政調査會猪間驥一、岡野文之助、小田忠夫の三研究員これを擔當した。

二 討 議

部長（福地由康君）

只今迄に討議の御通告を爲さつた方が十二名ございます。十分と致しまして二時間を要するのでございますから十分以内として御演述を願ひます。尙ほ討議の御希望の方は必らず御申込を願ひ、又豫て御話の通り採決は致しませぬ。御述べきりでありますからどうぞ其邊も御承知を願ひます。配付致しました印刷物の順で御演述を願ひます。

大阪市會議員 八木常太郎君

(イ) 受益者負擔金課徴方法及その擴充問題

昨日の總會に於きましては、所謂理事者側の立場より見たる受益者負擔に就き御意見を拜聴したのでありますが、私は市民として、即ち受益者負擔金を課せられて居る者の立場から、此問題に就き意見を述べて見たいと存じます。即ち内務省令第十七號（大阪市都市計設計畫案（受益者負擔）第六條に「負擔金ハ工事着手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム」とあります。即ち市の公示の出た日は工事着手の日であります故に、土地所有者賃借人等は其時現在に依つて負擔を課せら

れるのでありますが、後日土地の賣買譲渡が行はれましても依然、舊所有者の負擔に歸するのであります。是が爲に負擔者の資力減退したるに拘らず、巨額の義務を負ふことになるのであります。此に就て、わが大阪にこんな實例があるのであります。東區備後町で帽子商を相當手廣く營業されて居た某は、商業の蹉跌に因り競賣に附せられ分産されましたが、かゝる人、即ち何等の資力無き人に對しても尙ほ依然負擔金を課せられて居るのであります。幸にして此人が善人でありましたから、最大限度の期限延長を乞うて、其後少額ではあります、負擔に對しての義務履行をやつて居りますが、若し此人が義務心もなく、責任感もなき人であつた場合はどうでせうか。茲に財政的缺陷を生ずるのは當然であります。其缺陷を補充するが爲には、止むを得ざる處置として、直接何等の受益せざる一般市民に對し課税するの外ないことになるのではありませぬでせうか。斯の如きは徵税上の成績にも悪影響を及ぼすものと認められるのであります。故に私は現行の對人的負擔制限度を改めて、物上負擔の制度に改正して、其土地と共に負擔義務が附隨して移動する制度にせらるゝ必要がありと存するものであります。

次に現在大阪市に乘入れて居ります所の各郊外電鐵は、其起點に於てビルディングを經營し、之を貸室とし、又デパートを經營して年々一割以上の配當をして居りますが、偶々其土地が鐵道用地として、又は軌道の賦課を免ぜられて居るのでありますが、それは餘りに不合理極まるものと斷言したいのであります。即ち私の意見としては、假に無租地たりとも負擔金を課することが至當であり、之に依つて得た收入を以て一般市民の負擔を輕減せしめたいと存するのであります。

(ロ) 都市經營と受益者負擔金問題

東京府 杉並町會議員 淺川保平君

惟ふに、此問題は二十年間は遅れて居ると思ふのであります。今頃斯う云ふ問題を出して研究すると云ふことは、せぬには優つて居るけれども、本來非常に遅れて居つて、日本の都市と云ふものは郡部の統制が出来ず、受益者負擔の意味が徹底しなかつた爲に、昨日堀切さんも申されましたが、即ち土地の自然増價税と

云つたやうな制度が日本に行はれることが出来なかつた爲めに、どの位損害を蒙つたか知れない。議さぬよりは議する方が今日と雖も増しであるが、甚だ残念である。と言ふのは、然らば東京市とか或は政府の役人の人にさう云ふ考が無かつたかと言ふに、無かつたのではない。私共も東京市などに木端役人をした頃に屢々此受益者負擔の意味若くは土地自然増價税の意味と云ふやうな事に就ては、當時の奥田市長さん、其以前の人達も心配致しまして、内務省あたりに行つて話をした所が、内務省の役人の方々も色々心配された、地方課の人も心配され、計畫課の方も心配され、さう云ふ税を取ると云ふ事に就ては局長さんも賛成された、所が最後になつて次官がいけない、大臣がいけない、其大臣次官がいけないと云ふのは何かと言へば、背後に政黨と云ふものが引張つて居る、此政黨と云ふものは郊外の土地の利益に關係を持つて居る地主に關係がある、資本家に關係がある受益者負擔など云ふ事をやれば直ぐ政黨が之に反對する、何れの政黨とは言はぬが日本の政黨と云ふものが關係があつたが爲に、二十年前にさう云ふ空氣は政府にあつたし、市の理事者の中にもあつたけれども、遂にそれが實行出来ないで

今日になつて居る。今日は大都市は困り抜いて居る。今頃になつて受益者負擔金の研究をしたり、郊外の土地の統制をしたりするのは實に世界に對して見つともない、洵に申譯がない。吾々がアメリカに行つて、ロサンゼルス邊りに行くと、モウちゃんやんと野原の中に道が出来て居る。五千哩も百哩も離れた所から水を引いて来る、人も居ないのに瓦斯をひいて居る、電氣の設備もある、それが今日は百五十萬を突破した。三十五、六年前頃から大都市の計畫は出来て居る。それは直ぐ目の前に見えて居る、海を越えてアメリカでやつて居る事が日本の苟も市政を研究する役人に分らないことはない。土地増價税、受益者負擔など云ふ事もづつと以前から世界の都市がやつて居る。日本では漸く大正八年からやつて居ると云ふことは、詰り此日本の政治に就て、今日の諸君のやうに眞面目に研究すると云ふ事が起らずして、多くは政黨の爲に日本の自治體の發達を妨げられたと云ふことが今日を來した原因である。今日でも矢張吾々が眞剣に考へるとするならば、今日も東京日日新聞に出て居りましたが、此市政を一切の科學を動員して近世都市として働かせること云ふことは一方の大なる問題である。是は勿論さうであ

る。空漠たる政治家の爲に干渉されることを廢めると云ふことは都市の一つの大問題であるが、モウ一つの大問題は、吾々が自治體の權利を確立すると云ふ事である。何時でも政黨の力に依つて壓迫されて自治體の權利と云ふものは殆ど無い。市會議員であるとか町村會議員だと云うた所が殆ど何等の權限は無いと言つて宜い。發案權も豫算以外の事に關して昨年七月漸く與へられたが豫算に關する發案權は今日でも吾々は得て居らない。殆ど自治體の權利と云ふものは無い。東京市長にした所が、吾々の町村の町村長よりは權力はあるが、是が權力は歐米の都市とは較べものではない。あの堀切市長の如き——此處に居られるから餘り褒めるのもおかしいが、相當に熱誠に心血を注いでやる人でも、政黨の力と言ひますか何か知らぬやうなものに妨げられて、あの眞の至誠が東京市政の上に現れて居らない。斯う云ふ狀態である。是が私は受益者負擔と云ふ事を解決する上に於て重大な意義ではなからうかと思ふ。

尙ほ私は研究報告書を見ましたが、私の思つて居る事が遺憾ながら現れて居らないと云ふ爲に、一言諸君に此處で申述べたいと思ふ事は、今日迄は日本の都市

は非常に膨脹をして來たけれども、今後は日本の都市は斯の如く膨脹して來るか、どうかと云ふことは非常に考へものである。斯う云ふ事が皆様の御報告の中に現れて居らない。是は諸君が聴きましたならば意想外に感ずる方もありませうが、眞面目に考へるとさう云ふ結論が起つて來る。と言ふのは、日本全體が今日のやうに都會を繁榮せしめて居つたならば國全體が盛になることは出来ない。斯う云ふ事が一言に言へば結論になるのであります。と言ふのは、農村を今日まで相當に犠牲に供して來て都會と云ふものが發達して來た、農村以外にも海外貿易とか色々の都會を發達せしめる原因はありましたが、海外貿易は世界の狀勢から殆ど止つて來た、各國は自給自足の形になり關稅政策を採つて來ました。我が農村は今日迄は都會の繁榮を培つて來ましたが、今後は都會政策でなく、中央集權でなく、都市文化政策でなく、農村自らが繁榮して來なければ日本全體として危い。さう云ふ問題であります。故に、此都市と云ふものを今後計畫する上に於ては餘程其頭を以て計畫しなければならぬ。農村を考へずして都市の事ばかりを考へると云ふ事は餘程研究問題である。

そこで私共は受益者負擔問題に就て斯う云ふ事を一言提供したい。即ち單に受益者負擔と云ふ事ばかりでなく、近來都市が發達する、此發達は今後は非常に鈍るかも知れないが、鈍つてもどうでも、土地自然増價税と云ふ税を課することを吾々市町村が特別税として權利を得たい、斯う云ふ事である。現在地價の暴騰と云ふものは非常に甚しいものがある。私の關係して居る一町村——私共の所は杉並町でありますが一の實例を一寸申上げたいと思ふのは、今より十年前に於ては總地價が三百萬圓かそこらでありました。所が今日は坪二十圓或はそれ以上して居りますが、二十圓と見て四千五百萬圓の地價の暴騰であります。それで地代と云ふものは杉並町ばかりで約百七十萬圓、三百人かそこらの地主が取つて居ります。さうして其人等が納める所の税金は町民の僅に二割しか納めて居ない。地租の附加税は五千六百圓しか納めて居ない。其他には何等納める所がない。それ故に斯う云ふ自然増價を得た人に對して受益者負擔以外に税金を課して、さうして都市の發展を促すと云ふことでなかつたならば、受益者負擔の本當の意味に副はない。此制度の儘で郡部の統制をすると云ふことであつては、眞の意味の統制は

出来ないといふ事を私は此處に斷言して諸君の御參考に供したい。

(ハ) 受益者負擔區組合設置の提唱

仙臺市長 澁谷徳三郎君

淺川君の御議論の如き極めて痛快にして而も主張の宏大無邊なる後へ、極めて消極的な一つの問題を提起することは極めて遺憾に感じます。併しながら、わが仙臺市の狀況に於きましては、只今申上げる事は市民の希望でありまして極めて適切な事でありますから、どうか暫くの間御清聴を願ひたいと考へます。

昨日來受益者負擔の賦課其他の方法に就きましては極めて有益なる御報告がありましたが、只今も淺川君が言はれました通りに、是は負擔金を取る事に就ての研究のみでありまして、負擔金を納める事の研究に就きましては遺憾ながら聴くことを得なかつたのであります。今日の問題は特に市民より如何にして金を取るかといふ事よりも、市民が如何にすれば金を納め易いか、市民をして負擔を比較的心易くさせる方法はない

かと云ふ事が刻下の急務ではないかと考へます。

仙臺市に於きましては此受益者負擔區に於て組合を設けまして、其組合が比較的長期の低利資金を借ることが出来たならば、此負擔區に屬する所の負擔者が極めて快く負擔金を納めることが出来るのであります。此意見を既に數年前より當局に開陳して居りまして、或る場合に於きましては、當時の御當局の諒解をも得んしたのであります。今尙ほ目的を達しないことは極めて遺憾であります。どうか斯の如き事は甚だ小さい問題でありますけれども、受益者負擔金を納めることに就きましては一つの便宜方法でありまして、都市計畫の運用を滑かならしむる上に於きましては効果少なくなしと存じますから、御賛成あらんことを希望致します。

(ニ) 現行法に依る受益者負擔金

徵收事業概目擴張の一考察

大阪市土木部長 島 重 治 君

昨日堀切前東京市長の御報告中に受益者負擔金制の

擴充に就て縷々御説示になりました。御趣旨には全然

同感であります。それと同時に都市計畫法に依つて當然受益者負擔金を賦課し得べき事業に於て今日尙ほ實施せられざるものがあります。是等の事業は何れも緊要のものでありますから、私は是等の事業に對して受益者負擔金を賦課せられる方法を講ぜられんことを希望する者であります。今日都市計畫法に依りまして都市計畫事業として認められて居りますのは十八種の多きに上つて居るのであります。其中で受益者負擔金を賦課することを認められて居りますものは、道路とか、下水道とか或は運河又は地下鐵道と云ふやうな僅か四、五種に過ぎないのであります。併し今日各都市に於て實施し若くは計畫中に屬する所の都市計畫事業は、其外種々のものを包含して居るのであります。就中橋梁並びに公園、此二つのものは最もポピュラーなものと考えますから、私は先づ以て此二つの事業に對して受益者負擔金賦課の方法の途が開かれんことを希望する者であります。

先づ橋梁に就て申しますならば、道路の新設擴築に對しましては、先程申しましたやうに受益者負擔金の制度が認められて居りますが、其負擔金を賦課する

算定の基礎となる所の工事費の中には、橋梁費は除外せられて居るのであります。殊に橋梁ばかりを都市計畫事業として執行する場合に於きましては、之に對する受益者負擔金の制度は認められて居ない、斯う云ふ取扱になつて居るのであります。大阪のやうな市内に河川運河が澤山ありまして、所謂水の都として知られて居る所では、橋梁などが非常に多いのであります。一般に大阪は八百八橋として知られて居るのでありますけれども、其實は橋梁は千五百十橋の多きに及んで居るのでございます。斯の如き都市に於きましては、此橋梁の事業と云ふものは相當都市計畫事業中でも重要なものに屬して居るのであります。現に今吾々が實施して居ります都市計畫事業の中に、道路の新設擴張に伴ふ所の橋梁工事が九十三橋、其外橋梁ばかりを都市計畫事業として施行して居りますのが八十二橋、合せて百七十五橋の多きに達して居るのであります。之に要する所の工費は二千餘萬圓の巨額に上つて居るのであります。而も此巨額に對して補助金は愚かのこと、受益者負擔金は一文も之に賦課することは出来ない、斯う云ふやうな状態になつて居るのであります。此事に就きまして内務省の當局に持出しまして

御相談を致したのでありますが、橋梁を架設するに就ての其利益の程度並に負擔に任すべき受益者の範圍、是等に就て不確定であるからして、従つて賦課の公正を期することが困難である、斯う云ふ理由の爲に、今日迄遂に實現することが出来ない、斯う云ふやうな状態になつて居るのであります。問題は受益者が無いと云ふのではないので、詰りそれに賦課する所の技術的方法を案出することが容易でない、斯う云ふ事でありますから、其方法さへ立てば當然賦課することが出来るものと考へます。其一考察と致しまして私は、例へば、橋梁の兩端を中心として一定の半徑を有する所の圓を描いて、其圓内の土地を以て負擔區域とするとか或は又橋梁の兩端を頂點として、二等邊三角形を描いて、其三角形内を受益者負擔區域とすると云ふやうなことに依つて、其負擔區域内に於て負擔の率を適當に按配すると云ふことに致しましたならば、公平なる負擔を課することが出来ると考へます。既にさう云ふ方法が出来ると致しましたならば、橋梁に對して受益者負擔金を賦課すると云ふ途を開くことは決して困難の事ではないと思ふのであります。因みに申しますが、大阪に於て都市計畫事業として目下地下鐵道をやつて

居ります。此地下鐵道に對する所の受益者負擔の方法は停車場の出入口を中心と致しまして四百間の半徑を以て描いて居る圓内の土地に賦課する、斯う云ふ事になつて居ります。是は實施されて居るのである。さう云ふやうな方法もありますから、今の橋梁も之に似寄つたやうな方法を適用すれば、左程困難なことはあるまいかと思ふのであります。

次に公園でありますが、公園の設備は、市民の保健上は勿論のこと、其都市の品位を向上することに於て非常に有利なものであると思ふのでありますから、此公園の設備に要する費用は都市住民一般に課すべきものである、斯う云ふ説を爲す者があります。併し翻つて考へますのに、今日の都市住民の生活、即ち密住生活に惱まされて居る今日に於きまして、都市の設備と云ふものが其附近の土地に如何ばかりの利益を與へるか、利用價值の向上を來すかと云ふことは、是は争はれない事實であります。少し古い例でありますが、米國のニュージャーシー州のエセックス・カウンティの調査に依りますと、公園を設置した爲に公園地帯の地價が五倍に騰つた、又其隣接地帯は六倍に値上りをした斯う云ふ事實があるのであります。尤も斯の如き好結

果を來しましたのは、ひとり公園の設備ばかりでなく之に伴ふ所の他の施設も亦與つて力あることと思ふのでありますけれども、兎に角、一つの公園を設置することに依つて、其附近の土地の價格が騰ると云ふ事は疑ひないことでありますから、是等の所謂不勞利得とも言ふべきものに對して、適當の受益者負擔金を賦課することは、是は寧ろ當然の事であると思ふのであります。又大阪を例に出しますが、大阪市に於きましては第二次の都市計畫と致しまして、大公園を三十三ヶ所、小公園を十三ヶ所、其外公園道十二ヶ所、合せて五十八ヶ所、其總體の面積が百五十餘萬坪に上つて居るのであります。それだけのものを公園地と云ふことに指定してあるのであります。之に要する費用も恐らくは二千萬圓以上に上ることであると思ふのであります。只今申上げましたやうな、公園の都市計畫事業に對して受益者負擔金を賦課するか、賦課しないかと云ふことは、公園設置に對して非常な影響を來すものであります。

次に此賦課の方法に就きましても矢張先程申しました橋梁と略々同じやうな方法に依りまして、公園地の出入口を中心として或る一定の半徑を以て描いた圓内

の區域に課する、斯う云ふやうな方法が最も適當ではないかと思ふのであります。果して是等の事に依つて受益者負擔金を賦課することが出来ることになりましたならば、今日公園の設備に就て多大なる困難を感じて居ります財政上に資することは決して少くないものであると思ひます。

之を要するに私が申上げたいのは、是は單り大阪市ばかりでなく、皆様方の御關係になつて居る所の各都市に於ても、橋梁並に公園と云ふものは都市計畫として、若くは事業として緊急のものであらうと思ひますから、茲に卑見を述べまして皆様の御批判を仰ぐ次第であります。

(ホ) 受益者負擔金賦課に於ける

「行政廳」の疑義

秋田縣屬 大野 養吉 君

昨日の總會に於て、此受益者負擔を賦課する所のは公共團體ではなくして行政廳であると云ふ御話を伺つたのであります。それで私は昨日配付を受けまし

た所の各地方の都市計畫事業に就ての内務省令の規定(參考資料乙編)と對照致しまして、聊か此法規上に就て疑問を懷いたのであります。何も準備を致して居りませぬので、私の考へてゐる事は或は間違つて居るかも知れません。

受益者負擔金は行政廳が賦課するものであると云ふことでありましたならば、其行政廳が賦課すると云ふ御議論の根據は都市計畫法の第二十四條以下の規定から来る所の御解釋であらうと思ふのであります。此二十四條以下の規定には行政廳が國稅滯納處分の例に依ると云ふ事を規定して居るのであります。それから二十五條には訴願に關する場合に於ても行政廳の處分不服ある者はと云ふ事を言うて居るのであります。此等の規定からして、受益者負擔金は行政廳が賦課するものであると云ふことの御議論であらうと思ふのであります。そこで其受益者負擔に關する内務省令を見ますと、殆ど大部分は何々市、何々町村は受益者に對して負擔せしむべしと云ふ事を言うて居るのであります。是は明に公共團體を指すものゝやうに思ふのであります。それは行政廳ではなくして公共團體をして負擔をせしめるといふやうな意味のやうに私は考へたの

であります。それから同じく都市計畫事業の財源の爲の特別税は、是は公共團體の課税であると思ふのであります。そこで特別税は公共團體に課税権を認め、受益者負擔金は行政廳が之を賦課すると云ふことは、其間に何等か區別すべき理由があるかどうか。私は何もさう云ふやうな區別すべき理由はないやうに思ふのであります。此處に謂ふ行政廳と云ふ言葉は、是は國の機關は勿論のこと、公共團體の機關をも指すものではなからうかと思ふのであります。此行政廳と云ふ言葉は從來の考へ方是一律に行政廳と言へば國の機關を指すものであると云ふことになつて居るやうでありますけれども、此内務省令の規定等に考へて見ましても、是は矢張其費用を負擔する所の公共團體に對して受益者負擔を課する所の權限を認めたものではないかと私は思ふのであります。其點に就て疑問を懷いたものでありますから、俄に通告を致したやうな次第であります。宜しく其點に就て御示教を願ひたいと思ひます。

私は河北さんから御提唱になりました土地の評價主義に就て(研究報告、五〇〇—五〇四頁参照)、實務家としての立場から私個人の意見を聊か御話して見たと思ひます。

工事を行つた時の前後に依つて土地を評價して、其差額に按分して負擔金を決定すると云ふことは、一見如何にも合理的の方法であるやうに考へられますが、偕て之を實行に移す場合に第一に考へさせられる事は負擔區域内の土地の奥行——各權利者毎の土地の奥行が果して正確に何等の紛議もなく確定することが出来るであらうかどうか。東京市に於ける從來の經驗に徴しますれば從來土地の所有者に對して其權利關係と其土地の見取圖を取ることにしておりますが、其間口の長さとか、奥行の間數の如きものを申告させることにしてあります。ところが其權利關係に就ては餘り多く異論はありませんけれども、土地の形狀、即ち其間口とか奥行に就ては實は十中の七、八迄は餘り完全な申告は出て來ないやうな實狀にあるのであります。従つて或る一定の路線價に基いて奥行、長さに比例して其土地の價格を評價するものとしませうれば、どうしても是は實測の方法に依るの外ないことになるのであります。

(ヘ) 土地評價主義に就て

東京市財務局收納課 長 畠山千代治 君

すが、實際問題として此實測は出来るものでございませうか。元來負擔金を賦課する爲に土地の立入測量をするとか云ふことは法律上可能でありませうかどうか。若し不可能だと云ふことであるならば、法律さへ制定すればそれで出来ると云ふことにはなるでせうが、現在では私は是は出来ないやうに考へて居ります。大阪市の報告（研究報告、四六四頁—四六五頁参照）にもあるやうであります。土地の面積に關しましては前提に於て此公簿主義を採用して居るやうになつて居ります。所謂繩延繩縮の事實を無視して公簿——稅務署に備へ付けてある土地臺帳面の面積に依ることになつて居るやうであります。是は畢竟實測の不可能であると云ふことを前提として、實際さう云ふ取扱を定めて居るのではなからうかと私は考へて居る次第であります。或は實測は不可能ではないが、其勞力と經費の點に於て寧ろ公簿主義を採用した方が便宜だ、斯う云ふ立場から或はさう定められて居るのか知れませぬが少くとも東京市の現在に於ても、矢張大阪市のやうに境界の爭其他色々の場合を考へて、公簿主義を採用して居るのであります。それで特別に其繩延とか繩縮の明瞭な場合は、或は實測と云ふやうな方法も中には例外

として認めるやうな場合もあります。斯う云ふ具合に考へて見ますと、法律的にも將又實際的にも、土地の實測と云ふ事に就ては、相當是は考へなければならぬ事でありまして、現在の所では或は不可能な事ではなからうかと實は考へる次第であります。それから第二に考へさせられる事は、土地の評價自體の問題であります。工事の前後に依つて土地の價格を評價すると云ふことは、畢竟するに是は認識の問題でありまして、實際の問題ではないのであります。實際の問題としましては第一に其時の經濟事情、それから各個人の立場から言へば、其賃貸の沿革だとか又は土地の賣買とか、さう云つたやうな事例に依つて色々其處に差があり、高低があるのであります。必ずしも共通的に一定の値上りがあると云ふことは斷定することが私は困難ではなからうかと思ふのであります。特に東京市の如き、既に立派な一つの既成市街に於きましては、街路工事を施しても、郊外の何も無い所に新に道路を通ほした時のやうに、顯著に其工事の効果が地價の上に、又は權利の上に表現しないのが其實相でありまして、特に今日の不況時代に於ては尙ほ其感が深いやうに思ひます。従つて是が評價と云ふものは

所謂認定に依つて裁量するの外ないのであります。實際の實例と致しまして、大阪市の道路新設擴張受益者負擔に關する規程（參考資料乙編八三頁参照）、此土地の評價に關する規定がある様であります。果して是が公正に支障なく運用せられて居るでありませうか、實は私は伺つて見たいと思ふのであります。少くも此問題は徒に煩瑣な手数をかけるだけではないかと云ふ考を持つて居るのであります。成程、東京市に於ける復興事業に就ては非常に成功して居るやうであります。是は非常の場合でありまして、特に其土地が平坦たる下町方面でありまして、それには區劃整理と云ふ一つの土地の改良が伴つて居るのであります。隨つて其土地の形狀と云ふものはすつかり矯正して、矩形的のものや何か大體調査するに非常に便宜のやうに出来て居る爲に成功したのではなからうかと思つて居るのであります。所が今東京市の受益者負擔の問題を生ずる場所は、現在多く山手方面でありまして、例へば道路を新設する場合、道路だけは新設されるけれども其沿道のもののは從來の儘に放置され、その區劃整理は沿道の者の協力に待つのみであります。隨つて其土地の形狀と云ふものは、龜甲形のものや三角のものや甚だ

不整のものが多く、殆ど矩形のものは稀のやうな現状であります。特に山手方面でありますから、土地の起伏が多くて、利益の厚薄と云つたやうな事に就ても迷ふやうな場合が澤山あり勝のやうに考へられます。斯う云つたやうな土地に對して一定の方式に依つて土地の評價をすると云ふことは、其一定の方式其ものが既に考へられなければならぬものではないかと考へて居るやうな次第であります。

それから第三に東京市の受益者負擔規程は均分主義に依りまして、例へば道路の如きものは七箇年に亘つて賦課され下水とか古川のやうな河川の場合は十箇年に亘つて賦課されることになつて居りますが、さうすると毎年土地の價格と云ふものは移動して來ますから其都度々評價をしなければならぬやうな煩瑣も起るのではないでありませうか。要するに私は、土地の評價主義と云ふものは土地の區劃整理があつてこそ初めて効果があらうので、其他の場合は、今の現状の儘では其効果があるかどうか、のみならず實際問題としては此實測の如きものが不可能だとすれば、尙更是はもう少し考へて宜い問題ではないかと考へて居る次第であります。

(ト) 受益者負擔金賦課方法に就て

神戸市都市計畫部
庶務課長 武井健作君

受益者負擔金は租税とは其性質が違ひますが故に、租税に關する議論を其儘全部適用致しますことは出来ませぬけれども、其他に負擔能力と云ふ事を全然考へないで宜いと云ふことは、現在土地のみを課税客體と致して居ります制度に於きましては考へる餘地があらうと思ひます。

都市計畫事業に因りまして土地が利益して一様に其價格が騰つたと致しまして、其利益の程度に應じまして負擔金に差別を付けると云ふことは進歩した賦課方法と言ふべきものであると思ふのであります。東京都市計畫事業道路受益者負擔規定(參考資料乙編六九頁参照)に依りますと、土地の上に在ります建物の階層數又は營業の種類とか、其他土地を利用する状況に依りまして五割以内を増賦課することが出来るやうになつて居るのであります。此根據は何處にあるかと云ふ事を研究する必要があると思ふのであります。單

に土地其ものから申しますれば、土地の品位が同じなる以上は、其上に在る建物の種類等に依りまして賣買價格が違はないのが實際の状況であります。随つて此増賦課と云ふものは、土地其もの、値上りに原因して居ると云ふことは言はれないだらうと思ふのであります。其以外に土地の利用状況が利益があるから、之に受益者負擔金を賦課すると云ふ制度になつたのではないかと思ふのであります。此點から申しますと土地のみを賦課客體として此増課をするのは、見方に依つてはそれだけ餘計に負擔能力があるからであると言ふことが出来るのであります。即ち土地の利用の状況が原因であると見られるのであります。同じ有租地でありまして、其土地を營利事業に利用致して居りますのと、説教所とか教會のやうなものに供せられて居ります場合とは、土地の利用の状況が反映して、負擔能力に違ひがあると見らるゝのであります。随つてそれに對する賦課方法を考察する必要があるだらうと思ふのであります。

(チ) 無租地に對する 負擔金課徴に就て

東京市神田區長 白鳥德之助君

無租地に對する負擔金課徴の問題に就きましては、既に昨日御報告がございましたが、私が茲に一言申上げんと致しますのは、特に大正八年法律第三十八號、即ち私立學校用地免租に關する負擔の關係に就てであります。

今日の土地利用の状況を見ますれば、平面的利用より立體的利用に進みつゝあると云ふことは申す迄もない事實であります。而して其立體的利用の關係は、自ら高層建築と相成りまして、各階に於きまして色々の利用方法を異にして居り、或は同一階でありまして各室に依つて其用途を異にして居ると云ふことは、多數の事實に依つて證明せられるのであります。私立學校に於きましても此種の例に漏れざるものが相當に多いことを事實私は體驗致して居るのであります。此法律第三十八號並びに同年十二月此法律施行に關して發せられました大藏省令第三十三號との運用に關して一言申上げて見たいと思ふのであります。

御承知の通り法律第三十八號に於きましては、私立學校の直接の用に供する土地に對しては申請に依つて

免租すると云ふことになつて居るのであります。特に直接其用に供する土地と云ふ事を申して居ります。それから法律第三十八號の施行に關する大藏省令に於きましては、其末項に「地租ノ免除ヲ受ケタル土地ニシテ之カ供用ヲ廢止シ又ハ無料借地ヲ有料借地ト爲シタルトキハ土地所有者又ハ納稅義務者ハ直ニ所管稅務署長ニ届出ツヘシ」とあります。其一部分の土地たりとも平面的土地利用を廢止しなければ此條項に當嵌らないやうに考へて居るのであります。學校の今日の建設物を見ますと、地階は食堂或は物品の販賣所に利用せられ、或は出版の方面に利用せられて居ると云ふ事實が多々あるのであります。必ずしも之を以て此法律若くは省令に反するとは申されないものであります。少くとも此免租の行爲に反するものであると云ふことは言ひ得られるのではなからうかと思ふのであります。此點に就て各位の御考慮を煩はたいと存するのであります。凡そ負擔は須らく公正でなければならぬと思ふのであります。主たる用途と他の用途とを混同して居る、主たる用途に依つて免租された其際に、他の収益的の用途に供せられると云ふ事實がありましたならば、其部分に對して課税すると云ふことは言はずも

がな相當の事と考へて居ります。

延いて一言申上げて置きたいと思ひますのは、單に土地若くは土地利用に對する負擔金の關係のみならず、現在全國的に行はれて居ります此關係が、家屋の賃賃價格に依る家屋税と關係を有つて居ると云ふ事を附加へて御參考に供して置きたいと思ふのであります。即ち地方税に關する法律命令に關する件と致しまして、昭和二年内務省地方局並に大藏省主税局の通牒發地第三號と云ふのがありまして——昭和二年發地第二十號を以て其一部分が改正せられて居るやうであります、其中の家屋税に關する部分の第四に於きまして、法律第三十八號、即ち前述の免租私立學校用地の敷地内に在る建物の全部に對しては家屋税を課することは出来ない——出来ないではありませんが、課せないやうにと云ふことの通達があるのであります。又同時に家屋税に就きましては、有租地に對しても其地域内に在る全部の建物に對して課税しないやうにと云ふことを申して居りますが、今日の如く平面的利用より、立體的利用に進んで参ります狀況から見ますれば、其土地と云ふ平面的方面から立法せられ、又解釋せられると云ふことは、色々の方面に於て、不合理の結果を來

すのではないかと考へます。此點に就きまして各位の御考慮を煩したいと考へまして本題を提供して置きました次第であります。

(リ) 受益者負擔金の輕減その他

大阪市會議員 油納平三郎君

國民負擔の輕減を圖ると云ふことは目下の重大なる問題でありまして、既に國税及地方税に於ては、年次に其の輕減に努めつゝあるのであります。然るに一面受益者負擔金にありては、何等其の輕減の跡を見ない事を遺憾とするのであります。而も其の徴收に當つては、負擔者の能力を考慮せざる嫌ひが多々有ります。固より受益者負擔は事業施設に因つて受くる利益を對象として考察せらるゝものなりとは言へ、全く負擔力を度外視したる徴收法を採るは當を得ずと思ひます。凡そ國民負擔の輕減を講ずるなれば、獨り租税のみならず、受益者負擔其の他の公課徴收に當つても十分なる考慮を拂ふ可きが當然であります。然るに此れ無くして一方微細の租税を減じて他方に於て巨額の負擔を

即時に徴するのは矛盾も又甚だしと云はなくてはなりません。宜しく負擔金徴收法制を時勢に適合せしめる要が有ります。

今其の甚だしき適例を挙げますれば、大阪市御堂筋に於ける負擔が、所により坪當り二千餘圓に上つて居る。又天満蒲生線の負擔が其の土地賣却に依て地主の受けたる金額が、三萬餘圓であるのに、其の所に於ける負擔が六萬餘圓に上つて居ります。此等の例の如く土地を全く失ふて、尙且つ出費せねばならぬと云ふが如きは、自から負擔者を困惑せしめるものであります。

次に申上げたいのは下水道負擔徴收の時期及び其制度の改正に就てであります。下水道改良事業に對する受益者負擔は、或る排水區の一部に工事着手すれば、其の全區域に涉り直に負擔金を課せられる制度であります。が、廣き地域を有する排水區域にありては、受益者負擔金徴收後數年経つても事業に着手せざる所もありて、奇象を呈し、負擔者をして誠に奇異の念を抱かしむるものがあるのであります。故に此れが負擔金徴收時期を制限して少くとも負擔金の徴收は其の附近に於て下水道改良工事の行はれたる時に於て徴收するのが當然であると思ひます。

尤も其の負擔金は豫算でありまして只今の徴收制度は其事業施行布告の日の所有者に課せられるものであつて即ち其の人に課せられるもので其の物に課せられるので無いから、五年十年の長期計畫の事業に於ては我が大阪市の如きは時々土地所有者の變る如き事が度々あるのであります。然らばその當時の所有者が破産するやうなことがあつて其の納付能力を失つたときは徴收する途が無いのであるから、從て其の損益は追加徴收として一般受益負擔者に課せなければ其の事業は完成しないのであります。須らく其の物件に對して賦課徴收せられるやう制度の改正を望みます。尙ほ十年以上の永小作人並びに土地賃貸契約を登記せる者に其幾分を課せられるやうになつてゐますが、大阪市の如きは大部分公正證書を以て契約をしてゐるのでありますから是も同等と認めて賦課徴收せられんことを望みます。

次に高速度鐵道事業に對しても、受益者負擔金を徴收せられるのであります。が、實は既に道路工事に關し又下水道改良工事に關し、夫々受益者負擔金を徴收せられたるのに、重ねて相當多額の負擔金が課せられることは、財界不況の折柄負擔者として尠からぬ困難を

感ずる次第であります。かくの如く同一地域に對し、二つ以上の事業に因つて受益者負擔金を二重三重に課せらるゝ場合には或る時期を以て制限するか、もしくは負擔程度を軽減せしむるかの方法を講じて、負擔者の苦痛を少しでも輕からしむる要があります。

(ヌ) 受益者負擔金制

手續の簡易化に就て

大阪市主事 岡崎 早太郎君

受益者負擔金制度に就いての私の報告は、從來私が機會ある毎に意見書として發表し、大方の御批評を求め來つて未だ解決を見ない事項の一部であります。報告の要旨は豫て配付になつた「研究報告」で御覽下さつた通り、「受益者負擔金制度の普遍化と現行制度の改善意見」でありまして、その項目は(一)制度の普遍化、(二)土地所有者を第一次の受益者に、(三)受益者負擔義務の移轉、(四)費用負擔區劃、(五)受益者側から見た費用負擔制度、(六)餘論の六項目に過ぎないのであります。私は是等の所見につきまして評論を求むるに當り、昨日は諸君と共に河北、堀切御兩

所の報告演述を拜聴し、又報告論文をも再三繰返して拜讀したのであります。然るに私の報告に係る六個の事項中に於て、この制度の實體に關する第一乃至第五の主張に就ては、御演述に用ひられた言葉や、論文中の文字は必ずしも一致しないが、その要點は殆ど其の軌を一にしたもの甚だ多きことを發見したのであります。それは私の報告を御一讀下されば直ぐに判明することゝ存じます。かくの如く斯道の權威者たる御兩所に依り、完全に裏書せられたる上は、更に詳言する必要はないと思ひますから、此が説明は差控へることゝ致します。ひとり第六の餘論中に掲げて置いた、手續方法に關する細則の規定を製造する手續を簡捷にし、これが爲に要する時間と勞力と費用の浪費を節減せむと希望した事項に就ては、河北氏から「各都市の事情如何に因りて制定せらるべき事項に關する規定は地方に委せるがよい」と謂ふ一語があつたので、御演述に於て將た論文に於て、明確な詳細論を窺ひ得なかつたことを遺憾と致します。

さり乍らこの問題は受益者負擔金の實體に觸れないとは言へ、等閑に付すべき事項ではなく最も大切な事であると存じます。更にこの點に關し御意見の明示が

得らるれば、斯務將來の爲に大なる仕合と存じます。

(ル) 受益者負擔金と

他の公課との關係

京都帝國大學 經濟學部教授 沙見 三郎君

昨日は堀切前東京市長並びに河北一郎氏の御報告があり、又今日は實際問題に直面して居られる専門家の御意見を承りまして、私も受益者負擔金に對しまして非常な勉強をしたことを喜んで居るのであります。私等研究室に居ります者の一人と致しまして、昨日の御報告を承つてそれに就て一言申上げて置きたいと思ふのであります。

昨日二報告者から御話がありましたやうに、根本問題と致しましては、受益者負擔金の對象として單に道路、下水、運河、河川、地下鐵道關係のものゝみを採るか、又は之を擴充して其他の事業に基く受益に及ぼすべきやの問題があると思ひます。更に受益者の範圍を、土地の關係者のみに限るべきやの問題を生ずることゝ存じます。然し、茲には、議論の便宜上、受益者

負擔金の對象と致しまして、道路關係のものゝみを採り、更に受益者の範圍を土地所有者のみに限り研究を進めたいと存じます。

地方團體の財政的立場から致しますれば、道路に關する費用を、如何に調達すべきやが問題でありますから、受益者負擔の金額も道路に關し投じたる費用(cost value)を標準として定むる事となるのであります。之に反し受益者負擔金の支拂者の立場から致しますれば道路により受けたる利益(benefit value)を標準とすべきであります。勿論、原則と致しましてはcost valueとbenefit valueとは一致すべき傾向を有するのであります。之は全般的又は平均的の觀察でありまして個別的又は特殊的に云へば、道路に一定の費用を投じた事が恰もそれだけ利益を土地所有者に與へる事があるが、多くの場合には費用と利益とが一致しないのであります。従つて實際問題と致しましては、cost valueなる地方團體の財政的立場と、benefit valueなる支拂者の立場との兩者を調和せしめねばならぬと存じます。現行の受益者負擔金の制度は前者に偏してゐる嫌があります。

道路關係の利益(benefit value)は、臨時的には土

地に關する財産の騰貴となり、經常的には土地に關する所得の増加となります。故に受益の全部又は一部を徴収するに當りまして、臨時的と經常的との二つの方法があると存じます。受益者負擔金又は土地増價税は寧ろ臨時的の方法であり、經常的方法と致しまして現に行はれてゐるものは、所得税、地租等に基く地方税であります。特に土地に關する課税として注目すべきは地租の附加税であります。然し現行の地租は、擬制的の地價を課税標準と致して居りますが故に、之に基く市税も經常的受益の全部又は一部を徴収するのに適當でないであります。土地の賃賃價格調査が全國的に終了してゐるのでありませうから、地租の課税物件が速かに地價より、賃賃價格に改まり、それが定期的に變更せられる事となりますと、地方税としても此缺陷を補ふ事が出来るのであります。地租の課税標準の改正は現行の受益者負擔金制度の缺陷を補ふ上に於きまして望ましき事であります。

要するに、受益の全部又は一部を公平に徴收せんとせば、從來の受益者負擔金の如く地方團體の財政的立場を重視する制度一本槍のみでは適當でない。必ずや經常的及び臨時的に眞實の受益を捕捉し得るが如き他

の公課を併用し、公課全體として組織的に受益を徴収する様につとめねばならぬと考ふるのであります。

(ヲ) 物的負擔に對する疑義

名古屋土木部
庶務課長 須藤 林七君

私は受益者負擔の負擔主義を物上負擔にするか、人的負擔にするかと云ふ問題に就て些少の疑問を持つて居る次第であります。「研究報告」を拜見しますと何れも物的負擔たらしむべしと云ふ多數の御意見のやうであります。唯神戸市の武井さんの御意見（研究報告四四五頁参照）が之を排して居るやうに伺はれるのであります。申上げる迄もなく此報告書に御報告になつて居る方々は、此制度に對する學識經驗の上から何れも第一人者であります。此多數の先輩の御方の御意見が、殆ど一致して物上負擔たらしむべしと云ふにあるのであります。唯私は此報告書を拜見したのみでは、何故物上負擔たらしむべきかと云ふ根本の理論が私の不敏なる頭には首肯出来ないであります。或は先刻も負擔を課せられる側の御意見として（研究報告八

木常太郎氏、油納平三郎氏演述参照）物上負擔たらしむべしと云ふことを伺つたのであります。其御意見は家資分散の場合とか、即ち當初の負擔義務者が負擔能力を缺いた場合に於て缺損する處れがあるからと云ふ點からの、所謂便宜の上からの御議論でありました。其他は御報告になつた要旨も、利益と云ふものは一時に來るものでない、段々來るものであるからと云ふ御意見もあるやうであります。さうしますと、勿論土地利用上の利益と云ふものは一時的のものではない、永久的に參るものであります。土地の滅失せざる限りは其土地を利用することに依つての利益と云ふものは永久であります。其點から論じて其趣旨を擴充しますと、殆ど永久的の負擔である。土地のあらん限りは何時でも其利用者が利益者であると云ふことになりますと、さう云ふものを利益者と見る見地から負擔金を課すると、殆ど地租と同様永久に之を課することにならなければ一貫しないやうに思ふのであります。勿論都市計畫事業と云ふものは永遠の利益を目的とする事業でありますから、唯其着手の日若くは竣工の日に於ける其所有者のみに負擔せしむべきものではなく、子々孫々に負擔せしむべしと云ふ一方の御議論は、是は何

人も解ることと思ふのであります。然らば何時になれば其利用價值が停止するものであるか、恐らくは利用價值の停止する時はないと思ひます。現在の多くの省令は工事着手の日の現在が多いやうであります。勿論其當時の者が受益者で、其以後の者は受益者でないといふ趣旨ではないのであります。最も大きい利益は其臨時的の着手の日若くは竣工當時の人の受ける利益が最も大きいから、其臨時の受益者を捉へると云ふ精神が現在の制度にあるであらうと思ふのであります。唯先刻も一言したやうに缺損の處れがあるからそれを防ぐと云ふ便宜の上から來て居る物上負擔論であるが、其土地を永久に所有する者が收益を受けるものであるからと云ふのであるならば是は恒久的のものになる。現在の多くの省令は五箇年、七箇年にされて居るが、五箇年、七箇年で其利益價值と云ふものは滅失するものではないのであります。其點に於て議論が一貫しないやうになるのであります。私の方の市でも、先年來道路或は運河の工事に就て數百萬圓の受益者負擔金を徴收して居ります。是は分割納付を認めて利子を附して徴收して居るのであります。其實例に依りますと、先刻誰か御話のあつたやうな、家資分

哉とか其他の負擔能力を缺いで市の缺損になつたと云ふやうな實例は殆ど無いのであります。尤も今後あるかも知れません。若し之を物上負擔にすると云ふことになりますれば、私の考では、其理論が明確でないばかりでなく、毎納期毎に其所有者、義務者を調べなければならぬ故、手数が非常な煩瑣であります。是は如何に手数が煩瑣であつても、其理論の上から、實際の上から當然さうすべきものであると云ふことが明かであれば、其手数煩瑣の如きは勿論之を厭ふべきものではありませぬが、現在の所では其點が何故物上負擔たらしむるか云ふ明確なる理論を伺ふことが出来ないが爲に、其疑問を解きたいと思ひまして一言した次第であります。

(7) 受益者負擔金賦課上の若干問題

都市計畫東京地方 西村 輝 一 君
委員 會 事 務 官

一 受益者負擔金負擔義務者の範圍に就て 大正九年の内務省令第二十八號に依りまして何人が受益者として指定されるかと云ふ事は、是は煩を避けまして省

略致しますが、私の要旨とする所は、土地所有者と賃借人其の他の權利者とを負擔義務者として、併立せしむることに致したいと思ふ點であります。

先づ土地所有者と借地権者との關係に付て觀察するに、東京に於ては震災後復興事業の執行に依りて借地権の獨立性は愈々顯著となり、土地區劃整理の施行に付き換地處分及清算金並に特別都市計畫法第八條の規定に依る土地補償金の分配等に付て借地権の價格を日本橋、京橋、淺草雷門附近等に於ては五割としたるものがあるが、其の他は三割、四割として計算せられたものが大部分を占めて居り、區劃整理以外の道路、公園用地の買収に付ても亦三割、四割（或る種のものには五割五分としたものもあるが）として契約せられたるものが多いのであります。

近來借地権の價格は漸次其の割合を高め、地主は知らず知らずの間に其の財産の價額が減少して行くやうな傾向のあることを耳に致しますが、乍併今日に於て兩者を比較すれば多少の例外はありませうけれども、借地権の價額が所有權の夫れに及ばざることとは蓋し明かであらうと存じます。

東京の中心に於てすら猶如此次第なるを以て、他の

中小都市に於て、又都市の郊外等に於ては、借地権の價額が所有權の夫れに比して遙に低位にあることは想像するに難くありません。尙甚しきに至つては借地権として獨立して取引せられないものも少なくないかとも想像せらるゝのであります。

而して或る改良事業に因る受益中最大部分を占むる土地の價額の増加が如何なる割合で土地所有者と借地権者との歸屬するや、其の受益の割合は兩者の元來の價額の割合に比例するものと見て差支はなからうと思ひます。

次に所有權者と賃權者との關係を觀るに、賃權者は其の目的たる土地を占有して使用收益を爲し、地租をも納付するものであります。畢竟する處擔保權に過ぎざるを以て、賃權を實行せずして債權が辨濟せらるゝ場合は勿論、賃權を實行する場合に於ても其の受くる處は債權の元利に過ぎないこととなります。従て改良事業の施行せられた場合に於て其の受益は賃權者のみにあらずして結局所有者に及ぶことは多言を要せざる處であります。

従て負擔金の賦課に當りて少くとも土地所有者の受益を否認することは到底出來得ないことと思ひます。

既に土地所有者の受益を肯定する以上は、これに對して負擔金を課せざることは受益者負擔の根本精神たる負擔の公平なる觀念に副はない結果となるべきを恐れ

ます。

神戸市の武井氏の御報告（研究報告四四二頁参照）せられたる土地の負擔力に關する事例に依りますれば、一坪當二百五十圓の土地に付て平均二十五圓を課したるに、其の土地は三百圓を下らざる價額となりたりとのことであります。其の負擔義務者は多分所有者なりしことと思はれますが、若し此の場合負擔義務者が假に借地権者なりとせば其の受益額と負擔金との計算は如何様になるか、之は御想像に任せることと致しまして、此の如き實例は神戸市に限らず他の都市に於ても少なくないかとも思はるゝのであります。

賃權者や賃借人が有益費を出したる場合は、民法の規定に依りて土地所有者に對して之を償還せしむることを得るが故に、之に依りて（賃權者民法二九九條、三五〇條、賃借人民法一九六條、六〇八條）負擔の公平を期し得るとの説明もありますが、若し求償權ありとせば其の求償權を認めること夫れ自體が元來他人の負擔すべきものを自分が負擔せることを立證するに足

るものであります。

又土地所有者其の他の關係者は、借地權の設定等に當り既定の負擔規程を前提として取引を爲すが故に、負擔の公平は關係者の協商に依りて行はれ、結局不當の負擔を爲し又不測の損害等を蒙るが如きことを避け得べしとなす意見もあるであります。

此の求償權や當事者間の協商は現行の規程を合理的に解釋するが爲には誠に巧妙なる説明であり、又負擔規程の制定並に運用の上に於ては素より、此等の關係や事情を全然度外に置く譯には行かないが、此の求償權や協商に一任して置いて所有權者を負擔義務者外に逸し去ることは、所有者の側より見れば不當に負擔を免るゝものであり、又質權者、借地權者の側より見れば假令其の負擔額が自己の受益額の範圍内なりとするも元來他人の負擔すべき部分を引受けたことになり恐らくは適當にあらずと思はるゝのであります。

東京に於ける受益者負擔規程中、古川と澁谷川に於ては所有者と借地權者とを併立せしむる規定があり、尤も其の趣旨たるや河川改修に依る護岸の改築と土地所有權との關係に着眼し、總事業費の内護岸改築費を標準として其内一部を土地所有者に、其の他の費用を

標準として一般の受益者に負擔せしむることとしたるものであります。前者は之を護岸負擔と稱し、後者を一般負擔と稱して居ります。而して護岸負擔の負擔區劃は河川の境界線より六間の區域とし、一般負擔の負擔區劃は原則として古川に在りては河川の境界より三十間、澁谷川に在りては河川の幅員の三倍の區域と定めてあり、從て河川の境界より六間以内の區域のみが所有者と賃借權者と負擔義務者として兩立して居るのであります。根本的に此の問題を解決したるものにあらずと雖、兩者を併立せしめることに就て其の端緒を開きたるものと謂ふことを得るであります。

此の規定の制定せられたのは、古川(四年八月)澁谷川(五年三月)であります。古川の規定が都市計畫委員會に付議せらるべく審議中に此の所有權者と借地權者を兩立せしむることに付斷案を下されたのは即ち堀切前東京市長が復興局長官として御在官當時のことでありました。

以上述べました點に關しては堀切前東京市長よりも御報告になり且大阪市岡崎主事の御報告中に詳しく述べて居られ(研究報告四二六頁—四三〇頁参照)私も大體に於て賛成する所ではありますが、岡崎氏は「土地都市計畫法第六條には「都市計畫事業に因り著しく利益を受ける者をして其の受くる利益の限度に於て云々」と定められ、受益の限度を超過することの出来ないことは明かであります。

所有者を第一位に置き特殊の場合に於て所有權以外の權利を有する者に及ぼすべきが至當ではあるまいか」と主張されて居ります。所謂特殊の場合とは如何なる場合を指さるゝや種々なる場合あるべく、假令百年より長き存続期間の定めある地上權の如きは其一例かと思はれますが、要之、義務者を擇一に定めんとする御趣旨と解せらるゝのであります。果して其の趣旨なりとせば、私の考とは少し異つて居ります。即ち私は「土地所有者、質權者、賃借人、地上權者、永小作人等を併立せしむること」即ち此等の權利者の總てを同時に同順位に於て負擔義務者として云ふのであります。

其の義務者間に於ける負擔の割合に付ては、素より受益の高低に依りまして自ら差異の生ずることは勿論であつて、一應負擔義務者としても其の中著しく利益を受けないものありとせば此の者に對して負擔金を課することは出来ないものであるから、自ら淘汰せらるゝこととなるのであります。

二 受益の量定に就て 受益者負擔金を負擔すべき者の受益の程度を量定することは、負擔金を課する上に於て可なり大事のことと思ひます。

然るに現在各都市に於ける受益者負擔規程を通覽するに、大阪市の道路受益者負擔規程には、受益額を評定する條項が定められて居りますが、今日迄實際に活用せられたることなく、又東京の澁谷川改修受益者負擔規程中には、負擔區劃内の土地に付て受益の厚薄に依りて負擔指數を定め、之によつて負擔金額を算出するの條項が定めて居られますが、受益額を量定すると云ふ程のものではありません。

其の他各都市の規程中には此の量定に關する規定を定められて居るものはない様であります。只事業費に對する一定歩合の金額を分配賦課するのであつて、其の賦課額位の金額は無論受益あるものと達觀して居るのであります。

其の賦課額が受益額に對して超過する如きことは萬々ないことと思はれますが、併し乍ら受益額に對して如何なる歩合に當つて居るか云ふことを正確に判斷する方法が定めてないのであります。

從て負擔金を賦課する者の立場として其處に多少の不安の感を伴ふ様なことが全然ないとも云へないかと思はるゝのであります。のみならず、頻々として起る處の負擔者側からの苦情、陳情等に對して其の負擔の公正なることをはつきりと説明するが爲には、受益を量定して其の賦課の根據を明にして置くことが最も必要なる用意であると思ひます。

受益額を量定することは至難の事柄ではありますが、負擔金賦課の根據を明確にする爲に、又負擔の公平を期する爲に何等かの方法を講ぜねばならぬと存じます。之に就きまして別段變つた考もないのであります。私は官民よりなる評定機關を設けて其の受益を評定せしむるの方法を採りたいと思ふものであります。

神戸市の武井庶務課長の御報告中に、「負擔能力は單に土地を所有し又は土地に關する權利を有する事實にのみ著眼するは正當と云ふを得ず諸般の事情を考察するを要す」(研究報告四四二頁参照)とありますが、之は實際上の問題と致しまして誠に當を得たる御觀察と思ひます。同一の負擔區内、同一の地帯内に於ても土地の位置、形狀、用途等に依りて其の受益の程度は必ずしも等しからず、從て是等の事情を參酌して受益額

を量定することは評價の方法上最も適當と思ふのであります。殊に前述の通り土地所有者と借地権者等を負擔義務者として同順位に置くものとせば、其負擔歩合は豫め法文を以て一定し難いことと思料するが故に、此の場合に於きましても各種の事情を參酌して其の負擔歩合を評定するを最も適當のことと思ふのであります。

又東京市政調査會の岡野文之助氏の御報告(研究報告四五四頁参照)中に「受益者負擔金制の實施を圓滑ならしむる爲に負擔金賦課に對する不平訴訟等の可なり多き實狀に鑑み之が對策として市民側を介入せる委員會様のものを設置すべきである」と云ふ趣旨のことを述べられて居りますが、私が官民よりなる受益評定の機關を設けたいと思ふのも、一つは此理由に依ることとなり、從て苦情、陳情等も其の數を減ずることとなると思ふのであります。

乍併負擔金の賦課を全然評價主義にすることを主張するものではなく、現今採用せられて居る面積主義、間口主義、地帶主義等に評價主義を加味して、以て負擔金の正確と公平を期する様にしたいと思ふのであり

ます。

三 負擔金の分納主義と分割賦課主義に就て 今回の議題中「負擔金の徴收に關する前納主義及分納主義の實際と其の理非得失」と云ふがありまして、各報告中、之に關する色々な御意見が表はれて居りますが、所謂前納主義、分納主義とは一定の期日に於ける現在の受益者に負擔金の總額を一度に賦課するのでありまして、分納主義に依れば一旦賦課したる負擔金を數回、數年に分ちて徴收するを云ふのであります。此の場合權利の移動に伴ひまして負擔義務を物的に追隨せしむるの可否に付て議論を生ずる譯であります。東京に於きましては此の方法に依りたる實例(大正十四年内務省令第二十八號、東京市下水道事業受益者負擔に關する件(抄)第七條 負擔金は工事竣功の日の現在に於ける受益者より之を納付せしむ。但し第八條の期間内に受益者に異動ありたるときは新に受益者となりたる者より殘額を納付せしむ)も御座いますが、最近に制定せられたる規程中には次の如き條項が置かれて居ります。

昭和四年内務省令第三四號

東京都市計畫事業道路路受益者負擔に關する件(市

長執行の分)
第七條 負擔金は之を均等に十四分し事業者手後毎年二回別に定むる期日に於ける現在の受益者より納付せしむ。

後者の規定は前納主義、分納主義に對して分割賦課主義とでも申しませうか、前納主義、分納主義の如く一度に賦課するにあらずして、十四分の一づつを十四回に分ちて賦課するのであります。從て第一回の賦課後第二回の賦課前に權利の異動ありたる場合と雖、第一回の賦課金は飽く迄其の賦課を受けたる者より徴收し、權利の移動に追隨せしむることを認め居らず、第二回の賦課は新權利者に賦課するのでありまして、第二回目に賦課せられたる者は前に賦課せられたる義務を繼承するにあらずして自分が新に賦課を受けるのであります。此の點が通常所謂分納主義の場合と異なるのであります。此の方法に依れば、結果から見れば分納主義に依りて權利の移動の場合物的追隨せしめたと同一になるが、十四回に分ちて賦課するが故に、夫れは對人的であると云ひ得るのであります。

此の兩者の利害得失に關しましては、事業の性質又は工事期間の長短等に依りまして判斷すべきであり、

孰れにするも一利一害は免れぬことと思ひますが、只東京の近例に付て氣の付きたる點を一言するに過ぎぬ次第であります。

四 有租地と無租地に就て 有租地と無租地との分類に付きましては左の通り解釋したいと存じます。

先づ土地を分つて官有地と民有地とに大別する。官有地が無租地たることは疑ひ御座いません。更に民有地を分つて地租を課する土地と地租を免する土地と致します。地租を課する土地とは現に地租を課しつつある土地にして有租地たることは明かであります。地租を免する土地を更に分つて無期免租地と有期免租地と致します。

此の兩者が有租地と無租地の孰れに屬するやは聊疑問なき能はずでありますが、前者即ち無期免租地は之を無租地とし、後者の有期免租地とは即ち新開免租年期中の土地及荒地免租年期中の土地を指したものであります。一定期間内地租を免する點より考ふるときは之れを無租地とするを適當とする説がないでもありませんが、私は之を有租地として取扱ふを適當なりと思ふものであります。

地租條例第四條には無期限に地租を免する土地を列

舉すると同時に、其の第三條に於ては有租地の分類を規定したり、有期免租地たる新開地及荒地は第四條の土地に該當せざると同時に其の地租を免ぜらるゝ期間内と雖も第三條に有租地として列舉したる何れかの地目に該當するものと見るを適當とすべく、從て地名稱區別（明治七年太政官布告第一二〇號）の分類に依れば「民有地第一種地租を課し地方税を賦するを法とす」とあるに該當するものと思ふのであります。

又地租條例第十五條には第一項及第二項に於て地租を課する土地が地租を課せざる土地となり、地租を課せざる土地が地租を課する土地となりたる場合を規定し、其第三項に於て、之を新開地及荒地に準用すと規定したる點より推察致しますれば、一定期間内地租を免するに拘らず、之を有租地と解するを適當なりと思ふのであります。

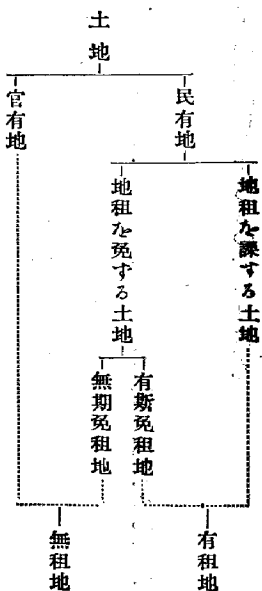
又地租條例第十三條の二の規定に依り地租を徵收せざる自作の田畑も亦同一の根據に依り有租地なりと思ふのであります。反之、第四條の土地は第三條の有租地としての地目に該當せざるものなるを以て、受益者の指定に關する大正九年内務省令第二十八號に所謂無租地として取扱ふを適當なりと思ふのであります。

負擔金に關する實例と致しましては、東京市の下水道

道受益者負擔規定第二條に「本令に於て受益者と稱するは左記各號の一に該當するものを謂ふ」とし、其第一號に「排水區内又は第六條の規定に依る地域内に在る有租地（新開免租年期中のものを含む）云々」と規定し、有租地に新開地を含むことを明にせられました。

其の精神は恐らく有租地に非ざるものを有租地と看做したるにあらずして疑ある點を明にしたるものなりと思ふのであります。此の省令は例の内務省令第二十八號とは直接の關係はないのでありますけれども、同省令に準據して受益者の範圍を定められたるものと存ぜらるゝが故に、同省令の解釋に關し一つの實例と見ることが出来ると思はるゝのであります。

新開地及荒地免租年期中の土地に負擔金を賦課するを適當とすとの御意見は各報告中に表はれて居り、私も賛同する處であります。只之を賦課するに付て前述の通り解釋し得らるゝに於ては必ずしも現行法規の改正を要せざるべしと思はるゝを以て一言した次第であります。参考までに次の如く表示致して見ます。



部長（福地由康君） 洵に靜肅裡に終了を告げまして、各位の御熱心に對して深く敬意を表します。午後の總會は地下室の市政講堂で行はれますから御參集を願ひます。部會は是で散會致します。

第五 各部討論の經過報告

一 序 説

前篇第二に記述せる如く、會議第二日午前中に於ける各部會討論の經過は、同日午後一時三十五分市政講堂に開催の總會に於て報告せられた。順序、内容左の通りである。

二 第一部會討論の經過報告

飯 沼 一 省 君

第一部會は本日午前開會致しまして、出席者百九十四名、直ちに議事を開きまして、最初に主報告者から昨日報告漏れの點に付て報告がございました。了りましてから引續き討論に入りました。討論に於て意見をお述べになりました方が十六名ございました。何れも實地御經驗になりました事に付きまして、洵に有益なる御意見の發表がございました。さうして午前十一時半に討論を了りまして、部會を閉ぢたのであります。

是れより討論されました事項の大體に就て御報告申し上げます。

討論せられました事項の内容は種々多岐に亘つて居るのであります。大體に於きまして之を次の六つの部門に分けることが出来ると考へます。

第一は都市の郊外地を統制するに付きましての都市計畫上の施設に關するものであります。

第二は是亦都市の郊外地統制の方法と致しまして、土地區劃整理に關するものであります。

第三は進んで都市郊外地の統制を完からしむるが爲めに、現在の都市計畫法制を如何に改正すべきかと云ふ問題であります。

第四は現在の都市計畫行政の圓滿完全なる進行を期しますが爲めに、都市計畫に關する行政組織を如何にすべきかと云ふ問題であります。

第五は我國の歴史に於て存在致します所の特別な意義を持つて居る都市の建設に關するものであります。

第六は右申上げました其何れにも該當致しませぬ事項が多少ございますので、それ等に關するもの。

此六つの事項に分けて其内容を概略申上げること致します。

第一の都市の郊外地を統制する方法の一としての、都市計畫上の施設と致しまして、色々有益なる御意見が發表せられたのであります。其主なるものを申し上げます。都市の郊外に都市林を設置すべしと主張せられたものが一つ、之に付きましては諸外國の例をお引きになりまして、不自然なる、又極めて不安なる都市生活を營んで居る都市住民に對して、郊外地に都市の持つて居る所の立派な森林を設置して、此處に於て都市民に自然の恵澤に浴せしむべしと云ふ御意見であつたやうに拜聴致しました。

尙又都市郊外地を統制する場合に考へなければならぬことは、郊外地に大きな公園を設置することである。都市の郊外地問題を考へる場合に、大公園を郊外に設置することを忘れてはならぬと云ふ御意見の御發表がありました。

それから或る方からは、都市の郊外に於ける人口の分布といふことを考へなければならぬ。是迄都市計畫區域を定むる場合には、人口の分布を基準として定められて居るやうであるが、其後に於て人口の分布に付て考へて居らないやうである。今日郊外地問題として人口が如何に分布するかと云ふことを、統制するやうな途を考へなければならぬと云ふ御意見の發表がありました。

それから第二の土地區劃整理の問題と致しましては、是亦各地に於て行はれて居ります土地區劃整理の實績から色々の御意見があつたのでありますが、其中の二三を申し上げますと、郊外に於ては、土地區劃整理を目的とする道路計畫の試案を公示する途を開いたらどうか、決定した案ではありませぬので、試みの案を、之を公に發表する、斯う云ふ途を開いたらどうか、さうして此土地區劃整理を目的とする道路計畫の試案が公示されました後、一年内に其場所に土地區劃整理を申請するものゝ無い場合には、主務大臣は、都市計畫委員會の議を経て内閣の認可を得て此計畫を實施することが出来ると云ふ途を開いてはどうかと云ふ御意見がありました。或は又都市計畫區域内全部に對して、都市計畫法第十三條に依る強制的の土地區劃整理を行ふ途を開くことが必要ではないかと云ふ御意見もございました。

尙又更に進みましては、土地區劃整理をやつた後の土地に付て、今日法制の上で足りない所がありはせぬか。又區劃整理を致した土地を統制する方法として、今日の用途地域の制度をもう少し細かく運用したらどうかと云ふ御意見もございました。尙又其他に、土地區劃整理事業に關しましては、國庫から低利資金の融通を受けてさうして財政的に援助を爲すことが必要であると云ふやうな御意見もありましたし、又土地區劃整理をやりま

した後は、強制的に、舊市街地内に在る工場等に移轉せしむる方法を考究する必要があるいかと云ふやうな御意見もありました。尙ほ此區劃整理の問題等に關聯しまして、町村地番の整理統制の方法として、府縣市町村の間の聯合の地番整理委員會と云ふやうなものゝ設置を提唱せられた方もありました。

第三に都市計畫法制に關する問題と致しましては、是亦各關係の方々から、今日迄實施の成績に鑑みて御考になつた所の御意見を拜承致したのでありますが、其中には、都市計畫の法制をもつと力の強いものにする必要がある、又都市計畫の行政機關の構成を合理的にする必要があると云ふ御意見、或は又、都市計畫路線に關する私權の制限がある、都市計畫として街路網の定まりました其制限が餘り強過ぎるから、もう少し之を緩和したらどうかと云ふ御意見もありました。又市街地建築物法に關する御意見も出たのでありますが、其中には、市街地建築物法と云ふものが今日あるのであるが、都市の郊外地を統制する一つの方法として、一般建築物法を制定して、都市の郊外を統制する必要はありはしないかと云ふやうな御意見も拜聴致しました。

それから第四の問題と致しまして、都市計畫に關する行政機關の問題と致しまして、都市計畫施行都市が比年其數が増しつゝあるに拘らず内務省に於ける都市計畫行政機關が之に伴うて大きくならない、反對に縮小されたと云ふ事は甚だ不都合であると論ぜられた方がありました。又今日の都市計畫委員會の制度に付て、尙ほ大いに研究の要がありはせぬかとせらるゝ方がございました。又都市計畫の圓滿なる遂行を圖るが爲に、市町村の間に聯合の協議會を常設することが必要であると云ふ御意見の發表もありました。尙又都市計畫事業と鐵道省の事業若くは逓信省の事業との間に、場合に依つては連絡の伴はない事を指摘されまして、是等に付て今後研究の要あ

りとせらるゝ方もございました。

第五に、特別な性質を持つて居る都市の問題が出たのでありますが、これは宇治山田市及び仙臺市の方からの御発表であります。宗教的、歴史的、或は遊覽的都市のやうな、特殊の性質を持つて居るやうな都市に就いては、其都市獨特の計畫乃至統制を爲すべき事を主張せられまして、之に付て特別な法制の研究を必要とすることを主張せられました。又もう一つは、教育都市の設定の必要を提唱せられたのでありまして、現在の行詰れる教育状態の下に於ては、其對策の一つとして、適當なる都市を選びまして、さうして新たな教育都市を造ると云ふ事も一つの方法であらうし、現に存在して居りまする、例へば札幌市であるとか、或は仙臺、或は福岡とか江田島とか、東京もさうでありませうが、さう云ふやうな教育都市に付て特別の意を用ふる必要があると云ふ事を主張された方がありました。

其他、以上申上げた事項の何れにも、該當致しませぬ事項で、御意見の發表のありました方は、都市研究學校と云ふものを設立する必要があるはしないか、日本の通弊は、動もすれば應用の先に走つて、根本的な、基礎的な理論の研究は、動もすれば忽緒にせられて居る。都市問題の研究に付ても同様であつて、是が爲には、東京、大阪と云ふやうな所に、都市研究學校の設立を希望すると云ふ御意見を御述べになりました。

其他、今日御意見の發表になりました十六名の方々から、何れも洵に参考とすべき有益なる御意見の發表があつたのでございますが、要約致しまして、甚だ短い時間の間で、十分なる御報告を申上ぐる事が出来ないのを遺憾と致しますが、大體第一部會に於ける討議の結果を御報告申し上げます。

三 第二部會討議の経過報告

中 川 吉 造 君

第二部會は午前九時より開會致しまして、出席された方が百六十名。其中で、御意見發表御報告の方の数は十九名でありました。右十九名の方の御意見は、之を分類致しますると、街路構造に關するものが七件、交通取締に關するものが十件、其他のものが二件であつたのであります。

此十九名の御意見御發表、御報告は何れも皆有益の御意見でありましたのでありますが、其中に次のやうな御意見もあつたのであります。それは、一、自動車運轉手の體格検査に際しまして色盲の検査をすること、斯う云ふ御意見の發表がありました。二、都市に交通警察權を與へること、斯う云ふ御意見もあります。三、婦人の交通整理員を採用すること。四、市街電車に街路交通上の優先通行權を與ふること。五、自動車駐車を設置すること。六、交通事故審判所を設置すること。七、踏切の標識を全國的に統一すること。斯う云ふ御意見の發表もございました。

本日、御意見發表なり或は御報告になりました事、及び街路交通の統制に付て一般討議を御願ひする等ございましたが、時間がございませぬ爲に、十分それ等に付て御意見を承ることが出来なかつた事は甚だ遺憾であります。それは昨日話のあつた通りに明後日伺ふことに致しまして、さうして第二部會は午前十一時四十分を終了致しました。

極く簡単であります。是で第二部會の報告を終ります。

四 第三部會討議の經過報告

堀 切 善 次 郎 君

第三部會は、午前九時に始まりまして、約二百人の出席を致されまして、多數の方より發言がありまして討議が行はれたのでありますが、此受益者負擔制度の根本に付きましては、何れの方も皆悉く之を是認をされまして、唯是が圓滑なる施行に付て、それ／＼色々な御意見があつた次第なのであります。

此制度の根本の點に付きましては、京都帝國大學教授の汐見氏の御意見と致しましては、事業に因る受益と云ふものは、土地の價格が騰がる、臨時的に財産が殖へる點と、其土地が色々利用されて家賃又は地代が上がる、云ふ經常的に所得の上がる點と、兩方面から研究考察する必要がある。土地の價格が騰がると云ふ點に付ては、受益者負擔の制度、或は土地増價税の問題として解決することが必要であるが、經常的に所得が殖へる點に付ては、現在の地價に依つて地租の附加税として之を徴收して行くことは、現在の地價の立て方が不公平であるから之を是正して行く必要がある。要するに受益者負擔制度は結構であるが、之を完全にすることが必要であると同時に、土地増價税、或は地租に對する課税物件の改正等、全體を總合して臨時的にも、經常的にも、兩者に付て研究して行く必要があると云ふ有益な御意見の御發表があつたのであります。

尙ほ續いて、之に類似致しました說で、東京府杉並町會議員の淺川君の御意見と致しまして、受益者負擔の制度は洵に適當である。尙ほ町村の財源として土地増價税と云ふやうなものも欲しいものであると云ふことを、杉並町の従前と只今の土地の價格の比較、地租附加税の收入の金額等、具體的の數字に就て之を主張せられたので

あります。

次に受益者負擔制度に付きまして、色々論議の行はれました點は、主として都市計畫事業に基く受益者負擔であつたのであります。大阪市主事の岡崎君は、此受益者負擔の制度に付きまして、各種の方面より多年の經驗に基かれたる貴重なる報告書を既に提出せられたのであります。他の點を省略されまして唯一つ討議の際に述べられましたことは、此制度は手續が少し暇が掛かるから、出来る丈け之を簡易にしたい、地方で申請すると市町村會の意見を聴き、或は都市計畫委員會の意見を聴き、内務大臣之を定めると云ふことは甚だ時機を失する恐れも多いから、之を市長なり、地方の方に一任せられたいと云ふ御意見の發表があつたのであります。此頃許可認可事項の整理もされ、行政の單純化と云ふこともされて居りますから、此制度に付ても各地方に於て既に運用に慣れて居ることでもありますので、此際只今のやうな御意見も頗る至當なことと考へたのであります。

大阪市土木部長島君の御主張の點は、更に此制度を現行法の範圍を擴張して、橋梁、公園の事業に對しても負擔金の制度を採用することにした。此點に付て橋梁は其受益の區域を橋の兩端を半徑にした範圍内にして負擔金を課する、公園も半徑にした範圍内に課する、其課する方法を考へられて、之を是非賦課するやうにしたいと主張されたのであります。

それから、大阪の市會議員八木君の主張されました事柄の中、私設鐵道の用地にも負擔金を課すべきものである、私設鐵道用地は只今の所受益者負擔金は課せられないのであります。然るに八木君の述べられました實例に依りますと、大阪市に在る私設鐵道の停車場がビルディングになつて色々用向を爲して居るから、之に對して負

擔金を課すべきものであると主張されたのであります。唯鐵道に使はれるのみでなく、ビルディングとして百貨店に使はれ、或は鐵道省の東京ステーションがホテルに使はれ、雜貨店に使はれて居る、其範圍内に於て受益者負擔金を課すると云ふことは、當然のやうに考へらるゝのであります。

又之と類似致しまして、神田區長の白鳥君の主張されました御意見は、私立學校に對しては是も公課を免ずることになつて居りますが、之に對して矢張近來の傾向に依りますと土地が立體的に利用され、學校の建物の或る階は物を賣る店に利用される、或は出版に利用されると云ふやうな場合に於ては、之に對して受益者負擔金を免ずる理由はない、寧ろ之を徵收する理由があると主張されたのであります。

之と同じやうな問題に付きまして、東京都市計畫委員會の西村君の述べられた中に、新開地荒地免租中の土地は、現行法の下に於ても之を有租地と解釋すべしと主張されたのであります。

尙ほ其他の問題に付きましては大阪市會議員八木君の述べられました中に、受益者負擔金を物上負擔に改正するやうにしたいと云ふことを主張されたのであります。此等の點に付きましては外の都市の例にあります如く、或は受益者負擔金を十四分して賦課すると云ふやうな例を御參酌になりますれば、餘程御參考になると考へたのであります。

尙ほ名古屋市役所の須藤君の御意見と致しまして、寧ろ事業着手の日と云ふやうな物上負擔としないで、初めの人に課する方がよいではないかと云ふやうな、質問的の御意見の發表がありました。それから東京都市計畫委員會の西村君の發表されました御意見として、受益者負擔の義務者に付きましては、只今の所は所有者か或は其

土地の上に權利を有する他の權利者か、どちらか一つに對して課する制度になつて居るのが多いのであります。之をさうでなく所有者と賃借人なら賃借人と兩方に對して課するやうにするがよい、さうしてそれを課する割合は、賃借權を六、所有權を四の割合として、それに依るがよいと云ふ御意見を主張されました。それから受益の程度の量定に付きまして、何か評價の機關を設けて協定を爲すならば、最も公平に往くであらうと云ふことを主張されました。それから受益者負擔金を、一定の金額を初めに課して、それを何箇年間に分納することを許可する制度と、最初から總金額を十四分なり何分なりか致しまして、それを其時々の權利者に賦課するやうに、分割賦課主義と西村君が名付けられました此主義との比較のお話がありました。

それから仙臺市長の澁谷君の御意見として、受益者負擔に付ては負擔區の組合を作らせて、其組合員に對して低利資金の融通をするやうにしたいと云ふことを申述べられました。次に秋田縣屬の大野君の御意見と致しまして、昨日私が申上げました點に付て、都市計畫法の行政廳——受益者負擔金を徵收するものは行政廳であるといふことを申上げましたが、是は行政廳とあつても公共團體を指すものと解釋が出来るではないかと云ふ、解釋上の御意見があつたのであります。一應御尤もの御意見でありまして、今日の都市計畫法、道路法は都市計畫事業、都市の事業に付て、それは國の事業であると云ふ建前を採つて居ります。而も費用は公共團體に負擔させると云ふ常識上吾々が變に考へるやうな建前になつて居るのであります。現行法に對する解釋としては、昨日申上げたやうなことになつて居る次第であります。

それから大阪市會議員の油納君は、受益者負擔と云ふ制度に付ても、取る方のみ考へずに、取られる方に付て

も考へて欲しい、今日色々の方面に付て國稅、地方稅の輕減も叫ばれて居ることであるから、受益者負擔に付ても適當に考慮ありたいと云ふ御意見であつたのであります。尙ほ實例を色々挙げられて御主張になつたのであります。

それから昨日總會の席上に於きまして、河北君が、受益者負擔制度に關して、色々の點に付て新提案を試みられたのであります。其新提案に對しての討議があつたのであります。其第一は、東京市收納課負擔金係長の畠山君の御意見でありまして、河北君の主張せられましたやり方に付ては、可なり困難が伴ひはしないだらうか。第一土地の價格を、事業をやる前と後との評價をすると云ふ事は、是はなか／＼容易な事ではあるまい。それから土地の評價をすると云ふことに付て、一定の方式を定めて、どれだけの土地の値上りがあるかと云ふことを評價する事は極めて困難である。殊に、同じやうな状態にある下町の方の區劃整理の狀況を採つて、山の手の方々の方の色々の事情の違ふ土地に對して、之をやつて行くと云ふ事は、果して出来るかどうか疑はしいと云ふやうな理由から致しまして、此やり方は難かしくはないかと云ふ事を討議されたのであります。之に對して東京市の土木局の庶務課長鈴木榮一郎君は、是等の點に付きまして討議される筈であつたのであります。公務の爲に遅れて参られました、部會に於きましては發言されなかつたのであります。遅れて御出でになつた後で聽いて見ますと、鈴木君の御意見として發表されんとした所は、昨日河北君の發表されました基本路幅の八米と云ふのは、是は寧ろ六米とするのが復興計畫として東京横濱に於て行はれた實情から却て穩當ではないか、それから、負擔金の總額を如何に定めるかと云ふ點に付ては、河北君の方法に依つて、工事をやる前と、工事をやつた後との全體の評價をする

此評價をすると云ふ事は、前に申した畠山君とは意見を異にして、さう困難とはして居られないのであります。さうすれば幾ら價格が騰つたと云ふ事の算定が出来るのでありますから、其騰つた價格、即ち受益の何割かを受益者負擔金として徴收することが最も穩當であらうと云ふ説を述べられむしたのであります。

部會に於きまして色々行はれました討議は、今極く大要を申上げたやうな状態でありまして、何れも皆、それ／＼御經驗を基とせられて、實際に當つて色々な知識を御持ちになつた方々から、極めて熱心に御主張になつたのであります。是等を拜聴致しましても、何れも皆御尤もであると考へた次第であります。

第四篇 會議追錄

第一 第二回全國都市問題會議參加有志懇談會

一 序 說

會議第一日及第二日の兩總會に於て豫告せられたところに基き、十月九日（木曜）午前九時市政會館第三階に於て會議參加有志懇談會の名の下に自由討論の會合を催した。即ちその主旨とするところは、（一）曩の會議中討論漏の參會者の新たなる演述（二）討論に参加したるも時間の制限上十分に表明し得ざりし諸氏の意見の補充（三）主報告及び討論に對する論評その他自由なる各種の討論の爲めに目論見しものである。參加者八十八名。閉會午後五時四十分。

二 自由討論

座長（池田安君） 今日では次のやうな順序で御話を願ひたいと思ひます。

一、會議中討論漏の方の發言

二、討論に参加せられたるも時間の制限ありし爲め十分に意見を表明し得ざりし方の補充

三、主報告其他一切の討論（今日の發言を含む）に對する論評

四、今回の會議の一切の行動に對する批判

五、將來の都市問題會議に對する希望事項其他

第一 第二回全國都市問題會議參加有志懇談會

それで如何なる御話がありましたも差支ありません。攻撃頗る結構であります。又何か行政官廳の措置だとか云ふやうなものに對して不都合なりと御思ひになる事があれば、それを御指摘になるも結構であります。又法の改正を御懸念になることも之も結構であります。其他色々の點に付きまして、餘り會議を離れてはどうかと思ひますけれども、會議の議題に關係する限りは、何を御話になつても差支はありませんのでありますから、どうぞ十分に御話を願ひます。何とか……言ひたいものを言はずに居るのは腹ふくるゝわざ、と云ふことがあります、其通りであらうと思ひますから、今日折角此會に御出席になつて言はう

と思つたがツイ言はなかつたと云ふやうな事の無いやうに、一切金財御出しを願ひたい。従つて今日は、別に時間の制限も何も致しませぬが、併し大分御發言の御希望の方がいらつしやるやうでありますから、其御積りで自分一人の獨壇場として御占領にならないやうに、仰しやりたいと思ふ事だけを十分に盡して戴きたいと思ひます。

是だけ申上げて只今の順序に従ひまして御發言を願ひたいと思ひます。御話し下さいます方は御起立下さつて、御自身の御名前を仰しやつて戴きたい。二人同時に御立ちになつても困りますから、それでどなたと申上げました方から順次御發言を願ひたいと思ひます。

藤原保次郎君(岡山市會議員) 元來受益者負擔といふ制度は道路法第三十九條と都市計畫法第六條の第二項とから生じて居るのであつて、其の孰れもが受益者負擔金は利益を受ける限度に於て之を賦課せられることになつて居るのであります。随つて是等事業を遂行せられる爲に毫も利益を受けない者、尙進んで損害を被るに至つたものゝ如きに對しては、當然受益者として負擔金を賦課せらるべき性質のものでないと思ふに、拘らず實際是等の者に對して減免の措置を執つて居られざるものがあるのを遺憾と致すのであります。

其の實例としては、左の二つを擧げて御研究に資したいと思ふ。

じます。第一は舊道路に並行して道路を新設したる場合の負擔區域であります。是が代表的規定とも言ふべきものは神戸市にあります、それを申しますれば斯ういふやうな同等以上と認めらるべき並行道路が道路の境界線から興行四十間以内にある時は、兩方の道路間の中央を負擔區域とするといふことになつて居ります、併しながら舊道路が新設道路に比べて同等以上の効用を有するといふものが四十間以内存在するといふことが、果して有り得べき事であるかどうか、私は疑ひ無きを得ないのであります、若し現在の狀況を以て進んで行つたならば、新設道路の並行線たるものの國縣道を乗り越えて迄、受益者負擔金を課せられる事になるのを慮れるのであります。而して舊來の國縣道に面して居つたものは、新設道路の爲に一面には土地の利用價值を減却して損害を被つて居る所も、他面には受益者負擔として負擔金を課せられるといふことは、全く二重の憂目を見ることとなるのであります、洵に不合理千萬であると思ふのであります、故に私は須らく是等の缺陷を補ふ爲に、神戸市の効用同等以上と認めるといふ規定の外に、並行道路に國縣道ある場合も又之を加ふる如くせられることが適當ではないかと存するのであります。

第二には或る事業遂行の爲に生ずる三角又は彎曲等の不整形殘地に對する受益者負擔金であります、此の問題に對しまして

は、汐見氏は地帶收用又は超過收用等の方法を併用して其の効果を擧げることを得策とする御意見のやうであります。又河北氏は土地區劃整理方法を適用して此の問題を解決せんとせられて居る御意見であるやうに拜聴致して居りますが、是は孰れも根本的解決法としては最も適切な御意見であると存じますけれども、現在に於ける法令の範圍内に於て、將又市街地に於ける統制上、果して直に實行し得るか否やといふことは甚だ疑ひ無きを得ないのであります。故に私は當面の問題としては先づ不整形殘存地に對しては受益者負擔金を適度に減免するの途を圖る必要があるのではないかと存するのであります。即ち不整形殘存地は殆ど著しく其の利用價值を減却して居るにも拘はらず、受益者負擔金は其の道路面に接する部分が從來より長くなる爲に、それだけ多くの負擔金を賦課せられる事になるのであるります。詰り三角形の土地で言ひますれば、道路に面する所が從來の面よりも長くなるのである。又彎曲したるものも同様の有様であつて、洵に是は不合理であると思ひます。随つて是等に對しては大きなもの、小さいものに就きまして相當な考慮を拂はねばならぬのは當然であります。けれども先づ興行何間位といふやうなものを區劃して、或は個人の所有地の大きさといふやうなものを參照して、詰り其の後の境界線に並行する限度までは受益者負擔金を免除するといふことが適當ではないかと思

ふのであります。どうか皆様の御研究に依つて私の足りない所があつたならばお教へを願ひたいと思ひます。

淺川保平君(東京府杉並町會議員) 私の申上げたいと思ふ事は受益者負擔金に勿論關係もして居りますし、それから郡部の統制、道路交通の統制といふことにも關係を致しますが、要するに今回の議題は個々の問題の如くでありますけれども、其の内實は皆關聯して居る、其の何れにも關聯するところの根本問題であらうと私は考へて居る。甚だ未熟な考であります、皆様の御研究を願ひ、教へを乞ひたいと思ふのであります。

それは都市といふものは都市單獨に發展すべきものでない。如何に吾々が都市の經營を叫んで見ても、其の國力が弱つて來たり、國の經濟の關係に依つては都市の形が變り、内容の設備が變つて來なければならぬ。常に國力といふものを吾々は慎重に考察して都市の經營に向つて行かなければならぬ。同時に又法制の關係も考へなければならぬといふのは、郡部の統制とか或は受益者負擔金の事を如何に吾々が研究しても、政府が之を許可するだけに頭腦が出来て居らなければ何にもならない。例へば今日の如く地方自治權が殆ど制限せられて居つて、名のみ地方自治と言つて、事實は日本に地方自治權が有るか無いか判らぬといふ狀態であるならば、吾々は先日來討議したところの郡部の統制とか、或は受益者負擔金といふ問題を議すると同時に

に自治權の擴張といふこと迄も譲さなければならぬ。

私は都會といふものは斯ういふ風に考へて居る、詰り都會の發展の形式は其の國の經濟力の如何に依り、其の國の法制の如何に依つて發展の形式は異なるものである、諺くは申しませぬが、例へば徳川の封建制度の時代に於ける江戸といふ所であるとするならば、是は大名武士が農民から取つたところの其の租税の形に依つて都會に於て消費される。徳川時代の江戸の繁昌といふものは要するに租税の消費地である、其の形で繁榮したのである。所が明治以後の我が東京の繁榮といふものは、租税の形に依るところの所謂政治的都市としての發展も相當にあるであらうが、主として近代工業に依るところの工業的都市としての發展が大なるものである、其の工業都市としての發展は何處に在るかと言へば、即ち地方の農民が維新後封建武士の壓迫を運れた爲に、農民の繁榮を來し、其の繁榮が交換經濟に依つて都會に工業が起り、其の結果明治以後の東京が發展したと私は思ふ、のみならず海外發展といふこと、殊に後進國の支那、印度南洋邊りに對しての日本の經濟の發展といふことが、日本の國力を強めると同時に東京の繁榮を來したものであると思ふのである。言ひ換へれば今日までの日本の國力の發展は、昨年の夏東京市の發表があつた四百九十萬といふ大東京の人口は、維新以後經濟の發展、其の他政治的の力もありませうが、其の發展

力が四百九十萬の人口を賄ひ得るに至つたのである。大阪に於ても其の通り、名古屋が百萬を突破したといふことも其の通りである。斯ういふ現象が起つて始めて大都會といふものが茲に現出したのである。

然らば其の根本原因が今日はどうなつたかといふことを一つ考察しなければならぬと思ふ。是は平生ならば申上げる必要はないが、日本の今日の經濟といふものは殆ど急轉直下して居る黒い物から白い物に移つたといふやうな非常な國勢の上に於ける大變化があつたといふことを私共は見なければならぬと思ふ。それはどういふ事であるか、皆様も既に御承知のことであるから詳々しく申上げる必要もないと思ひますが、極く概略的に申上げますれば、先づ私は過去の發展の原因を箇條書にして申上げて見たいと思ひます。日本の過去の、大都會の繁榮した主なる原因は、第一に過去の工業が主に石炭を動力とした、それ故に比較的交通至便なる都會に起つた、詰り石炭に依る工業は集中工業であつた便利な所に人間を集める、斯ういふ仕組の工業動力である故に都會が繁昌したといふこと。第二は今日までの日本の文明は歐羅巴模倣の文明である、模倣文明の時にはどうしても官僚といふ優秀な人が全國の文明を統一する必要がある、そこで中央集權の必要が起つて都會に文化の中心が形成されたのであつて、大層も出来れば總ての工場が出来る、或は政

府に關係した色々のものが出来る、一切の文明が都會に起つた、それが東京なり若くは大阪なり大都會の繁榮を致した一つの原因である。第三は封建制度の土地經濟でなくして、交換經濟、詰り物を買つたり賣つたりするところの經濟となるが故に、其の交換經濟の綫に依つて富が都會に集中せられた、第四は政府の都會中心政策に依つて、保險金或は郵便貯金等の資金が所謂經濟的の脈管を通じて都會に持つて來られて、多く都會の政策に使はれて居つた、即ち都會を繁榮せしめることが日本を繁榮せしめる所以であるやうにも一時思つた爲に、大都會といふものが非常に膨脹を爲した。是が今日迄の經濟が日本を盛んならしめたことであり、其都會政策と云ふことが、是が大都會を容した一つの原因である。所が其後の發展原因が若し止まつたとすれば、東京の繁榮と云ふものや大阪の繁榮と云ふものは此處で考へなければならぬ時である。

私共は日本の國力が、大分今日に至つて以前とは形勢が變つて來たと思ふ。世界が變つて來たから日本も變り日本も變つて來たから都會も變ると云ふやうなことであらうと思ふ。御承知の如く現在我國の國情と云ふものは、國民の五十二%を占めて居る農民と云ふものは極度こ疲弊して居る。譬へば農民と云ふものは海のやうなものである。さうして都會は其海に浮んで居る船のやうなものである。船が海のことを考へずに、船の設備

の事ばかり考へても進航することの出来るものではない。結局國民の經濟力に依つて此都會が立つて居るのであるから、國民の經濟力を考へて總ての計畫をしなければならぬ。斯う私共は思ふのでありますが、今日日本の状態を見ますと、農民は五十億の負債を背負つて居る。帝國議會と云ふやうな殆ど保守的地主方の御寄合の會ですらも納税延期と云ふことを唱へて居る。函の値下りが四億圓、米の値下りが九億圓、其他の政府の色々の政策の關係や何かで五六億圓、結局十七八億と云ふものは、本年あたりは農民の購買力が減つて居ると云ふ事が都會に影響するのである。さう云ふ關係から、名古屋の方の御話でありましたが、受益者負擔ではなくて受損者負擔になつて居ると云ふやうな話もありました。

それで私は之を箇條書きにして、日本の經濟が何故衰微したかと云ふ事を申上げて皆様の御教を願ひたいと思ふ。

今迄の模倣文明では最早世界の優秀國と對抗は出来ない。模倣ではいけない、日本自らの文明を創始しなければ歐羅巴の驕譯ではいけない。日本の國力經濟に適した文明を造らなければいかぬ。今迄のやうな模倣では日本は到底對抗することは出来ない。所が悲しい事には、日本は御承知の如き國であるから、國の資源が乏しい。石炭とか鐵とか銅とか石油とか、兎に角國家に重要な資源と云ふものは、經濟的にもう發掘する能力を

失つて居る。出るけれども歐米の如く経済的にやることは出来ない。第三は、是はよく近代の若い経済學者あたりから聞くことでありまして、尤もと思ひますが、日本の資本経済の經營が行直つて、其結果不勞所得の過大となり——之に付ては先日一例を申上げて置きましたが、是が過大となつて我が産業全體が非常に壓迫を蒙つて居る。是は新聞等で御承知の事と存する。第四は産業の經營が非常に悪くなつた。之も新聞紙で皆様が御承知のことであつて、近時産業合理化と云ふ問題が世間に非常にやかましくなつて居るのは是であると思ふ。第五は後進國の産業の發達。近來支那南洋邊りで産業を起してやつて居る。又其他の國に於ても發展をして來て、それで日本の商品を買はなくなつて來た、斯う云ふ事も原因であると思ふ。最近の殆ど是が直接とも謂はるべき原因として、世界的不況が深刻になつて各國が目給自足の政策を執り、外に向つては關稅の障壁を設ける。斯う云ふ狀況になつて居ります。是が日本の國の經濟への壓迫。第七が金融所得、地代等の不勞所得に依る。是は都會の人は非常に考へなければならぬことである。都市の經營の出來ないのは皆此不勞所得と云ふものが出て來る。之を半面から言へば受益者負擔金と云ふやうな難問題にもなりますが、もつと根本的に言へば、土地自然増價税と云ふやうな事が出來なかつた。さう云ふ事の國民に對する壓迫が、是が非常なものである。

と思ふ。第八は勢力との關係で日本の國に大規模の産業が起らなかつた。是等の壓迫があつて、以上の原因で特に日本全體の産業が壓迫された。殊に農村の疲弊は非常なものである。農村の經濟は一國の經濟の動脈とも言つて宜い位國家として大事なものである。勿論都會も大事であるけれども、都會を支へるものが農村であるならば、非常に大事なものである。それ故に、此國の發展が止まつて來れば、其國の發展力に依つて支へられて居る所の都會の發展も亦變つて來なければならぬ。日本の今日は重大なる變化を喚び起すべき時が來て居りはしないかと私共は思つて居ります。此の重大なる經濟的事實を除外した所の都市經營論は、詰り海を考へずして船の事のみを論ずるやうなものである。私は先程一寸斯う云ふ事を考へた。恰も日本の佛教と云ふものは政權と共に發達した。奈良朝の時に政府の力に依つて發達した佛教が、朝廷が京都に移つた時に、茲に平安朝の文明の下に佛教が興つた。鎌倉に政權が移つた時には京都の佛教が衰へて鎌倉に佛教が興つたと云ふ風に、政權と共に佛教が興るが如くに、經濟界と共に都市は繁榮する。今日は此日本の經濟の根本的形を變へる時である故に、皆様に考慮を願ひ、教を願ひたい。それで、今後日本の經濟界は斯う云ふ風になるのではないかと、墮つて都市は斯う云ふ風に變遷するのではないかと思ふ事を申し上げたい。

今迄は都會を中心としたことであつたが、今後は都會を中心とするよりは地方分權主義でなければ日本の經濟は持てないと思ふ。農村の繁榮策を執らなければならぬ。さう云ふ農村繁榮の政策を執る政府でなければ存在の價値が無いと云ふことになつて來るのではないか。それから今後は、大規模の産業組合、消費組合が發達すると思ふ。過去の商工業者の交換經濟の原則で、都會に富が集中して居つたが、今後は消費組合、産業組合の發達に依つて、都會の富が農村に向つて行く、隨つてそれが都會に向つての影響を及ぼす點を考へなければならぬ。今日迄日本の農村の振はぬ原因は、冬期の勞力を活用する事が出來ないと云ふ事に可なり重大なる原因があるから、日本國民として、此冬期の農村の勞力を如何にして活用するかと云ふ事が、國家全體としての問題であると思ふ。今日迄は石炭を主として工業動力と致して居りましたが、今後は石炭で無くして電力が動力となり得る時代になつて居る。石炭は集中的であるが、電力は隨時隨處に工業を起すことが出来る。此電力を工業の動力と致すことが出来れば、詰り地方に重要な大工業を起して、農民の安い勞力を産業の方面に活用することが出来る。斯うなことでなければ、農村も榮えなければ、日本の國の海外發展も、國民の經濟の立て直しも出來ないのではないかと私は考へる。どうしても農村の冬期の勞力を日本の經濟に實用化するやうに

しなければいけないと思ふのであります。

第五は、交通機關の發達の關係上、都市文化の設備、例へば大學とか其他圖書館と云ふやうな色々なものを、現在の如く大都市のみ集めるのでなくして、近來は可なり地方に散在して居りますけれども、もつと之を徹底的に地方に分散する必要があります。起つて來るのではなからうか。それから郵便貯金、簡易保險、其他大衆的の資金と云ふものは今日迄は中央に集められて居る。例へば東京に地震があつたと云ふと、巨額の金が東京の府下に使はれて居る。さう云ふやうな關係を、今後は都會中心でなく、地方にも及ぼす。地方に之を及ぼさなければ即ち我が地方の經濟が成立たない。地方が成立たなければ都會も成立たない。

斯う云ふやうな一大變動が將來起つて來るのではなからうかと思ふのでありまして、是等の點を考慮致して、そこで都市の統制と云ふやうな事も御研究願ひたい。受益者負擔と云ふやうな事も御研究を願ひたい。一切の文化設備も御研究を願ひたい。斯う思ふのでありまして、是が大體私の申上げた事でありまして、尙ほ茲に、稍々結論的に一言申上げたいと思ふのは、都市の事は將來さう云ふ風になると私は思ひますが、どうなるか皆様の御研究を俟つ次第であります。都市としては自ら日本の經濟のそれに依つてやるとしても、どう云ふ事が主要の論點

になるかと云ふならば、地方分權と云ふ言葉の中にある如く、都市自ら其權力をもう少し取らなければならぬ。官僚政治の時代はそれで宜かつたが、今日相當國民の力が出来て来た。東京なり大阪の如き大都會、他の六大都市の如きは特權を多少持つて居るが、もつと權力を得るやうにならなければ私はいかぬと思ふ。私は杉並町會議員をして居りますが、何等の權力が無いと言つても宜い。自治の權と言つても寧ろ義務であつて、豫算に關する事に付ては吾々は發案權も無い。建議案を出しても是は當局者の勝手次第で、受けても宜し受けても宜しと云ふやうな有様であります。

昨年から普通の提案權は吾々に出来たが、斯ういふ慘目な自治制の下に選ばれた市町村長といふものは、全く政府の命令に依つて動かなければならぬやうな仕組である、本當の自治的の制度ではない、小さな都市も大きな都市も、一片の舊い市町村制に依つて動かされて居る、東京のやうな何百萬の人口を有する都市と、僅に三萬か四萬の人口しかない都會とは全然異つて居る、そこで私共の考へますには、全國地方々々に依つて事情が異なりますから、其の地方々々に依つて適する相當な法制の下に動き得るやうな權力を得なければならぬと思ふのであります。

それからモウ一つは、日本の經濟がモウ行詰つて殆んど發展

力無しといふ時に當りましたが故に、この間も畑切前市長さんや京都大學の汐見さんからお話になりましたが、土地自然増價税——受益者負擔といふよりも、此の土地増價税といふものに重きを置いたらどうかと思ふ。若し過去に於ける土地の自然増價に對して適つて課税することが出来れば尙更妙であらうと思ひますが、果してさういふ事が出来るものかどうか、御考究を願ひたいと思ふ、今後は東京の繁榮或は大阪の繁榮といふことは、自然日本の經濟事情から降り坂を餘儀なくされる、故に今後は非常な土地の自然増價といふことはありますまい、寧ろ土地は下る、現に今日地代も下つて居る、自然に土地も下つて居る、けれども若し過去に遡ることが出来れば大變なものだと思ふ。鐵道が出来た迄は二圓ぐらゐの所が今日百五十圓といふやうな價になつて居る、其の他に一坪に就て一圓位の所が二十圓、三十圓といふやうな値が出て居る、之を過去に遡つて税金を取るといふことは重大な議論があらうけれども、是等も一つ考究を願ひたい事である。受益者負擔金ののみであつては將來都市經營者として殆ど困難であらうと考へます。只今のお話の中にも受益者負擔が過酷であるといふやうな事がありましたか、斯ういふやうに日本の都市全體が繁榮しない時には、少し位の事業をして受益にならぬ、そこで土地の自然増價税といふことが寧ろ重要な根本的な問題ではなからうかと思ふのであります。

岸本總太郎君(大阪市電氣局運輸部長) 私の間はんとする第一の問題は街路の地下道の設定に關して、報償金を徴収することこの現行法律上の根據有りや否や、若し無しとせば之を徴収する合理的方法奈何といふ問題であります。一昨日の問題にも出て居りましたが、將來地下道といふものは横斷道路のみならず、並行的の街路の地下道といふやうなものが、或は地方鐵道、軌道の市内乗入れ、其の他に關して設定する必要が將來起つて来る問題だらうと思ふ。斯る場合に道路管理者として、殊に其の道路を築造したものが市の自治體であるといふ關係もあつて、將來斯るものは、幅員を廣くすることは困難でありますから、地上地下に及んで或は車を下を通す、人は上を通すといふやうな工合に、街路といふものは上下に將來進んで来るものではないかと思ふ。然らば之を築造した都市に於て他日の交通混雜の需要に應ずる爲に、所謂交通の餘地を存するものとして、街路を平面に拵へると同じやうに、立體的に廣路を拵へる意味に於て地下を取つて置く必要がありはしないか、必ずさういふ事が出来るだらうと思ふ。それを若し現行法の下に何等の報償を要求することが出来ぬとしたらば、無償にて之を他の個人或は地方鐵道軌道といふやうなものに許すべきものであるかどうかといふことは、重大なる考慮を要することではないかと思ふのであります。又一面に於ては街路交通に對して重要

な職分を務めて居るところの路面電車を市が經營して居る關係から考へて見ても、地上地下に左様に他の經營主體を異にしたものが交通機關として敷かれるといふやうな事であるならば、路面電車の企業存在を危うするといふことも考へられる、そこで市が市營交通機關たる路面電車の利益を保全する上に於ても亦考へて見なければならぬのではないか、今日左様な考へからかも知れませぬが、或は市内乗入といふやうなことに就ては、何か密附でもさせて乗入れを許して居るやうな現状の所もあります、併し是は表面に現はれない事で、たゞ往復文書を以て密附させる、或は都市計畫に百五十萬圓を密附して、大都市の目抜の所に乗入れるといふやうなことで、一種の道德的と言ひますか、私契約の上に於ては構成は出来ませぬけれども、公けの上には何等認められないやうな事を今日やつて居るやうな事情である、私は斯様な實例から考へて見ても、又將來市營の電車の利益を保護する上から考へて見ても、又將來地上地下に於ける立體的に進むべき交通の混雜といふものを緩和する上に於ても、殊に地下に於ける地下道の設定に就ては相當の莫加金と言ふか、報償金を徴収すべき合理的方法を考へべきものではなからうかと思ふ、是が私の疑點の一つであります。

次に第一としては、道路損傷負擔金は道路法に依つて管理者が特に道路に損傷を與へたる者に課するといふことになつて居

ります。實際又それに依つて徴収して居る實例は府縣殊に我が大阪市に於ても最近にやり掛けて居るのでありますが、一面に於て軌道法に依つて、軌道業者は軌道の敷地内の通路の維持修繕に就ての責任を持つて居ります。詰り例へば道路管理者であるところの市が、特に道路を損傷するところの乗合自動車其の他のものから負擔金を取る場合に於きまして、其の根據となるべきところの路面の面積といふものは、軌道敷を除いたものでなければならぬ。隨て街路に軌道を設定して居るものに於ては、軌道敷を除いた面積に對する、道路損傷負擔金を取つて居るのであります。併しながら今日の實情はどうでありますか、乗合自動車及びトラック等は殆ど十中八九まで軌道の上を走つて居る、さうして軌道業者は軌道法に依つて維持修繕の責任を持つて居る、其の結果はどうなつて來るでせうか、軌道業者はだん／＼軌道の經濟が苦しいものでありますから、軌道の維持修繕を疎かにするといふことになるのであります。さうして又屢々事故の多くが軌道の上で、敷石を剝返したりして起るのであります。是は現行法の下に於ては軌道法が嚴然とあり、道路法が嚴然とある限りは、恐く軌道の面積を加へたる道路損傷負擔金を、特に道路を損傷する乗合自動車其の他に課することは出來ないだらうと思ふが、何か一つの便法を拵へるか、或は軌道法の改正をすれば譯はないのでありますが、軌道法の改正が出來

る迄、或は解釋法とか何かの便法で、それを面積の中に入れて特に道路を損傷するところの負擔金の中、軌道の敷地の部分は軌道業者に與へるといふことにして、軌道業者をして完全に軌道の上を維持修繕せしめる必要があるのではないか、少くとも今日の實情は私はさうしなければならぬと思ふのであります。法制の上には是は出來ないだらうと思ひますが、茲に何か一つの解釋法、其の他便法があれば承りたいと思ふのであります。それが無ければ法制の改正に向つて進んで行つたらどうかと考へます。

第三點は乗合自動車の許可に關する件であります。乗合自動車の許可に關しましては東京では警視廳、他の所では府縣で許可するのであります。其の時に軌道を敷設するが爲に街路の全部、又は大部分を或る業者が擴張して居るのであるものであります。例へば軌道は敷いて宜しい。但し道路費の全部を負擔しろ、といふやうな意味に於て、舊い時代、又今日に於ても、軌道敷地の上の費用は無論の事、擴張したところの全部の道路費の負擔を命じて新しく拵へた例があるのであります。斯ういふやうなものに對しては既存の乗合自動車有る無しに拘らず、其の業者に優先して乗合自動車事業を許可するやうな内規を、一般的に拵へて貰ふべきものではなからうかと思ふのであります。例へば市營の電車等に於て、大きな廣路を何千萬圓といふ

金を擲つて、國道は無論の事、大阪で言ふと堺筋、南北線或は築港線といふやうなものを拵へて居るのであります。さういふものを拵へた時には、無論乗合自動車といふやうなことは考に置かなかつたのでありますが、倅て出來て見て、其處へ他の乗合自動車勝手に通つて居つて、其の道路の費用を全部負擔した市の乗合自動車を通れないといふことは、縱ひ今日一路線一營業といふ主義を監督官廳が執られて居つても、從來の事を考へるとどうしてもそれは許して貰はなければならぬやうに考へるのであります。是等の事は大阪のみならず各都市に於て矢張當局者それ自身に於ても、或は軌道業者に於てもあるだらうと思ひます。

それからもう一つは、都市計畫街路に於て、其處に軌道を敷設する場合に於て、御承知の如く、軌道敷だけは、若し市がやるならば市が負擔して居る。さうして軌道は未だ敷設しないけれども兎に角街路は出來てしまつたと云ふやうな所へ、民間の自動車を許されると云ふことになる、甚だ自治體としては困る。でありますから、都市計畫街路の費用、軌道の費用と云ふものを市が大體負擔して居れば、其市に排他的に許可されるべきものではないか。第二に、軌道敷を負擔しない所でも、市が公共の租税其他に於て負擔して居るものは、少なくとも第一次的に市へ許されるべきものではなからうかと思ふ。是等は

私として見れば明かな事ではありますが、幸ひ斯う云ふやうな所に御出席の方の御意見を承りまして、斯ういふ事が至當であるとしたならば、何かの手段を執つて戴きましたならばどうかと思ひます。

黒川一治君(東京市都市計畫課長) 現在の都市計畫法は非常に力が弱い。斯う云ふやうな法律では本當に計畫的の仕事は出來ないと云ふやうな御意見がありました。又反對に都市計畫法は非常に官儀的であつて、費用を負擔する自治團體が知らぬ間に澤山の金の掛るやうな事業を決定する。或は又道路を計畫しまして、それに依つて建築線が定まつて、それに依つて色々の權利の制限が行はれるが、地方の財政の事情が直ちに執行が出來ない場合には、長い間私權を制限する。之を何とか出來ないものかと云ふやうな、詰り兩様の御意見があつたやうであります。一方は力が弱い、一方は官儀的で地方團體の財力などを顧みない、と云ふやうな御意見があつたのであります。是等孰れの見方も本當の見方であると思ひます。併し是は、先づ前に詰めれば一方は金があれば出來る仕事であると云ふことになります。現在の都市計畫遂行の爲の障礙を爲して居るものは何かと申しますると、金の無いと云ふ事が一つであります。それから他の一つは、人の問題であります。要するに都市計畫が、申す迄もなく一般大衆を對象として居る仕事である爲に、皆それを理解

しなければ、實際に於ては執行甚だ困難であります。詰り金の問題と人の問題とに妨げられて、都市計畫法施行せられて既に十年を経過した今日、尙ほ世間に色々な不満があると云ふことになるのではないかと考へる。併しながら金の問題は、是は色々考へやうに依りましては、それ程苦にしくても宜からうと思ふのであります。寧ろ人間の問題が根本を成すのではないかと考へるのであります。

事業を執行し、その負擔の問題になりますと、色々な故障が起つて來ますので、殊に受益者負擔の如きものに付ては、本當に理解して居るのやうどうかと云ふ事を疑ふのであります。この頃或席で私は斯う云ふことを聞いたのであります。大體都市計畫と云ふやうな事は毛唐の始めた事で、それを輸入して色々な仕事を眞似てやつて居る。非常に澤山の金を掛けて置いて、さうして後で受益者負擔金と云ふやうな負擔を課徴すると云ふやうな事は面白くないことである。大體日本の都市であるならば、日本の都市の財力に相當しただけの仕事をやれば宜いのではないかと、どうもバタ臭い事をやうたが、と云ふやうなことで盛に論じ立てゝ居るのを聞いたのであります。其人は皮肉にも、洋服を着て西洋料理の宴會に出席して居ての話であつたのであります。兎も角も仕事はして貰ひたいが、負擔は成べく避けたいと云ふやうな考を實は多くの人が持つて御居

でになるやうであります。此點に付きましては出来るだけ、何と申しませうか、教育と申しますと甚だ大變な事かも知れませぬが、教育をしたいと思ふのであります。一昨日も小田内さんの御意見の中に、都市研究學校を設立したいと云ふやうな御意見もありました。是は根本問題として非常に結構な事と拜聴しましたが、尙ほもう少し手つ取早く、一般の大家を教育する方法は無いものかと考へて見ると、色々ありませうと思ひますが、私の思付きました事は極く簡単な事でありました。今後此都市問題會議が續いて各地で行はれると云ふ事は、定めて既定の事實と思ひますが、其度毎に、お互の都市問題を研究する者ばかりでなく、一般の民衆にも、都市問題とはどう云ふものか、都市計畫と云ふものはどう云ふものかと云ふ事を知らしむる爲に講演會を開きたい。出來ますならば會議のあつた時ばかりでなく、随時隨所に講演會を開いて徹底させるやうな方法を執りたいと考へるのであります。

それからもう一つは新聞を利用したいのです。どうも是だけの有識者が集りまして、是だけ眞面目に熱心に研究をして居りまするにも拘らず、東京の大新聞は餘り斯う云ふ事に付て書いて居りませぬ。詰り世間への反響が餘り無かりさうに考へるのであります。是は今後都市計畫を遂行する上に於きまして甚だ面白くないことと思ひますので、新聞を出來るだけ利用する、

新聞に理解を持つて貰ふと云ふ事が最も必要であると思ふ。尤も「都市問題」であるとか、「都市公論」であるとか、「大坂」であるとか、各地にそれ／＼雜誌はありますが、雜誌よりも新聞の方を普通に行ひるのでありますから、新聞を出來るだけ利用したい。殊に大阪の二大新聞の如きは、比較的都市問題に付ては斷えず論じ、又色々な報道をして居りますが、東京はさう云ふ風な事に冷淡なのか、或は他に問題が多くて斯う云ふ都市計畫問題を載せないのか分りませぬが、兎も角も少し無關心のやうに思はれるのであります。さうして大阪と東京の都市計畫事業の成績を比較すると、尤も東京は復興事業等がありますが、之を抜きにして考へますと何れが進んで居るか云ふやうな事も、新聞を通じて民衆を教育すると云ふ事の、どれだけ効果があるかと云ふ事を考へさせられるのであります。

其他色々ありますが、要するに道は近きに在り、必ずしも難かしい事をし、金の非常に掛かることをしなくても、簡單で有效な方法は澤山あると思ひますので、是非皆様の御研究を願ひ又御指示を願ひたいと思ふのであります。

瀧山夏一君(大阪市助役) 大阪の新しい市と申しますか、郊外地の統制といふ事は關市長の報告に詳細に出て居ります。それに關聯致しまして、吾々が大阪で第二次計畫といふやうなものをやります時に、所謂都市の綜合計畫といふやうな考を以てやり

ました。詰り街路系統のみならず、運河とか公園とか墓地とかいふやうなもの迄も其の中に入れて、金額にすれば四億何千萬圓といふやうな大計畫を考へて、是は既に内閣の認可を得たものが發表になつて居ります。それを今日大阪は抱いて其の儘都市經營に當つて居りますが、尙吾々が日常一つ物足らなく感ずるものがあるので、其の點に就て申上げて見たいと存じます。

それは吾々が作りました綜合計畫といふ大きな名前を附けましたが、是は全體に於て靜的の施設であります。其の中には土地區劃整理を隨所に行ふ爲に組合の設立を勵行して、それに依つて第二次計畫と相俟つて市外の統制を圖らうといふ順序でやつて参りましたが、大體に於ては靜的の施設であつて、どうしても茲に動的の施設を考へなければならぬといふことを最近に感じたのであります。其の動的の施設とは何かと言ひますと、市場であるとか、或は一番厄介な問題が停車場であります。此の問題に就ては今後と言はず過去に於ても東京市に於ても名古屋市に於ても、それ／＼大都市は非常に苦痛を嘗めて居る事であらうと存じますが、大阪も今尙ほには惱まされて居るのであります。人を吐き出して來る停車場並に停留場、殊に終點の地域が決まりませぬと交通の系統といふものが非常に亂れる、現在あるものは、現在の交通の爲めの街路計畫を計畫として或は

事業として決定して居る、所が今後は街路系統に即した交通系統を有たなければならぬ、斯ういふ事に迫られて来るのであります、既に在る交通の爲め街路計畫を決めた所が、其の決まつたものゝ上に更に今後起つて来る動的的交通系統が出来て来た際に、それに對して現在の都市計畫といふものは殆ど施すところの術を有つて居らない、是が今日殊に市街より少し距つた周圍部などの統制に最も重大なる問題を惹起して居る實例を吾々は見て居るのであります。詰り動的の原因に對する施設をどうすれば宜いかといふことであります。

之に對する對策としては所謂地方計畫で以て、都市計畫區域内と言はず、大きな範圍に於て出て來るところの交通系統は其の方面で支配するだけの權力ある地方計畫を擲るといふことが一つの方法でありませう。更に手取早く申しますと、地方鐵道法、若くは軌道法、是が何時も都市計畫を亂して來る一つの動機である。是が爲に岸本さんから只今お話のあつた、或は地下を通るとか、或は空中を通るといふやうな問題も起つて來るのであります。が、徹底した方法とすれば、地方鐵道若くは軌道法に於て斯ういふやうな交通機關の出願があつた場合には、都市計畫區域内——現在市内だけは漸く吾々が色々の條件を附けますけれども、都市計畫區域内は其の事業主體に譲つてしまふ、其の後は詰り都市計畫委員會なり、或は都市計畫の事業を

行ふ其の主體に譲るといふことにすれば、決められた區劃整理或は街路交通に即した交通機關をそこに有つことが出来はせんかといふ風に考へて居るのであります。是は一つ新しい問題を運時きながら提供致しまして、皆様の御考究を煩したいのであります。

谷川昇君(東京市主事) 色々論者の間に過大都市といふ言葉を使はれましたが、私は過大都市といふ用語に對して抗議を申上げて見たいと思ひます。どういふ根據を以て過大都市と言はれるか、私は了解に苦しむ者であります。色々議論がありませうけれども、私は都市は益々大きくなる運命をもち、益々大きくして行かなければならないといふことを確信して居ります。それから色々郊外地統制であるとか、或は大都市といふやうな事も論ぜられましたけれども、其の概念に對して色々の事を皆様が考へになつて居るやうでありまして、非常に其の用語或は根本的に概念が違ふものでありますから、私共が拜聴致しまして併せて考へます時に非常に困難を感じるのであります。私は大都市といふ語を、私獨特の考かも知れませぬが、斯ういふやうに考へて居ります。獨逸の人が考へて居りますグロス・スタッド、或は亞米利加人、英吉利人の考へて居るグレート・シチー或はメトロポリスといふやうなことに、色々差異があるやうでありますけれども、私は吾々が今大都市と言つて使つ

て居る語は少し意味が違ひはしないかと思ひます。日本では六大都市と言ひまして、東京外五大都市を六大都市といふカタゴリの中に入れて居りますけれども、是も何等の理由無くしてたゞ六大都市の中の一つ小さい都市と、其の次の七番目の都市の間に非常に人口の差異があつたから、そこで六大都市といふやうな用語を政府の方でなさつたのではないかと思ひます。そこで現在本當に東京であるとか或は大きな都市の發展の狀況を見ますと、其の行政區劃といふやうなことは一切關係無くして母體であるところの東京或は續濱といふものを中心として、是等の近傍に直接接續した、或は衛星の都市が澤山に發展して居る、さうして其の生活狀態或は政治的關係或は經濟的關係、社會的關係を見ますと、それが本當の一つの生活をして居る、決して二つの生活をして居ない、詰り私はさういふやうな一つの生活をして居る全部の單位を稱して、大都市と稱すべきものではないかと考へるのであります。それを測る爲には色々の尺度が要るだらうと思ひますけれども、それは別と致しまして、さういふものを大都市と考へて、さうしてすべての議論をして行つたならば、郊外地の統制の問題の如きも餘程ハッキリして來るのではないかと思ひます。

又大都市といふものに對して、先程も申しましたやうに過大都市といふやうな語をお使ひになりまして、根本的に之を否定

するやうなお考が多々あるやうでありますけれども、私は先づ私の考へて居る大都市といふものを巨大都市と名けたいと考へます。其の巨大都市に對して、モウ少しハッキリした研究が日本に於て爲されなければならないと思ひます。獨逸に於ては最近大都市の研究が非常に盛でありまして、色々本も出て居るやうであります。亞米利加の如きは最近三三年間に大都市の研究を始めて居ります。日本に於ては斯ういふ問題に就てまだハッキリした研究が學者の間にもなされて居ないやうに考へて居ります。故に私は斯ういふ實情にある一つの生活團體を對象として、モウ少しハッキリした考を吾々の中に有つて置かなければならぬのではないかと思ひます。

其の一例と致しまして、或る學者の如きは現在の世界の經濟を大都市經濟時代と申して居ります、私はそれは確に今日の吾々の經濟生活の實相を傳へて居るものであらうと思ひます。日本の經濟生活を見ましても、大都市を中心にして回轉して居るものであります。決して大都市を度外し、之を無視した場合に日本の經濟生活といふものは成立するものではありません。吾々の生産生活、或は消費生活、配給生活、其の全部が大都市を中心として現在運行して居るやうに考へます。でありますから日本の國勢とか、さういふものを論ずる場合は大都市を度外しては考へられない、先づ第一に大都市を中心に考ふべきもの

だと思ひます。殊に大都市に於きまして最も大きな根本的な特徴は申すまでもなく分業であります。此の分業がある爲に大都市といふものが形成されなければならぬ、又形成されつゝあるのだと斷定し得るのであります。然るに色々の點を考へて見ますと、此の分業といふことに對しての綜合施設が現在非常に缺けて居るやうに思ひます。都市計畫の如きも非常に結構でありますけれども、此の分業の綜合といふことに對して非常に大きな缺點があるやうに考へます。殊に一例を申しますと、東京都市計畫區域内に於て、地味制は實施されて居りますけれども、地味制を實施して置いて之を連絡する交通機關とか、さういふ問題に十分な考慮が拂はれて居ない爲に、或る工業地域に在る從來の發展した工業が、今や衰微の域に達しつゝあると思ひます。東京都市計畫地域の工業地域内にあります大きな工場が、今や東京から去つて他の所に行かんとしつゝあるもの、或は決心しつゝあるものを私は多々見て居ります。斯ういふやうな點に就ても私は先程申したやうに、大都市といふものは斯様なものであるといふことに就てモウ少し突き進んだ考が必要ではないかと思ひます。

又大都市といふものは色々の缺點がある、殊に愛市心ナシカは無いと仰しやいますけれども、私は是も非常な日本人のやうな間違ひではないかと思ひます。寧ろ吾々は大都市に住むことを

誇りとして居りまして、自分の育つた土地といふものは之を誇り誇りとして居りませぬ。たゞ私共が他の事を考へなかつた時代にさういふ所に住んで居つたから、私共の頭腦の中に昔の記憶を喚起する都合が好いに過ぎないと思ひます。何人も帝都の都民であるといふことを喜び、又東京の市民であり、或は大阪の市民であるといふことを悦びつゝあるだらうと私は思つて居ります。

それから又郊外地統制或は大都市の問題に就て、色々都市計畫論者の間に——誰方でありましたか名前は忘れましたが、十ぐらゐに分けて其の行政區域を區分された様なお話がありましたが、私も、私は斯ういふ様な行政區域の區劃の仕方について非常に抗議を提唱したいと思ふのであります。私共の現在の生活の様式を考へて見ますと、距離といふやうな事は觀念の外にあると思ひます。又實際の實情の外にあると思ひます。私共は社會生活を爲します場合は於ても、隣りの人が何人であらうと一切關係がございませぬ、併しながら私共が同じ所に働き、或は同じ學校で勉強した者といふやうな者が、同じ都市の内外に散在して居ります。其の間に社會的關係を結んで居るのであります。寧ろ隣りの人と話をするよりか、二三哩を距てた他の區、或は他の町村に住んで居ります人達との間に社會的關係を有つて居るのであります。詰り封建時代、昔の時代の都市の生

活様式と、今日の生活様式とは全然異つて居るといふことを第一に申上げたい。それから都市に於きまして決して人に中心があるのではなくして、コミュニティ・ライフといふやうなハツクリしたものが存在して居るに違ひないと思ひます。然るに斯ういふコミュニティ・ライフ、一つの大都市に於ける生活の單位といふものを無視した現在の行政區域の決定の仕方といふものが非常な不合理を起して居ると思ひます。例へば茲に麹町區なら麹町區といふ一つの行政區域がありました場合に、其の區民の最も多く行かなければならぬところの區役所とか或は警察署といふものを、たゞ地域的に眞ん中に置くが宜いと言つて置いた爲に、非常に其の區の片隅に人間の多く集り得る所があつた場合には、そこに大なる不合理が生じつゝあるのではないかと思ひます。詰り私は行政區域であるとか或は公共の建築物をいふやうなものは、コミュニティ・ライフといふものを十分に研究して、最も市民の集り易い、市民の社會生活の上に於て直接に關係の有る所、さういふセンターを見計つてそこに行政的の公共施設といふものも置かなければならぬのではないかと考へて居ります。でありますから、斯う云ふ觀念の下に、將來に於ける計畫の決定等に對しても考へなければならぬのであらうと思ふのであります。

非常に飛びまして甚だ相濟まなかつたのであります。要し

まするに大都市と云ふものに對して、唯ボンヤリした所の考と云ふものは、非常に大都市の將來に對して恐ろしいばかりでなく日本の全體に對しても非常なる障礙となると思ひますから、私は大都市の研究に對しても少し學者法律家が法制の立場から、或は社會學の立場から、或は生理學の立場から、さう云ふ色々の方面から十分なる研究をされて、吾々の大都市と云ふものを見る場合の尺度に當るやうな基準を示されんことを切に希望するものゝ一人であります。

榎本寛之書(内務技師) 都市計畫は都市問題の解決に關しましては重大なる一部分を成すと考へますから、私は都市計畫の實現、隨つて都市問題の解決に付きまして意見を申上げる次第であります。

凡そ都市計畫は、從來の方法に依りますと、單に都市計畫と云ふ事と、それからして現實に事業を實施する事業の執行と二つの方面に分れて居ることは申すまでもない事でありまして、此事業の實施に付きましては非常に費用を要するのであります。乃ち水道の施設、或は下水道の施設と云ふやうな事業と違ひまして、非常に廣汎な綜合的の事業であります。其事業は、小さい市に付きましては少くとも數百萬圓若くは數千萬圓の巨額を要するのであります。是が實現は非常に困難であります。此實現をするまでには、一定の計畫を立てた後に可なり

其土地の所有者が、此土地は地価が高いと云ふ理由に依つて、家賃、其他賃借料を高くするのは明かな事であります。此家賃の高くなつたと云ふ事は、土地所有者が、借家人が道路新設の爲に利益の享受が大きくなつたと云ふ事を見越しての結果でありまして、是は土地所有者の受益負擔の轉嫁であります。此土地所有者の受益負擔金の轉嫁と、もう一つ、物上負擔とする事に依る法文上の受益者負擔金との二重の負擔が掛るやうに思はれるのであります。

それで結局此問題は、土地所有者或は占有者の執れに掛けても不合理なやうな點があるのであります。殊に現行法に依りまして、土地の購入人は、地價の騰貴した時に於て買った場合には、地價が騰貴したといふ事に依つて既に受益者負擔が中に入つて居るのであります。土地を高く買つたと云ふ事に於て既に受益者負擔があると見做して宜いと思ふのであります。此受益者負擔金を誰が納めるものとすべきかと云ふ事に付て皆様の御教示を仰ぎ、特に堀切さんの御意見を結論的に拜聴したいと思ふのであります。

佐藤唯吉君(東京府駒澤町會議員) 受益者といふものは都市計畫法施行令第九條の第四號に依つて指定を受けることになつて居る、都市計畫の爲に受益する者は地主は無論の話であります、故に地主が幾分の負擔をするといふことは當然の事である

又十年以上の地上權者或は永小作權者といふことがあつたと思ひますが、私は之に期限を附した法令はいけないと思ふ、少くとも其の土地の利用者に對しては幾分の受益負擔をさして至當のものであらうと思ふ、併し都市計畫の行はれたが爲に寧ろ受損する者があるかも知れぬ、どういふ者かと言ふと、其の計畫區域内に居るところの借家人といふものは、都市計畫が行はれて道路に面したところの家賃などが昂騰する爲に、自分はたゞ出入の便利を得るに過ぎないにも拘らず、家賃の値上げをされるといふことになる、結局其の人達は受損すると言つても弊支へない譯である、それで何故に期限を附する必要があるのかと申しますれば、若し期限を附してあるものだけが其の負擔をするといふことになれば、十年といふ期限の無い者はどうであるか、それもやはり利益を受ける譯ではないかと思ふ、と言ふのは都市計畫が行はれますと、或は行はれなくてもさういふ計畫があると其の方面の地價は昂騰致します。そこで法律上はどういふ用語を用ひて居るか能く知りませぬが、所謂權利金なるものを近頃取つて居ります、例へば地主であるならば、借家人から權利金といふものを取る、又借家人は其處に家屋を建設して其の家屋の權利金といふものを取つて居るといふ事實がある、是等は非常な利益を享けて居る、其の利益を受けて居る者に對して相當の負擔をさせるといふことは必要の事ではないかと思ふ、で

あるから私は受益者といふものは、土地所有者及び其の利用者といふことにして、制限を附さないで置いて貰ひたいと思ふのであります。

次に借地、借家權問題といふのは、甲の土地所有者から乙が或る地所を借りる時に、俗に權利と稱へて、所謂權利金を取られて居る、所が都市計畫に依つて道路が擴張されるといふことになる、其の土地が狭められ、或は其の土地を直ぐ利用することが出来ない、權利を出して借りたのであるけれども利用することが出来ない、それを幸ひとして地主は、權利金を取つて貸してあるにも拘らず、それを取上げて居るといふ事實が屢々あつて、之に就ても争議が起つて居ります。又借家人に於てもさうであります、借地人が權利を出して家を建てる、それが商業に濟する場所、小賣商に極めて適するといふやうな所であれば、相當の權利金を取る、所が都市計畫に依つて其の家屋の一部、或は全部を破壊しなければならぬといふ場合がある、其の時には後に残つた所へ上手に建てれば又非常な權利が取れる詰り家屋の所有者はそれを幸ひとして前の借家人を立退かしてしまふ、さうして今度は別に建て、又權利金を取つて居るといふやうな事實もある、して見たならば是等に對して法律上借地借家人に物權的權利を附與して貰ひたいと私は考へる、斯ういふ實例は各所にあります。

モウ一つは地價評價委員會であります、是は都市計畫の區域内に於て、關係地主、借地人、借家人と、それから都市計畫委員といふものを加へた地價評價委員といふものを設けて、さうして計畫前の地價と計畫後の地價を評價して行つたならば、非常に公平に行きはしないかと思ひます。たゞ單に都市計畫委員會だけでやると、そこに色々土地の事情情實といふものがあるけれども、それが更に判らない、爲に一方からは横暴であるといふやうな非難を起される結果になりはしないかと思ひます。それから受益者負擔に就て、單に受益者負擔金といふ名義のみで取らないで、土地増價税といふものを取つてはどうかといふ御意見がありました、私は是は餘程考へなければならぬ問題だと思ひます。今行はれて居るところの地租條例といふものは、極めて不合理不公平であるといふことは何人も異論の無い所であります。嘗て見たならば私は駒澤町で東京に接近して居りますが、都市の非常な膨脹發展に依つて續々と家が建設されて居ります。所が多きは畑といふ地目になつて居る、それで或る所は宅地として坪十錢、十五錢、二十錢といふ地代を取つて貸して居る、或る所は借り手が無い爲に畑地として耕作して居る、若し坪二十錢と計算したならば、一段歩に就て月に六十圓、年額七百二十圓の收入がある、所が其の隣りの地所は畑として小作に預けますと、一年に十五圓乃至二十圓の收入しか

ない、同じ畑といふ名目であつて、七百二十圓の収入を得て居るものと、十五圓か二十圓しか取れないといふものとある。是は東京の郊外及び大都市の郊外は殆どさういふ類例が澤山あらうと考へて居ります。是は地租條例といふものが不合理、不公平である、現在の法例の下に於ては、同じ畑といふ地目であれば、地價の百分の四半といふものを賦課する他に途が無いのである。現實の収入の上には非常な相違があるけれども、現行法令の上に於ては奈何とも仕方がない、極めて不合理である、併しながら此の地租條例といふものが改正される、即ち賃賃價格を標準として課税するといふことになると、斯ういふ不公平、不合理が明かに判つて居るに拘らず、或は地租委譲論、或は之を直接税にして置かなければいけないといふやうな議論の對立するが爲に、此の實行が出来ないといふことになつて居るのは、非常に遺憾と思ひます。速に此の地租條例といふものを改正して、合理的に公平に賦課するやうにして貰ひたいといふことを切望するのであります。それで近く政府に於ても地租條例の改正といふことは既に決まつて居るやうであります。若し地租條例が改正された時には、都市計畫に依るところの受益者負擔と一方の土地増價税といふものを一緒に増課するといふことを考へなければならぬと思ひます、何故ならば、例へば今日坪二十圓して居る所が、都市計畫に依つて評價して三十圓になつた

とすれば十圓の利益がある、其の都市計畫に依つて地價が増價したといふ利益の半分を都市計畫の方に取られるといふことは、二重公課の虞れがある。即ち地租條例といふものが改正になつたならば、土地の賃賃價格といふものは昂騰致します、其の昂騰した賃賃價格に依つて地租が課税されるのでありますから、是は永久的の財源となるべきものであつて、特別の臨時經濟でやるべき都市計畫と同一に賦課するといふことは、區分して考へなければならぬ事柄ではないかと思ひます。

次には都市計畫事業特に土地區劃整理事業實施の方策に付き大都市の郊外町村の諸君にお勧めして見たいと思ひます。私の町では都市計畫委員會といふものを設けて、町會議員及び公民の中から十二名の委員を選んで、其町の全體の圖面の上に於て道路計畫を圖てまして、それは大都市計畫に依るところの路線とやまぐ出會ふやうに拵へまして、其の路線に對しては建築線として指定して貰ふやうにして居ります。現在家の建つて居る所は直に行ふことは出来ませぬけれども、現在畑或は田圃になつて居る所は、其の路線を避けて建築するといふことになりましますから、自然と道路系統といふものがやまぐ出来はしないかと思ひます、現に家屋の密接して居る所は直に出来ませぬが、それはどういふ方法にしてやるかと言へば、部分々に對して區劃整理を獎勵して整理して行くやうにしたならば、勞せずして

效果が擧りはないか、斯う考へまして駒澤町は既に内閣の認可を得て居るのであります。

モウ一つ公園の設置といふことでありますが、色々御意見を伺ひましたが、大公園といふものはモウさう必要はない、各所に散在した小さい公園を設けて、どうか其の公園地を地方の有志に寄附でもして貰ひたいといふやうな意味のお話があつたと思ひます。私は是は實際に於て行ひ難い事ではないかと思ひます、各都市に小公園を設けるといふことに就ては異論はありません、大都市であればどうしても大なる公園が必要と思ひます。再び繰返されては困りますけれども、大震災の如き場合に於て大公園があつたならば其處に避難する者は必ず助かることが出来る、小さい所に避難した者は貴重な生命を失はなければならぬといふことになります。併しさういふ非常の場合を除くの外、小さい公園が各所に散在して居るといふことは、其の附近の住民の保健にはなりますが、今日此經濟界の不振、此不振は何時まで續くか分りませぬが、如何なる好況の時代になりましたとも餘程の方でなければ、公園地として土地を寄附すると云ふ事は出来ないのではないかと思ふ。小さい公園でさうでありますから、大公園であれば更に其土地を得ることが出来ないと思ふ。さうしたならば、今日各都市が經濟上行詰つて居るのであるから、小公園を設けるにも困難を感じる。大公園を設け

るには尙更困難を感じる。それで各都市に公園を設けることの必要であると云ふ事は議論は無いのでありますが、賃賃を致しましても此公園を設けると云ふ事は必要ではないか。又郊外の方にも設けなければならぬと云ふやうな御意見もあつたやうであります、例へば我が駒澤町に於きましては、十萬餘坪に亘るゴルフ場がありまして、是は移轉することになつて居ります。斯う云ふ宏大なる土地を東京市の如きものが賃賃致しまして、さうして之を都市の郊外公園と致し財源を得るに従ひ買収して行くといふ方法を採るならば、非常に安く便宜なものが出来て、理想的ではないかと私は考へる。併し駒澤町としては、公園にされる事が果して土地の發展上良いかどうか、此莫大なる土地を公園として賃賃されると云ふ事は、土地の人口を殖すと云ふに付ては一寸困るか知れませぬけれども、是は一つの例に過ぎませぬが、自分はさう云ふ風に考へる。

座長(池田宏君) 第一の點に付きましては此程度に致しまして、次の第二に移ることにしたいと思います。

柴谷善次郎君(堺市) 交通事故の根本原因に立入つて見ますと、其八割までが被害者の不注意であると云ふ事實があるのであります。之を根據に致しますれば、現在行はれて居る交通事故に對する見方は、大變私は間違つて居ると思ふのであります。それで私は、斷えず無遠慮に今日交通事故の原因を成すも

のは一は訓練の無い民衆であつて、一は官憲の取締が此害を成して居ると云ふ事を始終言つて居るのであります。一言葉は當つて居らぬか知れませぬが、どうか御宥しを願ひたい。——それで交通訓練の必要と事ふ事は、私の申し上げるまでもなく、専門學者の始終仰しやつて居る事ではありますが、併し之をどうして訓練して行つたら宜いかと云ふことになりますると、其事は大變厄介であるからして、それで今日まで棄てゝ居られるのであらうと思つて居るのであります。

それで此交通訓練を比較的容易にするには、どうしても、失禮ながら、設備を統一しなければならぬと云ふ事になります。是は私の報告書なり、又先日討論にも申してありますから、是は時間があれば後で附加することに致しまして、先づ第一に私が考へたい事は、事故の大半と云ふものは今日に於きましては殆ど自動車事故が主になつて居るのであります。而も此自動車は、私の立場から言へば、加害者ともなり又被害者ともなるのでありますから、どうしても之に對する訓練と云ふ事が今日の場合非常に必要である。一般民衆の訓練よりも、自動車の訓練は一步進んで出来て居りますが、現在起りつゝある事故に付て、例へばトラクタ、圓タク、其次が自家用と云ふやうな順序を見ましても、此交通訓練が運転手諸君に無いと云ふ事を吾々は考へるのであります。もう一層自動車運転手の教養をしな

ければならぬと思ひます。それと同時に、事故の起りました場合に付て大體して見ますと、大抵年の若い運転手が事故を起して居るやうに考へます。殊に外科病院の院長の話を聞きました、其處に入つて来る九十九パーセントまでは皆二十五歳以下の運転手であると云ふことでもあります。私は今後内務省の取締に付て、自動車運転手の免許に付ては、年齢と云ふ事を多少考へて戴きまして、二十五歳以下の者には免許を與へないと云ふ位までやつて戴きたいと思ふ。

それと同時に、交通訓練を以て最も有効ならしむるには、どうしても此取締方面から言へば、徒弟の如き見方でなく、今迄のやうな見方で通行者を眺めて戴きますと、私の申し上げる趣旨とは反しますが、今後は通行教します者に對して、若し其人が交通違反を致しますれば是は嚴罰主義を取つて戴きたい。是は大變現在の時勢に逆行して居るやうであります。確に交通道徳に缺けて居る今日に於ては、斯うして取締を嚴重にして行くより外に途は無いと考へるのであります。それと同時に、新聞記事などに於ても、成べく一つ其事故の原因を掲げて戴きたい。是は以前には全然無かつたやうであります。現今に於きましては、例へば東京の朝日新聞或は大阪の朝日新聞が先鞭を附けまして、事故がありました場合には、其原因が明瞭である場合には簡単にそれを書いてあるやうであります。其例から見

ましても、大抵事故の原因の大半と云ふものは、被害者の側に罪があると云ふ事は明かである。今日私新聞を見ましたが、東京日日新聞には、昨日のバスと電車の衝突に對しまして、其事故原因を幾分掲げて居るやうであります。どうか今後は一つ輿論を代表して行き、又指導して行く各新聞が、交通事故がありましました場合に、是は千差萬別、直ぐには判らぬことがありますが、原因の明かであつた場合には、どうか一つ新聞の方に御書きを願ひたい。今迄新聞に書いてあるのを見ますると、先づ事故の起つた場合は、何時でも所謂經營者側、會社側に罪のあるやうな事が書いてありますから、一般民衆が見ると、どうも是は經營者側に罪があるのだと云ふ事になりますので、是ではどうしても交通事故の防止が出来ない一つの原因になつて居ると私は考へる。それで今後は、事故防止の意味に於きまして、民衆自身が、各自自發的に踏切其他に於ける交通に注意するやうにしたい。

私の踏切の注意を頻に主張致します原因は、今日の事故の大半は又踏切事故と言つて宜い位でありますので、それで今後此踏切に於て民衆がどうして注意するかと云ふ事は、唯單純に右を見よとか左を見よとか、或は止れと云ふやうな事を言ひましても、是は直ぐに出来ない事でありましますから、どうか之をもつとやさしく、各種の注意が出来るやうに、それには先程申し上げ

たやうに、是はどうしても統一したる設備が無くてはいけません。それを徹底的にやるには、全國的統一でなければならぬ。殊に市街の横斷道路に於きましては、從來は他の踏切とは別な考を持つて居るのでありますが、是は極く接近した踏切で、交通量の非常に多い場合を考へて宜いのでありますから、私はどうしても都市の横斷道路から、全國的統一の踏切標識を置いて戴きたい。斯くして全國的に統一したる標識を置いて、其以外は通らないと云ふ事になると、事故の大半は確に減りませうし、又交通能率も確に増大することと思ふのであります。

それと同時に、私が申上げるやうな意味に於て、官憲の御取締の場合の見方に於ても、何時も加害者の方のみを惡く見られる傾向がありますから、從來の例から見まして、實際罪無き者が罪に落されて居る場合が澤山あるだらうと思ふのであります。是は大きな電鐵、鐵道だけでなく、實際問題として、自動車運転手諸君の如きも、免許状を取上げられたならば、忽ち其翌日から生業が出来ないことになるのでありますから、是等に對しては、専門家或は學者の寄られました交通審判所の如きものを設けて、さうして其交通審判所が審判を統一すると云ふやうな事にして戴きたいと思ふのであります。

白井清行君(東京自動車業組合書記長) 急激な自動車の發展に伴れて、東京市及び郡部に於ては車庫が今日非常に過剰を來

して居ります。詳しい数字は忘れて参りましたが、收容すべき臺數から申すと、随か五六千臺の空車庫があるやうに記憶して居ります。是等は獨り土地家屋の不經濟のみならず、都市の面目の上からも甚だ面白くない事でございます。併しながら私は今其の方の問題よりは、車庫が斯の如く殖えて來ました事態は、此の時代已むを得ませぬが、今日に於ては之を整理し、之を調節すべき時代になつて居るといふことを切に感ずる者であります。實は當局に向つて此の事に就て陳情其の他を致して居りますが、一體只今申上げましたやうに、車庫の過剰を生じたが爲に如何なる影響が及んで居るかと言ひますと、皆様御承知の如く、殆ど其の醜狀は見るに忍びない、若くは聞くにも忍びないといふ營業狀態を現して居ります。私は昨日或る自動車に乗つて用達しに参りましたが、商賣柄でありますから、自動車に乗るたびに運轉手に模倣を聴きますと、「奈何とも仕様がありません、今日では最早市内五十錢といふ通り相場になつて居ります。併し其通り相場で尙營業が出来ませぬで、銀座邊から上野若くは淺草に行くのに、甚しいのは二十錢若くは三十錢で客を奪ひ合つて競争するといふやうな狀態であります。故に私共の營業は一臺の車をどうやら買ひ求めて營業して居りますと、最早や其の車の壽命が盡きた場合には到底買ふことが出来なくなります。銷却をどうするといふ的もありませぬが、兎にも角にも其の日の

生活をしなければならぬが爲に斯の如き營業をして居ります」といふ洵に悲慘なる告白を聴いて居るのであります。是は獨り此の運轉手のみならず、市内の現狀洵に其の通りであります。若しも自動車營業が少くとも公共的の性質を有つて居る營業であるとするならば、少くともそこに交通政策乃至行政政策といふものを以て、是等を調節し緩和すべき性質のものではなからうかと深く信ずる者であります。

左様な狀態であるに拘らず、私は決して官憲を呪ふ者ではありませぬが、現狀は如何であるかと申しますと、如何なる場所に於ても出願があれば車庫を許可するといふ御方針かのやうに見受けるのであります。今日已に斯の如く行詰りつゝあるに拘らず、尙今後續々と之を整理もせず調節もしないといふ場合に於ては、如何なる結果を來すかといふことを憂へるのであります。少くとも只今申上げましたやうに、相當な所に取締をして敷かぬことには營業が成立ちませぬ、獨り自動車業者の懷ろ合が悪いといふことのみであるならば、或は皆様の一笑に附せられる事かも知れませぬが、併しながら今日自動車は少くとも都市に於ては相當重要な交通機關の一つとされて居るのであります。此の自動車に對して斯の如き狀態を放任するといふことは或は一種の社會的問題も起りはせんかと思ふ位に私共は憂へるのであります。其の結果只今申す「流し」といふ營業が始ま

りまして、一人の客を認めますと三臺五臺が奪ひ合ひをする、料金の競争をし、甚しきに至つては鐵拳を以て相争ふといふやうな狀態が、帝都の眞ん中に於て頻々として起つて居るのであります。私は今日六千幾百人の營業者が斯の如き狀態にあるといふことを涙を以て之を見て居るのでございます。さうして其の原因する所は、車庫の濫設といふことにも相當原因して居ると思ひます。尙其の他の營業の問題、料金の問題等に就きましても相當原因して居る點もござります。今日の不景氣といふことも主なる原因ではござりますが、少くとも車庫のみに就ても以上の如き狀態でありますから、今日以後は何卒して此の現狀を救済したいといふ切なる希望を有つて居るのであります。

近藤藤三郎君(都市計畫東京地方委員會技師) 一昨日第二部會に於て京都市の木村技師から、街角剪除の形式と横斷歩道の位置の關係に就てお話があつて、一般の意見を徴せられたに拘らず、誰方からも御意見が出なかつたさうであります。街路の交通の能力といふものは交差點が之を決定すると言つて決して過言でないと思ひますが、其の最も重要な街角の施設に就てまだ十分に練れた考ではありませぬけれども、私見を申述べたいと思ひます。

先づ第一の要件として、左曲りの自動車に對して、自動車が自己の車線を守り得るやうな設備が必要であります。其の爲に

は歩道と車道との境界のカープ・ストーンの半徑を、自動車の大體樂に曲り得る半徑にしなければならぬ。それに對して私は六米半徑といふ數字を最少値として提案したいと思ひます。即ちカーブ・ストーンに六米半徑のカードを與へる、是が第一の要件だと思ひます。此の要件は十一米以上の街路には必ず適用したいと考へて居ります。

單に此の要件から街角の剪除といふ點に就て考へますと、狭い街路の交叉に就ては大きな建築線の角剪りが必要である、廣い街路の交叉では却つて少くて宜い、人道の幅員が六米以上を有つて居る廣い街路に對しては、街角の剪除はしなくても宜いといふことになりました。(第一圖參照)。

それから第二の要件としては右曲りの車を考へなければならぬ、右曲りの自動車に對して、他の車線を極力妨害しないやうに導かなければならぬ。今申した自動車の廻轉半徑を内側で測つて六米を必要とする場合に、外側で測ると言ふと、多少の餘裕を見て十一米半徑といふことになりました。故に街角に於ては右大曲りの自動車の爲に、街路交叉點の中心を中心として、半徑十一米の圓を描いて、其の圓内に決して人道の一端も顔を出さないといふことが、右大曲りの車の爲に必要であるところの第二の要件と考へます。(第二圖參照)。

此の要件から角剪りの大きさを考へますと、やはり前と同様

に廣い道路に對しては必しも大きな角切りは要らない、小さい街路の交叉點に於ては比較的大きな角切りが必要であるといふことになる、此の施設は三車線を有する街路、即ち約十五米以上の全幅員を有する街路の交叉點には必ず適用すべき要件だと考へて居ります。

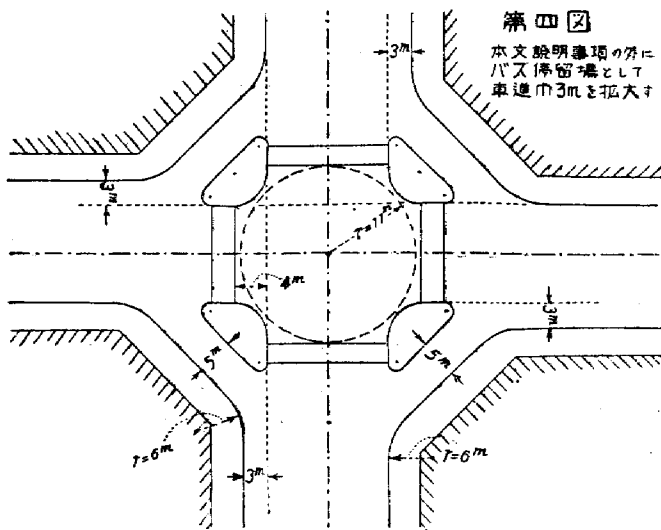
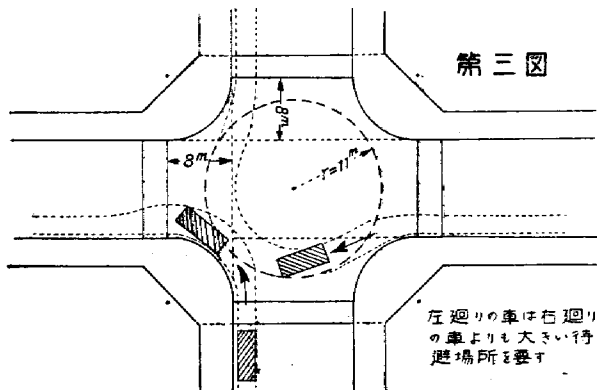
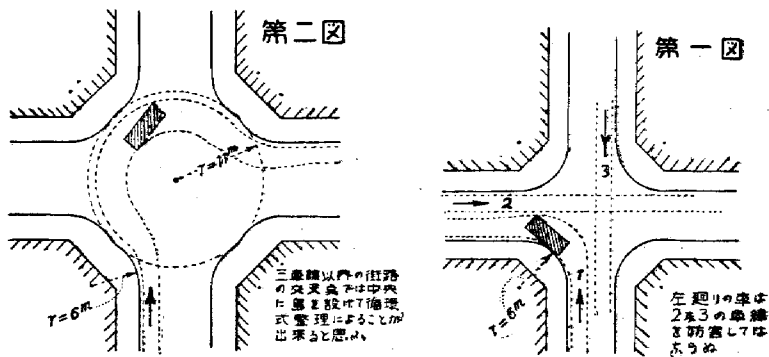
第三の要件としては、四車線以上の車道を有する街路の交叉點に就てありますが、交通整理を假にプロダク・システム——惑らくそれより外方法はあるまいと思ひます——に依ると致しますと、或る方向に對してゴーの信號が出た、其の時に右に曲らうとする車は、一度車線外に出て、後から續いて来る直線に進まうとする自動車をやり過して置いて、然る後に今度は反對の方向にゴーが出た時に右に曲らなければならぬ、さうしなければ他の車の進路を妨害する結果に必ずなります。それが爲に車道の左側の外に——詰り左右兩側に於て考へますと兩側といふことになりまふ——少くとも一車線だけの幅員を保持しなければならぬ譯であります。

即ち横斷歩道の位置が此の原則から必然に決まつて来る譯であります、街路プロバの車線の外に、少くとも待合せの爲に一車線の幅員を取らなければならぬのでありますから、一車線の巾を三米と見れば、車道プロバの幅員の外に少くとも三米だけ餘裕を置いて後退しなければならぬことになるのであります。

す。

それから左廻り自動車、横斷歩道の位置にどう影響するかと云ふ事を考へて見ると、横斷歩道に自動車がつて来たとする、其時ストップの信號が出たとすると、其自動車の直前の横斷歩道は歩行者の通行がある譯であるから、其横斷歩道をバス出来ない。次にゴーの信號になりました時に始めて其車はスタートを切つて直ちに左に曲らうとするのであります、左に曲らうとしますと其前には前の横斷歩道と直角の方向の横斷歩道がある譯であります。其時には此の横斷歩道の上は、ゴーの信號で歩行者が歩いて居るから、矢張其自動車は其横斷歩道を通過することが出来ない、横斷歩道と横斷歩道との中間にストップしなければならぬが、其時に背ろから眞つ直に進んで來ようとする車の車線を妨げない爲にはどう云ふ事が必要であるかと云ふと、歩車道の境界の見透し線と横斷歩道との間に、自動車を縱に收容し得る餘裕がなければならぬ。私は此距離を八米と取ることが適當であると思ひます。斯くして結局横斷歩道は右廻りの車の爲めに少くとも三米、左廻りの車の爲には八米だけ後退しなければならぬことになります。(第三圖參照)。

そうしますと云ふと、非常に交叉點が廣くなり、結局横斷歩道を歩いて向ふ側に行かうとする歩行者は非常に遠廻りをして



行かなければならぬ不便がありますのと、もつ一つは停止線と停止線との距離が非常に長い爲に、ストップを喰つて居らなければならぬ時間が非常に長い。さういふ事からして交通の切換に時間を多く要する。其爲に交叉點のキャパシティが減殺される。交通の能率を上げる爲には此長さは極力狭はめなければならぬのかゝはらず、一方には昔からの自動車車の進行を妨害しない爲に横断歩道は少なくとも八米後退しなければならぬと云ふ絶對の要件があるのであります。之二つの要件を調和する爲に、私は、四車線以上の車道を有する街路の交叉點に於ては前の圖のやうな格好の施設が一番合理的で、最も理想的のものでないかと考へて居ります。(第四圖参照。)

街角にアイランドを設けまして、アイランドとアイランドの間に横断歩道を取るのであります。さうして左廻りの車に對しては此分岐線を通過させる。此アイランドの内接圓は先程申しましたやうに少くとも半径十一米を必要とすることは勿論であります。斯様にしまして直線に行くものと、右廻りをする車の爲に必要な大きさを取りまして、此二つの種類の車に對して「ゴー、ストップ」の信號で整理する。さうして左廻りの車は「ゴー、ストップ」の整理外にフリーに通行させる。斯様に致しますと、此交叉點の長さを短くすることが出来ます。さうして左廻りの車のストップによつて後から来る車を妨害するこ

とも無いのであります。是が最も良い方法でないかと思ひます。此方法に付きましては、假に斯う云ふ非難が出るかも知れない。右廻りと直線に進む車に對しては「ゴー、ストップ」の制限をするにも拘らず、左廻りの車に對しては自由に通行させるのは危険ではないか？と云ふ意見が此案に對する唯一の非難かと思はれるのであります。それに對しては私は斯う云ふ御答辯が出来ると思ふのであります。街路が發達するに従ひまして直線に進む自動車の数は非常に増えるのでありますのかゝはらず、曲らうとする車は非常に少ないのであります。此意味は之を譬喩を用ひて言ふならば、市街が非常に廣大に發展しますると、街路は大體碁盤目のやうなものだと思ふことが出来る。其碁盤目の角から角へ行く車を考へてもダイヤゴナルの方向にジグザグに進行する事は少ない筈であります。曲りを少なく、多分は曲りを一箇所に取つて他は直線的に通る譯であります。即ち其の車は多數の碁盤目を眞直ぐに横切つてくれども曲るのは唯一箇所でありまして、市街が大きくなるに従ひまして、曲る自動車の割合は非常に少なくなるのであります。日本橋の交叉點で一時間ばかり私自身で觀察したことでありまして、眞つ直に通る車百臺に對して左廻りは僅かに十四臺、右廻りは五臺しか無いやうであります。それでありまして、左廻りの車を整理外に自由に通行しても、それは歩行者と運轉手の注意に依つ

て容易に安全が保たれると思ひます。

それから是は多少第一議題の問題かとも思はれるのであります。が、極く簡明に申し上げますから御勘辨を願ひたいと思ひます。是は都市計畫施設の用地の保持の問題であります。現在の法規に依りますと——私は實は法規には暗いのであります。が、計畫街路の用地に限つては、現行の建築物法の規定に依りまして、一般の建築物に對する制限の規定があるのであります。が、それにも拘らず、他の街路以外の重要施設、具體的に申しますれば河川の改修とか運河の計畫とか、下水の計畫とか、それから公園の計畫とか、或は又飛行場の計畫と云ふやうなものゝ計畫用地に對しましては、此用地を保持すべき何等の規定が無いのかのやうに承知致して居るのであります。私は、是は非常に片手落の法規でないかと思ふ。例へば飛行場に行きまして、現在東京に於きましては、逡信省が羽田の先の方に飛行場の豫定地を買つてあるやうに聞いて居りますが、私に言はしめるならば、スピードを生命とする所の交通機關である飛行機の東京に對する着陸場が、非常に遠方の羽田に在ると云ふ事は、實に不可解千萬である。之を單にスピードを尊ぶと云ふ實のみに立脚して申しますと假に東京驛を羽田に移してまでも、飛行場は都市のセンター、現在の東京驛の箇所にでも持つて來るべきものでないかと云ふ議論も成立つと思ひます。是は極論であり

まして、御採用を願はないことにしますが、成べく都市の中心地に近い、例へば月島の先の新しい埋立地又は現在海面であるけれども、將來埋立てゝ宜い箇所、彼處なれば都市のセンターに最も近い地點であると申上げることが出来るのであります。が、あゝ云ふ處を水陸共通の飛行場に定めて置くと云ふ事は非常に必要であると思ふのであります。幸に彼處は公有水面であります。又は東京市の市有地でもあると云ふやうな譯で建築制限の必要は無いかも知れない、或はあるかも知れませぬが、其處が假りに一私人の埋立地だつたら如何でせう、何時其處に鐵筋コンクリートのビルディングが建つか分らない。さう云ふ譯で街路以外の重要な都市計畫施設の用地に對しても或る程度まで保持の方策を講ずる事は都市計畫上絶對に必要なものと思ふのであります。でありますから、現在の市街地建築物法の規定を改正するか、或は市街地建築物法以外に全然新に適當の規定を設定すると云ふ事は大變緊急のことであると考へるのであります。此點に付て皆様の御意見と御研究とを御求めしたいと思ひます。

尚ほ又之に關聯して申上げたいのは、先程大阪市電の運輸部長から地下横断歩道の如きものに對する報償金を取れと云ふお話がありました。此意味は多分占用料金を取ると云ふ意味でないかと拜聴しましたが、それは大變結構なことであると思ひ

ますが、私は一歩先に進出して、立體的な土地と申しますか、空間と申しますか、之の利用と云ふ事は、將來の大都市の、特に中心地に於きましては非常に重要な事であると思ふのであります。それで其邊の研究を進めてどう云ふ設備が必要であると思ふ事を、成べく適確に豫想致しまして、其空間を其設備の爲に保持して置くと思ふ事は、平面的な土地保持と云ふ事と同じやうに必要な事でないかと思ふ。報償金を取る事も結構であります。が、一歩進めまして、さう云ふ立體的なスペースをレザードしようとする具體的な有力な法規の制定を同様に欲するものであります。

それからモウ一言申し上げます、駐車場の問題が今度の會議でもやましい問題として提唱せられて居ります、例へば大阪市の内山計畫課長からも其御提案がありました。それに對して一昨日の第二部會で内務省の榎木技師から、街路は素通りする爲のみの街路ではない、素通りする爲でもあり、又停車する爲のものでもあるといふ意味の御議論がありました。御尤の御議論と思ひますが、私が特に申上げたいと思ひますことは、例へば大劇場、大百貨店、大會館其他の大ビルディング、それから停車場、停留所、地下鐵道の出入口といったやうな特殊の施設であつて、特に交通のラッシュを賣すことの明かな施設に對しましては、歩行者の溜り場及び自動車の駐車場の最小限度の面積な

り形なりを定めまして、之を附帶施設として強固する、例へば大百貨店等を建てるならば、其前或は横に少くとも是だけの駐車場を必ず設けなければいけないといふ、強い取締といふか、規定といふか、さういふ方法が現在の規定で可能ならば問題は無いのであります。が、若しさういふ規定が無いならば、或は微弱であるならば、それを特に明確にして實行する必要があるのではないか。一般的の駐車場といふものが假に設置すべきものでないといふ結論には達しましたが、私の申述べたやうな特殊の施設の附近に於ては、駐車場なり溜り場なりが絶対に必要なものと考へられるのであります。實例として、例へば東京の三越の本店とそれから三井の本館が並んで居る通であります。が、彼處は復興事業の十六メートルの補助幹線の一部分になつて居りますが、それを適當な割合で歩車道の區分をしようと思ひました所、三越からですか、或は間接の申出でありましたか、駐車場が無いから歩道の幅員を犠牲にして車道を擴大して下さい、斯ういふ陳情があつたことを記憶して居ります。それから又神田の學士會館を例に致しませうか、あの人道上の自動車の居ないことは殆んど稀であります。大抵の場合に自動車が一臺二臺、人道の上に載つて居ります、さういふのは總てあゝいふ大集會場に對して駐車場の設備を缺いて居るといふ明かな實例だと考へます。

それから尙ほ、是は揚足取りといふ意味ではありませんが、

大阪市の内山計畫課長の御報告の論文の中に參考として難波驛の附近のプランが出て居るのを拜見致しました、其時に一寸氣が附いた事を申上げさして戴きたいと思ひます。それは難波驛の近所の四箇所の地下鐵道の出入口が人道上に取つてあります、彼處のプランを拜見すると、人道はノルマルの人道で、あまり廣くない人道の上に出入口を取つてあるので、歩道の有效幅員を非常に減殺して居る、それに反してあの部分の車道はどつちかといふとノルマルより非常に廣いやうであります。あれは車道にモウ少し喰込んで人道を廣く取つて、其内に出入口を設けるやうにして、人道の有効幅員を出入口の爲に減殺しないといふやうな設計になさつたら如何かと思ひます。勿論あの圖面は假のもので萬々御承知かも知れませんが、一寸氣が着きましたから、申上げます。

座長(池田宏君) 朝鮮の京城府の方から御申込があつた際に出張員をして十分に意見を述べさせたいと思ふからといふ、知事公からの御添手紙でありましたが、今日京城府の主事の方がお見えになつて居るやうですが何か御發言はありませんか。

酒井謙次郎君(京城府主事) 私は受益者負擔の官有地に關する一般制度に就て各都市の御取扱を伺ひたいと思つたのですが、大體皆様の御意見をチョイ／＼伺ひまして要領を得ました

から、格別他に申上げる事はありません。

竹内第太郎君(京城府協議會員) 京城では受益負擔でなく、受益税といふことになつて其案は府の會議を通過して居るのであります。段々伺ひます内に、人的課税は缺陷がある、物的課税にすると宜いといふ御意見がありました。が、物的課税で果して十分な目的を達することが出来るや否や、といふのは現在人に課するとそれが移動して困る、そこで物に課するといふことになる、現に京城などにも澤山あるやうであります。が、一番抵當、二番抵當、三番抵當といふやうな風に權利が段々と狭められる、さういふやうな時分に何處を取つて課することが出来るか、斯う考へます。現に河川の工事負擔金に於きましても、私共がまのあたり目撃して居るのは、一番抵當、二番抵當になつて居る爲に、其負擔金を關係當局が徴収することが出来ない、つまり徴収缺陷を生じて居るやうであります。京城府でも當局の言明する所に依ると、其缺陷は二割乃至一割五分あるだらうと言つて居るのであります。斯く考へて來ますと、人的から物的になりましても、其缺陷を補ふことは出来ないのではな

いかと考へます。幸にさういふ事を調節して缺陷なく行き得る方法があるならば教を蒙つて見たいと思ひます。

私は寧ろさういふ場合には、物的とか人的でなしに、一番新しい權利を取得た者に課するといふ途を開くならば、最も賢

明なやり方ではないかと考へます。大體受益者負擔といふ事に就ては、一昨日京都の汐見さんからも受益者負擔は理想的でない、寧ろ他に考へた方が宜くはないかといふ御意見のやうに伺ひましたが、私自身は、受益負擔——私の方で言へば受益税といふものは、あまり感心の出来ない方法であると思へますので、或る程度まで汐見さんの御意見に賛成したいと思つて居ります。其理由は、一つの街路を新設しましても、成る程街路附近は利益を蒙るには相違ありませんが、唯負擔をするのは其附近の者であつて、寧ろ益を受ける者の多くは負擔を免れて居る、斯ういふ缺陷があるやうに思ひます、といふのは一つの路線で申しますと、其路線のズツと奥の方から往復する、或は商業を營んで居るといふ者が非常な益を受ける、併しそれ等は益を受け放しである。斯様な缺陷もあるやうに考へて居るのであります、色々徴收上、又さういふ缺陷もある、而もお話のあつたやうに、利益を豫想して課するといふ嫌いもあるやうに思ひますから、寧ろ都市は有機的に、身體的に、局部の仕事でも頭まで痛感するやうに、其利益も苦痛も都市全體に感ぜしめた方が宜くはないかと考へます。斯ういふ見地から考へる時に、受益税は遺憾な點があるやうに思ひます。京城に於ても斯ういふ議論はあるのであります、唯内地に於ては、總て都市は受益負擔といふ事で段々事業が進歩して居る、是は時勢の要求であるから仕

方がないといふ議論もありますので、寧ろ方向を轉換して、所謂税は須く公平に、さうして公共事業に無理の無い點に於て、つまり豫想的の利益を、あてにしないで、利益があつたならば都市全體が受ける、又全體がそれに對する犠牲を拂ふ、出来るならば公債等に依つて仕事をして、後から償却するやうにしてはどうであるか。

尚ほ一言附加へたいことは、段々お話のあります、畸形土地の残ることあります。京城では間口税として取つて居ります、道路を取擧げられて僅かな土地が残つた場合、此間口税を課せられることは、非常に道路に面した者に對しては苦痛であります、さうしてそこに非常に無理があるやうに思ひます。斯ういふ土地に對して尚ほ何か適當な方法があるならば承りたいと思ひます。色々御意見を承つて私共教を受けて歸りますことは欣幸の次第であります。

座長(池田宏君) 他に若し御發議があれば宜しいが、無ければ四、五項二つとも引括めて自由の御意見を願ひたいと思ひます。

西村徳男君(徳島市會議員) 私は第五に付て、少し御聴き致したいのですが、此都市計畫に付きまして市と府縣との負擔の割合、それから工事施行後に於ける負擔の割合、斯う云ふものを各府縣に就て御調べになつたものがあるか。若し御調べにな

つて居らぬとしますれば、本會も將來は存続することになつて居りまするが故に、どうか此際御取調を願ひまして承知することが出来ますならば、非常に参考になることと思ひます。

石原眞治君(東京市技師) 此會は都市問題會議と云ふ名前になつて居りますが、大體御論じになつた問題は、事實都市計畫の問題を中心として御論じになつたやうであります。又第一回の會議の内容も、大體都市計畫を内容として御論じになつたやうに思ふのであります。それで私は、寧ろ其内容を明確にしてはどうか、都市問題會議として有ゆる市政の問題を取容れようとなるのであるか、其邊の御意見を承りたい。若し都市計畫を對象として爲されるならば、丁度國際都市計畫會議並に住宅問題の會議が毎年あります。又亞米利加には都市計畫會議があります。英吉利でも毎年ナショナル・コングレスをやつて居る。日本に於てもさう云ふ都市計畫に關するコングレスがあつても宜いのではないか。さうして此會の内容は都市計畫並に住宅問題の「コングレス」と云ふやうな工合に、明確になされてはどうかと云ふやうな考を持つて居ります。

奥井復太郎君(慶應義塾大學教授) 部會の形式は主報告者の報告を主題とし、それに向つて討議が行はなくては、折角配付された研究報告が無意味と爲る。第二回以後の會議に於ては是非そうした形式を會員方より進んで勵行さるゝ様致したい。

座長(池田宏君) 一寸御相談申上げますが、堀切前東京市長は、午後御差支があるやうでありますから、大分堀切前市長の御報告になつた事に付ての御意見が出て居るやうでありますし、又特に堀切前市長の明快な御答辭を希望すると云ふやうなる御要求のあつた方もありますし、又現に浅川君は、文書で堀切君に質問をせられて居るやうでありますから、此際堀切君の御意見を承ることにしたいと思います。

堀切善次郎君(東京市) 一番最初に御話になつた方の御話は一寸私面會人があつて参つて居りまして途中から伺ひましたので、或は全部に付て申上げることが出来ないのか知れませぬが、不整形の土地に對する受益者負擔、是は京城の竹内さんも御話のありましたやうに、方々で現在色々問題になつて居ります。併し此問題は土地の状況に依りさう云ふ風な種類のものに對しては、受益者負擔金の一部を免ずることを得と云ふ規定になつて居りますから、内務省令の最近出されたものは皆さうなつて居ります。唯舊い時代の規定には其規定がありません。爲に、色々の場合が起つて來ると思ひます。今後御作りになるには内務省の方に御しやつて入れてお戴きなれば宜しいし又現在不便を御感じになつて居る規定は、内務省に改正を御申請になれば、多分さうなることと思ひますから、一寸申上げて置

きます。

唯都市計畫をやつた後に、三角形の土地とか帯のやうな土地とか、不整形の土地が道路に面して在ると云ふ事は好ましくないと云ふ事は申すまでもありません。折角道路を改修して、其附近の土地の利用状態を良くする爲にやつたのに、其跡に建築敷地として甚だ不適當な不整形の土地が残るのは好ましくないであります。仕事をやつて行くには、さう云ふ土地は残さないで、成べく超過買収をするとかしてやるやうにしなければならぬと思ひます。其土地の後ろの方の金持に高く賣らうと云ふやうなことで地主が強いて持つて居るやうな事が無いとは限らないのであります。

大阪市の岸本君の述べられた點に對しては、私は根本から同感の點が多いのであります。地下道に對して報償金を徴収し得るかどうかと云ふ事は、一寸私はつきりしませんでした。一個人に對して地下道を許して、其場合にそれから金を取ると云ふ意味でありませうか。若しさうであるならば、それは現在の所で道路の占用料としては取れるやうであります。さう云ふ方法より外は無いやうであります。若又市なり公共團體が之を造つて、受益者負擔金のやうなものが取れるかどうかと云ふ事でありませうれば、之も矢張道路と同じやうなものでありますから、出口から半徑云々と云ふやうなことにして法律上取り得る

と思ひます。一寸考へましても、東京市として丸ビルの所に地下道を造らうと云ふ問題がありますが、之を造るやうな場合には、丸ビルのやうな所に受益者負擔金を課することは當然でないかと思ひます。又銀座尾張町の交叉點に地下道を造ると云ふ説がありました。出口を中心にして半徑を描いて受益者負擔を課するとしても、實際に於ては是は難かしいのではなからうかと云ふやうな、是は法律論だけのことであります。唯此際岸本さんなり、他の道路を造る方の實際の技術の方に御願ひしたい事は、どうぞ吾々人間を、隧道のみを通るやうな事の無いやうに御考を願ひたい。さう云ふ事に付ては、帝都復興計畫をやります時分に、餘り買収をやつて行くと金が掛りまして、土地が高い上に移轉料が高いので、地下の隧道を造るのと同じやうな金が掛るので、其様な感じもありましたが、どうぞ吾々に地上を歩くやうに考へて戴きたいと思ひます。

それから、道路損傷負擔金に付て軌道敷を除いて計算して居るか云ふ御話であります。大阪市其他の規程を見ましても、此事は規定の上には表れて居らないやうでありますから、多分縣廳限りの取扱でないかと思ひます。規定の上では是は取れないことではないのか、取れないと云ふ法律上の根拠は無いやうに思ひます。唯實際どう云ふ風になつて居りますか。此問題に付きましては私共痛切に感ずるのであります。非常に

昔の時代に於て、併用軌道で道路の上に電車を敷きまして、軌道の上は人は歩かなかつた。車が通つても馬車が通つても危ないから、道路の上に併用軌道になつて居る場合には、其軌道の上は殆ど歩かなかつた。何等交通の用に供されなかつた時代に考へて、其軌道幅だけのものは、軌道の方に持たせると云ふやり方で、今日まで情勢として來て居るやうであります。今日の狀態では、もう總て自動車は軌道の上を通過して居る様な次第でありまして、道路としての效用を非常に發揮して居ります。随つて只今各地で行はれて居ります軌道敷に關する費用を全部軌道に持たせると云ふ觀念は、今日に於ては非常に誤りでないか、それは道路を擴げて軌道を敷設した場合も同様であります。其軌道の上の維持修繕の費用、之も全部軌道の方に持たせると云ふ事は無理ではないか。自動車で壊しますからして、それは一般道路費の經濟から相當分けて行くことをどうしても考へなければならぬ筈のものと思つて居りますが、是は各地ともそこまで行つて居りませぬのは、一般道路の方の財源關係からさうなつて居るか知れませぬが、甚だ無理な現状になつて居ると云ふ事は是は疑ひなき事であると思つて居るのであります。それから受益者を何人にするかといふことに就ての御質問がありました。只今の規定では所有者又は十年以上の借地權者所謂劃一的にとつちか取れる規定になつて居ります。所有者の

方から取るといふことは觀念上の利益だけだといふので、それは無理ではないかといふお話がありました。一體さういふ風に考へられますが、やはり其土地の價格が上り、其人の財産がそれだけ餘計になつて居るのですから、現實に金は買らなければ饑ろに入らないが、財産上の價格は増して居る、即ち利益のあることは疑ひない譯ですから、其方から取ることも差支ない、占有者の方は亦それを利用する點に於て實際利益を得て居るのでありますから、其方からも取り得る根據はあると思ひます。現在の所ではさうなつて居るが、此點に就ては會議の席でも、主報告者の河北君からもお話があり、都市計畫東京地方委員會の西村君からもお話があつたやうに、私も少くとも東京に就ては、所有者と借地權者との價格に或る割合がありまして——駒澤町會の佐藤さんからも其お話がありました。私も全然同感であります。つまり所有者と借地權者とは分れて居つて、借地權がやはり一定の割合の價格を持つ、所有者はそれだけ價格が減つて來る、是は東京の實例がさうであります。例へば一坪更地であれば百圓の土地であつても、借地になつて居れば六十圓にしか賣れない、其代りに借地權者は所謂權利金と稱して一坪に就て三十圓なり四十圓で賣れるといふ状態になつて居りまして、東京並に此附近に於ては、所有者の價格と借地權の價格とが一定の割合に依つて分れて居ります。或る場合に於ては

借地權の方が却つて高くて六割になるといふやうな所もあるやうですし、まあ五割から四割、三割といふ割合になつて居るやうであります。随つて私も受益者負擔金に就ては——現在の規定ではさうなつて居りませんが、所有權と借地權と兩方に分けて負擔させるのが最も公平ではないかと考へて居ります。それで駒澤町會の佐藤さんの第一に述べられた所は私は全然同じやうに考へて居ります。次に地價の評価委員を置くといふお考、是も洵に御尤と思ひます。一昨日も西村君もやはり其御意見であり、河北君も此事を主張されたのであります。

それから土地増價税の問題は、無論受益者負擔とは又別に、受益者負擔は受益者負擔で益々此制度の完備を期したいと思ひます。其他の一般的の都市計畫の財源として、さういふものを分離して考へて行つて宜いと思ひます。只今地租條例の改正——つまり賃貸價格に依るといふ改正をやつて居るやうでありまして、間もなくそれが行はれるかと思ひますが、此前地價の修正のありました時にも、今度も恐らくさうなると思ひますが、賃貸價格を調べます時に、やはり現在の地價を抑へて、現在の地價の何倍以上にはしないといふやうな制限が、今度も行はれないかと思ひます。此前には八倍でしたかを限度にしたのであります、例へば東京で今三千圓もするといふ土地でも、法定地價は僅に六、七十圓、或は五十圓位になつて居る、それを十

倍以上にはしないとか、二十倍以上にはしないといふことになると、例へば五十圓のものを二十倍以上にしないといへば、千圓で止まることになる、さういふ限定がありますから、其邊までも徹底的に行くかどうか——どういふ案が提案されるか知りませんが、是のみに或は期待出来ないやうな結果に陥るかも知れません、斯ういふ場合には、受益者負擔とは全然別問題であります、都市計畫の財源として、特別地税といふやうなものを考へることが必要ではないか、是は相當調べたこともあります、大阪あたりでも特に之を主張されました、私も大いに共鳴して居つたのであります。都會地に於ては土地の負擔が一般的に輕い、之に對して特別地税といふやうなものにして、土地に對して都會地に於てモウ少し負擔して貰つて、都市計畫の事業を進めることにしたいといふ考を持つたことはあるのであります。さういふ事も十分研究して戴きたいと思ひます、勿論之をやるには法律が要ります、只今の所では「地租、地租附加税ノ外土地ニ對シ課税スルコトヲ得ス」とありますから、市町村限りで斯ういふ税を作ることは出来ません。法律の制定が要りますが、さういふ法律は私は一日も速く作つて貰ひたいと考へるのであります。

それから京城の竹内さんからお話がありました、人的負擔と物的負擔、是はどちらでも宜いと思ひますが、最後に、最も新

く權利を得た者から取つたら宜いではないかといふ御結論であります。それは私の申上げました最近の實例——復興局系統の方の受益者負擔の實例は其やうにやつて居ります、つまり負擔金の金額を十四分して、それを半年毎に其時の權利者から取るつまり七年の分納の形を變へた譯であります、其賦課する期日は別に定めて、其時々々の權利者から取つて行くといふやり方になつて居ります。其權利者はやはり、所有者借地權者といふものから取つて居ります。

それから終りに淺川さんから特に尚ほ御意見が出て居ります。土地の價格は段々上つて行くから不勞所得が自然多くなる、さういふ點に對する根本の案として、土地は公有、若くは國有にする外途がないではないかといふ御意見のやうであります。是は第一部の方でも色々問題があつたと思ひますが、獨逸あたりの都市の政策として、土地は成べく公有にして行く、それで事業もし易く、又財源等の影響も少くなる、出来るだけ公有にして行くといふ方針を採つて居るやうであります。是は殊に今後益々發展して行くやうな都市に於て、地價が上つて行く土地及び其郊外地に於て、出来るだけ公有にして置くといふ方針を執ることは非常に良い事で、必ず他日非常な利益のあることと思ひます。唯之に伴つて財源或は土地買収の特別の手續が必要であつたりする關係上、實際行はれないと思ひますが、進む途と

しては非常に良い事だと思ひます。唯全部公有或は土地を國有にしてしまふといふことになる、中々問題が根本的に大きな問題になります、實行に就てはどういふものであらうか、之を無償で取上げる譯にも行きますまい、買収するとすれば莫大な起債が必要になつて來ると思ひますので、實行上に就てはいろいろの困難があるだらうと思ひますが、考へ方としては非常に良い考へ方のやうに思ふのであります、私の方に關係致しました事だけを簡單に申上げました。

座長(池田安君) それでは是で午前中の會を閉ちまして食事に移る事に致しますが、午後御繰合せの附きます方は残つて戴いて繼續して會議を開きたいと思ひます。尚ほ其間に、實は一昨日滿場の御決議のありました都市問題會議の次の會の準備、それから此會議を永久的の組織にするといふことに就きまして、全權を委ねられた諸君がお集りになつて御相談になることになつて居りますので、其時間の間に、何か皆様の間で御申合せのやうな事でも出来まして、一層此會議の後始末として望ましいやうな事があり得るならば、大變結構な事ではないかと考へます、そこで私から御指名申上げるのは失禮であります、

近藤謙三郎君 佐藤唯吉君 西村輝一君
黒川一治君 谷川昇君 大塚辰治君
宮本長治君 東後琢三郎君 淺川保平君

石田昌平君 岸本熊太郎君

是等の諸君の間に、午後はどうして行つて宜いか、一つ御相談を遂げて戴きたいと思ひます、尚ほ午後お残り下さる方は、此十一君の御相談の時にどうぞ御参加下さいまして、午後僅かの時間であつても何か有効にやつて見ようといふ事に就てのお考を一つ煩したいと考へます、それでは午前の會は是で閉ぢることに致します。

(午餐の後、二時五十二分再開)

會長(池田盛君) 先程主報告者たる内山大阪市土木部計畫課長のお説に對して御意見のあつたこともありまゝです、丁度只今内山君が見えて居りますから、内山君から願ふことに致します。

内山新之助君(大阪市土木部計畫課長) 本會並に委員會に於て、第二部の街路交通の統制に付て色々御討議を承りまして、其點に付て多少御説明を申上げて置く方が便利と思ひますから一寸申上げます。其點は先づ第一に柴谷君の交通標識の統制、全國的に統一したれば良からう。此點は私の報告にも書いて置きました。又時間が制限されて十分に申上げられませぬが、全然賛成であります。最近の現狀は各警察署によつて其標識が殆ど一定してゐないので交通者も不便である、取締にも不便であるから是非公共交通者に取つても必要であるから、統制は勿論

全國的に統一した方が宜しいので、此點は全然賛成であります。それから本日の近藤君の御意見、十字交叉路に於ける交通整理の方法に付て御意見がありました。私も頗る賛成であります。交叉點は商業地域の重心に位置するものに付きましては、地價は相當に高いので、あの案は街角の剪除の幅が相當廣くないといけないので、此點を懸念して地價の高價な所では廣い範圍に擴張することは、經濟的に困難があると思ひます。出来る所は無論宜しい。これはアノ通りの理想案が出来なければ、一つ手前で整理することも亦一つの方法であらうと思ひます。次に難波驛のことは附屬にありますが、報告書の附屬まで御覺になつたことは深甚の敬意を表するものであります。此附屬は二つの圖面を合せたもので、實は決定的のものでないので、都市計畫街路としてアノ附近が決定されて居りますが、彼處丈け二十四間、アノ附近は三十三間でありまして、東京の横町線と同じ關係に在る所で、在來の道路の中途半端に在りますから、局部的に廣くなりました。難波驛の混雜の所でありますから、多少幅員が廣いのであります。そこに持つて往つた地下鐵道は別に出入口が極まるのであります、唯假に出入口を歩道の端に附けてあるのであります。それから横斷面圖がありますが、緩行車と高速車の中間に幅員二間半のグリーンを設けました。地下鐵道の方針は出入口を其處に持つて來た方が騒擾を來さない

で、緩速車も横斷すれば其處に到着することが出來ますから、そこに出入口を持つて來ることになりはしないかと考へます。其點だけを申上げて置ます。

會長(池田盛君) 晝の休憩の際にお願ひ致して置きました午後の會を有効にすることに付て、御相談が願へたさうでありますから、其事の結果の御報告を段々にお願ひしたいと思ひます——西村君ですか……

西村一君(都市計畫東京地方委員會事務官) 問題を二つに分けて協議致しました、一つは今回の會議に對する問題の範圍、深淺の程度、場所、時期等に於て、大分澤山の御意見がありました、是は時間の關係上、後刻整理して座長のお手許まで提出したいと思ひます。

第二の問題は、今回の議題に就ていろいろ澤山の意見が出來したのを取纏めて、何か一つの結論のやうなものを見出して置きたいといふ考から、結局問題の範圍を極く狹隘にして、其問題に集中して意見を提出しようといふので、次の如く各部から三乃至五の問題が出されたのであります。

第一部

- 一、都市計畫法ノ改正ニ關スル要目
- 二、市街地建築物法ノ改正ニ關スル意見
- 三、土地區劃整理法ノ制定ニ關スル意見

第一 第二回全國都市問題會議參加有志懇談會

第二部

- 一、交通取締規則ノ改正ニ關スル意見
- 二、街路交叉點ニ於ケル交通輻輳對策ニ關スル意見
- 三、車馬駐停方法ニ關スル意見

第三部

- 一、無租地ニ對スル課徴ニ對シテ現行法令ノ改正ニ關スル意見
- 二、現行負擔金制ヲ擴充シテ公園橋梁等ニ及ボス意見
- 三、負擔金賦課ニ關スル土地評價委員會ノ設置ニ關スル意見

見

- 四、負擔金義務者ノ範圍ニ關スル意見
- 五、負擔金ト他ノ公課トノ關係ニ關スル意見

何れを見ても相當重要な問題ばかりで、短時間の内に片づけようといふ事は殆んど出來ないと思ひますけれども、何か適當な方法で纏まりを附けたい、さうすれば先づ第一部に於ては都市計畫法の改正に關する要目として、結論だけを目録を作るといふやうな意味に於て——他日適當な場所で改正の議のあつたやうな場合の參考に供するやうなものとして——都市問題會議の際に此點にも改正したいといふ意見があつたといふ暗示が與へられる程度のもので作つて置きたいといふ考であります。第二部に於ては街路交叉點に於ける交通の整理といふ問題に就

て簡単に意見を述べたい。第三部では受益者負担に就てはいろいろ改正を要する点がありますけれども、一番根本の問題は受益者負担金、義務者の範囲といふ問題が一番重要であつて、大分意見も出て居りますから、此點を一つ纏めて置きたい、斯ういふ考へで三問題を選択致しました。時間の關係上此三問題が討議を盡し得られるや否やは確信はありませんが座長に於て適當に御計らひを願つて、此三問題に就て或る成果を収めることが出来たならば非常に結構と思ひます。大體協議した要項は以上であります。

座長(池田宏君) 承りまして非常に良い所にお氣付き下さつて、此會議の結末として洵に適當な所に導かれさうに御協力下さいましたことを先づ深く感謝致します。お話の通り茲に出て居る問題は孰れも重要な問題で、どれもこれも皆何等かの後始末を附けなければならぬ事のやうに考へますが、只今の御報告にあつた如く、時間の關係もあつて、悉く論議をお盡しを願ふことの出来ません事を甚だ遺憾と致します。併し大體只今の御報告の御趣旨に副ふやうにと考へまして、お示しの如くに第一部では第一の問題、第二部では第二の問題、第三部では第四の問題に就て御討議を御願ひしたいと思ひます。

併しかなり討議を盡します爲には、第一の問題だけでもなかなか容易でないと思ひます。先づ第一の問題に就て御意見のあ

るだけ御提出を願つて、どうしても今迄の研究報告なり或は御討議に現はれて居らなかつた事であるならば、便宜御説明も願はなければならぬと思ひますが、既に研究報告に現はれ、若くは今回の御討議に現はれて居つた事であれば、其論旨は判つて居る事と思ひますから、唯事項だけお舉げ下さる、それで反對があるかも知れませんが、反對論があればやはり記録に取つて置くことが必要であらうと思ひます。反對論があつたならば反對論だけをお話し下さるやうにして、ズツと御意見の御提出を願ひたい。續いて第二、第三に移つて同じやうな方法で行くことにしては如何と存じます。先づ第一の問題「都市計畫法の改正に關する要目」に就て、どなたからでも御發言を願ひます。

佐藤唯吉君 私は都市計畫法中の都市計畫事業費の負擔といふことに就て、改正を望むのであります。現在は地租割は百分の十二、營業収益税は百分の二十二、それから營業税、雜種税又は家屋税に對しては十分の四といふことになつて居る、即ち地租の十二、營業収益税の二十二に對して、家屋税は百分の四十になる、是はどういふ所から割出されたものか存じませぬが、家屋税の負擔を斯く重からしむることは間違つて居りはしないかと思ふ。御列席の中には、貸家などをお持ちの方もございませうが、貸家の家賃といふものは、完全に取上げられるといふ事は極く少いのであります、而も所有者の負擔する所は修

繕費、保険料等なか／＼掛りが多いのであります、之に反して土地といふものは保険料も何も要らない、唯坐ながらにして収益を得るのであります、これが若し地方の農産物であつたならば、土地から取る収益は極めて少ない。けれども大都市に連續する所の郊外、或は大都市と云ふものは、土地から擧がる利益は極めて多い。それにも拘らず土地を極めて減らして地上に在る家屋に對して澤山の負擔をさせると云ふことは非常に無理ではないか。でありますからして幾らの割合と云ふことは申上げませぬが、家屋に對する負擔をモウ少し軽くして、土地に對する負擔をモウ少し重くすることを希望するのであります。さう云ふやうに條文を改正して戴くと云ふことを建議致します。

佐藤唯吉君 都市計畫地方委員會には關係地域の町村長、町村會議員の幾名かを、委員會の委員に加へて戴くことを希望致します。

英木嘉一君(警視廳交通課) 都市生活に於て最も苦痛とする所は、家賃を常に拂はなければならぬことであるが、家賃と云ふものは借りて居る間は永久に拂はなければならぬ。これは原則であります、或る場所に十年間居つても二十年間居つても同じ値段を拂ふことは不合理でありますから、一定の率に達しましたならば家賃を、維持費と税金と其他若干のものを差引いたそれより以上に取れないやうに、何とか條文でも拵へた

ら如何でございませう。それをしませぬが爲に、初め二十五圓なら二十五圓で借りた者は、十年二十年経つても、矢張二十五圓を拂はなければならぬ。尤も二三圓位の値下げは致しませうが、其人が原價銷却をしても尙且つ借りた時と同じものを拂はなければならぬ不合理があります。之をモウ少し緩和する方法はないでございませうか。家主が二十年も三十年も同じ家賃を取つて、何も仕事をしないで食べて居る。之を制裁する方法はないものでございませうか。極めて突飛な問題でありますけれども、私の常に考へて居ることでもありますので、一寸意見を申し上げます。

座長(池田宏君) 成るべく都市計畫法の改正意見ですから、それに該當するやうなお話を願ひたいのです。

稻葉元邦君(東京府池上町) 只今家賃の話が出ましたが、一寸一言申し上げます。私が東京府に居りました時分に、東京府と申しまして東京市と接續二十二三箇町村の範圍の家賃と地代が、約その二億圓に達して居りました。之を借家人若くは借地人は無利息で地主なり家主なりに、一種の保證金の意味に於て提供して居ります。私共の本来の考としては、之を成るべくならば東京市の如き都市に供託をして、其利益を都市計畫の如き事業の財源として用ひるやうに致したい。私は十年計りに研究致しまして、此金を都市に供託する様な法令を設けて、其四

歩か五歩の利益金は兒童の教育費用の一部に充てたら良からうと云ふことを、或る雜誌に發表したことがありました。今日は都市計畫が非常に重要な問題になつて居りますから、都市計畫實施の財源に充てたならば、借りた人も相當なる財源を得る一つの方法になりはしないかと思ひまして、私一個の意見として申し上げます。

佐藤唯吉君 只今のは數金の意味ですか。

稲葉元邦君 左様です。家賃の數金と地代の數金が約二圓圖に達して居ります。

佐藤唯吉君 私は反對致します。數金は借地人借家人が地主家主に提供したもので、其利益を他の方法に用ゆることは不合理であります。これはそれに對する相當の利子を附して借地人借家人に割戻すべきもので、之を都市に供託して其利益を都市計畫事業に用ゆることは不合理でありますから、私は反對致します。

内山新之助君 財源の問題が出ましたから私も一寸申し上げますが、それは都市計畫法施行令第二十七條の關係であります。官有地は都市計畫事業に對して公共團體に無償供與せしむと云ふことがあります。實際問題となりますと中々いけないのであります。大阪の實例を申しますと、割合に諒解して呉れるのは陸軍であります。陸軍は地上物件の移轉費を拂ひますれば、

其土地は無償供與を許して呉れますが、困るのは鐵道省の官有地と、寺院社寺境内で、これは中々むづかしい。鐵道省の言ひ分は特別會計であるから全然いけなかつて承諾して呉れませぬ。社寺境内で最も困つて居りますのは、或る小さい神社であります。僅か五十坪計りの所ですが、後ろの方に全體の建物に移轉しなければ神社の體面を保てないから、十萬圓寄越せと云ふ申出で、今折衝して居ります。本願寺天王寺に付ても、相當移轉費と云ふ名目で補償して解決して居ります。一面官有地なるが故に公租公課も出して居ないのであります。斯う云ふ事業に對しては此施行令第二十七條の運用が出来るやうに、當局に於て努力せらるゝことを希望したのであります。

佐藤唯吉君 先程一寸言ひ漏れましたが、借地借家人を保護すべき規定を、都市計畫法の中に加へて戴きたい希望であります。例へば今日或る土地を借りる爲に權利金を出した。所が都市計畫の爲に其土地が使へなくなる場合に於て、其出した金は無効になる。又借家人としても同様のことがあります。借地人が土地を借りて家を建てる、そこに數千圓の權利金を出した。所が都市計畫が出来て路線を擴げる爲に家を移轉しなければならぬとか、或は取毀さなければならぬやうなことになる、其出した金は無意義に了りますから、此等を保護する規定を制定して貰ひたいと思ひます。

石田昌平君(都市計畫三重地方委員會技師) 私は町村に於ても都市計畫を希望して居るものが澤山ありますからして、又仄に聞く所に依りますれば近く此點に關して都市計畫法の改正を見まして、町村にも適用せられるらしいやうな噂もありますがどうか速に是が實現を要望するものであります。

座長(池田宏君) どう云ふ形で本省が爲さるか知りませぬが石田君のお話の通り町村にも適用を許す様になるらしく思はれます。其爲に都市計畫中央委員會を成るべく早く開いて、之に諮問すると云ふ事でもあります。其内容は存じませぬが、これは中々大きい問題でありますから、之に對しましてはもう少し具體的に、其法律の案の内容とか、若くは法律の改正を要する點に付て、具體的に斯う云ふことを斯うするのだと云ふことまで、此處で御提案があれば至極結構であると思ひますが、唯ポツナリ町村に都市計畫法の適用を開くやうにと云ふことでは、聊か物足りないと思ひます。

石田昌平君 現在町村と雖も文化施設に於て市以上に進んで居る町村が澤山あるのであります。上水道も下水道も市以上に進んでやつて居る町村があるのであります。

座長(池田宏君) 其點は分り切つて居る事でもあります。都市計畫を町村の場合にはドウするのかと云ふことは、今のお話だけでは片が附かない。それが一番面倒な問題であります。唯獨

立した町、例へば鎌倉とか小田原とか、或はアナタの方の松阪とか云ふ所に適用するやうにして呉れと云ふことは分つて居ります。市丈けでなしに町にも適用するやうにして呉れと云ふ丈けに止まらず、今都市計畫法に入つてない町村をドウするか新町をドウするかと云ふことです。若しも今のやうなことに付て記録でも留めて置くならば、それに付て輪廓丈けでもお示しになつたら、當局のお参考になると思ふのであります。

石田昌平君 只今の座長のお話は、或は私の考へて居る市街地建築物法の適用に却つて重きを置いて居るのではないかと思ひます。都市計畫區域内に入つて居る町村に對しては、當然計畫として都市計畫を進めて行くことが出来るのであります。現在吾々の關係して居る町村に於ても、別に都市計畫委員會などといふものを作つて、内々進めて居る所がありますが、何分にも法的な權威がないので、結局相談倒れになる機會が多いのであります。其點に關して出来るものならば速に御改正を願ひたいと思ふのであります。尚ほ其の點に就て市街地建築物法の改正に多少の意見がありますけれども、今日は其方面は省かれましたから差控へて置きます。

座長(池田宏君) 今の點では市街地建築物法の運用とも關係しますから、此點だけならば市街地建築物法の方に踏込まれても差支ないと思ひます。或る所は市街地建築物法を全部適用する。

或る所は一部適用する。其他の所は全然適用が無いといふ事になつて居る。それが良いのか悪いのか。それは要するに都市計畫法の内容を成す市街地建築物法の取扱方が現状に適して居ないといふ事になる。市街地建築物法は實は都市計畫法と同じやうに翻て宜いものであります。

西村輝一君 只今の問題は都市計畫法を改正する上に非常に面白い問題と思ひますが、此問題に就て御意見があれば成べく私共の参考に拜聴したいと思ひます。若し此處で討議され盡さなかつた場合には、現在都市計畫區域内に在る町村と、其町村が獨立して都市計畫法を適用する場合に於ける都市計畫區域と其町村との關係といふやうな事に就て、適當な方法を以て其意見を市政調査會の方へ、書面を以て、皆様若くは御參會になつて居らぬ方からでも、御意見が出て来るやうになれば非常に參考になりはしないかと思ひます。

座長(池田宏君) 現在のやり方は、御承知の通り此處に一つの市があるとする、其周圍に幾つも接續町村がある、其外方に又多くの町村がある、そこで其接續町村だけを都市計畫區域にして居る所もある、更に廣く其外方の町村までを區域にして居る所もある、さうして其都市計畫區域に就て、内務省の役人と地方廳の役人と、若干の臨時委員といふ府縣會議員等から成る都市計畫委員會が出来て居る、さうして是が都市計畫の事

を一切やらうといふ立場になつて居る。此立て前が今日の儘で承認が出来るか出来ないかの問題である。各個の町村は一つも發言權を有つて居ない。さうして都市計畫委員會が決定した計畫に従つて行かなければならぬ。さうして或る町村には、市に行はれて居る市街地建築物法と同じ市街地建築物法が適用されて居る、さうかと思ふと或る町村には、同じ地帯の内に入つて居つて市街地建築物法の一部しか適用されない、所謂名のみ地域制といふものがあつて、僅に建築線といふものを適用することが出来るといふ、一部緩和の規定が適用されて居る。更に又或る町村には何にも適用されて居ないといふ事になつて居る。斯様な狀態で果して適當であるかどうか、是が今の一番大きな問題である。此點がうまく行かないから、現在の都市計畫法では運用が出来ない、それをどうしたら宜いか。それに對する解決を與へて都市計畫法を改正するのだければ、都市計畫はいつ迄經つても進まぬといふことになる。私が今回の主報告に報告したのは此點を力説せんが爲に其の根本の所だけ提供して置いた、之に對する實際家の御意見を承りたいと思つて、私は唯道案内をして置いた、所が少しも之に附いて來て下さらなかつたことを非常に遺憾に考へて居るのであります。どうぞ之に對しては深き御意見があらうと思ひます。今此席で承る事が出来なくとも、書面で市政調査會の方へ寄せて戴けば洵に幸と思ひま

す。

谷川昇君 今の點に就て私は門外漢であります。が常に考へます事は、折角都市計畫法と云ふ立派な法律が出来ましたが、都市計畫全體の計畫を統制することがない爲に、東京地方に就きましても唯道路網計畫、それから二、三の他の都市計畫事業といふものが指定されただけでありまして、本當に東京を中心とした都市計畫といふものは確立して居ない點があります。殊に今のやうな市街地建築物法との關係が密接でない爲に、折角指定された地域が却つて工業の發展を阻害して居るやうな事例を發見します、でありますから何か一定の機關内に、モウ少し小地方委員會といふやうなものを擴充して、完全な綜合的な計畫を立て、それに就て細目の事項を列擧して、斯ういふ事項に就ては何年内に其地方の計畫委員會は計畫案を獨立して、さうして内閣なり何なり適當な機關の承認を経るといふやうな規定にしたかどうかと思ひます。

座長(池田宏君) 之に就て一寸申して置きたいと思ひます。ことは、實は都市計畫の調査費といふものを、私が都市計畫課長をして居つた時に豫算の案を作つて、それを各地方長官に強制的に各々の府縣會に付議せしめて其儘通させた。随分大きな豫算であると言つて當時知事からやかましく言はれましたが、兎に角私が要求しただけのものは皆通して呉れた。私は實は最

小限度の要求をしたので、決して大きい要求ではない。併し皆吃驚してしまつた。吃驚したのは私が悪いと思ふので、一體斯ういふやうな計畫をするには、所謂社會測量と言ふか、實際の調査を確かりして貰はなければ計畫といふものは立たう筈はない。其基礎的調査に基いて目から都市の發展する方向、都市の發展を促すべき部位、其用途、大綱は如何にすべきものであるかといふ確然たる豫測が附く、そこで初めて都市計畫といふものが出来るのである。相當の費用を投じて何年か掛つて調査した材料を以てするに非ざれば、都市計畫といふものは立てることが出来ないものである。斯ういふので實は甚大な調査費を要求し、又都市計畫委員會に對して一つの會議に技師、事務官、衛生の人も、建築の人も、又法律家も經濟家も入れるといふやうにしてあつた。申す迄もなく御承知の通り、亞米利加あたりでも今の紐育の都市計畫の如きは、千九百二十二年からツイ二、三年前まで、ラッセル・セージ・ファウンデーションといふものが百萬弗以上の金を使つて、今の都市計畫圖といふものを拵へる爲に骨を折つた、漸く八年ばかり掛つて出来上つた。それには亞米利加中の専門家が集まつてやつて居る。そこでやつて初めて成る程と誰でも首肯せざるを得ないだけの豫言が出来る體である。所が日本では、私が僅かばかり取つた其費用もや

かましく言つて縣會が之を削り、市會が之を削るといふ馬鹿な事をして居る。都市計畫の職員は實にひどい目に遭つて居る。私は實に心外に思ふ。さういふ無理難事で都市計畫といふことは出来ないと思ふ。

思はず詰らない事を申上げて相済みませんけれども、どうぞ理解のある皆様、都市計畫委員會といふものと、都市計畫委員會にある職員といふものが如何に大事なものであり、又それにとどれ程の費用を掛けてどれ程の仕事させなければならぬものかといふ事を能く一つ御理解下さつて、都市計畫委員會の職員を擁護するやうにして戴きたいと思ひます。序ながら申上げて置きます。

都市計畫法の改正の中の一番捨て置き難いと思はれる事は、今の町村の方に關係した事柄、モウ一つは土地區劃整理といふものに對して、昨日御視察になつたやうに横濱なり東京が復興をするやうになつた。其基は何であるかといへば區劃整理であつた。東京で言へば、あの七百萬坪からの地面が、坪當り百圓ばかりで、即ち七億の金であつただけの仕事をしました。其基は何であつたかといふと特別都市計畫法があつただけの仕事をさせた。所が特別都市計畫法といふものは、今の都市計畫法には無い規定である。あゝいふ規定をどうしても此際都市計畫法の中に入れなければならぬといふことを私は申上げて置いた。

る。法制自身が飽く迄社會公正の自から代表的になるやうな規定に仕組まれてある。受益者負擔も其考から來て居る。社會公正の維持者と云ふ考である法律を進めて行かなければならぬ。さう云ふ點に付て御意見があらつしやと思ひますから、ドウかさう云ふことを記録に遺せるだけ遺して置きたいと思ふのであります。

内山新之助君 區劃整理の關係に付て最も必要なことは、第十二條と第十三條であります。六大都市に於て廣々會合しまして、區劃整理を施行する場合に於て耕地整理法の第四十三條でありましたか、建物宅地が現在共通的の編入が出来ない。此點を缺點と考へて居ります。先程お説のありました如く、特別都市計畫法に於てはそれを認めてやつたのであります。一般都市計畫法は其點が缺けて居ります。これは土地區劃整理を施行する場合に於て非常に障礙があるのであります。内務大臣の方に此點に對する改正、或は根本的土地區劃整理法の整理をして貰ひたいと云ふことを陳情して居るのであります。斯う云ふ機會に於て會なり團體なりで御促進を願ひたいと思ひます。モウ一つは都市計畫事業として道路を開闢する場合に於て、其經費内は相當買収いたしますが、殘地區域外に於て是は如何なる形であらうと、それは此會でも問題になりましたが、殘地を強制收用するか、收用してもそれだけでは徹底しないのでありますから、

説明はしなかつたが、其問題に對してどういふ御意見があるかといふ事、それから都市計畫の事は、制限々々と言ふ、制限も宜しいが、制限の仕放しではないけない、制限の爲に實害を受ける者があつたならば、其實害を受ける者に對しては相當の補償の途を開かなければならぬ。現在は補償法が無い。すべて都市計畫法に依る制限は警察制限で、たゞ行はれる。人民は黙つて居れば宜いといふ思想で行つて居る。其思想を矢張今でも其儘守つて住つて良いものかドウか。何程かそこに考ふべき餘地があるのではないか。アノ都市計畫法は決して都市の財政を助ける爲に作つたものでない。飽くまで社會公正と云ふ天秤棒に掛けてアノ法規は出來て居る。其制限は都市計畫上必要な制限に留めてある。唯併しアノ勅令はそれを何も説明して居ない。さう云ふやうな所は一方に在つては六大都市の状況が急遽に迫つて來たから、待つに待たれぬ爲に已むを得ず出たものである。今のやうな時勢になるとモウ少し考へなければならぬ。制限したから仕事が行はれると云ふものではない。實害がありとすれば何とか直はしてやらなければならぬ。又實際アノ法律は官僚的のやうでありますけれども中々注意して居ります。建築線は後退して指定することが出來るとありますから、據先は地方官廳の許可を受ければ使ふことが出來ると云ふやうに使用權を認めて居る。正當なりと思ふ權利の使用に付ては認めて居

局的に所謂地帶收用の方法を認めて貰ひたいと思ひます。此點は非公式に内務省と數年前に交渉したことがありますが、未だ解釋が違つて居りまして、路線的に纏つた地帶收用は認めて居るが、全部やると云ふことは財源の關係に於て不可能のやうである場合が多いのであります。さう云ふ場合はワン・プロットでも宜しい。大體に於て其附近は所謂興行の淺い土地が随分ありますから、さう云ふものは隣りのプロットと合せて、宅地と合せて、小さい區域の建築地積が出来れば、非常に宜しいのではないかと云ふやうに思ひますから、此點も御考慮を願つて、然るべく御改正になることを希望致します。

淺川保平君 私は都市計畫法が產れた時の觀念と、今日の社會の實際とは大分懸け離れて居るものがあると思ひます。今日の社會の經濟上の關係、其他種々なる關係が變つて居りますから、隨つて法制其物も變らなければならぬ。都市計畫法の如き、或は受益者負擔金の制度の如き、或は借地借家法の如き何れもさうであると思ふ。それでモット突き進んで現在社會に適應するやうに、此都市計畫法の如きも改正する必要があると思ふ。ト云ふのは一體明治の初年に私共の先輩の作つた所の民法の根本觀念とも謂ふべき、明治社會の構成の基本觀念たる所有權神聖といふことが、今日は可なり變つて來て居る。さう云ふ社會狀態になつて居るのであります。講義的になりますから簡

略に申し上げますが、其當時は所有權を保護することは一國を盛んにする所以であり、又富を蓄積する所以であつて、それが國家の隆盛を來たす途でありました。所が今日は所有權の保護に依つては是れ以上國を繁榮にすることは危ぶなかつた。所有權よりも寧ろ物の利用權の方が國の繁榮を來たす重大なる任務を帯びて來た。先程佐藤駒澤町會議員が申されましたが、議論はありますが私は賛成であります。私は一昨日の會議に於ても申しましたが、私の町に於ても數年前に三百萬圓の地價よりなかつたものが、今日は四千五百萬圓以上になつて居る。そこで町費の負擔の二割ナニガシより土地の所有者は負擔して居ない。さう云ふやうに所有權を保護することに依つて一方に非常に不勞所得を獲らすけれども、其人は之に對する義務を果たすことの出来ない社會狀態である。其不勞所得は過去に於て國の産業の資本であつたが、今日は資本として利用されることが少なくなつた。故に今日は利用權者を主として保護しなければ國家の繁榮は保てないと考へる。都市計畫法が出来て多少所有權に對し制限を加へて來たのは喜ばしい、又借地法が出来て大分制限が出来ましたが、モット進んで都市計畫法が現代の社會の狀態に適應すべく所有權を制限し、利用權を保護する大方針を定めて貰ひたい。幸に内務省の方が來て居られますが、さう云ふ意見を吾々が唱へたことを頭に置いて戴きたい。小さい例であり

ますが私共の方に二十町歩計りの地面を持つて居る地主があります。名前を申すと失禮であるから申しませぬが、其大地主が土地を貸して居ります。所が其地内の下水が氾濫して住民が困るので、私共の町村では下水道を作る爲に耕地整理法に依つて一つの組合を拵へました。さうすると三分の二以上の地主が、價格人員面積に於てそれだけの地主が一致しないと實行が出来ない法規になつて居る爲に、上と下の賛成はあつたが、其大地主の所は何かと言つても賛成しない爲に實行が出来ない。土地の所有權と云ふローマ法王みたやうなものが君臨して居るので、如何ともすることが出来ないものである。最早今日の時代は土地の所有權を制限することが社會の進歩に適應するのである。故に都市計畫法も此重大なる點に付て改正をして貰ひたい。それから先程池田座長からお話がありました、言はれる迄もなく私共甚だ申譯けない話で、私共の方も都市計畫法の部類に入つて居るやうに思ひますが、全く中央に御關係のある方のやることで、吾々の意見が通じませぬから、これは是非吾々の關係町村からも都市計畫地方委員會に委員を入れて戴いて、其意思を代表するやうな仕組にして戴きたいと思ひます。

黒川一治君 私は都市計畫法と云ふものを、大都市に適用するものと小都市に適用するものと別けて貰ひたいと思ひます。必ずしも法律を二つにする必要はないのでありますが、申すまで

もなく大都市と小都市との違ひは、量の問題でなく質的にも違つて居ります。それに伴つて色々やる仕事の方法も違つて來るかと考へます。

例へて申しますれば、道路網の決定を致しましても、大都市で發展の著しい所であつたならば、決定と同時に、何時までに執行しなければならぬといふ事まで決めたい、若し小さい都市で必しも著しい發展を見ない、唯將來の基礎を示して其市の財政の按配に依つて執行して行つて宜いといふやうな所は、必しも年限を限る必要もなからうと考へて居ります。

其他委員會の組織にしても、或は課税權の問題にしても、いろ／＼違ふ所が澤山あるだらうと考へますので、市街地建築物法が所に依つて其適用をしない條文があるやうに、都市計畫法中にも大都市と小都市といふものを別けて働かせるといふ意味の改正をして戴きたいと思ふのであります。

座長(池田宏君) それからだん／＼御討議の中に現はれては居つたやうですが、都市計畫の統制力をモット持たせるといふ事に就て何かお考があるならば、やはり此際記録に留めて置きたいと思ひます。

西村輝一君 只今のお話に就て、無論私は其點を年來高唱して居る一人であります。そこで私は都市計畫法の第一條に下されて居る定義をいろ／＼に解釋して居るのでありますが、一番

最初の立法に關係された池田さんの御教示を仰ぎたいと思ひます。如何にも都市計畫法の運用が悪いと言ふか、統制が悪いと言ふか、申す迄もなく都市計畫法の前身とする市區改正條例時代の統制といふものは、實に微に入り細に涉つて統制が行はれて居つたやうに思ふ。其統制に對して進歩したる効果を窺はさねばならぬ都市計畫法になつて、其統制の力が非常に鈍つて居るのは、運用する者の罪かも知れませんが、兎に角結果に於て統制を缺いて居る。そこでいろ／＼の會議等に於て都市計畫法に依つて決定したる事の力に就てよく質問を受けます。決定をして置いて拘束力があるのか無いのか、決定した儘で人が用ひないといへばそれだけで宜いのかといふやうな、極端な質問があつた。それに對して私は、天下の法律である、決定した事の效力は何等争ひのあるべき筈はない、併し都市計畫法には強制力はない、之に違反した人を罰する規定もなければ又直接執行する規定も無いのである、斯う答辯をしたこともあります。それに就て第一條を見ると、交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ亘リ施行スヘキモノヲ謂フ」とありますから、私は之を斯う解釋して居るのであります。苟も交通、衛生、保安、經濟等に關する永久的の施設であつて重要な施設は、すべて都市計畫であるといふ事が言へ

るのである。さうしたならば交通の問題でも衛生の問題でも、苟も都市の永久の福利を増進し、永久の利害に關係のある重要な施設といふものは、すべて都市計畫でやらなければならぬ。此定義に該當する仕事をするものであつて都市計畫法を適用しないのは法律違反である。斯ういふ事から一つ統制する力を出して見たらどうかといふことを、書いて見たらしたのであります。第一條をさういふ風に當然解釋して、各官廳の行動を繩束することが出来るのであると解釋することが出来れば、此法律の改正問題は起らないのでありますけれども、若しそれが怪しいといふならば、第一條をモウ少し力強いものに改正しなければならぬと考へるのであります。

それから先刻の内山さんの御意見の、建物ある宅地を土地區劃整理に強制編入の規定を置きたい。現在の特別都市計畫法にはあります。併し特別都市計畫法は復興事業の完成に伴つて餘り残らざる間に廢止の運命になるものと想像して居ります。是が廢止されても普通の都市計畫法の方に此規定だけでも入れたいといふのは勿論内山さんの御意見に賛成であります。唯私は豫て此事を考へて居つた關係から強く主張して置きたいと思ひます。私は特別都市計畫法が出来たまで、是亦法規の改正をせずして、建物ある宅地を土地區劃整理の區域に編入することが出来るのではないかといふ疑問を捏ね返して居るのであります。

す。それは成る程耕地整理法にはさういふ強制編入が出来ないといふ規定がある、けれども耕地整理といふものは、耕地を整理する事を主眼として居る法律なるが故に、建物ある宅地を例外に置いたのである、都市計畫法に耕地整理法を援用してやるのは、ホンの手續とか方法を援用しただけであつて、都市計畫法の上に於て區劃整理を實行するといふのは、元來の目的が土地の宅地としての利用を増進する爲であるから、耕地整理法の規定は援用して居つても、其主眼とする所は自から宅地の整理なるが故に、宅地に建物のあるのは當然の話である。建物の無い宅地といふものは例外である。現在無くて将来建物が建てられるといふ事を豫想しての地目である。其宅地を整理することを主眼の目的とする區劃整理といふものに、建物ある宅地を強制編入が出来ないといふならば、それは訝しな話である。斯ういふ規定は改正せずして、モウ當然區劃整理には建物のある宅地を強制編入することが出来るのだといふ解釋を發表したこともあります。所が帝都復興事業が始まる時分になつて、池田さんあたりは當時帝都復興法といふものに就て御心配になり、私共もいろいろ走り廻つて居つたのであります。だん／＼と法規の制定の沿革が、歸する所は特別都市計畫法といふものになつた。其中に初めて、建物ある宅地が土地區劃整理區域に強制編入することが出来るといふ規定を置かれたのは、即ち其規定を

置かなければ現行法制の下に於ては強制編入することが出来ないのだといふ事を前提としたものであると、相場がきまつてしまつた事は、甚だ私は其點には異存があつた。さういふ規定を置かなくても出来るのだといふ解釋を自分だけにして居つたのであります。斯ういふ理由の下に内山さんの主張には全然賛成するといふことを申して、次の法律改正の時分には是非斯ういふ問題を入れて載きたいといふことを一言して置くのであります。

座長(池田宏電) 都市計畫法の統制といふものは、都市計畫法の適用直後には確に行はれて居つた。それから、何年か經ち都市計畫課を守つて來て居る人がだん／＼變るに従つて、今西村君の言ふ通りスツカリ蠶食されてしまつた。御承知の通り東京市區改正條例といふものがあつた時分には、市區改正設計、即ち今日の都市計畫といふものは、何人も法律だと思つて居つた、法律より強いものだと思つて誰も疑はなかつた。其根據は何であつたかといふと、市區改正條例の本文に、營業、衛生、防火、通運の爲に施設する爲に此條例を出すといふことが書いてあつた。法律の條文ではない、法律の前文である。唯それだけの目的を書いてあつた。それで市區改正の設計といふものは委員會で議定して内閣が認可した設計といふものは法律だと、誰も彼も信じて居つた。此思想といふものは新しい建物を建て

都市計畫法が出て運用されると、どうも怪しくなりさうだぞと私は思つたから、そこで都市計畫委員會といふものの中に、内務省の市區改正の頭腦で養成された人間を常設の委員のやうに入れた。さうして其者は各都市計畫委員會に臨んで、此設計といふものは法律だぞといふ精神を、委員諸君を通じて市民に持たせるやうにといふ積りで、あの都市計畫委員會の中に、内務省の高等官を一人――それは即ち市區改正といふもので育つた人間を入れた譯である。其人間が即ち私であつた。私は所謂大都市の都市計畫委員會に常に委員となつてそれを主張した譯です。そこであの當時は何處の委員會でも、やはり第一條にあるやうな目的の爲にする施設計畫といふものは、法律に依つて執行力を持つべき計畫に關係あるものは、皆委員會の議を経なければならぬといふ事にしてあつた。それで運用が出来て居つた。それがまア今日行はれなくなつたといふ、それに就ては誰に責任があるか、其責任の糺纏をする必要はないと思ふ。是は種川さんの仰しやる通り時勢の變化かも知れませんが、若し時勢の變化がそこにあるといふならば、其統制力を持たせるだけの用意をして置かなければならぬ。私は舊の市區改正條例の形と今日の都市計畫法の形を比べて見ると、強制力は一層強くなつて居ると思ふ。法律が執行すべきものを計畫だと言つて居る。それは法律であるに違ひない。即ち市區改正條例時分の慣行法

といふものを、法制の上に於て執行力を持たしたのが今の都市計畫法だと思つて居る。法制の上に於て強くなつたに拘らず、それが今西村君の言ふ通り統制力が無くなつて來て居るといふことは、何としても捨て置けぬ。どうしても統制力を持たせるやうに考へなければならぬ。それならば、どういふやうにしたら統制力を持たせることが出来るか、是が今日の大きな問題だらうと思ひます。

岡崎則實君(東京府駒澤町技師) 耕地整理法に依りますと或る種の官有地は無償で收用が出来るやうになつて居るのでありますが、水利組合法に依りますと用水組合の水路は如何ともすることが出来ないであります。斯の如きものは土地區劃整理をするに非常な妨げになるのであります。當該水利組合の承諾がなければ如何ともすることが出来ないでありますから、今度改正になりますならば右關係法規の改正も必要であります。それと共に都市計畫法で水路の如きも其目的を阻害しない限りは、自由に改良の出来るやうな條項を設けて戴きたい希望であります。それから市街地建築物法に依る事柄であります。幅九尺以上の境界ある道路は總て建築線になつて居る土地であります。警視廳のお取扱は規定線になりましたものが建築線でありながら、唯漫然たるお取扱ひのやうであります。明確なる家屋の建築線を發揮しないで、唯許可する場合は出願者の

願ひをする儘に任かして、其條件は工事着手の際までと云ふ期限を切つて許可するやうであります。それから事業線になつたものは工事着手の時は無償で提供すべしとなつて居ります。東京府の實例は建築線になつて事業線にならないものは、相當補償を拂つて居られますが、駒澤町の都市計畫道路の如きは東京都市計畫のやうに數十日の間に完了すべきものでなく、十年十五年の後に完了するのであります。現在に於ては建築線を應用したいと思ひますが、取締が出来ないので年度割を極めて、事業線に付ては土地區劃整理の組合が設立してからでなければ實施が出来ないのでありますから、官報で告示があつた以上は家屋其他の建築物は、總て無償で提供するやうな條件を附して貰ひたい。これは市街地建築物法の施行細則を改正しなければならぬと思ひますが、出来るならば或る機會に、さう云ふことに願ひたい。

座長(池田宏君) まだお話もあると思ひますけれども、一ト通り二と三に入つて、尙ほ時間がありましたならば又第一に還つて何ふことに致しまして、是より第二の問題に移ります。――街路交差點に於ける交通輻輳對策に關する意見――

柴谷善次郎君 現在の交通の混亂に直面致しまして、私は路面電車の停留所などは出来る範圍に於て安全地帯を設けて戴きたいと思ひます。同時に其場所を横斷道路として、それに私

の主張して居ります全國的同一の標識を附けて戴きたいのであります。話が盡くされて居りますから簡単に申しますが、現在の路面には多數の自動車が行つて居りますが、之に對して路面電車は大家を運んで居りますので、一昨日二部會で岸さん提案の路面電車の優越權を認むることに付て私は賛意を表して置きましたが、路面電車に乗つて居る人に優越權を與へることを必要と思ひます。それから横斷道路であります。これは若し外の鐵道であるならば、踏切以外に誰方も横斷されませぬが街路に於ては道路になつて居るが爲に、自動車も一般通行者も横斷して居りますが、斯の如きは交通を妨害して同時にスピードを出させぬから、横斷箇所を限りたい。さうすると其人達を保護することが出来るのであります。現在斯う云ふ場所に交通調査がお立ちになつて居りますが、雨の日とか夜間には退いてしまふ。此事が交通事故の原因になつて居ります。これはやりまして以上は徹底したものでなければいかぬと思ひます。雨の日と天氣の日と違ふとか、晝と夜とで違ふやうでは、完全に民衆を訓練することが出来ませぬから、固定した標識が要るのであります。これが全國的の標識でなければならませぬ。所で之に對してどうしても踏切場所に完全なるものをお望みにになりませけれども、完全なるものは到底全國的に實行が出来ない。經濟的關係もありますから、複雑なる標識は實際問題として實現

が困難であります。それで簡單なもので良いと思ひます。鐵道線路の踏切に遮斷器がありますが、下りて居るときは通つていけない、上つて居るときは通つて良いと云ふのであります。踏切番人の居るときは宜しいが、時間が來て番人が歸りますと遮斷器は上つた儘である。通つて良いと思つて通はると其時に能く事故が起るのであります。鐵道事故の多いのは踏切番人の歸つた後が却て多いのであります。遮斷器は必要であると同時に、そのあることが又交通事故の原因になつて居るとも見られるのであります。斯う云ふものを置くならば徹底的に置く、置かないならば寧ろ取つた方が良い位のものであります。それで標識の如き晴雨晝夜に拘らず通行人をしてイッ注意を促し、全國的に、且つ固定的に而も簡單な標識にして戴きたいと思ふのであります。

座長(池田宏君) 笠木君、御職務上お差障りのない範圍で御意見を伺ひたいのです。

笠木嘉一君 今日には聴く丈けに止めるやうに特に話もありましたから……

座長(池田宏君) 丁度警視廳のお方が總監の命を受けてお出でになつて居りますから、總監に聞えるやうに何でも仰しやつて下さい。

内山新之助君 交差點は申す迄もなく兩方の街路の集まる

所でありますから事故が起る。殊に時間的に輻輳するときに最も邪魔になるのは右廻り交通であります。左廻りの交通は支障がないのであります。それでラッシュ・アワーに於ては之を禁止した方がよいのではないか。其間は右廻りの方法を他の方法に依つて目的地に達せしむることにしたら良いのではないかと思つて居るのであります。

近藤三郎君 街路の交叉點に就いては御意見がございましたが、概して現在起つて居る、或は極く近年に起りさうな混雑を目撃とせられての意見が多いやうであります。私はズツと將來の都市に對する施設といふ見地から、モウ少し高遠な希望を申述べて見たいと思ひます。

其一つは、都市計畫街路の主要幹線、或は五車線以上の道路——幅員にすると約二十五メートル以上の街路の交叉は萬難を排して出来るだけ高低交叉に直すといふ計畫を以て進みたいと思ひます。

それから横断歩道の問題に就ては午前中に申上げました、それに對して先程内山さんから、あの方法は宜しいと思ふが、唯廣い面積を要する、地價の高い街角を剪つてしまふといふ困難があるから、其點がどうかと思はれるといふ御意見の發表がありました、是は固より例へば大阪に致しましては財政窮乏の折柄、最も敷地の高い街角の土地を街路敷に取つてしまふといふ

ことの困難を申述べられたのだと考へます。それならば大變御尤の御意見であります。それに非常に類似して全然違つた御意見が時々耳に入ることがあります。それは街角の土地は非常に貴重な土地である、それを剪つてしまふことは全體の經濟として宜くない、斯ういふ御議論があるやうであります、之に對しては餘程警戒をして、胡麻化されずに考へなければならぬ問題だと思ひます。それは街角が何故元來土地が高いのかといふと、四通八達の場合であつてどちらに行つても交通至便の所であるといふので、初めて地價が上つて居る、土地の貴重な所以がそこに在るのであります、交叉點の混雑を少くする、交叉點をより良いものにするといふ事の爲に土地を取つてしまふことは大局から見ても決して悪い事でない、寧ろさうする事に依つて剪り残された其附近の土地の價値といふものは倍々昂上するばかりであつて、結局トータルに於て依然として良くなる一方だと考へて居ります。外國の大都市に於ては東京、大阪などと雖を異にして、既に街角には永久的の建物が建つて居るので今更これを奈何ともすることが出来ないのであります。先程内山さんの御説のやうに、例へば右廻りの車の通行禁止といふやうな窮屈な規定も、窮餘の一策として生れて来る譯だと考へますが、日本の現在の都市に於ては、貴重な街角と雖も未だ永久的の構造的建築物が建つてしまつた所は、全體として見れば

確かだと考へます、本意の家屋ならば壽命は知れたものでありますから、此際計畫としては——土地の買収には多額の費用を要するのであります、街路全體の交通の便利を良くし、キヤパシティーを増加するといふ建て前から、木造家屋の建つて居る程度の街角は萬難を排して、少しでも街角の混雑を防止して街路全體に於て價値を昂上するといふ方針で進みたいと考へて居ります。

それから話はだん／＼細かくなりますけれども、横断歩道の出入口と地下鐵道の出入口、是は強ち將來の問題でなく、恐らく既に當面の問題であります、是は概ね街角に築造せられ易いので此機會に申述べたいと思ひます。此二つの出入口は、孔のあいた部分だけ、一番大切であるところの街角の人道の有効幅員を殺ぐものでありますから、必ず是は歩道敷外、つまり建築線内に取らしめるやうな方針で進みたいと思ひます。固より特別の場合歩道に或はアイランドに特別の餘裕ある場合は此の限りではありません。

それから電車の安全地帯を取れといふ御主張がありました。是は固より異議の無いことではあります、之に關して一寸申述べたい、例へば銀座尾張町の交叉點を好例として取つて見たいと思ひます。銀座通りは元來十五間道路でありまして、軌道敷を除きまして、片側の有効車道の幅員が三間（十八尺）であり

ます、自動車一車線の幅を九尺と見れば完全に二車線の幅員を有つて居ります、恐らくあれは昔の設計であります、少くとも軌道敷を除いて二車線以上の交通のキヤパシティーを有たせる意味の設計であつたらうと思はれます、それだけの幅員が全延長を通じて取つてありますから、さうなければならぬ筈であります、彼處に電車の安全地帯を車道の方へ喰込んで取つてあります、勿論それより外に方法がありませんが、其爲に残りの車道は二臺の自動車を並列するに足りません、それが爲に自動車が一列にしか並ぶことが出来ない、結局全街路の咽喉を擯つて居る所の交叉點でたつた一列しか並ばれないので、銀座通り日本橋通りを通じてあの全體の長い街路の能率といふものは半減して居ると斷言が出来ると思ひます。就ては安全地帯は絶対に必要のものであるから取るのは宜しいが、安全地帯を必要とする場所の車道は、それだけの幅員を少くとも餘計に廣く取る即ち車道を歩道の方へ喰込み、歩道は更にそれだけ建築線の方へ喰込む、斯ういふ方針を原則にして進んで行きたいと考へて居ります。

更に同じく銀座通りを思ひ浮べて戴けば能くわかると思ひますが、彼處は乗合自動車が通つて居ります、市電のも會社のも通つて居ります、先程申したやうに交叉點の車道幅が狭いのでバスの停留場を電車停留場のズツと後方にしか許し得ない状態

であります。是は乗換の點其他あらゆる點から申して非常に不便であります。元來さうあるべき性質のものではないと思ひます。それで先程申した車道の安全地帯の設置に伴ふ車道の擴張の外に、更にバスの停留餘地として一車線、先づ三メートルの路幅を、角剪りではありませんが角剪りの一種と申しませうか、更に取ることを主張したいと思ひます。

黒川一治君 交又點の交通混雜を防ぐ爲めの資料として申上げたと思ひます。方法は地下と地上でどう整理するかといふ二通りあると思ひますが、地下の方は描きまして地上の整理であります。素人考としては、只今の近藤氏のお話のやうに街角を大きく剪るといふことは、却つて事故が多くなりはせぬかと考へるのであります。寧ろ私の考としては、大都市の交又點は普通よりも街角を小さくした方が宜いと思ひます。是は決して經濟上や何かの理由ではなくして、街角が小さければ曲る自動車は速力を緩めて來ますから事故が少くならうと思ひます。唯歩行者の横斷との關係であります。それはやはり近藤氏の言はれたやうにアイランドを設ける必要がありますが、それは街角の所でなくモウ少し引込みまして、是は街角を小さく剪ればさうひどく引込むことはないと思ひますが、少し引込めて二箇所位造つて置いたらドウか、一番見て居つて危險を感じるのは、廣い街路を横斷する時、老人や子供がこちら側から

向ふ側まで行くのに、普通の人より時間が餘計に掛る、其間に今まで交通を停めて居つた方向に進め」の信號が出て、自動車などがビュッと走り出すといふ場合に非常に危險を感じる、さういふ所に適當に二箇所位の島を造つて置く、さうして街角は寧ろ大きくなく、現在やつて居るよりも小さい位にした方が危險が無いではないか、是は素人考であります。サウ考へます。

座長(池田宏君) それは併しどうですか、交又點の所は事故を輕くすることも無論必要だけれども、事故を輕くする事だけではない、交通を滑かにして行くといふ事が、車の爲にも人間の爲にも要求される譯である、同時に安全といふことになるのであつて、唯事故を少くする爲だけなら街角が狭いと自動車は勢ひ緩行しなければならぬといふ事が宜いかも知れんけれども全體としてはどうでせうか……

黒川一治君 街角で速力を緩めることはそれほど交通を阻碍しないと考へます。

近藤謙三郎君 一寸申上げます、先程申上げた積りでありますけれども言葉が足りなかつたと思ひます。私は先程、曲りに對して六メートルの半徑を與へるといふことを申しました。是は大型のバスに對しては、最小限度の半徑で、それより以上銳角な曲りを附けるといふと、それに沿つて車が曲り得ないといふことになりますから、六メートルは標準にせられて宜くはない

かと思ひます。六メートルでもそんなに高速度では到底曲れません、其意味も既に相當含まれて居ると考へます。

間崎剛賢君 先刻近藤技師から街角剪除のことに就て詳しく承りました。洵に結構と思ひますが、道路のインターセクション・ポイントの所で、内外ともカーブを取るといふ御方針のやうに拜聴しました。是は理想として洵に宜いことで、さうしたいと思ひます。又道路の經濟から言つてもカーブを取る方が宜いのであります。唯住宅としましては、混雜土でもさうであります。木造建築ではカーブにすることが出来ないものでございまして、住宅地としては非常に希望しない事になります。爲に、土地區劃整理などを獎勵する上に非常に困難があると思ひます。是は角の餘り強くない屈折點だけはカーブでなしに御座置たいと思ひます。是は特に地方委員會の方に希望を申述べて置きます。それからモウ一つは、交通に關することございませぬが、最近土地區劃整理の實施認可に際し公園數地として二%以上の敷地を取つて置かなければ、今後認可しないと云ふやうなお話がありました。至極結構でございしますが、土地區劃整理を確實にやらせるには嚴格に仰しやると却つて出来ないことがあります。當分の中は嚴格に御履行にならないやうにして、出来る限り公園敷地を取ると云ふことに願ひたいと思ひます。

座長(池田宏君) 歩車道境界線のカーブですから、建築線はカーブにしないでも宜いのでせう。

近藤謙三郎君 座長の言はれる通りです。其外街路の屈曲に付ても別に意見がありますが他の機會に申上げます。

内山新之助君 土地區劃整理に就ての公園豫定地問題が出ましたが、御參考迄に大阪市の意見を述べます。大阪市の於ては公園の保留地を内務省で大體三%を用地として取ることに會議で決定致しました。先程二%と云ふ東京でのお話が出ましたが大阪では三%を標準として決定致しまして、其後は三%を取つて置かなければ許さないことにして居ります。補正の方法としても甲と乙との割合を増減することは困難でありますから、おやりになるならば既定の方針で進まれた方が良からうと思ひます。一寸御參考までに申します。

佐藤唯吉君 只今土地區劃整理の公園地保留問題に付お話がございましたが、私はこれは餘り嚴格にやらない方が良からうと思ひます。それは何處迄も之をやらせる方が良いか、やらないで時機を待つ方が良いかと云ふ二つの問題を提供致しますとマツクともやつた方が良いと思ひます。去り乍ら餘りに多くの地所を潰し、又費用が非常に掛りますと云々整理計畫を立てないのでありますから、保留は餘り嚴格におやりにならないやうに願ひます。駒澤町では二つ三つ計畫が立つて居りますが嚴

格にやつたものはイッ實行するか分らないのであります。兎に角やらないよりはやつた方が宜しいのですから、百年の大計を立てる時には理想的にやらなければならぬが、實行不可能の場所もありますので、多少の餘裕を見て、土地の状況に應じて許されることにして戴きたいと考へます。

座長(池田盛君) 御承知でもございませうが、獨逸あたりでは日本の都市計畫法のやうなものに相當するのが街路線法といふ法律、其街路線法で街路と小公園の開設の爲に區劃整理法のやうな事をして居るのであります。街路と小公園の爲に一定の計畫を立て、其計畫の通りに實行する爲に、其計畫に當つた所には建築をさせないと云ふ規定になつて居りますから、彼處では内務大臣の一訓令で、假令街路小公園或は街角と云ふやうな事になつて居るけれども、其規定はモット廣範圍に使つて公共の利用の爲にする施設に必要な計畫も、此法律の運用として矢張り度今内務省で三%だけは取除けさせることに條件として、それを承諾しなければ許さないやうな筆法で強行して居ります。兎に角それをやり出したのが千九百八年であつたかと私は記憶して居りますが、千九百八年に普魯西の大臣の訓令で、法律にないやうなことでやつてドン／＼出来て居る次第であります。一體さう云ふ事が善いか惡いかは別問題として、私は斯ふ云ふことをするのに、一方に補償法が立たなければいけな

いと思ひますが、民衆の權利思想の盛んな所でもさう云ふやうにしてやつて居ります。それで是非は郊外に居らるゝ方は、外國ではそこ迄やつて居るのだと云ふことを頭に置かれて、成るべく三%位で済むことならば、喜んでやられるやうにしたいと思ひます。

佐藤唯吉君 御尤でございませう。三%でも取つて公園敷地にすることは結構であります。土地を持つて居る者は、それでは土地の現状に於て其計畫を立てることを躊躇するのであります。若し土地が東京市とか大阪市とか云ふやうに人家の密接して居る所でありましたら、強制してもさう云ふやうにしななければならぬかと思ひますが、駒澤の下馬でも今計畫して居りますが、これだけは是非取らなければならぬと云ふことになりますと、そんなに金が掛かるならば人家の殖えるまで待たうと云ふことになりまして、さうなるとイッ實行するか分りませぬ。やる方が良いか、やらない方が良いかと云ふことになりますと無論やる方が良いたならば、三%取るの、二%取るのと云ふことになしに即時斷行の出来るやうにしてやつて貰ふのが最も理想でないかと思ひます。これはお役人の考へて居るやうにすれば仕事が遅れる。攻撃するやうであります。矛盾撞着も甚だしい。東京に来て見ましてもアツチもコツチもひつくりかへして始終道路を掘返へして居る。非常に經費も無駄に費やして

居ることは皆さん御承知の通りであります。官吏が餘り理想に走つて人民の負擔に付て頭に置かない。唯取締なら取締、交通なら交通と云ふことに頭を置いて居るが、一般に廣く頭を置いたならば斯う云ふ事はないと思ふ。然るにも拘らず理想を實現せんが爲にむづかしい事を言つて居るから却て長くなる。それでありましてから駒澤の如き所は二%とか三%とか云ふことになしに即時斷行の出来るやうに、さう云ふ點を深く考慮の中に入れて戴くことを私は切に希望致します。

櫻本 徹君(東京市政調査會研究員) 只今警視廳の交通取締規則には交叉點に於てはなるべく車馬の右折を避ける様にとの規定があるとお話がありましたので一寸申上げますが、交通取締規則には「參考資料」にも示してあります通り「ナルベク」とか「濃リニ」とか「輻輳地點」とか「交通頻繁ナル場所」とかいふ様な意味の語が多いのであります。斯様な曖昧な語は今後使用することを避けて、禁止の必要があるならば時間的に又地域的に明確に定める様にしていただきたいのであります。

次に、内山氏の推奨されました右折交通の禁止と云ふことは經濟上にも有利ではなく、禁止さるべき地帯の街廓の數或は街路の長さに於て最大限度があるものと考へられます。特別の場合に於てのみ採用せらるべきであらうと思ひます。

最後に、街角削除の問題であります。之については先程半徑

六米の曲線で歩車道境界線石線を定めるのがよいとお話がありました。之は既に古くより多くの人が自動車交通に關聯せる此の六米半徑の曲線を推奨して居ることであり、一例として「都市問題」の十月號に紹介して置いた街路交叉點に於ける交通問題研究の權威であるスワン氏の考へと軌を一にして居るものであります。併し街路が直角でなく斜めに交叉して居る場合には、六米半徑とするよりも一層よい方法がありはしないか、此の點について近藤さんの御意見を承りたいと思ひます。

近藤三郎君 斜の場合は非常に困ると思ひます。斜の場合にはより良い方法が無いと思ひます。直角交叉の場合は非常に工合が好い、それが爲に私は、主要幹線街路の交叉は或る程度以上に銳角に交るものを避けるといふ方針を確立してはどうかといふ考を有つて居る位であります。斜の場合は交通整理上非常に工合が悪いことになりました。

櫻本 徹君 あつた場合にどうするかといふ話であります。實は此問題に就て一つの方法を或る論文のアブストラクトだけを讀んだので、原文を見ない爲め其方法の理論は判りませんが次に其方法を御紹介申上たいと思ひます。

是はアメリカのスワン氏とタツトル氏の意見の發表であります。第一に街路が直交する場合は半徑二〇呎の曲線にて街角を形成

する——即ち先程の六米半徑に相當するもので「都市問題」十月號に示しました例の $\sqrt{1449}$ の式によるものであらうと考へます。

次に街路が九〇度以下の角度にて交叉するときには、九〇度以下その交叉角度に至るまでの一度毎に一・六時の割合にて二〇呎より減じたるものを以て半徑とした曲線で縁石線をつくり又街路が九〇度以上の角度にて交叉するときは、九〇度以上その交叉角度に至るまでの一度毎に〇・二七呎の割合にて八・二八呎に加算したるものを external distance (アプストラクトに external secant とあります) とする曲線にて縁石線をつくる様にと提案してあります。勿論此の場合でも、三〇度以下(又は補角が一五〇度以上)にて交叉する様な街路交叉をつくらぬ様にとの注意はしてあります。以上一寸御参考までに申し上げます。

座長(池田宏君) それでは第三の問題——受益者負擔金義務者の範圍に關する意見——を御述べて下さる様願ひます。

佐藤唯吉君 受益者負擔金義務者に就ては一昨日もお話がございましたが、無租地には全部負擔せしむることが必要ではないかと思ひます。

東後三郎君 都市計畫福岡地方委員會事務官) 受益者負擔金の義務者に關しては、六大都市と他の中小都市とは非常に事

と思ひます。

座長(池田宏君) 今の東後君のお話は、六大都市と他の都市は違ふからといふので、主として中小都市のお話ですが……

佐藤唯吉君 中小都市にしても同じではないかと思ひます、

成る程地方に参りますれば、東京や大阪のやうに澤山の權利金を取つて居る所は少いでありませう、随つて借地人や或は借家人といふ者が負擔をさせられるといふ事は苦しいでありませう、であるから今のやうな問題が起つて来る、そこで評價委員會といふものを設けて、其評價委員會は都市計畫委員會委員、又其地方の地主の幾人、或は借地人の幾人といふものを評價委員にしてやつて行けば、茲に地主對借地人といふ唯二人きりの關係でなく、大勢の者の意見を徴して行くから公平な評價が出来て来るのではないか、して見れば六大都市以外の都市であつても、やはり借地人地主を加へて、若し借地人には何等の利益が無いのだといふ主張が通ることになれば、負擔をしなくても宜いといふ理窟になりはしないか、であるから評價委員會の設置といふ事は極めて重要な問題ではないかと思へます。是は六大都市は無論の話、他の小都市にも必要ではないかと思ひます。

座長(池田宏君) 評價委員會を設置するといふことは非常に良い事だらうと思ひます、堀切君も言つて居られる通り私も至極賛成であります、殊に今の時勢には最も適した事であらうと

情を異にすると思ひます、小都市に行けば行くほど、借地權の觀念といふものは非常に薄弱なものである、随つて東京或は大阪方面に於て非常な好成绩を擧げて居る所謂地上權者なり占有權者に賦課するといふ事が、果して田舎まで完全に行はれ得るや否やといふことに就ては、若干疑問を持つて居ります、現に久留米市で、道路法に依る受益者負擔規定を設けるのに如何にしたら宜いかといふことを市長から相談を受けましたから、大體斯ういふ制度にしたら宜からうといふので案を作つて、市會に提案した所が、地上權者といふことに對しては餘り歡迎されない、さうして専ら土地所有者に課けようといふ議論が多いのであります、併しながら段々社會思想の變遷から申しまして地上權者を主體としなければならぬ、或は又其利益の程度に於て地上權者と土地所有者と兩方に負擔させるといふ事は當然であります、法律或は規定の建て前はさういふ風にして、尙ほ之を中小都市に適用する場合には、地主と其地上權者と協議をして、協議が纏まつたならば其何れでも宜いから納付するといふ協議の餘地を存するやうにしたら如何かと思ひます。

佐藤唯吉君 私は午前中に、受益者負擔義務者の範圍に就て意見を述べましたが、只今のやうに協議をしてやるといふことではなか／＼各々利益を主張して協議が纏まらないと思ひます。茲に於てか地價の評價委員會といふものを設ける必要があ

思ひます、どういふ組織になるかといふことは問題でありますけれども、斯ういふ機關があるといふことは最も望ましい事であらうと思ひます。

佐藤唯吉君 駒澤町の土地區劃整理の一例を申し上げます。駒澤町に於て耕地整理として區劃整理をやりましたのは、極く僅かの部分であります、私は其處に住居して居るのみで一坪の土地も有して居らない、それで駒澤地方の地主は、進歩した施設といふ事に就てはあまり力を注がない、唯監督官廳の事務の取次をして居るに過ぎない、唯今までの事務の慣例に基いてやつて居るに過ぎないといふ状態である、併し段々發展して來たのであるから、道路系統も定めなければならぬ、下水も拵へなければならぬといふ所から、更に角自分の居る所から一つ土地整理でもやつて範を示したらどうかといふ考から、東京府の方に色々御厄介になつて發起致しました、所が其當時の町會議員とか區長といふやうな、土地を有つて居る者は殆んど反對致しました、それで私共は法律の許す範圍に於て相當の賛成者を求めて、發起した以上は強行してもやらなければならぬといふ考から、東京方面の人で土地を有つて居る方々の賛成を求めました、所が東京方面の人は斯ういふ風に發展した現狀を見て居りますから、どうしても土地區劃整理をやらなければならぬといふ事を御了解なさつて居る、悉く賛成して下さいました。

其賛成者を集めると法定数を超過するやうになりましたから、それで強行するといふことになりました。強行されては仕方がないからといふので、又仲に入る者もあつて、反對した者も圓滿にやることになつた、そこで反對した人達を評價委員に餘計入れて、整理前の評價と、整理後の評價といふものをやらせた。非常に圓滿に旨くやつて、近く解散すると云ふやうな状態になつた、土地を持つて居るやうな關係のある者が入れれば旨く往きますが、役人さんが入れれば旨く往かない。それで町村長、町會議員の何名かを委員會に加へる必要があるものであります。さう云ふ状態でありましてから都市計畫地方委員會等と重複しませうが作つた方がよいと思ひます。

座長(池田宏君) 他に此第三問題に付て、今迄に討議に現はれなかつたやうなことで、御補充になることはありませぬか。若くは特に現はれた事で甚だ不都合だと思考になるやうなことはありませぬか。

佐藤唯吉君 幾度も言ふやうですが、昨日汐見先生のお話の他の公課といふことで、土地増價税と云ふ他の公課に依つて取つたらドウかといふやうに私は拜聴致しましたが、賽前にもそれは分離して考へなければならぬと申上げました。併し若し地租條例が近く改正されないとしたならば、矢張り土地増價税に依つて取ることが至當でないかと思ひます。

座長(池田宏君) 其點は誰も異存はあるまいと思つて居ります。——若し他にございませぬければ、これで一應、大變な賑足でございますけれども、大體三に對する御討議は終つた譯になります。最後の都市問題會議に對する御希望の中で、何としても是丈は黙つて置けないといふことを、今回の會議の御經驗から一二承ることが出来れば結構と存じます。尚ほ茲で御參考に申上げますが、先程總會で以て御選定になりました理事のお集りの結果、總會は再來年名古屋で之を行ふことになりましてから名古屋の市長も喜んでお請けをしたいといふことになつて居ります。是丈を一寸御報告申上げます。

西村輝一君 整理が附いて居りませぬけれども、先程現はれました御意見を、前後するかも知れませぬが場所と時期の問題は今の話でお極まりになつたやうであります。來年のイツ頃かと云ふことに付てお極まりになつたでせうか。

座長(池田宏君) 再來年と云ふことになりました。併し名古屋の事情で、理事會の議を経て繰上げる必要があれば、繰上げることになつて居ります。

西村輝一君 其點に付て官廳側の方は十月十一月の頃は豫算編制期に當る關係上出席がしにくいから、モウ少し別の時期に於て開いて戴きたいと云ふ希望がありました。それから民間側と申しますか、主として會社側の御意見は、六七月の頃は決算

期に當つて居るから、此時期は除いて戴きたいと云ふ御意見がありました。其外の時期ならば別段御異存はありません。それから問題の範圍に付て具體的に申しますれば、都市の土地問題を攻究すること、自治權の擴張問題、公營事業の問題、都市財政の問題を加へて戴きたい。都市財政の問題と云ふのは畢竟するに租税と使用料の問題であつて、使用料の問題は公營事業とも關係するのでありまして具體的に申されたのはさう云ふのであります。次に問題の研究、方法は之を一般的に申しますと二つに別れて、間口を狭くして奥行を深く願ひたいと云ふ御意見と、それと正反對に間口を廣くして奥行を浅くとは言はれませぬが、矢張り深くするといふ御意見と二つに別れました。これは結局時日の問題にも關係致し、さうすると會議日数を長くすることになりますので、結論は間口を狭くして奥行を深くと云ふ方の御希望が勝つかと思ひます。それから今回の會議の方法に付きまして、三部會に別れました關係上、各部のどの御意見を拜聴しやうと思つたが目的を達しなかつた。何れ記録を御配付になるでせうが、今後の會議に於ては全部が聴き得るやうに何とか方法を設けて戴きたい。察するに部會を別けても日を別にして戴きたいと云ふことでありませう。兎に角何れも皆聴きたいといふ御意見でありました。それから今度の會議で理事と申しますか、主報告のお方と申しますか、兎に角主査——統轄

される地位の方々は勿論權威者計りではありますが、尙ほ其外に相當權威のある人もありますから、さう云ふ人を尙ほ此上加へて戴いたならば、錦上添花を添へるやうになつて一層効果を擧げるやうにはしないかと云ふ御意見がありました。それから討議の可否善惡に就て採決と言ひますか裁判と言ひますか、相當の批評決定を權威者から加へて戴きたいと云ふやうな意味の御意見がありました。それから色々問題を少しまだ整理して居りませぬので前後致しますが、討議の時間が餘り短いか知れませぬが、第二部であります、五分間に制限された爲に何共致し方がない。今後は討議の時間を少くとも十分間以上にして戴きたいと云ふ御意見でありました。モウ開會の時期の問題が御決定になつたとすれば不必要と存じますが、問題を極く狭くして毎年開會して戴きたいと云ふ御意見がありました。御參考迄に申上げます。大體是丈と思ひますが、若し之に漏れて居りますれば、此際皆さんから便宜御主張を願ひます。

石田昌平君 私の申したことが徹底しなかつたか漏れて居りますが、今回の會議に現はれた意見に對して採決をしないことの極まりになつて居りますが、今度此會議が常設されることになりましてから、勢ひ其間に於て權威者も網羅されることになりまして、此會の意見に對して相當研究の上御採擇になりまして、此會の意見としてそれに對する相當の機關なり方面に對

して、意思の發表をして置きたいと云ふことを附加して置きます。

座長(池田宏君) 皆何れも相當のお話であり、私共もさう云ふやうなことがお話にあるのではないかと切に豫期して居つたやうな次第であります。次回以後は終々永久的の組織になると云ふことでありますから御意見のありましたことは公選になつて居る理事會に移しまして、理事會で以て出來得る限りお話の御要點に觸れるやうに、次の會議から取計らうやうに致します。唯お話の中で一寸申上げて置かなければならぬと思ひますことは、問題の範圍等のことは、これは自然會期にも影響を來たすことであります。皆様の御意見の中には會期を何日にするかと云ふことに付て、お話がなかつたやうであります。會期を今日までのやうに短く定めることが據處ないことであるといふことになる。問題の範圍も自からそこに制限せられざるを得ない譯であります。又同時に主報告者の數とか、討議の時間とか、又部會を開く開かぬといふやうな事にも皆影響して來る譯であります。また二年目に一遍密合ふといふことであるならば、相當長い日數を此會議に充てるといふことも、必しも不可能の事ではないかと思ひますが、左様な事はモウ少し自然の運行に依つて一般の會衆に諒解を得るといふ所まで進んで行かなければならぬのではないかと思ひます。斯うして特に一日を費

して最後の所まで御参加下さつて居る皆様のやうな方が此會議に來られる譯でもないやうですから、其邊の所も考へなければならぬと思ひます。お話のあつた點は理事會に能く傳へまして、成べく皆様の思召に叶ひ得るやうな組織が調ふやうに致したいと考へますが、其事だけを御承知置きを願ひたいと思ひます。

中には今度のやり方を見ても、少し主報告者の報告書が多過ぎる、あれだけで嫌になつて、來ない人があるだらうといふやうな事を言つて居る人もあります。でありますから唯これが講演會になつてしまふやうな事になつてはなりませんし、主報告者の數の如きも相當に考慮を要することであらうと思ひます。無論權威ある人を集めるといふことは極めて良いお考であつて、成べくさうしなければならぬ事と思ひますけれども、問題を狭く深くといふ御意見もあるやうであります。深くすることの爲には、問題を假令一つ出して、其一つの問題が幾つかに分れる、其幾つかの問題に就て主報告者が權威者として報告するといふことになる、モウそれだけで何日か掛るといふことになるだらうと思ひます。今度の試みはつまり主報告者の報告時間といふものを短くするために、又それに對してどういふ討議が行はれるかといふ事の見極めをなさる御便宜にと思つてあゝいふ研究報告を特に出した譯であります。將來の會議もや

はりあゝしたやうに研究報告といふものが出て、其研究報告を見て自分で討議すべきものを定めて、自から紙上討議を十分に盡した上に、本當に纏めなければならぬやうな事だけに就て、食ひ違ひのある事だけに就て討議が行はれるといふことになつて行かなければならぬものではないかと思ひます。さうすれば討議の時間は短くとも盡せると思ひます。今回の御討議になつた所を承つて居りますと、折角研究報告は用意しましたが、研究報告を御覽にならずに御出でになつた方が甚だ多かつたやうに見受ける、斯様な事はやはり會議の進むに隨つて自から判つて來ることだらうと思ひます。さういふやうに會議の進み方から自から改良せられ、自から皆様の思召に叶ふやうになつて行く事項もあらうと考へます。

唯採決といふお話でありますけれども、是も今のやうな風にして皆が研究報告を御覽になつて、さうして喰ひ違ひのある所だけを何等か解決しようといふ風に、要點だけを提へて來てそれだけに就て御討議なさるといふならば、それは必ず齟齬すべき點があるだらうと思ひますけれども、今回の會議のやうな風であつては、一寸是は採決の仕儀がない、採決の出來よう等もないと思ひます。是等も結局會を厭々重ねる間にそこに行くだんではないか知らんと思ひます。どうぞ其邊の所も御含みを願ひまして、いよく御協議に依つて永久的の組織になつた以

上は、此組織を最も有効に御活用を願ひたいと思ひます、又知らざる人に對しては其事の御吹聴も願ひたいと思ひます。

今回は遙々都市問題會議の爲に御集り下され、且つ又豫定の會期以外に特に今日は斯様な會合に御参加下さいまして有益なる御研究を極めて熱烈にして戴きました。其事のためにも、何か此會議が狙つた所に落ちて來たやうな風に考へます。此席では何等の決議をしませんでしたけれども、皆様の御意思の在る所、御意見の在る所は茲に記録に遺した譯でありますから、此記録を通じて——假令陳情とか建議とかいふやうな事はしなくとも、自からそれが當路の人の參考にもなり、又市政當局者の參考にもなり得たことであらうと考へます、洵に御同慶至極に存じます、是は偏に御協力の賜であります、謹んで御禮を申し上げます。

唯吾々主催者と致しまして、如何にも手落の多かつたであらうと思ひますことを願ては、洵に相濟まぬことに考へて居ります、どうぞ其點に就きましては御許しを願ひたいと思ひます。茲に御別れますに際しまして皆様の御健康を祝します。

第二 全國都市問題會議の恒久的組織に關する委員會協定案

一 序 說

全國都市問題會議を恒久的組織となすの件については、會議第二日の總會に於て關一氏の提案を滿場の容るゝところとなり、次でその審案委員が決定した等の顚末は第二篇第二所載の通りであるが、右委員は十月九日市政會館に集合の上、左記の諸項を協定した。この問題の確定には今後尙ほ相當の曲折を経るものと認むるも、参考の爲め便宜茲に採録する。

二 協定事項

(一) 會議の恒久的組織に關する件

- 一、全國都市問題會議規則要項を別項記載の如く定め、之に基き事務局に於て會則を起草する事
- 一、前記委員を以て理事となす事（委員は第二篇第二所載参照）
- 一、理事長として阪谷男爵を煩はす事

(二) 次回會議の件

- 一、次回會議は名古屋に於て開催の事
- 一、右開催時期を昭和七年とする事、但し右時期は理事會の決議に依り變更し得る事

全國都市問題會議規則要項

第一 本會ハ全國都市問題會議ト稱シ左ノ會員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 官 公 廳

二 學會、協會、其他諸團體

三 都市ノ經營ニ關係ヲ有スル事業會社

四 都市問題ニ興味ヲ有スル者

第一號乃至第三號ニ該當スルモノハ其組織ニ應ジ各部局課毎ニ獨立シテ會員トシテ加入スルコトヲ得
第四號ニ該當スル者ハ總會ノミニ付臨時會員ト爲ルコトヲ得

第二 本會ハ都市政策ニ關シ會員ノ研究及經驗ヲ發表シ、之ニ關スル意見ノ交換ヲナス爲メ、隔年一回總會ヲ開ク

第三 本會ハ總會ノ準備、會員相互ノ連絡、資料ノ蒐集、編纂及其頒布其他必要ナル事務ヲ措辦セシムル爲メ理事會ヲ置キ事務局ヲ設ク

前項事務局ノ事務ハ一切之ヲ財團法人東京市政調査會ニ囑託ス

第四 理事ハ總會ニ於テ選舉ス

第五 總會ノ開催地、開催期日、會議ノ事項及議題、議事ノ方法並總會ノ開會ニ必要ナル事項ハ理事會ノ決議ニ

依ル

第六 會費ハ假ニ年額五圓トス但シ總會ノ會費ハ別ニ之ヲ徵收ス

第三 第二回全國都市問題會議に於ける諸提議要旨を

關係當局に進言

一 序 説

第二回全國都市問題會議の議事は、第二篇第一所載議事規則第四に表はれたる通り、別に採決の形式を採らざるのみならず、假令一定の結論に達したとするも、これを關係當局に建議するの類は會議の性質上全く豫定してゐないところであつたが、主催者たる東京市政調査會は付議問題の重要性と會議の狀勢とに鑑み、且つ主催者本來の使命に顧み、その專斷を以て會議に表れたる諸提議の要旨を關係當局に參考として進言することにした。即ち十一月二十四日附阪谷東京市政調査會長の名を以て左の通り、内務、大藏、逓信、鐵道、拓務各大臣に提出し、更に十一月二十九日附を以てその次第を各地方長官、朝鮮、臺灣、關東廳各長官及各市長に通報して、關係事項につき相當策進方を希望した。

二 進 言 書

肅啓本年十月六日より東京市に於て開會せられ候第二回全國都市問題會議は各省有司を始め府縣並各都市及郊外町村の首長並關係當事者、大學其他の學術團體、朝鮮臺灣關東洲に於ける都市行政關係者及中華民國都市行政關係者等無慮七百名の參會者を得第一議題都市の郊外地統制、第二議題街路交通の統制、第三議題受益者負擔金

問題に付夫々慎重なる實證的研究討議行はれ各都市並郊外町村を通じ現在並將來に亘り施設策講を要する適切なる諸般の提議に相接し申候

按ずるに全國都市問題會議は創始以來回を重ねること未だ二回に過ぎず候得共會議の本領とする處は都市問題の學的研究を主とせるものなること他の會議と聊か選を異にする處に有之候隨て研究討議の主題並可否の要目が如何に都市の興隆振否に關係する事項と雖も主務官廳其他に對し建議を爲し採納を求むるが如きことは未だ嘗て實施せざるの例に御座候然るに這般開會せられ候第二回會議は何れも刻下に於ける都市の緊要問題を取扱ひ且參加者の分布前回に比較し各方面に亘れる結果問題の接觸檢討自ら複雑多岐に及び隨て時務に適切なる論策所見尠からず有之候ひしことは此種會議の爲め誠に欣快とする處に御座候斯かる關係よりして折角の會議の成果を此儘單に一部會員而已の研究對象にのみ止め候ことは問題の重要性に鑑み且一面主催者たる本會の使命に顧み遺憾に堪へず候仍て寧ろ前例の如何を論ぜず此際會議の諸提議而已にても卒直に閣下に申報して他日の清鑒に供することが却て多數參會者の切實なる要望にも副ふべく思料被致候仍て茲に研究討議に現はれたる諸提議の要旨を録し不取敢閣下の劉覽に奉供候

顧みるに問題の諸事項中國家當局の任務と思料せらる可き事項尠からず候希くは御檢討の上時代の要求に契合する様可然臨機の御措置相仰ぎ度此段偏に希望仕候 拜具

第一 議題關係

(1) 法規の改廢設定に關する事項

一 都市計畫法第一條の規定に該當する施設計畫は總て都市計畫、都市計畫事業として強制的に都市計畫法に依り強制規律するの要ありと認むるを以て、右に該當する施設、計畫、事業を統制する爲め適當の措置を講ぜられたき事

都市經營に至大の關係を有する公私の企業にして毫も都市計畫の統制に服することなく專恣的に施設計畫せらるゝもの近時著しく増加せり。是れ主として現行都市計畫法が積極的には等の施設計畫を強制羈束する明條を缺くに由來する處尠からずと雖も、一面又斯法の運用に依る是等の羈束統制が著しく市區改正條例時代に比して不振を極むるの觀あることは都市建設の現在並に將來に稽へて深憂に堪へず。仍て是等の施設計畫に對する統制を一層鋭敏ならしむる爲め立法上運用上共に適切なる手段の策講を希望す。

二 都市計畫地方委員會官制を改正して之が組織を自治の機構に適せしめ、官吏以外の委員の定數を増加すると共に都市計畫區域内町村の民意をして其の議に参加するを得しむるの仕組と爲し、且地方委員會の權限を擴張せられたき事

都市計畫は創始以來既に相當の年所を経たる今日に在りては須らく地方委員會は、中央機關の監督統制の下に専ら地方自治制の運用に俟たしむべく、隨て其の構成の如きも會長は市長を以て之に充つるの途を開き且

都市計畫區域内に於ける町村全部の吏員及議員をも委員及委員會職員中に加ふることを得しむる等都市計畫區域内の町村をして其の民意を充分に反映せしむる方法を講ずる様相當考慮し、且地方委員會に對しては、新地方制度に於ける府縣會、市町村會の如く發案權を有せしむる等相當權限を擴張せらるゝ事は時世の要求なりと信ず。

三 都市計畫委員會官制附則に依る都市計畫地方委員會に要する費用は市と郊外町村の面積、人口、國稅額を基礎とし按分負擔の制規を設定せられたき事

都市計畫地方委員會の費用負擔は種々の點に於て不合理の嫌あるを以て國庫負擔制を採らるゝことを希望するも、地方負擔の場合に於ては頭書の如く之が負擔の標準を定められむことを希望す。

四 都市計畫區域の設定概ね千篇一律に墮せるが如き嫌あるを以て之が規準其の他に付相當更改調整の方途を改究せられたき事

都市計畫法第二條の規定に依る都市計畫區域決定の跡を概觀するに千篇一律たるを免かれざるが如し。元來之が決定に就ては都市生活體の本質に顧み、其の單體都市たると市町村の複合體たるとに關らず、綜合的都市計畫の下に組織ある都市計畫制限に服せしめ系統的に健全なる都市の發展に資益すべき一體の地域を包含せしむべきものなるに、之を度外視して孰れの都市に在りても、一律に都心よりの科學的通勤距離を描きて之に擬せんとするが如き機械的な設定方法は遺憾なきを得ず。仍て這般の點を十分に稽考せられ計畫區域決定の規準其の他に十全の用意を拂はれむことを希望す。

五 都市計畫法の適用を都市の大小に依り區分する方策に付考慮せられたき事

大都市と小都市は市勢の質、量に於て尠からず相異なる點ありと思量せらるゝを以て是等の點を深く吟味せられ、事業實施の緩急、計畫、實施機關の組織、財政、又は市街地建築物法等の適用に關し之が條項を區分する方策に付何分の攻究を加へられむことを希望す。

六 都市的發達の動向に在る町村に對し都市計畫法を適用せられたき事

都市的發達の動向に在る町村に屬する諸般の施設計畫をして統制規律あらしむるは極めて緊切の時務たり、仍て速に都市計畫法並に關係法規を是等の町村に適用し當該町村の發達と之に伴ふ施設計畫をして永遠に過つ事無からしむる様適當に勘案せられ都市計畫法の町村適用方策に付考慮を求む。

七 都市計畫の樹立に當り都市の特性を深く吟味し、聖地靈域或は教育或は遊覽都市に適するの計畫を樹て、當該都市本來の性能を充分に活揮せしむる様特別の考慮を拂はれたき事

通常一般の都市と著しく其の内容を異にする都市、例へば伊勢神宮所在地としての宇治山田市、帝都として千年の由緒を有する京都市、遊覽地としての大津市又は奈良市の如き、將た教育都市としての札幌市、福岡市、仙臺市の如きに對しては、一般都市に於けると全く異なる都市計畫を樹立することに依り當該都市本來の發達を最も克く遂げしめ得べきを以て、此點を特に考慮して或は法規の改正を爲し或は計畫乃至事業の執行に對して適切なる指導援助を與ふる等特別なる配意を加へられんことを希望す。

八 都市計畫區域に付特に考慮を加へ、リージョナル・プランニングの趣旨に依る施設計畫を樹立せられたき事

近來に於ける人口の大都市集中、地價の騰貴、過密居住等の事實は過去の事例に徴して各市各個の問題として解決すべからざること明にして進んで地方計畫を樹立せざるべからざるの實情に在り。一例を擧ぐれば東京市及横濱市を中心とする地方、名古屋市中心とする地方、京都、大阪、神戸等の諸都市を包容する地方、及北九州に於ける關門若倉の諸都市を包容する地方の如き、即ち右特殊の計畫を必要とする地域に屬す。仍て是等の點に付充分稽考を加へられ、尙是等地方計畫を實現する上に於ては自由空地の留保に關する制度を設くるを相當とし、斯くすることに依り都市の放縱なる膨脹を防止し、衛星都市が中心の大都市によりて蠶食せらるゝを豫防し、地方計畫の眞諦を發揚し得らるべき點其の他に就き併せ充分の考覈を拂はれむことを希望す。

九 朝鮮、臺灣、關東洲等の重要都市に對しても都市計畫法制を實施せらるゝ様相當考慮を拂はれたき事

朝鮮臺灣及關東洲等に於ける都市の發達は近時顯著なるものあり。而して是等地域の發展に付今に於て充分の指導監督を加へ、關係市民の策勵に俟つに非ざれば悔を後世に貽す虞尠からず。仍て是等の都市に對しても都市計畫法制を實施すべく機宜を諒らざる様適當なる稽考を拂はれむことを希望す。

一〇 都市計畫制限に因る私權の制限を可及的に緩和し已むを得ざる事實に因り實害を受けたる者に對しては相當補償の途を講ぜられたき事

都市計畫、都市計畫事業に因る作爲不作爲の公用制限は近時計畫、事業の進展に伴ひ益々増加されむとする傾向に在り。隨て是等の制限に因り社會的經濟的生活關係に於て民衆の受くる利害並に其の波及する一般の

影響亦輕視するを許さざるものあり。宜しく社會正義の觀點に立脚し深甚の考慮を加へ、制限に因り實害を受けたりと看做し得べき場合に於ては須らく進で相當補償の途を講ずるの要あるは勿論、彼の市街地建築物法施行令第三十條の規定に依り道路と看做されたるが爲め事實是等の計畫に依る工事が着手期限すら不確定なるに拘らず公用制限に服せしめられつゝあるものに對しては、可及的其の制限を緩和する方途を講じ、民衆をして都市計畫、都市計畫事業に對し怨嗟の聲を揚げしむることなく、施設計畫を遂行する方途を充分に攻究策立せられむことを希望す。

一一 市街地建築物法の適用に就ては、地方計畫及都市計畫の必要に應じ之が準據と爲すべき事項の區分に留意し、適用條項並に適用區域共に適切ならしむる様相當の方途を講ぜられたき事

現在市街地建築物法適用區域は必ずしも都市計畫區域と一致せざるが爲め同法未適用區域に對する統制に付遺憾の點尠しとせず。仍て例へば市街地建築物法未適用區域と雖も、之に對して市街地建築物法に依る地區を指定し得るの途を開き若は都市計畫路線の兩側に於ける一構の建築物敷地の如きは之を同法適用區域と看做し得るの途を開く等都市計畫の効果と十分に發揮し得る様考慮せられむことを希望す。

一二 都市計畫及都市計畫事業に要する經費の負擔區分に付國府縣及市町村間に適正ならしむるの準據法を設け都市計畫事業の財源に付ては政府は一層深甚の考慮を拂はれたき事

都市計畫、都市計畫事業に要する經費の負擔區分に付合理的なる準據を設け施設と負擔の適正を圖り、且現在各市に於て甚大なる苦痛を嘗めつゝある都市計畫事業財源に對し特に(一)國庫補助の途を開き又は(二)特

別税所得税割を認め又は(三)都市計畫公債法を制定し、或は土地増價税を創設せらるゝ等の方法を策講せられ是等難局を匡救せらるゝの方途を確立せられたことを待望す。尙都市を貫通する國道擴張の如きも從來之を普通の土木事業として施行するときは國庫及府縣に於て其の費用の大部分を負擔し來りたるも、之を都市計畫事業として行ふに於ては補助金交付の制度具はらざるを以て著しく事業の遂行を阻碍せる結果を生じつゝあるが如きを以て、是等の實狀に在る都市に對しては財政上特別なる對策を勘案せられんことを併せ希望す。

一三 焼失地土地區劃整理其の他災害復舊都市計畫事業に對しては特に國庫補助金を給付せられたき事

市街地の土地整理其の他都市計畫事業の遂行は火災其の他に因る災害復舊の機會を利用するを以て行政上得策なりと信ず。然るに従來特別異常の場合を除き斯かる事業に對し國家の助成を見たること殆んど之なし。斯の如きは風水害復舊土木事業國庫補助等の施設あるに比較し著しく權衡を失せるやの感あるを以て將來斯かる施設計畫に對しては相當の條件を附し國庫より補助金を給付し、且平時に於て其の備へをなし、之が遂行を容易ならしむるの途を開かれむことを希望す。

一四 家屋税に對する都市計畫特別税率を輕減せられたき事

都市計畫法第八條所定の都市計畫特別税中家屋税に附加する特別税率は、現今に於ける借家人の負擔能力並に家主の企業經濟より觀察し且土地に關する負擔の現狀に對比し、高率に失せるが如きを以て適當に之を緩和する方策に付攻究せられむことを希望す。

一五 都市郊外に於ける道路計畫、土地整理並に當該事業促進の爲め道路計畫試案の公示、低利資金の貸付等に付次の事項を考慮せられたき事

(1) 主務大臣は都市計畫委員會の議を経て都市計畫區域内に於ける土地區劃整理を目的とする道路計畫試案を定め之を公示し得るの途を開く事

(2) 主務大臣に於て土地區劃整理を目的とする道路計畫試案を公示したる土地にして、公示後一年以内に土地區劃整理を申請する者なき場合に於ては、主務大臣は土地區劃整理に付都市計畫委員會の議を経て内閣の認可を受け得る途を開く事

(3) 前項に依り公共團體をして土地區劃整理を施行せしむる場合に於ては、之に要する経費は五年以上十年以下の償還期間を定め國庫より低利資金を貸付するの途を開く事

郊外に於ける道路は獨り幹線及補助線而已ならず、それ以下の道路と雖も之が計畫を定め適當なる時期に其の事業を實施するに非ざれば都市の將來に悔を貽す虞尠からざるを以て、以上の點に關し都市計畫法上適當の考慮を拂はれむことを希望す。

尙土地區劃整理の設計認可に際し公園の爲め劃一的に定率供用を強要せらるゝが如きも、事業促進の必要上環境に依り相當斟酌せらるゝの必要あらむと認めらるゝを以て、此點充分に考慮せられ適切機宜の措施に出でられむことを希望す。

一六 土地區劃整理に關する特別都市計畫法中の規定は之を都市計畫法に加ふるの要ある事

帝都復興土地區劃整理を成就せしめたる大正十二年法律第五十三號特別都市計畫法並に斯法關係諸法令中の諸規定は、市街地土地區劃整理の遂行に關し尙之を存置せしむる要ありと認めらるゝ事項尠からずと思量せらるゝを以て、是等の點に付充分に稽考せられ、新に市街地土地區劃整理法を立法せらるゝか乃至現行都市計畫法中に右關係必要事項を挿入せらるゝか、孰れかの方法に依り速に各都市將來の需要を按じ適切なる措施に出でられむことを希望す。

一七 都市將來に於ける公共施設計畫に供する用地の保存確保方策に付考慮せられたき事

都市經營上將來に確保を要する道路、河川、運河、下水、公園、飛行場等の用地の保持に付將來に亘り之を確保する爲め適當なる方策を採るに非ざれば悔を後年に貽す虞尠からず。仍て是等の必要に應ずる爲め新に適當の措置を策講せられむことを希望す。

一八 都市公共施設用地の獲得を圓滑ならしむる爲め地帯収用に依り公共用地と爲したる殘地は従前の地主に優先買収權を認められたき事

地帯収用に依り収用したる土地に區劃整理を施行し、整理前の土地の一定割合に相當する土地を公共施設用地に供用し、殘餘の整理済地を整理前の地主に収用費及區劃整理費の合算額を超過せざる範圍の指定代價を以て買収し得るの優先權を認むるの途を開かれむ事を希望す。

一九 都市計畫區域内に於て施設計畫せらるゝ地方鐵道、軌道其の他當該都市の綜合計畫上必要なる施設計畫は、其の市の都市計畫執行廳に之が企業權其の他を譲渡せしめ施設計畫を統一管理する方策に付攻究せられたき事

都市の發展は逐年市域の擴張若は實質的都市區域の擴大を促して已まざると共に是等區域の内外に亘り施設計畫せらるゝ各種の企業亦漸次多きを加へんとしつゝあり。然るに既に述べたる如く都市計畫法は是等一切の施設計畫を捕捉し統制する積極的機能を具へざるが如きを以て、他の法令に依り出現する地方鐵道、軌道等に依り著しく都市の既定計畫に支障を與へ、爲めに統制を攪亂せらるゝの事例に乏しからず。固よりは等の企業特許に際しては適當なる條件の附款ありと雖も根本的に企業の統制を爲すに非ざるを以て諸事徹底を缺くの憾極めて尠からず。仍て是等の施設計畫は一に其の市の都市計畫執行廳に於て統合施設計畫し都市の建設をして單一且綜合的ならしめ之が經營を十全に導き過誤なからしむるの要ありと認む。

二〇 街路修築、下水道の改良及河川運河の改修等市の内外に亘るものにして統一實施の要あるものは、當該市を統轄する行政廳をして事業執行の任に當らしめ、且之に要する經費は事業に因り享くる利益の程度に應じ各市町村をして分擔せしむることゝせられたき事

現在に於ては是等の場合事業執行者は或は市長たることあり或は府縣知事又は郊外町村長たることあり。而して各自其の財政事情並に獨目の便益に依り事業實施の順序を定むるが故に、同一河川にして上流郊外に屬する部分の改修を見るも下流市街地部分の改修を爲すこと能はざるもの、或は同一路線にして市内又は郊外町村の孰れかの部分は修築成るも他は工事にも着手せざるが如きこと往々露呈せらるゝ事實なりとす。斯の如き現状を以てしては到底一體としての都市的發展を期し難きを以て是等の點に深甚の考慮を拂はれ斯の如き齟齬缺漏を未前に防止し得る方策に付篤と攻究せられむことを希望す。

二一 地方鐵道並に軌道の免許及工事施行認可、乗合自動車の營業許可の如きは、市と郊外町村を一團として其の市又は市と郊外町村との協議會の如きものに諮問するの途を開かれたき事

地方鐵道、軌道、乗合自動車の如き重要交通機關の系統配置等は都市生活に至大の關係を有するを以て、之が免許並に工事施行認可に當りては必ず先づ關係市町村の協議會の如きものに諮問するの途を開き、以て能ふ限り市町村間に統制ある一體の交通系統を樹立する機會を與ふると共に、特に道路を利用するものに就ては當該道路の管理者並に費用負擔團體との連絡を緊密にし、其の乗合自動車の營業許可の如きものに在りては當該團體にして公營の計畫ある場合に於ては優先的に右費用負擔團體に特許せらるゝ様特別の措施に出でられむことを希望す。

二二 河川、港灣の管理權は之を市長に委譲せられたき事

都市に於ける河川及港灣は原則として府縣知事之を管理する制度なるも、道路管理權と比較し之を區別するの根據に乏し。仍て之が管理權を市長に委譲せられむことを希望す。

二三 公有水面埋立の免許に際しては港灣計畫を有する市の意見を徴せられたき事

港灣内の埋立に關しては公有水面埋立法第三條の規定に依り單に地元市町村會の意見のみを徴し之が許否を決せらるゝが如きも、斯くては港灣計畫を有する市の施設計畫に支障を來す虞尠からざるを以て、其の地域が市の區域に屬せざる場合と雖も關係都市の意見を徴し許否を決せらるゝ様致したし。

二四 必要なる郊外町村の道路管理權は之を市長に委譲せられたき事

都市生活の基調たるべき諸施設は、行政區劃の觀念を離れ實質的都市化の町村に及んで之が運営の方策を樹立講究せざるを得ず。然るに道路の如きは其の管理權行政區劃を異にする毎に分立し相對立せるを以て、實質的都市區域に於て管理の不統合を生ずる禍害眞に測るべからざるものあり。仍て郊外町村長の管掌せる道路管理權は一切之を母市の管理者に委譲し、修築維持の經費は關係町村に按分負擔せしむべき制規に改め、尙之と同時に交通警察權を當該市長に附與し都市道管理の徹底的統制を庶幾せられたし。

二五 市域外所在市營造物の町村住民に依る利用は之を市内に於ける市住民の利用と同様、公法的關係たらしむる様關係法規の改正其の他に付考慮せられたき事

市の營造物が公益的見地に於て接近町村の要望を容れ若は市の自衛上より特に市域外町村に亘り施設計畫せらるゝもの近時益々多からむとす。然るに是等營造物に對する町村住民若は町村の利用關係は從來學說判例共に私法關係なりとし、其の例に依り一般に規律せられ來れるが如きも、管理の實狀に照し適切妥當の見解に非ず。蓋し本問の如き場合は市が郊外町村全般に亘り行政權を行使すべき場合に非ずして單に既存の營造物權に基き局限せられたる利用關係者のみに對し許されたる權限を行使するに過ぎざるものなるを以て、之を公法關係に置くも多大の不都合を生ぜず。仍て下水道其の他の營造物の設置利用に關し法律の認めたる權力行為は市域外市營造物に對しても區域内に於けると同様に適用し得る様關係法規の改正其の他に付適當に考慮せられむことを希望す。

二六 市町村組合の機構を擴充し郊外地統制の機能是等の組合に依りて充分に活現し得らるゝ様關係法規の改

正其の他に付攻究せられたき事

市町村組合に對する現行機構は郊外地統制の目的を以て積極的に組合の設立を強制し若は組合の實效を擧ぐる手段等に付周到ならざる點尠からず。仍て是等の點に充分配意せられ必要に應じ組合の設置を強制せらるるは勿論、上下水道の如き施設計畫は郊外町村が相當に發達せる場合に於ては、市と郊外町村は同時に兩者の事業を實施計畫せしむる様組合事務の内容に亘り更に擴充強制の要否を検討せられ、且組合制度の運用をして實效を擧げしむる爲め彼の水利組合法に認むるが如く管理者に關して別段の規定（水利組合法第三十三條第一項但書第四十八條第五十一條等）を置き、又は組合費負擔の準據を法定する等適切なる方策の攻究樹立を希望す。

二七 市町村併合の條件其の他の協定事項の履行を確保する爲め之を要行政處分事項とせられたき事

市町村併合に際し締結せらるゝ條件其の他の協定事項の履行は被併合町村民は勿論、新市の財政其の他に至大の關係を有し、之が履行の成否は都市の擴張經營に付地方行政の伸展に尠からず主要の關係を帶有する事案なりと思量せらるゝを以て、之が成約の履行を確保する爲め其の併合に際し行はるゝ財産處分と同様之を要行政處分事項と爲し、以て新に監督の嚴を加へ、都市計畫、都市計畫事業其の他都市經營の大義に牴觸し若は實行不能に墮陷するが如き條件乃至協定を將來根絶せらるゝ様攻究せられむことを希望す。

二八 大都市に對し特別市制を實施し且一般に都市の接近町村併合を勸奨し都市經營の實績を擧ぐる様策勵講究せられたき事

郊外地統制の根本方策は先づ都市の擴張、構成に必要な諸般の施設計畫を確定し公私の事業をして之に依據せしむるに在るは言を俟たず、然るに假令是等の基本計畫にして確定するを得ると雖も之が實施の時期、方法等に關し連絡統制を缺くに於ては實效を擧ぐるゝこと極めて難し。仍て大都市に就ては、郊外都市化の實情に在る町村に對しては須らく之を市に併合せしめ、更に市勢の趨嚮に鑑み必要に應じ特別市制を實施し市及市長の權限を擴張する等都市經營上過誤なき根本方策を樹立し實效を擧ぐる様庶幾せられむことを希望す。

二九 逓信事務の如きは都市と郊外町村とを一團としたる區域を以て管轄區と爲し實質的に都市生活を營める各住民の利便を増進せられたき事

特別行政官廳の管轄區域中最も住民の利害に密接の交渉を有する逓信事務の如きに在りては郊外都市化の町村に對しては、都市と同様の設備の下に敏活なる行政役務の發動を必要とするを以て、單に市町村の區域に拘泥せらるゝことなく實質的に都市生活を營めるものと認めらるゝ郊外町村の區域は全部之を都市の逓信管區に包括し都市生活の能率を擧ぐる様只管攻究を希望す。

三〇 都市及郊外町村を通じ町名、地番の呼稱、配置一般に不統制なりと認めらるゝもの多きを以て適當の機關を設け整理統制を圖られたき事

町名地番の不統制が公私の生活關係に種々の不便不利益を與へつゝあることは茲に贅言を要せず。仍て現狀に鑑み關係自治體聯合して町名地番整理の根本方策を樹て且之が諮問機關として關係者を以て構成する委員會を府縣に設置しその缺憾を補正すると同時に速かに其利を擴め其弊を除くことに配意せられたし。

(□) 法規の運用其の他に關する事項

一 都市計畫法施行令第二十七條の規定に依る國有地の無償供用に付ては政府並に各縣に於て理解ある措置を執られたき事

都市計畫事業に要する國有地の無償供用に關する既往の事例に依れば、特別會計所屬各縣又は社寺境内地等の無償供用並に其の許否其の他の手續一般に圓滑ならざるもの尠からざるやに思量せらるゝを以て、政府並に廳解は今後所屬經濟の如何を問はず是等の問題に對しては常に理解ある態度に出で立法趣旨の活現に配意せられむことを希望す。

二 府縣並に市町村に於ける都市計畫調査費又は其の他の必要諸費を増額し、若は之に對し減縮を加ふることなく以て施設計畫の樹立遂行に遺憾なからしむる様適當なる措置を講ぜられたき事

都市計畫上綜合的基本調査の重要なことは夙に一般の認識する處なると共に之が調査立案並に實施に多額の經費と長日月を要するものなることは論を俟たず。然るに他方に依りては往々是等の經費に無理解なる斧鉞を加へ施設計畫の進展を阻碍するが如き事例に乏しからず。仍て監督官廳は諸般の實情を精査し適切なる施策に出でられむことを希望す。

三 都市計畫事業の實施に伴ひ超過收用し得べき土地其他の物件は局部的一區劃若は一地帶の場合と雖も機宜に應じ之が收用を便宜許容せられたき事

都市計畫法第十六條第二項に依る超過收用等の場合に於て從來より路線的に一團を爲せる地帯の收用は之を是認されつゝあるも、事業主體の財政關係に依り時に實行不可能の場合尠からざるを以て局部的に一區劃を爲せる地帯と雖も亦機宜に應じ收用し得る等斯法運用上妥當なる便法を策講せられむことを希望す。

四 都市計畫、都市計畫事業に對する民衆の理解を増進する爲め適切なる手段の策立に努められたき事

都市計畫、都市計畫事業に對する施設計畫の遂行を圓滑ならしむるには、民衆の是等行政に對する理解の増進に俟つ處頗る多し。仍て關係行政廳は是等の點を顧慮し隨時隨所に於ける講演會、講話會の開催、新聞雜誌の利用に依る都市計畫思想の誘掖、都市研究學校の創設等に亘り此種啓蒙運動の實を擧げられむことを希望す。

五 都市の郊外地に都市林又は大公園を設置する方策に付格別の配意ありたき事

近代都市の密集生活は自ら各種の建築物を異常に高層化せしめ日光空氣綠地等自然の惠澤に浴するの機會を著しく減殺し市民の心身兩面に受くる害毒尠からず、之を矯救して健全なる市民生活を享受せしむるが爲めには廣大なる森林又は公園を設置し以て隨時市民に大自然に接觸するの機會を與ふるに如くはなし。然るに市内には既に所要の空地を得難き今日に在りては之を郊外廣濶の地に求むるを要す。而して是歐米諸國に於て既に幾多の先例を有し着々市民の健全なる生活に寄與しつゝある所なり、我國に於ても近年郊外發展の勢頗る顯著なるを以て一日も速に郊外未開發の地を物色し比較的地價低廉なる間に都市林又は大公園の設置を見る様格別の配慮を希望す。

第二議題關係

(1) 法規の改正に關する事項

一 自動車が前驅車を追越す場合に於ける信號を一定すべき事

自動車事故の最大原因は後續の自動車、前驅の自動車を追越さんとする場合に生ずるの現状に照し、道路取締令中に自動車の追越及避讓に關する具體的方法を規定せられたし。例へば後續の自動車が前驅の自動車を追越さんとするに際しては、後車をして一定の方法を以て前驅車に特殊の信號を爲さしめ、前驅車の合圖を俟ちて初めて追越し得べきやう詳細に規定することを希望す。

二 車輛の種類に依り燈火を異にせしめられたき事

自動車の場合には、相當の前方より之を識別するに足る燈火の制あるも、牛馬車、荷車、人力車、自轉車等に在りては、之を識別するに足る如き燈火に關する規定なきを遺憾とす。故に此等の諸車に對しても、夫々其の種類を識別するに足る如き一定の燈火を使用せしめ、之に依り反對方向より進行し來る自動車操縦者に對して相當の前方より其の何種の車たるかを識別し得しめ、仍て以て擦違ひ等の場合に於ける措置を執らしむるに便ならしむること必要なり。

三 街路構造令に改正を加へて之を一層弾力性に富むものたらしめられたき事

街路の構造は其の地理的條件に依り又は都市活動の狀態に依り、各都市、各街路に就き夫々計畫決定せらる

ること妥當なり。仍て現行法に適當なる改正を加へて、更に一層の弾力性を有せしめ、少くとも大都市と中小都市との間には其の執行基準を異にし得る如きものたらしめられたく、且又街路照明等に就ても燈の光度、高さ、間隔等に關し各其の準則を示されむことを希望す。

四 交通取締規則には意義の曖昧なる用語を避けられたき事

交通取締規則中には適用者に依りて、如何様にも解釋し得る如き曖昧なる用語少なからず。斯の如きは法の運用を圓滑ならしむるを得ることの妙味を有すべきも、適用者の如何に依りて解釋を異にせらるゝことは、時として不公平の行はるゝことなきを保せず、被適用者の不安亦大ならざるを得ざるに依り、斯かる虞ある用語は之を避せられむことを希望す。

(□) 街路の施設に關する事項

一 自動車の公共駐車場を設置せられたき事

營業用乗用自動車の空車運轉即ち所謂「流し」は交通混雜の最大原因を構成して都市の交通を甚だしく危険ならしむるものなるのみならず、經濟上の損失も亦極めて尠からざるものなるを以て、此等の危険及損失を防止する爲め、營業用自動車の乗降最も繁き鐵道及郊外電車終端驛、主要街路、都市中樞部等には、公共駐車場を設置せられむことを希望す。而して此等駐車場を街路面上に設置することの不可能なる場合には、地下工作物として築造せしめらるゝことも可なるべく、又劇場百貨店又は大建築物等には市街地建築物法中建

築線に關する規定の運用に依り建築物の附帶設備として之を設けしむることも適當なるべし。

二 踏切標識を全國的に統一設置せられたき事

致命的交通事故の大部分は踏切即ち街路と鐵道又は軌道との平面交叉點において生ずるものなるを以て、其の大部分は踏切横斷者の注意に依て除去し得るものなるを信ず。故に踏切に注意するやう民衆を訓練する爲め、總ての踏切（車道横斷歩道に於ても亦同様なり）に全國統一的の標識を附せられむことを希望す。

三 車馬交通の頻繁なる地點には、歩行者の安全を期する爲め車道横斷の地下歩道を設けられたき事

四 街路交叉點に於ける歩車道境界線は半径六米以上の圓弧を以て形成すべき事

歩車道の區別ある街路の交叉點に於て左折せんとする諸車殊に自動車が他車線を侵害することに因りて生ずる交通凝滞を減する爲めには、少くとも半径六米の規定を必要とすべし。

五 地下埋設物共同管理溝を設けられたき事

街路を占有する露出物並に埋設物は交通上の支障たると同時に保安上の危険を惹起すること屢々なり。由來之に關する考慮は道路管理者に於いて相當の責任を以て之が取締に任すべきを當然なりとす。然れども現行方法に於ては一般に各埋設物毎に人孔其の他を各所屬主の點檢に委ね、併かも其の點檢の回數、方法等に關しては道路管理者との間に何等の協定乃至拘束を有せず。爲に時としては瓦斯漏洩の結果、人孔爆發等の慘事を惹起して、保安上の危険を大ならしむると共に、街路交通上にも重大なる支障を來たす場合等あり。故に之が根本的改善方策として都市の主要幹線街路に共同管理溝を設置することを必要なりとす。若し斯かる

共同管理溝にして設置せられむか、道路敷利用の上より且又埋設物管理の上より營大なる利益を享受するのみならず、埋設物を全般に亘りて點檢し得るの便も多くして、保安上頗る有意義となり、且又埋設物の増設改修に際しては道路面を掘鑿するの不便損失を避け得て交通上並に經濟上甚だ得策たること明白なるを信ず。尙斯かる共同管理溝設置に關しては道路管理者に對して其の建設費用の分擔を命じ得る權限を附與せられたし。

(ハ) 交通取締の制度に關する事項

一 交通事故審判所を設置せられたき事

交通事故の解決を迅速圓滿ならしめ且之に對する責任の歸着するところを明瞭ならしむることは、延て交通不安の一掃を期する上に於て必要なりとす。而して之が爲には交通事故に對する専門判檢事を以て構成する交通事故審判所を設置せられたし。

二 自動車運轉手の試験には色盲の検査をもせられたき事

街路に於ける交通事故の大部分は自動車に依るものなるを以て、自動車運轉手の質の良否は直ちに交通の安全に關係すること多し。故に運轉手の試験に際しては、身許調査と共に體格検査にも十分注意し、特に交通信號機の色を識別不十分に因る事故の發生を防ぐ爲め、未だ規定なき地方に於ては色盲の検査を十分にせられたし。

三 交通巡查の補助者として、年少者保護の爲め、婦人の交通整理員を設置せられたき事

第三 議題關係

(イ) 法規の改正若は設定に關する事項

一 現行法に依る受益者負擔金徵收事業概目を擴張せられたき事

負擔金徵收事業概目は、現に道路、下水、運河、河川、地下鐵道等數種の事業に限局せらるゝも、既に都市計畫法の關係に於て、廣汎なる範圍に適用し得べき途開かれたる以上、貧弱なる財源を擁して、山積しつゝある事業の遂行に直面しつゝある都市の現狀に徴し、宜しく受益者負擔金徵收事業の概目を現行法の運用の範圍内に於て益々擴張するの必要あり。例へば、橋梁の架設、公園の設置、電氣軌道、鐵道の敷設、學校市場、運動場及港灣の設備等に關しては、之が施設に因る受益者に、該制度を擴充すべき理由顯著なるのみならず、其餘地亦極めて大なるが故に須らく之が概目の擴張を圖られたし。

二 無租地に對しても受益者負擔金を賦課し得る様内務省令を改正せられたき事

現在における無租地は(一)官有地(二)地租條令第四條列舉の土地(三)同條例第十六條新開免租の土地並に(四)私立學校用地等存し受益者負擔金に關する省令は無租地の賦課を許さざる建前なり。然るに官有地に就ては租税は課し得ざるも公課は課し得べく(一)(二)(三)の土地に對しては地方公共團體としては租税及公課を課

し得ざるも、現在の受益者負擔金の如く國の行政廳が課する公課は當然課し得べく、更に私立學校用地に就ても租税以外の公課に關しては何等禁令なし。従つて此等の無租地に對しては租税に非ざる公課たる受益者負擔金賦課に就ては何等法律勅令の改正に依らず、簡單に内務省令のみの改正に依て可能なるべきに依り宜しく之を改正し、依て以て無租地に對する負擔金課徴の實現を計り、負擔金收入の増加を來さしむると共に、現在に於ける負擔金賦課に關する大なる不合理の一を矯正すべし。

三 受益者負擔金負擔義務者の範圍を定むるに當りては、土地所有者と土地所有者以外の他の權利者を併立せしめられたき事

受益者に負擔せしむべき費用の金額及その方法を定むるに當り、土地所有者と土地所有者以外の受益者とを同列に置き、兩者同時に費用を負擔せしむべき旨規定したる最近の實例「東京都計畫事業古川改修受益者負擔に關する件（昭和四年内務省令第三五號）同澁谷川改修受益者負擔規程（昭和五年内務省令第六號）」は、或る種の事業に因る受益の明らかに土地所有者並に土地所有者以外の他の權利者の兩方に存するの事實に顧み極めて適實なるが故に將來に於ては此趣旨を益々擴充せしむるの必要ありと認む。從來所謂受益者の順位を定むるに當り、土地所有者又はその土地に關し用益的占有權を有する者を受益者と認定し、此等の中擇一的に負擔義務者を定めむとする方法行はれたりと雖も、斯の如きは都市に於ける實際の實情に適合せざる嫌ひなしとせず。

四 受益者負擔金を物上負擔に改正せられたき事

現行受益者負擔金に關する省令中昭和四年以後の東京及横濱に於けるもの以外の總べては負擔義務者を、工事着手の日現在における受益者と規定し、所謂人的負擔とせるの結果、事業施行地の權利移動後に於ける措置において幾多の不合理を見つゝあるが故に、寧ろ土地に關する物上負擔たらしむることに省令の改正を計らば此點の不合理を矯正し得べし。

五 受益者負擔規程は新規程の趣旨に依り隨時舊規程の改正を斷行せられたき事

受益者負擔規程は、新しきもの程改正せられて適實公正化せられつゝあるが如きも、其改正舊規程に及ばざるは此制度の缺點なり。自今各地方に於ては、之に關する新規程の發布に注意し、隨時採長補短常に規程の公正適實性を増益するに務め、監督官廳亦特に此點に留意するの必要ありと認む。

六 都市計畫事業に因る營造物の維持修繕費に對しても受益者負擔金を課せられたき事

現行都市計畫法に依れば、都市計畫事業に因り著しく利益を受ける者に對しては、都市計畫事業執行に要する費用の全部又は一部を負擔せしむることを得るも、事業完成後に於ける維持修繕の費用に就ては受益者負擔を課するの途なしと雖も、都市計畫事業の執行に依り完成したる營造物も、之が維持修繕に於て缺くところあらば、其の效用を全からしむること能はざるべく、而して之が維持修繕の完全を期するには、相當多額の經常的費用を要するが故に、其の財源に充當すべき經常的歳入を用意するの必要あらむ。仍て都市計畫事業の執行に因り、著しく利益を享受する者と同様、其の執行に因り完成したる營造物の維持修繕に依り利益を享くるの程度著しきものに對しては、其の維持修繕費に就ても受益者負擔金の制度を設け、恆久財源を

得る様策講せられむことを希望す。

七 受益者負擔金制の統一を圖り且之が準據法を一般的に規定せられたき事

受益者負擔制度の根本觀念たる、或る事業に依て不勞利得をする者に、其の受益の一部を提供せしむるは、如何なる場合に於ても、如何なる事業に於ても最も公正なる方法なりと認む。然るに此制度の施行を單に都市計畫法、道路法等特殊の場合にのみ限るは、その範圍狹きに失し、且國民負擔の公平を期する所以に非らざるを以て、之を一般的に規定する事極めて必要なり。但し之に關しては各地に於ける土地の狀況並に各地方團體の財政狀態に依り各事情を異にするを以て適切ならずとする意見も出でたり。

(□) 法規の運用其の他に關する事項

一 受益者負擔金制手續を簡易化せられたき事

受益者負擔制の手續方法に關する細則の規定を設くるの手續を簡捷にし、之が爲に要する時間と勞力と費用の浪費を節減するの必要あり。例へば道路法に基くものに在りては、其の法則は道路管理者之を定め、監督官廳の認可を受ければ足るが故に、一見至極簡單なるが如くに見ゆるも、實際は認可の申請を爲してより認可の指令を手にする迄に半歳以上一年の日月を要すべく、又都市計畫法に依るものに至ては殊に甚しく、下級行政廳若は公共團體が案を具して申請してより主務者の諒解を得るのみにても容易ならざる手數と時間の浪費あり、併かも其の内務省令の公布となるを得る迄には種々の手數を要するの實情なり。是を以て聊かた

りとも機に臨み變に應すべく規定の活用を要する場合に在りては、其の困難處に名狀すべからざるものあり。

二 受益者負擔金の賦課に就ては單に應益主義のみを適用せずして更に負擔能力をも參酌せられたき事

負擔金は一般に受益に比例して課せらるゝものとせらるゝも、夫のみにては必ずしも公平なる賦課の行はれざる場合多々あるを以て、更に其の土地の利用狀況に依て異なるべき負擔能力をも考慮し、負擔金に差別を設くる事等も適當なる賦課方法なるべきが故に此點に付き特に考慮を希望す。

三 下水道受益者負擔金は工事着手と同時に課徴せられたき事

下水道事業の施設は負擔金課徴以後も久しきに亙り事業未着手の地も多く、負擔金の性質にも反するが如き感なきに非ざるを以て、少くとも其の附近に於ける事業着手と共に賦課せらるゝ様希望す。

四 受益者負擔組合を設置し制度運用の圓滑を期せられたき事

負擔金をば負擔義務者をして容易に納めしむる方法として現在は負擔金の分納を許すが如き方法に依れるも更に之が圓滑を期せんが爲には各負擔區に負擔組合を設けしめ、此組合をして比較的長期の低利資金を借入れしめて負擔金の納付を行はしむるに於ては、負擔義務者は現在よりも尙容易にその義務を遂行するの便宜を得べきが故に、速に此方法を實現せしめられむ事を希望す。

五 評價機關を特設して受益の量定を爲し以て負擔の公正明確なるを期せられたき事

受益者負擔金を負擔すべき者の受益の程度を量定することは負擔金の賦課上極めて重要な事も、現行受益者

負擔規程中には、この種の量定を規定するもの稀にして、假令規定しあるも實際に活用せられ居らずといふ状態なるを以て負擔者側よりの苦情、陳情等に對して其の負擔の公正を説明する由なし。仍て負擔金賦課の根據を明確にし、負擔の公正を期し、受益者負擔金制の實施を圓滑ならしむる爲め官民より成る受益評定機關を特設するの要ありと認む。

附記 第二回全國都市問題會議

に關する文獻

第二回全國都市問題會議に關して、その開催並に會議狀況を報道し、または、その批判等を試みたる圖書及新聞雜誌記事等を列記し、後日の參考に當てる。但し東京市政調査會圖書室備付のものゝみに據つた關係上、取材の範圍自ら廣汎でないのを遺憾とする。

一、會議の開催計畫に關するもの及會議用文書

- 第一回全國都市問題會議錄(二〇頁、二二頁)
- 第二回全國都市問題會議研究報告
- 第二回全國都市問題會議參考資料甲編
- 第二回全國都市問題會議參考資料乙編
- 第二回全國都市問題會議議事要録

二、會議の開催並に會議狀況に關するもの

- 第二回全國都市問題會議の開催に就て……雜誌「都市問題」十卷三號
- 第二回全國都市問題會議と議題……雜誌「都市問題」十卷六號
- 第二回全國都市問題會議と其報告者……雜誌「都市問題」十卷六號

第三 第二回全國都市問題會議に於ける諸提議要旨を關係當局に進言

市問題」十一卷二號

第二回全國都市問題會議の前況……雜誌「都市問題」十一卷三號

第二回全國都市問題會議記念特輯の諸記事……雜誌「都市問題」十一卷四號

第二回全國都市問題會議狀況の諸記事……雜誌「都市問題」十一卷五號

第二回全國都市問題會議に於ける諸提議の要旨……雜誌「都市問題」十一卷六號

第二回全國都市問題會議……官報第一二〇五號雜報欄

都市問題會議開かる……雜誌「大大阪」六卷十號
第二回全國都市問題會議……雜誌「大大阪」六卷十一號

第二回全國都市問題會議に参加して……雜誌「大大阪」六卷十一號

全國都市問題會議……雜誌「都市公論」十三卷十一號

會議に關する諸般の報道……會議前後に於ける東京市内大多數の新聞

三、會議の批判等に關するもの

第四編 會議追録

三六四

第二回全國都市問題會議……昭和五年十月五日東京日日新聞社説
都市問題研究の機運……昭和五年十月七日東京朝日新聞社説
都市問題研究と市民の關心……昭和五年十月十三日時事新報社説
都市の諸問題……昭和五年十月十三日福岡日日新聞社説



昭和五年十二月二十六日印刷
昭和五年十二月二十九日發行

第二回全國都市問題會議
第四冊 議事要録

非賣品

不許複製

編輯兼發行者 東京市麹町區內山下町二丁目一番地
法人東京市政調查會

印刷者 北村恒次
東京市京橋區築地三丁目十五番地

株式會社中屋印刷所印刷

發行所

東京市麹町區內山下町二丁目一
番地電話東京七二六〇九番

財團法人東京市政調查會

